

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アジア消費・流通論	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	3年	研究室 (5633) mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい アジア市場の特徴および地域物流システムについて理解できる。	メッセージ 演習、実習の形式を併用して授業を行う。
	到達目標 アジア市場に関するビジネス課題に対して、自分で考える力を身につける。 アジア消費・流通市場に関するレポート作成能力を身につける。	

学びの準備	到達目標 アジア市場に関するビジネス課題に対して、自分で考える力を身につける。 アジア消費・流通市場に関するレポート作成能力を身につける。

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <table border="0"> <tr> <td>第01回</td> <td>オリエンテーション：授業計画および評価の方法の説明</td> <td>(資料1を読む)</td> </tr> <tr> <td>第02回</td> <td>アジアビジネスの課題説明 (課題の選択、情報収集方法など)</td> <td>(資料1を読む)</td> </tr> <tr> <td>第03回</td> <td>アジア市場の特徴 (ASEAN市場、中国市場、インド市場など)</td> <td>(資料2を読む)</td> </tr> <tr> <td>第04回</td> <td>グローバル・セグメンテーションとポジショニング</td> <td>(資料2を読む)</td> </tr> <tr> <td>第05回</td> <td>日本企業とアジア中間層</td> <td>(資料2を読む)</td> </tr> <tr> <td>第06回</td> <td>アジア市場参入戦略 1</td> <td>(資料3を読む)</td> </tr> <tr> <td>第07回</td> <td>アジア市場参入戦略 2</td> <td>(資料3を読む)</td> </tr> <tr> <td>第08回</td> <td>海外企業との提携およびM&A</td> <td>(資料4を読む)</td> </tr> <tr> <td>第09回</td> <td>中間テスト</td> <td>(資料1～資料4を読む)</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>小売業</td> <td>(アジア市場における日本型コンビニの出店戦略の資料を読む)</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>家電企業</td> <td>(インド市場の家電量販店を調べる)</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>自動車</td> <td>(タイ市場の自動車参入パターンを調べる)</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>アジアビジネスの課題 発表1</td> <td>(発表1に関する情報収集、分析、比較、まとめ)</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>アジアビジネスの課題 発表2</td> <td>(発表2に関する情報収集、分析、比較、まとめ)</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>アジアビジネスの課題 発表3</td> <td>(発表3に関する情報収集、分析、比較、まとめ)</td> </tr> <tr> <td>第16回</td> <td>期末試験・レポート提出</td> <td></td> </tr> </table>	第01回	オリエンテーション：授業計画および評価の方法の説明	(資料1を読む)	第02回	アジアビジネスの課題説明 (課題の選択、情報収集方法など)	(資料1を読む)	第03回	アジア市場の特徴 (ASEAN市場、中国市場、インド市場など)	(資料2を読む)	第04回	グローバル・セグメンテーションとポジショニング	(資料2を読む)	第05回	日本企業とアジア中間層	(資料2を読む)	第06回	アジア市場参入戦略 1	(資料3を読む)	第07回	アジア市場参入戦略 2	(資料3を読む)	第08回	海外企業との提携およびM&A	(資料4を読む)	第09回	中間テスト	(資料1～資料4を読む)	第10回	小売業	(アジア市場における日本型コンビニの出店戦略の資料を読む)	第11回	家電企業	(インド市場の家電量販店を調べる)	第12回	自動車	(タイ市場の自動車参入パターンを調べる)	第13回	アジアビジネスの課題 発表1	(発表1に関する情報収集、分析、比較、まとめ)	第14回	アジアビジネスの課題 発表2	(発表2に関する情報収集、分析、比較、まとめ)	第15回	アジアビジネスの課題 発表3	(発表3に関する情報収集、分析、比較、まとめ)	第16回	期末試験・レポート提出	
	第01回	オリエンテーション：授業計画および評価の方法の説明	(資料1を読む)																																														
	第02回	アジアビジネスの課題説明 (課題の選択、情報収集方法など)	(資料1を読む)																																														
	第03回	アジア市場の特徴 (ASEAN市場、中国市場、インド市場など)	(資料2を読む)																																														
第04回	グローバル・セグメンテーションとポジショニング	(資料2を読む)																																															
第05回	日本企業とアジア中間層	(資料2を読む)																																															
第06回	アジア市場参入戦略 1	(資料3を読む)																																															
第07回	アジア市場参入戦略 2	(資料3を読む)																																															
第08回	海外企業との提携およびM&A	(資料4を読む)																																															
第09回	中間テスト	(資料1～資料4を読む)																																															
第10回	小売業	(アジア市場における日本型コンビニの出店戦略の資料を読む)																																															
第11回	家電企業	(インド市場の家電量販店を調べる)																																															
第12回	自動車	(タイ市場の自動車参入パターンを調べる)																																															
第13回	アジアビジネスの課題 発表1	(発表1に関する情報収集、分析、比較、まとめ)																																															
第14回	アジアビジネスの課題 発表2	(発表2に関する情報収集、分析、比較、まとめ)																																															
第15回	アジアビジネスの課題 発表3	(発表3に関する情報収集、分析、比較、まとめ)																																															
第16回	期末試験・レポート提出																																																
<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：大久保昭平 (2015) 『東南アジア進出戦略』中央経済社 マーケティング史研究会 (2014) 『日本企業のアジア・マーケティング戦略』同文館 参考資料：渡部千春 (2010) 『日本ブランドが世界を巡る』日経BP社</p>																																																	
<p>学びの手立て</p> <p>授業に参加し、積極的に学ぶ姿勢 (報告に対する質疑応答、パティシペーションなど) が必要である。</p>																																																	
<p>評価</p> <p>中間テスト (20%)、期末試験 (30%)、レポート (35%)、平常点 (15%)</p>																																																	

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>企業システム学科の卒業論文演習I・II</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アジアの企業と文化	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-桑原 浩	3年	e9wahara@gmail.com	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	日本企業と多国籍企業が東南アジア、東アジア諸国でマーケティング活動を行った事例に焦点を当て、特に各地域の文化的背景とマーケティングとの関係を議論しながら、グローバルマーケティング論の基礎的概念の習得を目指します。	日本企業のアジア圏でのマーケティング活動のリアルな現実を、事例を通じて学ぶ集中授業です。授業は、基本的に毎日、次の順序で行われます。講義⇒グループワーク⇒グループ別発表⇒宿題。特に、グループワークとグループ発表に、積極的に参加できる学生を歓迎します。
到達目標	1. グローバルマーケティングに関する基盤的知識を理解できること。 2. 実際のアジア地域のマーケティング活動に対して、活用可能なマーケティング概念を理解できること。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	消費者行動への越境的な視点（1）（講義、グループワーク）	
	3	消費者行動への越境的な視点（2）（グループワーク、発表）	第一回宿題
	4	国のセグメンテーションとターゲットティング（1）（講義）	
	5	国のセグメンテーションとターゲットティング（2）（グループワーク）	
	6	国のセグメンテーションとターゲットティング（3）（発表）	第二回宿題
	7	国内市場のセグメンテーションとターゲットティング（1）（講義）	
8	国内市場のセグメンテーションとターゲットティング（2）（グループワーク）		
9	国内市場のセグメンテーションとターゲットティング（3）（発表）	第三回宿題	
10	ポジショニング（1）（講義）		
11	ポジショニング（2）（グループワーク）		
12	ポジショニング（3）（発表）	第四回宿題	
13	ブランディング（1）（講義）		
14	ブランディング（2）（グループワーク）		
15	ブランディング（3）（発表）	第五回宿題	
16			
テキスト・参考文献・資料など	資料、講義ノート等をテキストとし、プリントで提供します。以下、参考文献です。 『グローバル・マーケティング入門』 相原 修・嶋 正・三浦 俊彦 著、2009年発行、日本経済新聞出版社 『日本企業のグローバル・マーケティング』 グローバルマーケティング研究会著、大石芳裕（編集）、2009年発行、白桃書房		
学びの手立て	マーケティングの入門科目が履修済みの学生を想定して授業が行われます。これまでマーケティング関係の科目を履修していないが本科目を履修したいと望む学生は、必ず初回授業でそのことを教員に連絡し、適当な指示を受けてください。講義前に必ず講義ノートを読んだうえで授業に参加してください。		
評価	1) グループワークへの参加と発表（毎日） 50% 2) 宿題（毎日1課題、計5回） 50%		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性

まず専門に対し総合的視点を持つ。次に課題取組から問題解決能力を身に付ける。最後に地域企業への関心と社会貢献意欲を高める。

[/]

科目基本情報	科目名 インターンシップ I	期別	曜日・時限	単位
	担当者 LC 教員 1	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 沖縄国際大学インターンシップは各学科の専門教育科目として、県内の企業や公官庁で実施しています。その目的は学生が実社会での体験学修を通して、大学教育では得難い実践的知識と技能の習得、社会人としての適性を見定め、職業観を養うことにあります。参加にあたっては、社会人基礎力を大学生活での取り組みに置き換え、全プログラムを通して意識的に実行することが求められます。	メッセージ 事前ガイダンスではインターンシップに必要な心構えやビジネスマナー、社会人に必要なスキル等を学ぶことで、安心して実習に参加できます。さらに、事後ガイダンスや報告会の参加、報告書作成を通して、自らの学びを言語化することで「働く価値観」をより明確にします。本プログラムを通して、働くとはどういうことか具体的に考える経験にしませんか
	到達目標 ①社会人としてのマナーを修得する。 ②職業観を養い、自らの適性を見定める。 ③組織の構造と機能を理解する。 ④企業・組織の基本理念と将来ビジョンの理解に努め、効率的な組織の仕組みを考える。 ⑤組織における自らの役割を理解した上で、思考し行動する力を修得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1回オリエンテーション（募集説明会） ※欠席不可	面接資料作成（申込手続き後）
	2	各学科担当教員による面接および学内選考	面接担当者へ面接日の事前確認
	3	第2回オリエンテーション（実習生の顔合わせ、リーダー決定、今後の説明等） ※欠席不可	実習先に関する情報収集
	4	事前ガイダンス1 インターンシップの意義・目的	ガイダンスの振り返り
	5	事前ガイダンス2 ビジネススキル①	ガイダンスの振り返り
	6	事前ガイダンス3 ビジネススキル②	実習先へ電話によるご挨拶
	7	事前ガイダンス4 社会人に求められるスキル	実習先業界の情報収集（新聞）
	8	事前ガイダンス5 情報収集スキル	ガイダンスの振り返り
	9	事前ガイダンス6 企業と社会の関係性	ガイダンスの振り返り
	10	事前ガイダンス7 インターンシップ体験談発表	ガイダンスの振り返り
	11	事前ガイダンス8 インターンシップガイダンス総集編	ガイダンスの振り返り
	12	第3回オリエンテーション（実習前後の注意事項、学科報告会の実行委員決定等） ※欠席不可	実習と報告会に向けて準備
	13	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	出勤簿・日報へ押印・記入し振返り
	14	事後ガイダンス1 インターンシップを通して考えるキャリア形成	ガイダンス内容を元に報告書作成
	15	事後ガイダンス2 学科報告会での担当別研修（発表者、司会、その他）	学科実習生全員で報告会運営準備
16	学科報告会（実習で得た学びを発表し、全体で共有する）	全体を通して学びの振り返り	

テキスト・参考文献・資料など
 実習生へ実習録を配布しますので、ガイダンス時の記録や実習中の出勤簿・日報などを記載してください。それらの記録をもとに、最終的に報告書作成や報告会の準備を行ってください。
 また、ガイダンス時に資料を配布しますので、あとで振り返りできるように整理してください。

学びの手立て
【応募資格】①各学科で受講可能となっている年次の学生（履修ガイドの学科選択科目を各自で確認すること）
 ②連続して2週間または3週間のインターンシップを意欲的にこなせる者 ③第1回オリエンテーション（募集説明会）から報告会まで、年間スケジュールと内容を理解して意欲的に臨める者
【注意事項】①各学科担当教員による面接を受けること ②全3回のオリエンテーションに参加すること（欠席不可） ③事前・事後ガイダンスを受講すること（他講義と重ならないよう確認すること） ④報告会を運営・参加すること ⑤連絡事項は、沖国大ポータル「学内連絡」、メールアドレス（学籍番号）へ連絡するので見落としがないよう確認すること

評価
【出席について】出席は単位習得の前提条件ですので、各オリエンテーションやガイダンス、報告会への欠席を毎回確認します。アルバイト等による欠席は認められません。出席状況が著しく悪い場合は、実習取り消しや不可となります。**【評価方法・割合】**①実習先による学生評価調査20% ②インターンシップ実習録（各ガイダンスの記録や課題、勤務状況、日報などから学びの状況を確認）60% ③インターンシップ報告書（実習先に関する理解度、インターンシップを通して得られたこと等）20%

学びの継続
 次のステージ・関連科目
 本インターンシッププログラムを通して気づいた自身の強みはさらに伸ばし、足りないと感じた部分は残りの学生生活で改善できるように取り組んでほしい。
 また、得られた職業観は今後のキャリアを考える際に役立ててほしい。

※ポリシーとの関連性

まず専門に対し総合的視点を持つ。次に課題取組から問題解決能力を身に付ける。最後に地域企業への関心と社会貢献意欲を高める。

[/]

科目基本情報	科目名 インターンシップⅡ	期別	曜日・時限	単位
	担当者 LC 教員1	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 沖縄国際大学インターンシップは各学科の専門教育科目として、県内の企業や公官庁で実施しています。その目的は学生が実社会での体験学修を通して、大学教育では得難い実践的知識と技能の習得、社会人としての適性を見定め、職業観を養うことにあります。参加にあたっては、社会人基礎力を大学生活での取り組みに置き換え、全プログラムを通して意識的に実行することが求められます。	メッセージ 事前ガイダンスではインターンシップに必要な心構えやビジネスマナー、社会人に必要なスキル等を学ぶことで、安心して実習に参加できます。さらに、事後ガイダンスや報告会の参加、報告書作成を通して、自らの学びを言語化することで「働く価値観」をより明確にします。本プログラムを通して、働くとはどういうことか具体的に考える経験しませんか
	到達目標 ①社会人としてのマナーを修得する。 ②職業観を養い、自らの適性を見定める。 ③組織の構造と機能を理解する。 ④企業・組織の基本理念と将来ビジョンの理解に努め、効率的な組織の仕組みを考える。 ⑤組織における自らの役割を理解した上で、思考し行動する力を修得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1回オリエンテーション（募集説明会） ※欠席不可	面接資料作成（申込手続き後）
	2	各学科担当教員による面接および学内選考	面接担当者へ面接日の事前確認
	3	第2回オリエンテーション（実習生の顔合わせ、リーダー決定、今後の説明等） ※欠席不可	実習先に関する情報収集
	4	事前ガイダンス1 インターンシップの意義・目的	ガイダンスの振り返り
	5	事前ガイダンス2 ビジネススキル①	ガイダンスの振り返り
	6	事前ガイダンス3 ビジネススキル②	実習先へ電話によるご挨拶
	7	事前ガイダンス4 社会人に求められるスキル	実習先業界の情報収集（新聞）
	8	事前ガイダンス5 情報収集スキル	ガイダンスの振り返り
	9	事前ガイダンス6 企業と社会の関係性	ガイダンスの振り返り
	10	事前ガイダンス7 インターンシップ体験談発表	ガイダンスの振り返り
	11	事前ガイダンス8 インターンシップガイダンス総集編	ガイダンスの振り返り
	12	第3回オリエンテーション（実習前後の注意事項、学科報告会の実行委員決定等） ※欠席不可	実習と報告会に向けて準備
	13	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	出勤簿・日報へ押印・記入し振返り
	14	事後ガイダンス1 インターンシップを通して考えるキャリア形成	ガイダンス内容を元に報告書作成
	15	事後ガイダンス2 学科報告会での担当別研修（発表者、司会、その他）	学科実習生全員で報告会運営準備
16	学科報告会（実習で得た学びを発表し、全体で共有する）	全体を通して学びの振り返り	

テキスト・参考文献・資料など
 実習生へ実習録を配布しますので、ガイダンス時の記録や実習中の出勤簿・日報などを記載してください。それらの記録をもとに、最終的に報告書作成や報告会の準備を行ってください。
 また、ガイダンス時に資料を配布しますので、あとで振り返りできるように整理してください。

学びの手立て
【応募資格】①各学科で受講可能となっている年次の学生（履修ガイドの学科選択科目を各自で確認すること）
 ②連続して2週間または3週間のインターンシップを意欲的にこなせる者 ③第1回オリエンテーション（募集説明会）から報告会まで、年間スケジュールと内容を理解して意欲的に臨める者
【注意事項】①各学科担当教員による面接を受けること ②全3回のオリエンテーションに参加すること（欠席不可） ③事前・事後ガイダンスを受講すること（他講義と重ならないよう確認すること） ④報告会を運営・参加すること ⑤連絡事項は、沖国大ポータル「学内連絡」、メールアドレス（学籍番号）へ連絡するので見落としがないよう確認すること

評価
【出席について】出席は単位習得の前提条件ですので、各オリエンテーションやガイダンス、報告会への欠席を毎回確認します。アルバイト等による欠席は認められません。出席状況が著しく悪い場合は、実習取り消しや不可となります。**【評価方法・割合】**①実習先による学生評価調査20% ②インターンシップ実習録（各ガイダンスの記録や課題、勤務状況、日報などから学びの状況を確認）60% ③インターンシップ報告書（実習先に関する理解度、インターンシップを通して得られたこと等）20%

学びの継続
 次のステージ・関連科目
 本インターンシッププログラムを通して気づいた自身の強みはさらに伸ばし、足りないと感じた部分は残りの学生生活で改善できるように取り組んでほしい。
 また、得られた職業観は今後のキャリアを考える際に役立ててほしい。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英文簿記・会計	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	清村 英之	2年	・研究室：5627室（5号館6階） ・メール：hkiyomura(at)okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	企業活動・ビジネスに国境がないように、簿記・会計の世界でも徐々に国境がなくなりつつあります。国境がなくなった時、世界標準の貸借対照表や損益計算書は、当然ながら英語で作成されます。この講義では、「商業簿記Ⅰ」で学んだ簿記一巡の手続を英語で行えるようになることを目指します。	英文簿記・会計に関する資格として、東京商工会議所主催の国際会計検定BATIC (Bookkeeping and Accounting Test for International Communication) があります。この講義はSubject1に対応しています。直前対策講座も実施する予定なので、是非、チャレンジしてください。
到達目標	① 商品売買取引、手形取引、資金調達取引などの諸取引を英語で仕訳（記録）できる。 ② 上記①の諸取引を英語でSpecialized journal（特殊仕訳帳）へ記帳し、Ledger（元帳）に転記できる。 ③ 決算を行い、Income statement（損益計算書）とBalance sheet（貸借対照表）を英語で作成できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Guidance	*時間外学習の内容：テ=テキスト シラバスの理解（以下、前/後）
	2	Basic Concepts of Bookkeeping and Accounting	テ5-16頁の精読/問題の再解答
	3	Transactions and Journal Entries① Purchase & Sales Transaction	テ18-47頁の精読/問題の再解答
	4	Transactions and Journal Entries② Notes, Financing & Dividends	テ18-47頁の精読/問題の再解答
	5	Journals and Ledgers① General Journal & Ledger	テ48-68頁の精読/問題の再解答
	6	Journals and Ledgers② Specialized Journal	テ48-68頁の精読/問題の再解答
	7	Trial Balance	テ70-75頁の精読/問題の再解答
	8	Test①	講義内容の復習/テストの再解答
	9	Adjusting Entries① Inventory & Cost of Sales, Depreciation	テ76-101頁の精読/問題の再解答
	10	Adjusting Entries② Prepaid Expense, Unearned Revenue, Accrued Expense, Accrued Revenue	テ76-101頁の精読/問題の再解答
	11	Closing Entries	テ105-110頁の精読/問題の再解答
	12	Financial Statements① Income Statement	テ111-120頁の精読/問題の再解答
	13	Financial Statements② Balance Sheet	テ111-120頁の精読/問題の再解答
14	Financial Statement Analysis	テ126-132頁の精読/問題の再解答	
15	Test②	講義内容の復習/テストの再解答	
16	テストの返却および講評・解説	講義内容の復習/ー	
テキスト・参考文献・資料など	・テキスト：清村英之『英文会計が基礎からわかる本（第2版）』同文館出版，未定（後期講義開始時まで刊行予定），2,200円（必須）。 ・参考文献：講義中に紹介します。		
学びの手立て	○履修上の注意事項/心構え： ・「商業簿記Ⅰ」を履修済みの学生（またはそれと同等の能力を持つ学生）しか登録できません。 ・例年、遅刻や欠席の多い学生は単位を修得できていません。遅刻・欠席をしないよう心がけてください。 ○学びを深めるために： ・映画、音楽、雑誌等、日常的に英語に触れる機会を作るといいでしょう。		
評価	・平常点……20点（講義中の取組みを評価します） ・テスト……80点（上記「到達目標」を評価します）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 国際会計検定BATICは、7月と12月に行われます。「メッセージ」にも書いたように、検定試験の前には直前対策講座を実施する予定です。是非、チャレンジを！
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	オフィス・マネジメント I	前期	木 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-及川 卓郎	2年	下記のE-mailで質問を受け付けます。 tkroikawa@gmail.com	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>社会に出てからは、いろいろな場面で指導的な立場で人を引っ張っていきが多くなると思います。その時、人に自分の主張を理解してもらうためには表現力、説得力が重要です。具体的には客観的な結果の導入とそのプレゼンテーションです。この講義では、エクセルを学ぶことでこの2点について基本的な技術を身に付けることができます。</p>	<p>エクセルの利用を主題にしている科目です。エクセルを使った表計算、エクセル上の便利なツール類、演習を通じた事例の積み重ねによるエクセルの基本的な使い方からビッグデータ解析につながるエクセルのBI（ビジネスインテリジェンス）手法までを学びます。</p>

到達目標	実社会で利用可能かエクセルによる分析能力、プレゼンテーション能力を身につけることを目標としています。
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	授業ガイダンス	
	2	エクセルの成り立ち	授業内容に関する自己学習
	3	エクセルの基本操作	資料の確認と自習
	4	エクセルがもつデータベース機能	パソコンを使った自習
	5	エクセルによる関数計算	パソコンを使った自習
	6	エクセルのアウトラインと集計	サンプルデータによる確認と自習
	7	ワークシート分析とWhatIf分析	サンプルデータによる確認と自習
	8	中間試験	
	9	ピボットテーブルの利用方法	パソコンを使った自習
	10	ピボットテーブルの演習	サンプルデータによる確認
	11	ピボットテーブルとスライサー	サンプルデータを使った自習
	12	パワーピボット利用の基本	DBに接続しての自習
	13	パワーピボット演習	DBに接続しての自習
14	パワークエリ（データの取得と変換）利用の基本	インターネットに接続しての自習	
15	パワークエリ演習	インターネットに接続しての自習	
16	期末試験		
テキスト・参考文献・資料など プリントを配付して授業を行います。			
学びの手立て できるだけ前の席にすわるようにしてください。前に座っている人の方が学習効果が高い結果が出ています。			
評価 中間試験40%、期末試験45%、平常点15%。ただし、進行度により試験形式、回数を変更する場合があります。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 本講義の内容は、経営情報処理 I と II で必要になります。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	オフィス・マネジメントⅡ	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-及川 卓郎	2年	下記のE-mailで質問を受け付けます。 tkroikawa@gmail.com	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>社会に出てからは、いろいろな場面で指導的な立場で人を引っ張っていきることが多くなると思います。その時、人に自分の主張を理解してもらうためには表現力、説得力が重要です。具体的には客観的な結果の導入とそのプレゼンテーションです。この講義では、エクセルを学ぶことでこの2点について基本的な技術を身に付けることができます。</p>	<p>メッセージ エクセルの利用を主題にしている科目です。エクセルを使った表計算、エクセル上の便利なツール類について学びます。また、演習を通じてエクセルの基本的な使い方からビッグデータ解析につながるエクセルのBI（ビジネスインテリジェンス）手法まで習得できるようになります。</p>
到達目標	実社会で利用可能かエクセルによる事務処理、数値処理、統計分析能力、プレゼンテーション能力を身につけることを目標としています。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	授業ガイダンス	
	2	エクセルの成り立ち	授業内容に関する自己学習
	3	エクセルの基本操作	資料の確認と自習
	4	エクセルがもつデータベース機能	パソコンを使った自習
	5	エクセルによる関数計算	パソコンを使った自習
	6	エクセルのアウトラインと集計	サンプルデータによる確認と自習
	7	ワークシート分析とWhatIf分析	サンプルデータによる確認と自習
8	中間試験		
9	ピボットテーブルの利用方法	パソコンを使った自習	
10	ピボットテーブルの演習	サンプルデータによる確認	
11	ピボットテーブルとスライサー	サンプルデータを使った自習	
12	パワーピボット利用の基本	DBに接続しての自習	
13	パワーピボット演習	DBに接続しての自習	
14	パワークエリ（データの取得と変換）利用の基本	インターネットに接続しての自習	
15	パワークエリ演習	インターネットに接続しての自習	
16	期末試験		
実践	テキスト・参考文献・資料など プリントを配付して授業を行います。		
学びの手立て	できるだけ前の席にすわるようにしてください。前に座っている人の方が学習効果が高い結果が出ています。		
評価	中間試験40%、期末試験45%、平常点15%。ただし、進行度により試験形式、回数を変更する場合があります。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本講義の内容は、経営情報処理ⅠとⅡで必要になります。
-------	---

※ポリシーとの関連性 キャリア教育の一環として、会計監査の実務経験に基づく講義により、実践的な知識や経験を学びます。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	会計監査	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-友利 健太	3年	授業終了後もしくはメールで受け付けます。 tomori@umuyasu-law.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この講義では、会計監査と、これを担う公認会計士とその仕事内容について、公認会計士である講師の実務経験を交えて解説します。メッセージに記載したツールとなるように、会計監査の特に「考え方」と「社会的な役割」を理解してもらいます。	学生のみなさんが、将来社会人となって触れることとなる情報（特に財務情報）の信頼性がどのように担保されているのかを理解することは、さまざまな分野で活躍するうえで活用できるツールになると思います。

到達目標
①会計監査の「背景」、「内容」、「考え方」、「手法」、「社会的な役割」が理解できる。 ②公認会計士の「社会的な役割」と「仕事内容」が理解できる。 ③上記のことを、社会人となったときにどのように活用するかイメージできる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	講義内容の復習
	2	監査とは何か？なぜ必要なのか？	講義内容の復習
	3	監査の基礎概念「監査意見」、「重要な虚偽の表示」ほか	講義内容の復習
	4	監査の基礎概念「監査証拠」ほか	講義内容の復習
	5	身の回りの監査「会社法監査」、「金融商品取引法監査」	講義内容の復習
	6	広がる監査&公認会計士のニーズ	講義内容の復習
	7	公認会計士とはどのような人？（試験内容、勉強方法を含む）	講義内容の復習
	8	監査制度を支える要件	講義内容の復習
	9	監査基準について	講義内容の復習
	10	内部統制とは何か？	講義内容の復習
	11	監査の手法「リスクアプローチ」とは何か？	講義内容の復習
	12	監査計画	講義内容の復習
	13	監査の実施（監査手続の基本とこれから）前半	講義内容の復習
	14	監査の実施（監査手続の基本とこれから）後半	講義内容の復習
15	監査報告書	講義内容の復習	
16	期末テスト		

テキスト・参考文献・資料など
テキストとして以下の書籍を使用します。 「監査論を学ぶ（第2版）」 著者：蟹江 章、高原 利栄子、藤岡 英治 出版社：税務経理協会 出版年：2017年1月 価格：2,000円（税抜）

学びの手立て
①履修上の心構え ・「商業簿記Ⅰ」程度の簿記の知識があると望ましいですが、無くても受講できます。 ・遅刻、欠席をしないよう心がけてください。 ②学びを深めるために ・興味のある会社や組織の「財務諸表」（決算書）をHPなどから入手してみてください。上場会社などの有価証券報告書発行会社の財務諸表は、EDINET（エディネット）でも閲覧できます。 http://disclosure.edinet-fsa.go.jp/ ・経済やビジネスに関する新聞記事・ニュースに目を向けてみてください。

評価
平常点20%：講義中の取り組み・姿勢を評価します。 テスト80%：上記「到達目標」を評価します。

学びの継続
次のステージ・関連科目 関連科目 ・会計コースの諸科目

※ポリシーとの関連性

ビジネスにおける基礎的な知識である財務会計に係る基礎知識を習得し、企業活動の把握、報告を行いうる実践力を養います。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	会計学 I	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鶴池 幸雄	2年	uike@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 企業活動把握の考え方及び一般的な報告の体系とその基底にある思考の基礎を習得することを目標とします。	メッセージ ビジネスの基本用語が多く出てきますが、ビジネス基礎力を身に付けるため体系づけて学習して下さい
	到達目標 財務諸表の構造と構成要素を理解し、企業活動の把握ができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	ガイダンストピックの整理
	2	損益会計1 (収益の認識)	収益概念、要素の整理と把握
	3	損益会計2 (費用の認識)	費用概念、要素の整理と把握
	4	財務諸表の作成	財務諸表体系の把握
	5	貸借対照表の報告原則と様式	貸借対照表構造の把握
	6	損益計算書の報告原則と様式	損益計算書構造の把握
	7	キャッシュ・フロー計算書の報告原則と様式	キャッシュ・フロー計算書の把握
	8	金融商品会計	金融商品の整理と把握
	9	中間テストと講評	損益計算、財務諸表の復習
	10	外貨建取引等会計1	外貨建て取引の把握
	11	外貨建取引等会計2	外貨建て取引処理の整理と把握
	12	連結会計1	連結概念の把握
	13	連結会計2	連結会計処理の整理と把握
	14	国際会計基準	国際会計基準の把握
15	我が国の会計基準の動向	会計基準同行の理解と把握	
16	期末テスト		
	テキスト・参考文献・資料など 財務会計の基礎理論と展開 第2版 上江洲由正 大城建夫 編著 同文館出版		
	学びの手立て 企業の活動を貨幣単位でとらえるための考え方について学ぶため、何を何のために表しているかをよく学習してください。		
	評価 中間テスト50 期末テスト 50		

学びの継続	次のステージ・関連科目 財務会計 資金会計 経営分析 原価計算 戦略会計
-------	---

※ポリシーとの関連性

ビジネスにおける基礎的な知識である財務会計にかかる基礎知識を習得し、企業活動の把握、報告を行いうる実践力を養います

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	会計学Ⅱ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鶴池 幸雄	2年	uike@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 企業活動把握の考え方及び一般的な報告の体系とその基底にある思考の基礎を習得することを目標とします	メッセージ ビジネスの基本用語が多く出てきますが、ビジネス基礎力を身に着けるため体系づけて学習してください
	到達目標 財務諸表の構造と構成要素を理解し、企業活動の把握ができる	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	ガイダンストピックの整理
	2	損益会計1（収益の認識）	収益概念、要素の整理と把握
	3	損益会計2（費用の認識）	費用概念、要素の整理と把握
	4	財務諸表の作成	財務諸表体系の把握
	5	貸借対照表の報告原則と様式	貸借対照表構造の把握
	6	損益計算書の報告原則と様式	損益計算書構造の把握
	7	キャッシュ・フロー計算書の報告原則と様式	キャッシュ・フロー計算書の把握
	8	金融商品会計	金融商品の整理と把握
9	中間テストと講評	損益計算、財務諸表の復習	
10	外貨建取引等会計1	外貨建て取引の把握	
11	外貨建取引等会計2	外貨建て取引処理の整理と把握	
12	連結会計1	連結概念の把握	
13	連結会計2	連結会計処理の整理と把握	
14	国際会計基準	国際会計基準の把握	
15	我が国の会計基準の動向	会計基準動向の理解と把握	
16	期末テスト		
	テキスト・参考文献・資料など 財務会計の基礎理論と展開 第2版 上江洲由正 大城建夫 編著 同文館出版		
	学びの手立て 企業の活動を貨幣単位でとらえるための考え方について学ぶため、何を何のために表しているかをよく学習してください。		
	評価 中間テスト 50 期末テスト 50		

学びの継続	次のステージ・関連科目 財務会計 資金会計 経営分析 原価計算 戦略会計
-------	---

※ポリシーとの関連性 ホスピタリティ&観光マーケティングを学習することで、沖縄観光・サービス産業分野で活躍できる人材を育成する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	観光マーケティング	前期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 相典	3年	i. sanjon@okiu. ac. jpまたは授業終了後	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	ホスピタリティ&観光マーケティングの基礎知識を学ぶとともに、新たな観光商品の開発・企画に関する演習を通じて観光産業で活躍できる実務的な感覚を身に付ける。	本講義では、日本または沖縄の観光産業の発展のために何が必要なのかを想像しながら、履修学生たちが思い出した観光商品のアイデアを如何に表現すればよいかについて一緒に考えてみます。本講義は履修する受講生とともに観光マーケティングの面白さや観光客の多様な観光活動が持つ意義について一緒に考えてみる時間です。
到達目標	1. ホスピタリティ&観光マーケティングに関する基礎的な知識を習得する。 2. 新しい観光市場を創出するために必要な観光商品やサービスとは何かについて考えてみることで、受講生の創造力を向上させる。 3. 観光マーケティング分野で活躍できる基礎実務を獲得する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	観光マーケティングとは何か	資料を読む
	3	観光マーケティング戦略Ⅰ. 市場細分化とトレンド	沖縄観光市場を分析
	4	観光マーケティング戦略Ⅱ. ポジショニングと目標	沖縄のポジションについて分析
	5	観光マーケティング実行Ⅰ. 商品開発	沖縄の魅力について調査
	6	観光マーケティング実行Ⅱ. サービスと品質管理	沖縄ホテルサービスについて調査
	7	観光マーケティング実行Ⅲ. パッケージングとプログラミング	沖縄パッケージ商品について調査
8	観光マーケティング実行Ⅳ. 流通ミックス	観光商品の流通システム分析	
9	グループ別課題オリエンテーション	個別レポート課題公開	
10	観光商品企画Ⅰ. 概念と構成要素(グループ分け)	グループ課題準備	
11	観光商品企画Ⅱ. アイデア創出	グループ課題準備	
12	観光商品企画Ⅲ. 需要予測	グループ課題準備	
13	グループ発表Ⅰ	グループ別発表	
14	グループ発表Ⅱ	グループ別発表	
15	グループ発表Ⅲ	グループ別発表	
16	観光マーケティングのまとめ	総合ディスカッション	
テキスト・参考文献・資料など	1. テキスト：使用しません。配布資料で対応します。		
学びの手立て	1. 遅刻や無断欠席は成績評価に積極的に反映しますので、ご注意ください。 ※やむを得ず遅刻・欠席の場合、事前・事後にメールで連絡してください ※欠席については、欠席届を提出した場合、その内容に従って認定します。		
評価	1. 出席・受講態度を積極的に反映します *5回以上の遅刻や無断欠席の場合は履修できません。 *授業中またはディスカッションへの積極的な参加には加点があります。 2. 個別レポート1回とループ・レポート(発表・資料)1回の評価を総合して評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：『サービス・マーケティング』や『広告論』のような科目とともに履修すると、さらに観光マーケティングの面白さを感じられると思います。 次のステージ：なし。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	外書講読 I	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	佐久本 朝一	2年	問い合わせは大学のメールか開設されている講義の前後に直接問い合わせること。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	ビジネスに関する英文の読解力を養成する。具体的には大学院進学のために経営に関する専門書を翻訳できる技術を学ぶことにある。	授業前後の予習復習をすることが不可欠となる。

到達目標	ビジネスに関する英文の専門書を翻訳することを可能にする。
------	------------------------------

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Management of Carlos Ghoson	専門用語の下調べ
	2	Management of Jack Welch	事前に大まかな翻訳をする
	3	Management of Bill Gates	割り当て箇所の学習
	4	Management of Robert Iger	授業後の復習
	5	Management of Nevill Isdell Predident of Coca-Cola company	専門用語の翻訳
	6	Japanese Economy	割り当て箇所の予習
	7	History of Economic Development	専門用語の辞書による翻訳
	8	Introduction of Foreign Technology	割り当て箇所の翻訳
9	Trade Relationship	授業後の復習	
10	Labor Relations in Japan	専門用語の下調べ	
11	Lifetime Employment Custom	専門用語の翻訳	
12	On the Job Training in house	事前に大まかな翻訳をする	
13	Quality Control	授業後の復習	
14	Seniority based Reward System	割り当て箇所の予習	
15	Evaluation System in Japan	事前に大まかな翻訳をする	
16	Long-time Working Hours	専門用語の辞書による翻訳	
	テキスト・参考文献・資料など	FORTUNE, ASIA PACIFIC EDITION, 国際経営の基礎知識、著者 佐久本など。	
	学びの手立て	最初は直訳から始めて、時間をかけて翻訳すること。	
	評価	各自に毎回割り当てられた専門書の箇所を翻訳(50点)し、教員との翻訳を照合をしてチェック(50点)を行う。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 国際経営に関する基礎知識を学ぶため、比較経営論 I、II を履修することが望ましい。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	外書講読Ⅱ	後期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	佐久本 朝一	2年	大学のメールにて行うことが望ましい。	

学びの準備	ねらい ビジネスに関する専門書を翻訳する。	メッセージ 英字新聞を読む
	到達目標 授業を通して外国の文化や価値観を学ぶことにある。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Business Decision Making Process	事前に専門用語の下調べ
	2	Pay System in Japan	割り当て箇所の予習
	3	Standard Promotion System in Japan	専門用語の下調べ
	4	Evaluation Elements in Japan	割り当て箇所の復習
	5	Flexible Cultural Working Situation	専門用語の下調べ
	6	Welfare of Japanese company	辞書による専門用語の下調べ
	7	Retirement System in Japan	割り当て箇所の予習
	8	Industrial Policy in Japan	事前に専門用語の下調べ
	9	Japanese Cultural Structure	専門用語の下調べ
	10	Trade Relationship between Japan and US	授業での翻訳後の理解
	11	Employment System in Japan	割り当て箇所の予習
	12	Working Hours in Japan	専門用語の下調べ
	13	Multiple Pay System in Japan	割り当て箇所の予習
	14	Fringe Benefit in Japan	辞書による専門用語の下調べ
	15	Labor Union in House	割り当て箇所の復習
	16	Japanese Management System	授業での翻訳後の総合的な理解
	テキスト・参考文献・資料など テキストは適時プリントして配布する。		
	学びの手立て 可能な限り直訳して確実にその内容を理解すること。		
	評価 毎回、割り当てられた箇所をチェック(50点)するので予習をしていくことが必要である。2回のテスト(25点+25点)で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門科目の比較経営論Ⅰ、Ⅱを履修することが望ましい。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	企業者史	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩橋 建治	2年	kiwahashiアットまーくoku.ac.jp	

学びの準備	ねらい 「ひと」としての企業者に注目し、そこから学ぶ。授業ではさまざまな企業者を取りあげる。	メッセージ 企業者の活動（経営戦略、経営管理、人材育成など）は、どのような時代的・社会的環境のもとで行われたのか。それにより彼らはいかにして社会を変えていったのか。さらに、困難におちいった彼らを支え続けてきた経営理念、あるいは夢や信念とは、何だったのか。主に以上の問いかけから学んでいく。
	到達目標 時代がひとをつくることと、ひとが時代をつくることを、中長期的な視野でとらえられること。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	企業者史への視角	講義内容の復習
	2	鈴木敏文（セブンイレブン・ジャパン）	鈴木敏文から学ぶ
	3	松下幸之助（松下電器産業、現パナソニック）	松下幸之助から学ぶ
	4	小倉昌男（ヤマト運輸）	小倉昌男から学ぶ
	5	カルロス・ゴーン（日産自動車）	カルロス・ゴーンから学ぶ
	6	稲盛和夫（京セラ・KDDI）	稲盛和夫から学ぶ
	7	スティーブ・ジョブズ（アップル）①	スティーブ・ジョブズから学ぶ
	8	スティーブ・ジョブズ（アップル）②	スティーブ・ジョブズから学ぶ
9	南場智子（DeNA）	南場智子から学ぶ	
10	安藤百福（日清食品）	安藤百福から学ぶ	
11	本田宗一郎（本田技研工業）	本田宗一郎から学ぶ	
12	孫正義（ソフトバンク）	孫正義から学ぶ	
13	山田昭男（未来工業）	山田昭男から学ぶ	
14	グループディスカッション	学習内容をまとめる	
15	期末試験	学習成果をまとめる	
16	まとめ	学習成果をまとめる	
	テキスト・参考文献・資料など 適宜プリントを配布する。		
	学びの手立て この講義は受講生の意見や質問から展開していく。そのため常に考えることが必要とされる。		
	評価 期末試験（80%）、中間レポート（20%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ベンチャー経営論Ⅰ、ベンチャー経営論Ⅱ、および経営コースの各科目。
-------	--

※ポリシーとの関連性 国内・国外の企業研究を通じ、ビジネスの視点を得ます。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩橋 建治・天野 敦央	2年	演習中の質問時間(16:00~16:10)に、ご照会ください。	

学びの準備	ねらい この授業では、国内・国外の企業研究を中心に、経営学に関する予備知識を身につけます。その過程で、大学で学ぶための、さらには実社会の現場での実践に役立つ、さまざまな方法を習得します。	メッセージ 経営学は、ヒト（人材育成）・モノ（商品やサービス）・カネ（資金の流れ）・情報などの経営資源を、総合的にどう組み合わせれば、組織としてより効果的な働きをもたらすのかを考える学問です。
	到達目標 ①テキストの輪読を通じて、問題と課題を見いだすためのトレーニングを行います。②討論を通じて、他者と共同して問題解決にあたるプロセスを学びます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	はじめに： 経営学への招待	全体像を把握する
	2	グループワーク(1)： ビジネスプランの作成	プランを精緻にする
	3	グループワーク(2)： 業界研究	業界を深く知る
	4	起業	起業の学習
	5	起業(2)	起業の学習
	6	環境・戦略・組織	環境・戦略・組織の学習
	7	環境・戦略・組織(2)	環境・戦略・組織の学習
	8	企業の知識体系	企業の知識体系の学習
9	企業の知識体系(2)	企業の知識体系の学習	
10	競争の展開	競争戦略の学習	
11	競争の展開(2)	競争戦略の学習	
12	リストラと組織改革	組織改革の学習	
13	リストラと組織改革(2)	組織改革の学習	
14	外部資源利用とM&A	外部資源利用の学習	
15	外部資源利用とM&A(2)	外部資源利用の学習	
16	(予備日)	全体像を理解する	
実践	テキスト・参考文献・資料など 東北大学経営学グループ(2008)『ケースに学ぶ経営学 [新版]』有斐閣ブックス。		
	学びの手立て 遅刻・私語は控えてほしいと思います。 いまのところ、期末試験実施は予定していないが、講義中2~3度のショートテストの実施を計画しています。実施日時などは開講時に指示するので、準備不足・受験忘れといったことのないようにご注意ください。		
	評価 講義への参加度(発言、質問)と演習への貢献度(50%)、課題・ショートテスト答案の完成度(50%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 基礎演習Ⅱ、および経営コースの各科目。
-------	------------------------------------

※ポリシーとの関連性

課題への取り組みを通して、深い専門性に加え、「理解力」「表現力」「問題解決能力」を身につける。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期	火 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	2年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①文献の読み方、資料・データの分析方法、レジュメ作成方法、プレゼンテーション技法、レポートの書き方の習得。</p> <p>②グループワーク、フィールドワークの実践。</p>	<p>本演習では、基礎文献の購読を通じて、都市・市場を歴史的な観点から学ぶと同時に、レジュメの作成方法やプレゼンテーション技法、レポートの書き方等をしっかりと訓練する。</p> <p>また、フィールドワークを通じてチームメンバーとの連携を意識しながら作業を行う。履修者が相互に刺激し合いながら、楽しく充実した演習を作り上げていくことを期待する。</p>
到達目標	<p>①レポート・論文執筆および口頭報告のための基礎的能力の習得。</p> <p>②商業と都市・市場の発展に関わる問題への興味関心を喚起する。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス, 自己紹介	テキストの準備
	2	講義①: レジュメの作成方法, ワードソフトの基本操作	PCを用いた簡易レポートの作成
	3	講義②: プレゼンテーション技術の習得, プレゼンテーションソフトの基本操作	PCを用いた簡易スライドの作成
	4	講義③: ディスカッションの方法	グループディスカッションの訓練
	5	テキスト輪読①: グループ報告, レジュメ作成	テキストの熟読と疑問点の整理
	6	テキスト輪読②: グループ報告, レジュメ作成	テキストの熟読と疑問点の整理
	7	テキスト輪読③: グループ報告, レジュメ作成	テキストの熟読と疑問点の整理
	8	テキスト輪読④: グループ報告, レジュメ作成	テキストの熟読と疑問点の整理
	9	フィールドワーク: 商店街の調査① 調査地域の設定, 課題設定	グループによる共同調査作業
	10	フィールドワーク: 商店街の調査② 調査地域の設定, 課題設定	グループによる共同調査作業
	11	講義④: データ収集・データ整理の方法	図書館での資料・文献検索
	12	フィールドワーク: 商店街の調査③ 調査地域の情報収集	グループによる共同調査作業
	13	フィールドワーク: 商店街の調査④ 調査項目の精査	グループによる共同調査作業
14	まとめ①: 商店街調査の経過報告: グループ報告, レジュメ作成	調査内容の問題点を整理する	
15	まとめ②: 商店街調査の経過報告: グループ報告, レジュメ作成	調査内容の問題点を整理する	
16	まとめ③: 基礎演習Ⅱにむけての準備	夏季休暇中の作業についての確認	
テキスト・参考文献・資料など	<p>【使用テキスト】: 講義中に使用するテキストのため、購入して毎回必ず持参すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・満園勇 (2015) 『商店街はいま必要なのか「日本型流通」の近現代史』講談社現代新書 (講談社) <p>【参考テキスト】: 時間外学習に使用するテキスト。復習に利用すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代マーケティング研究会編 (2019) 『マーケティング論の基礎』同文館出版 ・住谷宏編著 (2019) 『流通論の基礎 (第3版)』中央経済社 		
学びの手立て	<p>【履修の心構え】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①無断欠席や遅刻は厳禁とする。 ②やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前に担当教員に連絡をすること。 ③事前の準備 (レジュメ作成や報告スライド作成等) は怠らないこと。 ④報告には質疑応答の時間を設ける。積極的な発言・議論への参加を期待する。 ⑤履修者間相互の交流や情報交換は密に行うこと。 		
評価	<p>【成績評価の内訳】 (100%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 受講態度・平常点 (30%) : 質問や発言, 議論の内容について適宜加点を行う。 プレゼンテーション (30%) : プレゼンテーションの内容, 報告スライドのわかりやすさを評価。 レジュメ作成 (20%) : 配布資料のわかりやすさを評価。 レポート課題提出 (20%) : レポート課題を期限までに提出すること。 		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>ビジネスで必要とされる資料収集, データ分析やプレゼンテーション等の基礎的能力を身につける第一歩となるのが基礎演習である。基礎演習Ⅰでの学びを経て, 基礎演習Ⅱではより具体的な課題に対して, 自分で考え行動できる能力を高めていく。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名 基礎演習 I	期 別	曜日・時限	単 位
	担当者 清村 英之	前期	火 1	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	・研究室：5627室（5号館6階） ・メール：hkiyomura(at)okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 簿記の技能は、会計コースで様々な専門科目を履修するに当たって不可欠です。したがって、この演習では、第一に日商簿記検定試験2級取得を目指します（毎回、講義冒頭で検定試験過去問題の解答を行います）。また、会計学の全容を明らかにし、それぞれの領域を紹介することによって会計学への興味を喚起する、つまり会計学への誘いが第二の目的です。	メッセージ 現時点では、「簿記＝会計」と理解をしている皆さんが多いと思いますが、簿記だけが会計ではありません。もっと様々な分野の会計があります。この演習では、会計に興味を持った皆さんに、これらを紹介するとともに、今後、会計学を深く学んでいくための基礎を提供します。
	到達目標 ① 高度な商業簿記・工業簿記を修得し、財務諸表から企業の経営内容を把握できる。 ② 会計学の各領域を理解し、説明できる。 ③ 会計学の各領域に興味・関心を持ち、個々の領域について自ら意欲的に学習し、理解を深めることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス(履修上の注意点の確認等)	シラバスの理解 (以下、前/後)
	2	会計とは？	配布資料①の精読/講義内容の復習
	3	会計学の領域	配布資料②の精読/講義内容の復習
	4	会計の歴史①－イタリア・ルネサンスと複式簿記	配布資料③の精読/講義内容の復習
	5	会計の歴史②－オランダ海上帝国と期間計算	配布資料③の精読/講義内容の復習
	6	会計の歴史③－イギリス産業革命と減価償却	配布資料③の精読/講義内容の復習
	7	財務諸表の作り方①－連結貸借対照表	配布資料④の精読/講義内容の復習
	8	財務諸表の作り方②－連結損益計算書	配布資料④の精読/講義内容の復習
	9	財務諸表の読み方①－収益性分析 (資本利益率)	配布資料⑤の精読/講義内容の復習
	10	財務諸表の読み方②－収益性分析 (売上高利益率)	配布資料⑤の精読/講義内容の復習
	11	財務諸表の読み方③－効率性分析	配布資料⑤の精読/講義内容の復習
	12	財務諸表の読み方④－安全性分析	配布資料⑤の精読/講義内容の復習
	13	経営計画と短期利益計画①－経営計画の意義・種類	配布資料⑥の精読/講義内容の復習
	14	経営計画と短期利益計画②－損益分岐点分析	配布資料⑥の精読/講義内容の復習
	15	経営計画と短期利益計画③－損益分岐点分析の活用	配布資料⑥の精読/講義内容の復習
16	まとめ	講義内容の復習/－	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など ・テキスト：使用しません。プリントを配布します。 ・参考文献：講義中に紹介します。
-------	--

学びの実践	学びの手立て ○履修上の注意事項/心構え： ・会計コースを選択した学生しか登録できません。 ・2年次になると大学生活にも慣れて、気が緩みがちです。遅刻・欠席のないよう心がけてください。 ○学びを深めるために： ・経済やビジネスに関する新聞記事・ニュースに興味を持ちましょう（新聞は図書館に各紙揃っています）。 会計の知識が付くにつれて、これらの記事・ニュースが理解できるようになります。
-------	---

学びの実践	評価 ・平常点……20点（講義中の取組みを評価します） ・レポート……80点（上記「到達目標」を評価します）
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：工業簿記ⅠⅡ（2年次）、会計学ⅠⅡ（2年次）など、会計コースの諸科目
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩橋 建治	2年	kiwahashiアットまーくoku.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業では、経営学に関する予備知識を身につけます。その過程で、大学で学ぶための、さらには実社会の現場での実践に役立つ、さまざまな方法を習得します。	メッセージ 経営学は、ヒト（人材育成）・モノ（商品やサービス）・カネ（資金の流れ）・情報などの経営資源を、総合的にどう組み合わせれば、組織としてより効果的な働きをもたらすのかを考える学問です。
	到達目標 ①資料収集とパワーポイント作成を通じて情報の取捨選択と要約の仕方を理解します。②報告を通じて「自分が伝えたいこと」を簡潔かつ的確に伝えるためのスキルを高めます。③討論を通じて他者と共同して問題解決にあたるプロセスを学びます。	

学びの準備	
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	はじめに： 班分けなど	各班ミーティング
	2	現代経営学の基礎	各班プレゼン資料作成
	3	経営形態の歴史的発展	各班プレゼン資料作成
	4	生産管理の歴史的発展	各班プレゼン資料作成
	5	図書館ガイダンス	図書館利用に慣れる
	6	経営の管理過程	各班プレゼン資料作成
	7	現代企業の経営組織	各班プレゼン資料作成
	8	現代企業の経営戦略	各班プレゼン資料作成
	9	現代企業の生産システム	各班プレゼン資料作成
	10	現代企業の人的資源管理	各班プレゼン資料作成
	11	トヨタ生産方式とその展開	各班プレゼン資料作成
	12	労働組織再編と現場管理制度の展開	各班プレゼン資料作成
	13	情報化と企業の変革	各班プレゼン資料作成
	14	現代企業のグローバル化	各班プレゼン資料作成
	15	現代の企業統治と倫理・社会的責任	学習内容をまとめる
16	後期のまとめ	学習成果を振り返る	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 井上秀次郎・安達房子 編（近刊）『現代経営学（仮）』（シリーズ 大学生の学びをつくる）大月書店。
-------	--

学びの実践	学びの手立て 積極的な発言を求めます。各班のパワーポイント報告では、ビジュアルに関する効果的手法や、聴き手に関心をもたせる話し方など、プレゼンテーションのスキルについても適宜指導していきます。
-------	---

学びの実践	評価 受講態度（討論での積極的な発言など）50%、課題の完成度（各班プレゼンテーションと各自レポートなど）50%。なお、自分の班が報告班のときに正当な理由なく欠席した場合は、大きくペナルティーが付きまます。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習Ⅰ、および経営コースの各科目。
-------	------------------------------------

※ポリシーとの関連性

課題への取り組みを通して、深い専門性に加え、「理解力」「表現力」「問題解決能力」を身につける。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	2年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①文献の読み方、資料・データの分析方法、レジュメ作成方法、プレゼンテーション技法、レポートの書き方の習得。</p> <p>②グループワーク、フィールドワークの実践。</p>	<p>本演習では、基礎演習Ⅰから継続して商店街調査を行う。商店街の発展ならびに停滞について歴史的観点から分析し、考察を行うことで、中心市街地および商店街が現在抱える問題点を明らかにしていく。</p>
到達目標	<p>①レポート作成および口頭報告のための基礎的能力を習得する。</p> <p>②報告書の作成を通じて、論文執筆に必要な技能を習得する。</p> <p>③商業と都市・市場の発展に関わる問題への興味関心を喚起する。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：基礎演習Ⅰをふりかえって	商店街調査のための準備作業
	2	講義①：中心市街地の活性化について	テーマに関する資料調査
	3	フィールドワーク：商店街の調査① 調査方法の検討	アンケート・聞き取り調査の準備
	4	フィールドワーク：商店街の調査② 具体的な調査手法の選択	アンケート・聞き取り調査の準備
	5	フィールドワーク：商店街の調査③ 調査先関係各所への事前連絡	訪問先への連絡と日程調整
	6	フィールドワーク：商店街の調査④ 訪問先との日程調整ならびに調査準備	訪問先での調査内容の検討
	7	フィールドワークの実施①	訪問先での聞き取り調査
	8	フィールドワークの実施②	訪問先近辺でのアンケート調査
	9	フィールドワーク：商店街の調査⑤ 収集データの分析	統計資料・収集データの整理
	10	フィールドワーク：商店街の調査⑥ 報告書作成作業	収集データの分析と報告書作成
	11	フィールドワーク：商店街の調査⑦ 口頭報告の準備作業	報告書・報告スライドの作成
	12	講義②：沖縄県における中心商店街の特徴はなにか	他県との商業集積の違いを考える
	13	まとめ①：商店街調査の最終報告ならびに報告書提出	報告書作成と提出
	14	まとめ②：商店街調査の最終報告ならびに報告書提出	報告書作成と提出
15	まとめ③：商店街調査の最終報告ならびに報告書提出	報告書作成と提出	
16	おわりに：専門演習について	専門演習にむけての準備	

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>【使用テキスト】：講義中に使用するテキストのため、購入して毎回必ず持参すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・満園勇 (2015) 『商店街はいま必要なのか「日本型流通」の近現代史』講談社現代新書 (講談社) <p>【参考テキスト】：時間外学習に使用するテキスト。復習に利用すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代マーケティング研究会編 (2019) 『マーケティング論の基礎』同文館出版 ・住谷宏編著 (2019) 『流通論の基礎 (第3版)』中央経済社
-------	--

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>【履修の心構え】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①無断欠席や遅刻は厳禁とする。 ②やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前に担当教員に連絡をすること。 ③事前の準備 (レジュメ作成や報告スライド作成等) は怠らないこと。 ④報告には質疑応答の時間を設ける。積極的な発言・議論への参加を期待する。 ⑤履修者間相互の交流や情報交換は密に行うこと。
-------	---

学びの実践	<p>評価</p> <p>【成績評価の内訳】 (100%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 受講態度・平常点 (20%) : 質問や発言、議論の内容について適宜加点を行う。 プレゼンテーション (30%) : プレゼンテーションの内容、報告スライドのわかりやすさを評価。 報告書提出 (30%) : 報告書を期限までに提出すること。 レジュメ作成 (20%) : 配布資料のわかりやすさを評価。
-------	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>ビジネスで必要とされる資料収集、データ分析やプレゼンテーション等の基礎的能力を身につける第一歩となるのが基礎演習である。基礎演習Ⅱでの学びを経て、3年次の専門演習では、履修者の課題発見能力と問題解決のためのアイデア創出の能力を高めていく。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名 基礎演習Ⅱ	期別 後期	曜日・時限 火1	単位 2
	担当者 清村 英之	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ	
			・研究室：5627室（5号館6階） ・メール：hkiyomura(at)okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 簿記の技能は、会計コースで様々な専門科目を履修するに当たって不可欠です。したがって、この演習では、第一に日商簿記検定試験2級取得を目指します（毎回、講義冒頭で検定試験過去問題の解答を行います）。また、会計学の全容を明らかにし、それぞれの領域を紹介することによって会計学への興味を喚起する、つまり会計学への誘いが第二の目的です。	メッセージ 現時点では、「簿記＝会計」と理解をしている皆さんが多いと思いますが、簿記だけが会計ではありません。もっと様々な分野の会計があります。この演習では、会計に興味を持った皆さんに、これらを紹介するとともに、今後、会計学を深く学んでいくための基礎を提供します。
	到達目標 ① 高度な商業簿記・工業簿記を修得し、財務諸表から企業の経営内容を把握できる。 ② 会計学の各領域を理解し、説明できる。 ③ 会計学の各領域に興味・関心を持ち、個々の領域について自ら意欲的に学習し、理解を深めることができる。	

学びの準備	到達目標 ① 高度な商業簿記・工業簿記を修得し、財務諸表から企業の経営内容を把握できる。 ② 会計学の各領域を理解し、説明できる。 ③ 会計学の各領域に興味・関心を持ち、個々の領域について自ら意欲的に学習し、理解を深めることができる。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス(履修上の注意点の確認等)	シラバス理解(以下、前/後)
	2	貨幣の時間価値①－複利計算と将来価値	配布資料①の精読/講義内容の復習
	3	貨幣の時間価値②－割引計算と現在価値	配布資料①の精読/講義内容の復習
	4	貨幣の時間価値③－アニュイティ	配布資料①の精読/講義内容の復習
	5	貨幣の時間価値④－時間価値と会計(貸倒見積高の算定、リース会計、減損会計など)	配布資料①の精読/講義内容の復習
	6	投資意思決定①－投資の意義と種類	配布資料②の精読/講義内容の復習
	7	投資意思決定②－投資決定のための評価方法	配布資料②の精読/講義内容の復習
	8	投資意思決定③－不確実性下の投資意思決定	配布資料②の精読/講義内容の復習
	9	キャッシュ・フロー計算書①－キャッシュ・フロー計算書の意義と必要性	配布資料③の精読/講義内容の復習
	10	キャッシュ・フロー計算書②－キャッシュ・フロー計算書の作成(直接法)	配布資料③の精読/講義内容の復習
	11	キャッシュ・フロー計算書③－キャッシュ・フロー計算書の作成(間接法)	配布資料③の精読/講義内容の復習
	12	会計の国際化①－会計基準の国際的調和(Harmonization)	配布資料④の精読/講義内容の復習
	13	会計の国際化②－会計基準の収斂(Convergence)	模擬授業④の精読/講義内容の復習
	14	会計の国際化③－会計基準の採用(Adoption)	配布資料④の精読/講義内容の復習
	15	会計の国際化④－わが国におけるIFRSの受入状況	配布資料④の精読/講義内容の復習
16	まとめ	講義内容の復習/－	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：使用しません。プリントを配布します。 参考文献：講義中に紹介します。
-------	--

学びの実践	学びの手立て ○履修上の注意事項/心構え： ・会計コースを選択し、「基礎演習Ⅰ」を履修済みの学生しか登録できません。 ・2年次になると大学生活にも慣れて、気が緩みがちです。遅刻・欠席のないよう心がけてください。 ○学びを深めるために： ・経済やビジネスに関する新聞記事・ニュースに興味を持ちましょう(新聞は図書館に各紙揃っています)。 会計の知識が付くにつれて、これらの記事・ニュースが理解できるようになります。
-------	--

学びの実践	評価 ・平常点……20点(講義中の取組みを評価します) ・レポート……80点(上記「到達目標」を評価します)
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：工業簿記ⅠⅡ(2年次)、会計学ⅠⅡ(2年次)など、会計コースの諸科目
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	業績管理会計	前期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	菅森 聡	3年	s. sugamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 会計情報は経営管理のために不可欠です。管理会計は能率的、効率的に経営管理を実施するためのシステムです。本講義では管理会計の理論を理解し、練習問題を解くことで、各種の管理会計技法の習得を目的とします。	メッセージ 管理会計は経営管理のための会計です。経営管理を行う経営者や管理者、あるいは管理される労働者の立場を想像しながら受講するとよいでしょう。
	到達目標 ・マネジメントのための会計である管理会計に関する知識を習得する。 ・管理会計技法を習得し、実際に計算できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画			
		回	テーマ	時間外学習の内容
		1	ガイダンス	配布したプリントを読む
		2	管理会計のフレームワーク	配布したプリントを読み問題を解く
		3	原価概念	配布したプリントを読み問題を解く
		4	特殊原価調査 I	配布したプリントを読み問題を解く
		5	特殊原価調査 II	配布したプリントを読み問題を解く
		6	標準原価計算 I	配布したプリントを読み問題を解く
		7	標準原価計算 II	配布したプリントを読み問題を解く
		8	利益計画 I	配布したプリントを読み問題を解く
	9	利益計画 II	配布したプリントを読み問題を解く	
	10	利益計画 III	配布したプリントを読み問題を解く	
	11	予算管理 I	配布したプリントを読み問題を解く	
	12	予算管理 II	配布したプリントを読み問題を解く	
	13	事業部制会計 I	配布したプリントを読み問題を解く	
	14	事業部制会計 II	配布したプリントを読み問題を解く	
	15	事業部制会計 III	配布したプリントを読み問題を解く	
	16	テスト	指定したテスト範囲を勉強する	
	テキスト・参考文献・資料など	テキスト：なし 参考文献：『エッセンシャル管理会計』谷武幸中央経済社 『管理会計入門ゼミナール [改訂版]』高栢真一編著、創成社		
	学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、練習問題を解いてもらいますので計算機を持ってくるようにしてください。 ・小テストを2回行う予定ですのでしっかり復習するようにしてください。 		
	評価	小テスト40%とテスト60%で評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目 工業簿記、原価計算
-------	----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	グローバル観光ビジネス	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 相典	2年	i. sanjon@okiu.ac.jp または授業終了後	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代の観光産業を実質的に引っ張っていく様々な観光ビジネスの状況とその特徴に関して基礎的な知識を習得する。 2. 世界の多様な観光目的地の環境と観光資源によって、観光ビジネスはどのような違いがあるのかを理解する。 	<p>本講義を履修する学生は、自分が興味を持っている世界の様々な観光地へ旅行に行くことを想像しながら、自分の旅行であったら嬉しい観光サービスについて考えてみてください。本講義は観光ビジネスが観光客に利便性と楽しさを伝えるための多様な活動について説明します。</p>

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多様で複雑になっている現在の観光ビジネスに関する基礎的な知識を習得する 2. 世界の重要な観光目的地の観光ビジネスの特徴を学習する 3. 観光分野で活躍できるような力を得ることを講義の目標とする。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	科目特徴を理解
	2	観光事業のマネジメント特性	テキストを読む
	3	観光事業のイノベーション	テキストを読む
	4	観光事業のグローバル経営	テキストを読む
	5	観光のマーケティング・マネジメント	テキストを読む
	6	観光とWEBビジネス (レポート①の課題公開)	テキストを読む。レポート①準備
	7	観光関連産業の基幹事業__旅行業	テキストを読む
	8	観光関連産業の基幹事業__宿泊業	テキストを読む。レポート①提出
	9	観光関連産業の基幹事業__航空輸送業	テキストを読む
	10	観光関連産業の基幹事業__テーマパーク	テキストを読む
	11	観光事業の展開モデル__総合型リゾート	テキストを読む
	12	観光事業の展開モデル__地域の観光まちづくり事業 (レポート②の課題公開)	テキストを読む。レポート②準備
	13	観光事業の展開モデル__地域ブランドの構築	テキストを読む。レポート②準備
	14	観光事業の展開モデル__地域のインバウンド事業	テキストを読む。レポート②提出
15	学習内容のまとめ	総合ディスカッション	
16	期末テスト	テキストを読む	

テキスト・参考文献・資料など	<ol style="list-style-type: none"> 1. テキスト：高橋一夫・柏木千春 編著『1からの観光事業論 第1版』碩学舎、2016年。 2. その他、読んでもらいたい資料は適宜授業で紹介します。
----------------	--

学びの手立て	<ol style="list-style-type: none"> 1. 遅刻や無断欠席は成績評価に積極的に反映しますので、ご注意ください。 ※やむを得ず遅刻・欠席の場合、事前・事後にメールで連絡してください ※欠席については、欠席届を提出した場合、その内容に従って認定します。 2. テキストを中心として学習し、積極的に講義に参加してください。
--------	--

評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席・受講態度を積極的に反映します *5回以上の遅刻や無断欠席の場合は履修できません。 *授業中またはディスカッションへの積極的な参加には加点があります。 2. レポート2回と期末テストの評価を総合して評価します。
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：『消費者行動概論』科目の履修を通じて、観光客行動とを消費者行動との違いを勉強してみることも、いい勉強になると思います。 次のステージ：『観光マーケティング』や『サービス・マーケティング』のような科目を履修すると、さらに観光ビジネスや観光マーケティングの面白さを感じられると思います。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	グローバル・マーケティング演習	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-董 宜嫻	2年	ptt801@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 授業プリントを読んで内容を理解できる。県系企業の海外進出に興味を持ち、各事例の内容を大まかに理解できる。沖縄ブランドのマーケティングを考える。	メッセージ 毎回、写真付きのプリントを配布します。このプリントを通して、沖縄のいいところを再認識できます。
	到達目標 初歩的な国際マーケティングの実際を理解できる。特産品について自分で調べ、レポートを作成できる。	

学びの準備	到達目標 初歩的な国際マーケティングの実際を理解できる。特産品について自分で調べ、レポートを作成できる。
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	クラス予定やレポート・テーマの説明(特産品の国際マーケティング)	課題の報告手法を検討する
	2	講義・討論(沖縄特産品海外市場の分析)(国際観光都市化と沖縄物産革命の課題)	プリント読み&報告の準備
	3	講義・討論(ソフトパワーと沖縄音楽スポーツの文化マーケティング戦略)	プリント読み&報告の準備
	4	講義・討論(沖縄総合ウェルネス産業ー健康美容複合産業のケース)	プリント読み&報告の準備
	5	講義・報告(差別化と沖縄自然派コスメのコンセプト)	プリント読み&報告の準備
	6	講義・報告(沖縄ブランドの確立ー黒糖・塩産業のケース)	プリント読み&報告の準備
	7	講義・報告(島おこしと地域文化マーケティング戦略)	プリント読み&報告の準備
	8	講義・報告(沖縄ブランドグローバル化ー泡盛&オリオンビールのケース)	プリント読み&報告の準備
	9	講義・報告(沖縄スタイルのブランド化ーかりゆしウェア産業のケース)	プリント読み&報告の準備
	10	講義・報告(世界へのクリエイション発信と沖縄のファッション文化戦略)	プリント読み&報告の準備
	11	講義・報告(沖縄伝統文化の復活ー伝統工芸・建築資材業界のケース)	プリント読み&報告の準備
	12	講義・報告(沖縄料理・食材のマーケティング法ー地域ブランドのグローバル化)	プリント読み&報告の準備
	13	講義・報告(差別化と新しい商品の開発ーお菓子産業のケース)	レポートの作成
	14	講義・報告(訪沖外国人観光客の滞在中消費行動の分析)	レポートの作成
	15	レポートの最終提出(県産品の国際マーケティング)	レポートの提出
16	期末テスト		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 参考文献①宮城弘岩(2010)『沖縄物産の展開』ポードーインク
-------	---

学びの実践	学びの手立て ①テキストを指定しないので、必ず授業プリントを持参する。②レポートは個別に行う(グループ報告は行わない)。③『グローバル・マーケティング総論』の受講を前提とせず補足説明を加える。
-------	---

学びの実践	評価 レポート・期末テストと平常点 総合的に評価する。定期テスト&レポート70% 平常点約30% 平常点は意欲・表現度・授業態度を確認する。出席による加点・減点は行わない。 詳細は初回講義時に説明する。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目としては、「アジアビジネス事情」 次のステージ：授業で学んだ実践と知識は現実の世界に応用できる。マーケティング、沖縄の地域産業について、全般に知識を高められる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	グローバル・マーケティング総論	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	2年	原田研究室 (5633) mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	国際的なマーケティング活動の動向について、事例をとりあげながら解説する。様々な特性を有する各国・地域の市場特性や社会文化の多様性に合ったマーケティング活動を多様な面から捉え、履修生の国際感覚を磨く。	演習、実習の形式を併用して授業を行う。

到達目標	ビジネス課題に対して、自分で考える力を身につける
------	--------------------------

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) 1) クラスの予定の説明 (資料1を読む) 2) グローバル・マーケティング (資料1を読む) 3) 国際製品ライフサイクルモデル (資料1を読む) 4) グローバル市場の環境分析1 (資料2を読む) 5) グローバル市場の環境分析2 (資料2を読む) 6) グローバル消費者とSTP分析 (資料2を読む) 7) マーケット参入と拡大戦略 (資料3を読む) 8) 国際提携戦略 (資料3を読む) 9) 理解度テスト (資料3を読む) 10) グローバル製品・グローバル価格 (資料4を読む) 11) 流通・広告・販売管理・PRなど (資料4を読む) 12) アジア型マーケティング (資料4を読む) 13) ヨーロッパ型マーケティング (資料5を読む) 14) アメリカ型マーケティング (資料5を読む) 15) まとめとレポート提出 (課題提出の準備) 16) 期末試験 (資料1～資料5の復習)
	テキスト・参考文献・資料など ①小田部正明・Hクリスチアン (2001) 『グローバルビジネス戦略』横井義則監訳、同文館。 ②諸上茂登・藤沢武史 (2004) 『グローバル・マーケティング』中央経済社。
	学びの手立て 出席を重視し、積極的に学ぶ姿勢が必要である
	評価 理解度テスト (20%)、レポート (30%)、期末試験 (30%)、発表 (20%)

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージ: アジア消費・流通論、中小企業マーケティング論、専門演習I・IIなど
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	グローバル流通論	後期	木 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	3年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①流通に関する基礎知識を習得し、今日の流通実態を理解する。 ②小売業の国際展開と日本市場の変容について理解する。 ③インターネットを介した流通への変容について理解する。</p>	<p>流通は、生産と消費をつなぐことで商業活動を円滑に行う手助けをするという役割を持っている。流通チャンネルが多様であるがゆえに、私たちは便利で豊かな消費生活を送ることができる。本講義では、流通のグローバル化について、世界のさまざまな流通業者がどのような変容を遂げているのか、具体的事例を通して学んでいく。</p>
到達目標	<p>①流通に関する基礎的な知識を習得し、今日の流通実態について理解できる。 ②世界の流通を取り巻く市場環境の変化についての理解を深めると同時に、日本市場の変化について考える。 ③越境ECや物流の効率化など、身近な事例から流通業に対する理解を深める。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：グローバル流通とは何か	流通を学ぶ意義について確認
	2	市場環境の変化と流通・マーケティング	日本の流通に生じた変化を調査
	3	巨大小売業の台頭と小売業態間競争	小売業の歴史的展開について確認
	4	データ流通社会とGAFA	GAFAについて確認
	5	物流の効率化：物流分野におけるIoTやAI活用の本格化	今日の物流効率化について調査
	6	これまでの越境ECとこれからの越境EC	越境ECの現状を調査
	7	総合商社のグローバル戦略	総合商社の変化について考察
8	中間試験	第1回から第7回講義までの復習	
9	流通の変容とSCMの進展	SCMについての確認	
10	日本市場における小売業の国際化	外資系小売企業について調査	
11	事例研究①：ニトリの物流戦略	ニトリの物流について考察	
12	事例研究②：アイリスオーヤマの物流戦略	アイリスオーヤマの物流考察	
13	事例研究③：ZARAの物流戦略	ZARAの物流について考察	
14	事例研究④：Amazonの物流戦略	Amazonの物流について考察	
15	オムニチャンネルと消費行動の変化	オムニチャンネルに至る変遷の確認	
16	期末試験	第9回から第15回講義までの復習	
テキスト・参考文献・資料など	<p>【使用テキスト】：講義中に使用するテキストのため、毎回持参すること。 ・住谷宏編著（2019）『流通論の基礎（第3版）』中央経済社 【参考テキスト】：時間外学習に使用するテキスト。復習に利用すること。 ・斎藤雅道・佐久間英俊編著（2018）『グローバル競争と流通・マーケティング』ミネルヴァ書房</p>		
学びの手立て	<p>【履修の心構え】 ①無断欠席や遅刻は厳禁とする。 ②やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前に担当教員に連絡をすること。 ③スーパーマーケット、コンビニなどを観察し、流通チャンネルの重要性を身近から学ぶこと。 ④新聞などに目を通し、卸売業・小売業の動向についてチェックすること。</p>		
評価	<p>【成績評価の内訳】（100%） 中間試験（40%） 期末試験（40%） レポート課題提出（20%）：レポート課題を期限までに提出すること。</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	世界における流通業の役割および日本市場の変容について学び、今後の卸売業・小売業のありかたを考える。日本流通論を事前に履修していることが望ましい。

※ポリシーとの関連性

2年生については4月はじめに「抽選」を行うことがあるので留意されたい。上級生は、ほぼ制限なく受講できるものとする。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営管理論 I	前期	水 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	2年	講義の質問時間中(10:20~10:30)に、対応する。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	年間テーマを「経営計画と経営統制」とする。本科目は、通年科目(全年科目)合計4.00単位に相当する。経営管理は①生産管理、②労務管理、③販売管理、④財務管理、および⑤経営組織の、各部に分ち把握せられる。前期は、このなかでも、①生産管理と②労務管理の部分に、おおくの時間をさいて論じていく。(なお各学期の初回講義(4,9月)には必ず出席し、登録手続を行なってください。)	「皆さん、経営管理についてしっかり学習してまいりましょう(天野)」
到達目標	経営計画について、よく理解できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント																																																			
	<p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>授業の展開計画 なお、本講義においては、ビデオやチャートなどの教材を多用するなどして学生諸君が興味をもって研究にとりくめるような運用をめざしていきたい。</p> <p>講義の展開計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> <th>時間外学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1回</td><td>講義のすすめ方、評価のしかた</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>2回</td><td>経営概念</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>3回</td><td>企業概念</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>4回</td><td>経営職能</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>5回</td><td>テーラー=システム</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>6回</td><td>フォード=システム</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>7回</td><td>オートメーション</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>8回</td><td>「労働科学」</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>9回</td><td>人間関係論</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>10回</td><td>「行動科学」</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>11回</td><td>テーラー式組織</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>12回</td><td>伝統的組織論</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>13回</td><td>自生組織と成文組織</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>14回</td><td>まとめ講義</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>15回</td><td>講評</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>16回</td><td>(予備日)</td><td></td></tr> </tbody> </table>	回数	内容	時間外学習	1回	講義のすすめ方、評価のしかた	講義中に指示する	2回	経営概念	講義中に指示する	3回	企業概念	講義中に指示する	4回	経営職能	講義中に指示する	5回	テーラー=システム	講義中に指示する	6回	フォード=システム	講義中に指示する	7回	オートメーション	講義中に指示する	8回	「労働科学」	講義中に指示する	9回	人間関係論	講義中に指示する	10回	「行動科学」	講義中に指示する	11回	テーラー式組織	講義中に指示する	12回	伝統的組織論	講義中に指示する	13回	自生組織と成文組織	講義中に指示する	14回	まとめ講義	講義中に指示する	15回	講評	講義中に指示する	16回	(予備日)	
	回数	内容	時間外学習																																																	
	1回	講義のすすめ方、評価のしかた	講義中に指示する																																																	
2回	経営概念	講義中に指示する																																																		
3回	企業概念	講義中に指示する																																																		
4回	経営職能	講義中に指示する																																																		
5回	テーラー=システム	講義中に指示する																																																		
6回	フォード=システム	講義中に指示する																																																		
7回	オートメーション	講義中に指示する																																																		
8回	「労働科学」	講義中に指示する																																																		
9回	人間関係論	講義中に指示する																																																		
10回	「行動科学」	講義中に指示する																																																		
11回	テーラー式組織	講義中に指示する																																																		
12回	伝統的組織論	講義中に指示する																																																		
13回	自生組織と成文組織	講義中に指示する																																																		
14回	まとめ講義	講義中に指示する																																																		
15回	講評	講義中に指示する																																																		
16回	(予備日)																																																			
テキスト・参考文献・資料など																																																				
<p>(テキスト) 未定 (参考文献)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小松『経営学 第3版』サイエンス社。 ・ 占部都美『新訂経営管理論』白桃書房。 ・ 藻利重隆『経営管理総論』千倉書房。 																																																				

学びの継続	次のステージ・関連科目
	経営管理論II

遅刻・私語は控えてもらいたい。定期試験は今のところ予定していないが、講義中1~3回程度のショートの実施を計画している。実施日時などは開講時に指示するので、準備不足・受験忘れ等なきよう注意されたい。

評価
概ね次の通りとする。
平常点(発言・質問・課題・ショートテストの達成度)が 85%、その他が15%。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営管理論Ⅱ	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	2年	講義の質問時間中(10:20~10:30)に、対応する。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	年間テーマを「経営計画と経営統制」とする。本科目は、通年科目(全年科目)合計4.00単位に相当する。経営管理は①生産管理、②労務管理、③販売管理、④財務管理、および⑤経営組織の、各部分に分かち把握せられる。前期は、このなかでも、①生産管理と②労務管理の部分に、おおくの時間をさいて論じていく。(なお各学期の初回講義(4,9月)には必ず出席し、登録手続を行なってください)	「皆さん、経営管理についてひきつづき学習してまいりましょう(天野)」
到達目標	経営統制について、よく理解できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント																																																			
	<p>授業計画(テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>なお本講義においては、ビデオやチャートなどの教材を多用するなどして、学生諸君が興味をもって研究にとりくめるような運用をめざしていきたい。 (本講義は抽選科目である。各学期の初回講義(4,9月)では面談のうえ、登録をおこなうので必ず出席されたい。)</p> <table border="0"> <thead> <tr> <th>講義の展開計画 回数</th> <th>内容</th> <th>時間外学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>16</td><td>経営戦略概論</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>17</td><td>戦略的組織</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>18</td><td>企業成長</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>19</td><td>生存領域の規定(1)</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>20</td><td>生存領域の規定(2)</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>21</td><td>生存領域の規定(3)</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>22</td><td>資源展開の戦略(1)</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>23</td><td>資源展開の戦略(2)</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>24</td><td>競争の戦略(1)</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>25</td><td>競争の戦略(2)</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>26</td><td>競争の戦略(3)</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>27</td><td>組織間関係の戦略(1)</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>28</td><td>組織間関係の戦略(2)</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>29</td><td>教材学習(1)</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>30</td><td>教材学習(2)・ショートテスト</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>31</td><td>[予備日]</td><td></td></tr> </tbody> </table>	講義の展開計画 回数	内容	時間外学習	16	経営戦略概論	講義中に指示する	17	戦略的組織	講義中に指示する	18	企業成長	講義中に指示する	19	生存領域の規定(1)	講義中に指示する	20	生存領域の規定(2)	講義中に指示する	21	生存領域の規定(3)	講義中に指示する	22	資源展開の戦略(1)	講義中に指示する	23	資源展開の戦略(2)	講義中に指示する	24	競争の戦略(1)	講義中に指示する	25	競争の戦略(2)	講義中に指示する	26	競争の戦略(3)	講義中に指示する	27	組織間関係の戦略(1)	講義中に指示する	28	組織間関係の戦略(2)	講義中に指示する	29	教材学習(1)	講義中に指示する	30	教材学習(2)・ショートテスト	講義中に指示する	31	[予備日]	
	講義の展開計画 回数	内容	時間外学習																																																	
	16	経営戦略概論	講義中に指示する																																																	
17	戦略的組織	講義中に指示する																																																		
18	企業成長	講義中に指示する																																																		
19	生存領域の規定(1)	講義中に指示する																																																		
20	生存領域の規定(2)	講義中に指示する																																																		
21	生存領域の規定(3)	講義中に指示する																																																		
22	資源展開の戦略(1)	講義中に指示する																																																		
23	資源展開の戦略(2)	講義中に指示する																																																		
24	競争の戦略(1)	講義中に指示する																																																		
25	競争の戦略(2)	講義中に指示する																																																		
26	競争の戦略(3)	講義中に指示する																																																		
27	組織間関係の戦略(1)	講義中に指示する																																																		
28	組織間関係の戦略(2)	講義中に指示する																																																		
29	教材学習(1)	講義中に指示する																																																		
30	教材学習(2)・ショートテスト	講義中に指示する																																																		
31	[予備日]																																																			
テキスト・参考文献・資料など	<p>(テキスト)未定 (参考文献)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小松『経営学 第3版』サイエンス社。 ・占部都美『新訂経営管理論』白桃書房。 ・藻利重隆『経営管理総論』千倉書房。 																																																			
学びの手立て	遅刻・私語は控えてもらいたい。定期試験は今のところ予定していないが、講義中1~3回程度のショートテストの実施を計画している。実施日時などは開講時に指示するので、準備不足・受験忘れ等なきよう注意されたい。																																																			
評価	概ね次の通りとする。 平常点(発言・質問・課題・ショートテストの達成度)が85%。その他が15%。																																																			

学びの継続	次のステージ・関連科目 3年次 → 国際経営論Ⅰ・国際関係論Ⅰ
-------	------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営学総論 I	前期	月 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	1年	学内で講義の質問時間中(10:20~10:30)に直接、問い合わせること。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	経営学に関する基礎的な知識を学ぶ。 なお本講義は抽選科目である。各学期の初回講義(4,9月)では面談のうえ、受講許可者(抽選結果)を発表するので必ず出席されたい。	「みなさん、国際社会に貢献する人材となるための基礎知識をまなびましょう。」

到達目標	国際経営に関する基礎知識が、理解できるようになる。
------	---------------------------

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>講義の展開は、つぎのとおり予定している。</p> <p>(講義の展開計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>回数</td> <td>内容</td> <td>時間外学習</td> </tr> <tr> <td>1回</td> <td>本講義の概要・授業の進め方・成績評価</td> <td>関連図書の講読</td> </tr> <tr> <td>2回</td> <td>集団意識と行動特性</td> <td>日本人の文化について</td> </tr> <tr> <td>3回</td> <td>日本的経営</td> <td>三種の神器について</td> </tr> <tr> <td>4回</td> <td>経営理念</td> <td>企業者像について</td> </tr> <tr> <td>5回</td> <td>経営組織</td> <td>年功序列制度について</td> </tr> <tr> <td>6回</td> <td>日本的経営の普遍性</td> <td>帰属意識について</td> </tr> <tr> <td>7回</td> <td>日本的経営の特殊性</td> <td>終身雇用について</td> </tr> <tr> <td>8回</td> <td>賃金の日米比較</td> <td>年功主義と能力主義について</td> </tr> <tr> <td>9回</td> <td>三種の神器・年功序列制度</td> <td>労組・長期雇用について</td> </tr> <tr> <td>10回</td> <td>株式会社の歴史</td> <td>企業形態について</td> </tr> <tr> <td>11回</td> <td>人間関係論</td> <td>ホーソン実験について</td> </tr> <tr> <td>12回</td> <td>科学的管理法</td> <td>時間研究について</td> </tr> <tr> <td>13回</td> <td>「行動科学」</td> <td>自己実現モデルについて</td> </tr> <tr> <td>14回</td> <td>ポータの競争戦略論</td> <td>3つの基本戦略について</td> </tr> <tr> <td>15回</td> <td>マクレガのXY理論</td> <td>「行動科学」について</td> </tr> <tr> <td>16回</td> <td>[予備日]</td> <td></td> </tr> </table>	回数	内容	時間外学習	1回	本講義の概要・授業の進め方・成績評価	関連図書の講読	2回	集団意識と行動特性	日本人の文化について	3回	日本的経営	三種の神器について	4回	経営理念	企業者像について	5回	経営組織	年功序列制度について	6回	日本的経営の普遍性	帰属意識について	7回	日本的経営の特殊性	終身雇用について	8回	賃金の日米比較	年功主義と能力主義について	9回	三種の神器・年功序列制度	労組・長期雇用について	10回	株式会社の歴史	企業形態について	11回	人間関係論	ホーソン実験について	12回	科学的管理法	時間研究について	13回	「行動科学」	自己実現モデルについて	14回	ポータの競争戦略論	3つの基本戦略について	15回	マクレガのXY理論	「行動科学」について	16回	[予備日]	
	回数	内容	時間外学習																																																	
1回	本講義の概要・授業の進め方・成績評価	関連図書の講読																																																		
2回	集団意識と行動特性	日本人の文化について																																																		
3回	日本的経営	三種の神器について																																																		
4回	経営理念	企業者像について																																																		
5回	経営組織	年功序列制度について																																																		
6回	日本的経営の普遍性	帰属意識について																																																		
7回	日本的経営の特殊性	終身雇用について																																																		
8回	賃金の日米比較	年功主義と能力主義について																																																		
9回	三種の神器・年功序列制度	労組・長期雇用について																																																		
10回	株式会社の歴史	企業形態について																																																		
11回	人間関係論	ホーソン実験について																																																		
12回	科学的管理法	時間研究について																																																		
13回	「行動科学」	自己実現モデルについて																																																		
14回	ポータの競争戦略論	3つの基本戦略について																																																		
15回	マクレガのXY理論	「行動科学」について																																																		
16回	[予備日]																																																			

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>(参考文献)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 佐久本朝一『技術革新下の日本型企业社会』ユージン。 ・ 上間隆則『経営学要論』中央経済社。 <p>(テキスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 佐久間信夫『経営学概論』創成社。
-------	---

学びの手立て	講義中に紹介された学説・理論について再度、図書館で関連文献を読んでくれることがのぞましい。
--------	---

評価	<p>講義中2回程度のショートテスト実施を計画している(50点)。実施日時などは開講時に指示するので、準備不足・受験忘れ等なきよう注意されたい。</p> <p>また平常点(発言・質問・受講態度・課題提出など)が50点である。</p> <p>定期試験は今のところ予定していない。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>1年次 → 経営学総論 I I</p> <p>2年次 → 基礎演習(経営)</p> <p>3年次 → 経営管理論 I・国際経営論 I</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性 卒業後の進路を見定めて、ビジネスの基礎知識を学ぶことが重要で
す。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営学総論 I	前期	月 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	佐久本 朝一	1年	本学学内メールあるいは講義前後に直接問い合わせること	

学びの準備	ねらい 経営学に関する基礎的な知識を学ぶ	メッセージ 国際社会に貢献する人材育成
	到達目標 国際経営に関する基礎知識を学ぶ	

学びの準備	ねらい 経営学に関する基礎的な知識を学ぶ	メッセージ 国際社会に貢献する人材育成
	到達目標 国際経営に関する基礎知識を学ぶ	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	日本人の集団意識	関連図書の朗読
	2	日本人の行動特性	日本人の文化
	3	日本的経営	三種の神器
	4	日本の経営理念	日本の企業者像
	5	日本型組織	年功制度
	6	日本的経営の普遍性	労働者の帰属意識
	7	日本的経営の特殊性	終身雇用制度
	8	賃金の日米比較	年功序列制度と能力主義
	9	日本的経営の神器	企業別組合
	10	日本の年功序列制度	日本の長期的雇用制度
	11	株式会社の歴史	企業形態
	12	人間関係論	ホーソン実験
	13	科学的管理法	時間研究とモーションスタディ
	14	行動科学	自己実現モデル
	15	マイケルポーターの競争戦略論	5フォースと3つの基本戦略
16	マクレガールのXY理論	人間の行動科学	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 佐久本朝一著『技術革新下の日本型企业社会』ユージン伝, 1997年.
-------	--

学びの実践	学びの手立て 講義中に展開された理論を再度、図書館で関連文献を読んでくれることが望ましい。
-------	--

学びの実践	評価 2回(25点+25点)実施される理解度テストと授業中における質疑での理解力チェック(50点)による。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 本講義は基本的に経営学IIと年間を通して展開されるので後期に経営学IIを履修することが望ましい。
-------	---

※ポリシーとの関連性 「経営学総論Ⅰ(2単位)」と同様に将来、ビジネス活動に活かせるような基礎的知識をまなぶ。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営学総論Ⅱ	後期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	1年	基本的には講義終了時(10:20~10:30)の、質問時間中に問い合わせが可能である。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	日本の経営がどのようなものであるかを理解するために、後期は経営システムの実態分析を行う。特に企業文化や経営概念などの観点から、企業者活動について述べる。後期は経営の成立条件について、先行研究やケーススタディから理解していく。 なお本講義は抽選科目である。各学期の初回講義(4,9月)では面談のうえ、受講許可者(抽選結果)を発表するので必ず出席されたい。	「みなさん、国際経営に関する基礎知識をともに習得してまいります。」
到達目標	ビジネス活動にやくだつ基礎知識が、よく理解できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント																																																			
	<p>授業計画(テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>講義の展開は、つぎのとおり予定している。</p> <p>(講義の展開計画)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> <th>時間外学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>16回</td><td>本講義の概要</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>17回</td><td>経営人事システムの特質</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>18回</td><td>経営の編成原理(1)</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>19回</td><td>経営の編成原理(2)</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>20回</td><td>集団意識と行動特性(1)</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>21回</td><td>集団意識と行動特性(2)</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>22回</td><td>経営と経営理念(1)</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>23回</td><td>経営と経営理念(2)</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>24回</td><td>組織におけるコミュニケーション(1)</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>25回</td><td>組織におけるコミュニケーション(2)</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>26回</td><td>経営学の普遍性</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>27回</td><td>日本的経営の特殊性(1)</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>28回</td><td>日本的経営の特殊性(2)</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>29回</td><td>経営学の問題点</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>30回</td><td>まとめ・ショートテスト</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>31回</td><td>[予備日]</td><td></td></tr> </tbody> </table>	回数	内容	時間外学習	16回	本講義の概要	講義中に指示する	17回	経営人事システムの特質	講義中に指示する	18回	経営の編成原理(1)	講義中に指示する	19回	経営の編成原理(2)	講義中に指示する	20回	集団意識と行動特性(1)	講義中に指示する	21回	集団意識と行動特性(2)	講義中に指示する	22回	経営と経営理念(1)	講義中に指示する	23回	経営と経営理念(2)	講義中に指示する	24回	組織におけるコミュニケーション(1)	講義中に指示する	25回	組織におけるコミュニケーション(2)	講義中に指示する	26回	経営学の普遍性	講義中に指示する	27回	日本的経営の特殊性(1)	講義中に指示する	28回	日本的経営の特殊性(2)	講義中に指示する	29回	経営学の問題点	講義中に指示する	30回	まとめ・ショートテスト	講義中に指示する	31回	[予備日]	
	回数	内容	時間外学習																																																	
	16回	本講義の概要	講義中に指示する																																																	
17回	経営人事システムの特質	講義中に指示する																																																		
18回	経営の編成原理(1)	講義中に指示する																																																		
19回	経営の編成原理(2)	講義中に指示する																																																		
20回	集団意識と行動特性(1)	講義中に指示する																																																		
21回	集団意識と行動特性(2)	講義中に指示する																																																		
22回	経営と経営理念(1)	講義中に指示する																																																		
23回	経営と経営理念(2)	講義中に指示する																																																		
24回	組織におけるコミュニケーション(1)	講義中に指示する																																																		
25回	組織におけるコミュニケーション(2)	講義中に指示する																																																		
26回	経営学の普遍性	講義中に指示する																																																		
27回	日本的経営の特殊性(1)	講義中に指示する																																																		
28回	日本的経営の特殊性(2)	講義中に指示する																																																		
29回	経営学の問題点	講義中に指示する																																																		
30回	まとめ・ショートテスト	講義中に指示する																																																		
31回	[予備日]																																																			
テキスト・参考文献・資料など																																																				
<p>(参考文献)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 佐久本朝一『技術革新下の日本型企业社会』ユージン。 ・ 上間隆則『経営学要論』中央経済社。 <p>(テキスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 佐久間信夫『経営学概論』創成社。 																																																				
<p>学びの手立て</p> <p>講義中に紹介される関連文献を参照することが望ましい。</p>																																																				
<p>評価</p> <p>講義中2回程度のショートテスト実施を計画している(50点)。実施日時などは開講時に指示するので、準備不足・受験忘れ等なきよう注意されたい。 また平常点(発言・質問・受講態度・課題提出など)が50点である。</p> <p>定期試験は今のところ予定していない。</p>																																																				

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>国際経営に関連する講義として「比較経営学Ⅰ」、「国際経営論Ⅱ」や「基礎演習Ⅰ」の履修により、教員との議論に参加することが必要である。</p>
-------	--

科目 基本 情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	経営学総論Ⅱ	後期	月 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	佐久本 朝一	1 年	基本的には講義終了後、質疑応答の時間で問い合わせが可能である。	

学 び の 準 備	ねらい 日本の経営(日本的経営)がどのようなものであるのかを理解するために、前期は日本の経営システムの実態析を行う。特に日本企業の文化や経営理念などの観点から、日本の企業者活動について述べ、日本的経営が成立する条件とは何であるのかについて、先行研究やケーススタディから理解していく。	メッセージ 国際経営に関する基礎知識の習得
	到達目標 将来、自己でベンチャー企業を展開しうる能力の育成を目指す	

学 び の 実 践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	本講義の概要	
	2	日本型雇用システムの特徴	
	3	日本的経営の編成原理Ⅰ	
	4	日本的経営の編成原理Ⅱ	
	5	日本人の集団意識と行動特性Ⅰ	
	6	日本人の集団意識と行動特性Ⅱ	
	7	日本的経営と経営理念Ⅰ	
	8	日本的経営と経営理念Ⅱ	
	9	日本型組織におけるコミュニケーションⅠ	
	10	日本型組織におけるコミュニケーションⅡ	
	11	日本的経営の普遍性Ⅰ	
	12	日本的経営の普遍性Ⅱ	
	13	日本的経営の特殊性Ⅰ	
	14	日本的経営の特殊性Ⅱ	
15	日本的経営の問題点		
16			
テキスト・参考文献・資料など 佐久本 朝一『技術革新下の日本型企业社会』ユージン伝、1997年。			
学びの手立て 講義中に展開されている関連文献を参照することが望ましい。			
評価 2回のテスト(25点+25点)と講義中での質疑応答(50点)により評価する。			

学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 国際経営に関連する講義として国際経営論や経営の演習参加により教員との議論に参加することが必要である。
-----------------------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営学特別講義	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-福田 拓哉	2年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>サッカー、野球、バスケットボールに代表されるプロスポーツを経営学的視点から分析し、理解することを目的とする。「良いチームとはどういった状態を指すのか?」「リーグ全体が盛り上がるための制度とは?」「日本と海外との経済格差は?」「より地域に密着したチームを作るためにはどうしたら良いのか?」といった疑問に事例と理論を通じて迫ります。</p>	<p>プロスポーツにおけるチームの勝利と、ビジネスとの関係を経営学の観点から語れるようになりましょう。あなたの大好きなリーグやチームの盛衰の背景にあるビジネスロジックを実例を基に学びます。受講生同士のワークショップもあるので、能動的に学びたい学生を募集します。</p>
到達目標	プロスポーツにおける勝利とビジネスとの関係を論理的に説明できる状態になることを目指します。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	プロスポーツの定義と本校で取り扱う対象	資料1, 2を読む
	2	プロスポーツの市場規模	資料1, 2を読む
	3	プロスポーツの運営構造	資料1, 2を読む
	4	プロスポーツの収支構造	資料1, 2を読む
	5	リーグの意味と役割	資料3, 4を読む
	6	開放型リーグと閉鎖型リーグ	資料3, 4を読む
	7	リーグ集権型とクラブ分権型	資料3, 4を読む
	8	リーグビジネスの現状と課題	資料3, 4を読む
	9	クラブビジネスの特徴	資料5, 6を読む
	10	クラブの経済格差(国際比較)	資料5, 6を読む
	11	クラブの経済比較(国内比較)	資料5, 6を読む
	12	特徴的なクラブマネジメント戦略	資料5, 6を読む
	13	スポーツファンの特徴と経営基盤化に向けた戦略	資料7, 8を読む
14	スポーツスポンサーシップの現状・課題・可能性	資料7, 8を読む	
15	全体のまとめと解説	資料7, 8を読む	
16	テスト	資料7, 8を読む	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	資料1: 世界のスポーツ産業の動向と日本のスポーツ産業の現状 スポーツ施設の観点から (http://ur0.link/RKnN)		
	資料2: Deloitte Football Money League 2018 (http://ur0.link/VZ6o)		
	資料3: 福田拓哉(2011)わが国のプロ野球におけるマネジメントの特徴とその成立要因の研究 -NPBの発足からビジネスモデルの確立までを分析対象に. 立命館経営学6(49), pp.135-159. (http://ur0.link/j84v)		
	※これ以降の資料は講義中に指示する。なお、全ての資料はインターネットから無料で入手できる。		
	学びの手立て		
	履修の心構えとしては、プロスポーツ(例:プロ野球、Jリーグ、Bリーグ)について興味を持つために、事前にそれらのニュース等を積極的に見るようにしておいてください。また、学びを深めるために、それらのプロスポーツリーグやチームのHPを閲覧し、それらに掲載されている様々なデータ(例:観客数、財務諸表等)に目を通すようにすると良いでしょう。		
	評価		
	評価: 講義中の発言(質問・意見・感想を含む)50%、期末テスト50%		
	評価基準: 講義における積極的な参加態度(質問・発言)が重要となります。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	プロスポーツの経営状況は社会の経済的状況とも大きく関連しますので、今後も結びつけながらプロスポーツの経営戦略等に興味を持って欲しいと思います。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営情報処理 I	前期	木 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-及川 卓郎	2年	Email:tkroikawa@gmail.com	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この授業では皆さんが、卒業し企業に勤めた場合に必要になってくる品質管理(QC)の基礎的手法について身につけることおよびこの品質管理手法を発展させた統計的品質管理手法(TQC)について理解することを目的に講義と演習で進めていきます。なお、統計的品質管理は、統計的な分析により作業工程や生産システムの見直しを通して、品質の向上を図る手法のことであります。	多くの人に調査や分析の結果を納得してもらうためには、結果を客観的に説明する必要があります。この客観的分析に威力を発揮するのが、数理的な処理であり、グラフ表現を使った結果の視覚化です。これにより、だれでも同じ判断ができることとなります。この授業で経営分析の基礎的手法を身につけましょう。
到達目標	エクセルを使った分析を通じて、エクセルによる数値処理、データ変換、並べ替え、項目抽出、グラフ化、ピボットテーブル、関数計算、分析ツールを使えるようになる。QCに関する基本的手法、7つの手法について分析、作成をできるようにする。統計的な指標を読み取ることができるようになる。TQCの基礎となる統計手法について分析できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	エクセルの基礎	配布資料に基づく復習と予習
	3	エクセルによる文字列処理	配布資料に基づく復習と予習
	4	エクセルによる数値処理	配布資料に基づく復習と予習
	5	度数分布表の作成	演習問題の実施
	6	ヒストグラムの作成	演習問題の実施
	7	QC 7つ道具による分析	これまでの学習内容の復習
	8	中間テスト	
学びの実践	9	中心極限定理と正規分布	資料にもとづく演習の実施
	10	正規分布の利用	学習内容の復習
	11	記述統計	自分のパソコンを使った復習
	12	回帰分析と相関分析	自分のパソコンを使った復習
	13	エクセルによる有意差検定	自分のパソコンを使った復習
	14	初歩的な分散分析の利用	これまでの学習内容の復習
	15	テスト	
	16		
学びの手立て	テキスト・参考文献・資料など 配布資料で学習します。適宜、授業中に参考文献は紹介します。		
評価	中間試験40%、期末試験40%、平常点20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 調査研究授業や卒業論文を通じて、学習内容を自分で利用することにより、身に付けることを望みます。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営情報処理Ⅱ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-及川 卓郎	2年	Email:tkroikawa@gmail.com	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この授業では皆さんが、卒業し企業に勤めた場合に必要になってくる品質管理(QC)の基礎的手法について身につけることおよびこの品質管理手法を発展させた統計的品質管理手法(TQC)について理解することを目的に講義と演習で進めていきます。なお、統計的品質管理は、統計的な分析により作業工程や生産システムの見直しを通して、品質の向上を図る手法のことであります。	多くの人に調査や分析の結果を納得してもらうためには、結果を客観的に説明する必要があります。この客観的分析に威力を発揮するのが、数理的な処理であり、グラフ表現を使った結果の視覚化です。これにより、だれでも同じ判断ができることとなります。この授業で経営分析の基礎的手法を身につけましょう。
到達目標	エクセルを使った分析を通じて、エクセルによる数値処理、データ変換、並べ替え、項目抽出、グラフ化、ピボットテーブル、関数計算、分析ツールを使えるようになる。QCに関する基本的手法、7つの手法について分析、作成をできるようにする。統計的な指標を読み取ることができるようになる。TQCの基礎となる統計手法について分析できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	エクセルの基礎	配布資料に基づく復習と予習
	3	エクセルによる文字列処理	配布資料に基づく復習と予習
	4	エクセルによる数値処理	配布資料に基づく復習と予習
	5	度数分布表の作成	演習問題の実施
	6	ヒストグラムの作成	演習問題の実施
	7	QC7つ道具による分析	これまでの学習内容の復習
	8	中間テスト	
	9	中心極限定理と正規分布	資料にもとづく演習の実施
	10	正規分布の利用	学習内容の復習
	11	記述統計	自分のパソコンを使った復習
	12	回帰分析と相関分析	自分のパソコンを使った復習
	13	エクセルによる有意差検定	自分のパソコンを使った復習
14	初歩的な分散分析の利用	これまでの学習内容の復習	
15	テスト		
16			
テキスト・参考文献・資料など 配布資料で学習します。適宜、授業中に参考文献は紹介します。			
学びの手立て これまでの担当経験から、教室の前の席に座る人と後ろの席に座る人では学習成果に違いがありますことがわかります。ひとり残らず前の席から座るようにしましょう。			
評価 中間試験40%、期末試験40%、平常点20%			

学びの継続	次のステージ・関連科目 調査研究授業や卒業論文を通じて、学習内容を自分で利用することにより、身に付けることを望みます。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営数学	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	仲地 健	2年	研究室：5636 E-mail：knakachi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい Excelを用いて、線形計画法、日程計画、在庫管理および待ち行列について学ぶ。	メッセージ 現代の企業経営においては、経営上の意思決定を下すために、大量な情報の処理が必要とされている。このような情報の処理をおこなうには、統計的および数学的な分析の考え方と方法を学ばなければならない。そのためのひとつの手法が経営数学である。
	到達目標 企業における業務計画の科学的アプローチが理解できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	
	2	線形計画法 ①	当該講義の復習/次回講義の予習
3	線形計画法 ②	当該講義の復習/次回講義の予習	
4	線形計画法 ③	当該講義の復習/次回講義の予習	
5	線形計画法 ④	当該講義の復習/次回講義の予習	
6	日程計画 ①	当該講義の復習/次回講義の予習	
7	日程計画 ②	当該講義の復習/次回講義の予習	
8	日程計画 ③	当該講義の復習/次回講義の予習	
9	日程計画 ④	当該講義の復習/次回講義の予習	
10	在庫管理 ①	当該講義の復習/次回講義の予習	
11	在庫管理 ②	当該講義の復習/次回講義の予習	
12	在庫管理 ③	当該講義の復習/次回講義の予習	
13	待ち行列 ①	当該講義の復習/次回講義の予習	
14	待ち行列 ②	当該講義の復習/次回講義の予習	
15	待ち行列 ③	当該講義の復習/次回講義の予習	
16	期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など 藤田勝康『ExcelによるOR演習』日科技連		
	学びの手立て Excelの基礎知識がある者のみを登録する。これらの技術が無い場合には情報処理基礎を履修してから受講すること。 毎回の講義の積み重ねで進行するため、可能な限り遅刻・欠席はしないように。		
	評価 授業参加度（30%）と期末試験の結果（70%）を総合的に判断し評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 経営情報処理Ⅰ・Ⅱ
-------	--------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営戦略論 I	前期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-與那原 建	3年	yonahara@tm.u-ryukyu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 持続的競争優位につながる経営戦略の内容を明らかにする	メッセージ 経営戦略というテーマに関心を持ち、真摯な姿勢で講義に取り組める学生を歓迎します
	到達目標 ①経営戦略にかかわる諸問題について、自分自身の意見や考えを論ずることができる ②経営戦略の解明に必要な情報を収集・整理・活用することができる ③経営戦略の思考方法を通じて経営現象をとらえることができる	

学びの準備	ねらい 持続的競争優位につながる経営戦略の内容を明らかにする	メッセージ 経営戦略というテーマに関心を持ち、真摯な姿勢で講義に取り組める学生を歓迎します
	到達目標 ①経営戦略にかかわる諸問題について、自分自身の意見や考えを論ずることができる ②経営戦略の解明に必要な情報を収集・整理・活用することができる ③経営戦略の思考方法を通じて経営現象をとらえることができる	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：本講義の概要説明	学習計画を立てる
	2	経営戦略とは何か	事後学習と疑問等の確認
	3	経営戦略のキーワード：競争優位と事業の定義	事後学習と疑問等の確認
	4	経営戦略のキーワード：環境適応と一連の基本的意思決定	事後学習と疑問等の確認
	5	経営戦略のレベル-全社レベルの戦略（企業戦略）	事後学習と疑問等の確認
	6	経営戦略のレベル-事業レベルの戦略（競争戦略）	事後学習と疑問等の確認
	7	まとめ①	学習成果をまとめる
	8	ドメインの定義	事後学習と疑問等の確認
	9	経営資源の獲得：オーバーエクステンション	事後学習と疑問等の確認
	10	経営資源の配分：P P M	事後学習と疑問等の確認
	11	業界構造分析：ファイブフォース・モデル	事後学習と疑問等の確認
	12	業界構造の事例分析	事後学習と疑問等の確認
	13	競争戦略の基本型とトレードオフ：戦略グループと移動障壁	事後学習と疑問等の確認
	14	ビジネスシステムの構築と持続的競争優位	事後学習と疑問等の確認
	15	ビジネスシステムの事例分析	事後学習と疑問等の確認
16	まとめ②	学習成果をまとめる	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは使用せず、適宜資料を配付する。参考文献については、講義の中で紹介していく。
	学びの手立て 事後学習（復習）をしっかりと行い、学んだ内容を整理するとともに、疑問等があれば積極的に質問すること。メールでの質問も対応可。

学びの実践	学びの手立て 事後学習（復習）をしっかりと行い、学んだ内容を整理するとともに、疑問等があれば積極的に質問すること。メールでの質問も対応可。
	評価 出席状況（10%）、小レポート（20%）、定期試験（70%）

学びの継続	次のステージ・関連科目 経営戦略論 II
-------	-------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営戦略論Ⅱ	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	3年	講義の質問時間中(16:00~16:10)に、対応する。	

学びの準備	ねらい 競争優位につながる経営戦略の内容を、多角的な視野から論じていく。	メッセージ 「後期も ひきつづき、ともに 経営戦略を まなんでまいりましょう。」
	到達目標 経営戦略の思考方法をつうじて、経営現象をとらえることができるようになる。	

学びの準備	到達目標 経営戦略の思考方法をつうじて、経営現象をとらえることができるようになる。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) 講義の展開は、つぎのとおり予定している。 (講義の展開計画) <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> <th>時間外学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>16講</td> <td>後期の開講</td> <td>学習計画の立案</td> </tr> <tr> <td>17講</td> <td>成長戦略</td> <td>事後学習と疑問等の確認</td> </tr> <tr> <td>18講</td> <td>技術戦略</td> <td>事後学習と疑問等の確認</td> </tr> <tr> <td>19講</td> <td>バルカナイズ戦略</td> <td>事後学習と疑問等の確認</td> </tr> <tr> <td>20講</td> <td>プライスリーダーシップ戦略</td> <td>事後学習と疑問等の確認</td> </tr> <tr> <td>21講</td> <td>大企業戦略 vs. ベンチャ戦略</td> <td>事後学習と疑問等の確認</td> </tr> <tr> <td>22講</td> <td>総取戦略 vs. 工芸戦略</td> <td>事後学習と疑問等の確認</td> </tr> <tr> <td>23講</td> <td>まとめ③</td> <td>学習成果の要約</td> </tr> <tr> <td>24講</td> <td>証券市場戦略</td> <td>事後学習と疑問等の確認</td> </tr> <tr> <td>25講</td> <td>継承戦略</td> <td>事後学習と疑問等の確認</td> </tr> <tr> <td>26講</td> <td>人口戦略</td> <td>事後学習と疑問等の確認</td> </tr> <tr> <td>27講</td> <td>食糧戦略</td> <td>事後学習と疑問等の確認</td> </tr> <tr> <td>28講</td> <td>国際戦略</td> <td>事後学習と疑問等の確認</td> </tr> <tr> <td>29講</td> <td>ティール組織戦略</td> <td>事後学習と疑問等の確認</td> </tr> <tr> <td>30講</td> <td>まとめ④・ショートテスト</td> <td>学習成果の要約</td> </tr> <tr> <td>31講</td> <td>[予備日]</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	回数	内容	時間外学習	16講	後期の開講	学習計画の立案	17講	成長戦略	事後学習と疑問等の確認	18講	技術戦略	事後学習と疑問等の確認	19講	バルカナイズ戦略	事後学習と疑問等の確認	20講	プライスリーダーシップ戦略	事後学習と疑問等の確認	21講	大企業戦略 vs. ベンチャ戦略	事後学習と疑問等の確認	22講	総取戦略 vs. 工芸戦略	事後学習と疑問等の確認	23講	まとめ③	学習成果の要約	24講	証券市場戦略	事後学習と疑問等の確認	25講	継承戦略	事後学習と疑問等の確認	26講	人口戦略	事後学習と疑問等の確認	27講	食糧戦略	事後学習と疑問等の確認	28講	国際戦略	事後学習と疑問等の確認	29講	ティール組織戦略	事後学習と疑問等の確認	30講	まとめ④・ショートテスト	学習成果の要約	31講	[予備日]	
	回数	内容	時間外学習																																																	
16講	後期の開講	学習計画の立案																																																		
17講	成長戦略	事後学習と疑問等の確認																																																		
18講	技術戦略	事後学習と疑問等の確認																																																		
19講	バルカナイズ戦略	事後学習と疑問等の確認																																																		
20講	プライスリーダーシップ戦略	事後学習と疑問等の確認																																																		
21講	大企業戦略 vs. ベンチャ戦略	事後学習と疑問等の確認																																																		
22講	総取戦略 vs. 工芸戦略	事後学習と疑問等の確認																																																		
23講	まとめ③	学習成果の要約																																																		
24講	証券市場戦略	事後学習と疑問等の確認																																																		
25講	継承戦略	事後学習と疑問等の確認																																																		
26講	人口戦略	事後学習と疑問等の確認																																																		
27講	食糧戦略	事後学習と疑問等の確認																																																		
28講	国際戦略	事後学習と疑問等の確認																																																		
29講	ティール組織戦略	事後学習と疑問等の確認																																																		
30講	まとめ④・ショートテスト	学習成果の要約																																																		
31講	[予備日]																																																			
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など (テキスト) 使用しない、かわりに適宜資料を配付する。 (参考文献) 講義中に紹介していく。																																																			

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など (テキスト) 使用しない、かわりに適宜資料を配付する。 (参考文献) 講義中に紹介していく。
-------	---

学びの実践	学びの手立て 事後学習(復習)を、しっかり行い まなんだ内容を整理するとともに、疑問等があれば積極的に質問すること。 遅刻・私語は控えてもらいたい。定期試験は今のところ予定していないが、講義中1~3回程度のショートテスト実施を計画している。実施日時などは開講時に指示するので、準備不足や受験忘れ等なきように注意されたい。
-------	--

学びの実践	評価 概ね次の通りとする。 受講態度(10%)、小レポート(20%)そして、ショートテスト(70%)。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 責任感ある社会人へ。
-------	---------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営分析	前期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-高嶺 直	3年	ptt109@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 経営分析は会社を知ることにある。それは、投資家や債権者といったステークホルダーが自らの利益を維持するために行ったり、企業内部の関係者が経営上の問題点を明らかにするために行われる。本講義は、経営分析の主流である財務分析をとりあげ、財務諸表を振り返ったうえで、会計情報を用いた経営分析について学んでいく。	メッセージ イメージだけで会社を判断すると、「就職先、失敗だった」「取引先に裏切られた」「株式投資に大損した」など、痛い目に遭うことが多い。そうならないためには会社の本当の姿を知らなければならない。会社の実態はその会社が発表する財務諸表を見るとおおよその見当はつく。
	到達目標 ・経営分析に用いられる財務諸表について説明ができる。 ・経営分析を体系的に理解し説明できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	講義の全体像を確認する。
	2	経営分析の意義	経営分析の意義に関する学習
	3	企業会計の体系①	企業会計に関する学習
	4	企業会計の体系②	企業会計に関する学習
	5	経営活動と財務諸表	経営活動と財務諸表に関する学習
	6	貸借対照表と損益計算書の基本構造	B/S, P/Lの基本構造に関する学習
	7	会計諸制度と会計法規	会計諸制度・法規に関する学習
	8	損益計算書の本質と構造①	P/Lの本質と構造に関する学習
9	損益計算書の本質と構造②	P/Lの本質と構造に関する学習	
10	貸借対照表の本質と構造①	B/Sの本質と構造に関する学習	
11	貸借対照表の本質と構造②	B/Sの本質と構造に関する学習	
12	経営分析の体系と手法	経営分析の体系に関する学習	
13	実数分析の手法	実数分析の手法に関する学習	
14	比率分析の手法	比率分析の手法に関する学習	
15	CVP分析と損益分岐点	CVP分析に関する学習	
16	期末試験	学習成果をまとめる。	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。ワークシート（講義ノート）を用いて講義を進める。		
	学びの手立て 「商業簿記Ⅰ」（4単位分）を履修済みの学生（またはそれと同等の能力を持つ学生）しか登録できません。毎回出席をとる。その時点で教室にいない場合は欠席となる。やむを得ず欠席する場合は、必ず欠席届を提出すること。講義はワークシート（講義ノート）を毎回使用するので、忘れずに必ず持参すること。		
	評価 期末試験80%、授業態度20% 出席状況については、無断欠席が5回以上になると「不可」となる。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習Ⅰ・Ⅱなど、会計コースの各科目。
-------	-------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営分析演習	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-高嶺 直	3年	ptt109@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 経営分析は会社を知ることにある。それは、投資家や債権者といったステークホルダーが自らの利益を維持するために行ったり、企業内部の関係者が経営上の問題点を明らかにするために行われる。本講義は、会計情報を用いた経営分析の手法とその進め方について学んでいく。	メッセージ 受講生各自が、それぞれ興味をもった企業の会社情報（会計データ）を入手し、それを分析していく。分析結果を就活に活用するのもよいかもしれない。
	到達目標 ・経営分析手法について説明ができる。 ・上記手法を活用した分析ができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	講義の全体像を確認する。
	2	企業の収益性を見る①（収益性分析と資本利益率）	収益性分析に関する学習
	3	企業の収益性を見る②（資本利益率の種類と展開）	資本利益率に関する学習
	4	企業の収益力を見る③（総資本経常利益率の展開）	総資本経常利益率に関する学習
	5	企業の収益力を見る④（売上高利益率の展開、資本回転率の展開）	売上高利益率に関する学習
	6	企業の安全性を見る①（安全性の意義とその分析）	安全性分析に関する学習
	7	企業の安全性を見る②（短期の支払能力の分析、資本構成の分析）	資本の調達・運用に関する学習
	8	企業の生産性を見る（労働生産性分析とその展開）	労働生産性に関する学習
	9	企業の成長性を見る（成長性分析）	成長性分析に関する学習
	10	企業の株式評価を見る（投資収益性分析）	投資収益性分析に関する学習
	11	中間試験	学習成果をまとめる。
	12	経営分析レポート作成①	会計情報の収集
	13	経営分析レポート作成②	分析指標による評価
	14	経営分析レポート作成③	分析指標による評価
15	経営分析レポート作成④	総合評価	
16	経営分析レポート作成⑤	レポートにまとめる。	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。ワークシート（講義ノート）を用いて講義を進める。		
	学びの手立て 「経営分析」を履修済みの学生しか登録できません。 毎回出席をとる。その時点で教室にいない場合は欠席となる。やむを得ず欠席する場合は、必ず欠席届を提出すること。 講義はワークシート（講義ノート）を毎回使用するので、忘れずに必ず持参すること。		
	評価 中間試験40%、分析レポート50%、授業態度10% 出席状況については、無断欠席が5回以上になると「不可」となる。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習Ⅰ・Ⅱなど、会計コースの各科目。
-------	-------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	原価計算Ⅰ	前期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	菅森 聡	3年	s. sugamori@okiu. ac. jp	

学びの準備	ねらい 利益は売上から原価を引くことで導出される。そのため、原価計算は企業経営の基本である。本講義では、原価計算の基礎的な知識を理解し、練習問題を解くことで、各種の原価計算の習得を目的とします。	メッセージ 企業会計の中の原価計算に焦点を当てる講義です。企業の経営を想像しながら受講するとよいでしょう。
	到達目標 ・企業会計の基礎となる原価に関する知識の習得する。 ・原価計算技法を習得し、実際に計算をできるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	配布したプリントを読む
	2	原価および原価計算の基礎知識	配布したプリントを読み問題を解く
	3	原価の費目別計算Ⅰ	配布したプリントを読み問題を解く
	4	原価の費目別計算Ⅱ	配布したプリントを読み問題を解く
	5	原価の費目別計算Ⅲ	配布したプリントを読み問題を解く
	6	製造間接費の計算Ⅰ	配布したプリントを読み問題を解く
	7	製造間接費の計算Ⅱ	配布したプリントを読み問題を解く
	8	単純個別原価計算Ⅰ	配布したプリントを読み問題を解く
9	単純個別原価計算Ⅱ	配布したプリントを読み問題を解く	
10	単純個別原価計算Ⅲ	配布したプリントを読み問題を解く	
11	原価の部門別計算と部門別個別原価計算Ⅰ	配布したプリントを読み問題を解く	
12	原価の部門別計算と部門別個別原価計算Ⅱ	配布したプリントを読み問題を解く	
13	単純総合原価計算Ⅰ	配布したプリントを読み問題を解く	
14	単純総合原価計算Ⅱ	配布したプリントを読み問題を解く	
15	単純総合原価計算Ⅲ	配布したプリントを読み問題を解く	
16	テスト	指定したテスト範囲を勉強する	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：なし 参考文献：『テキスト原価計算（第二版）』高橋賢、中央経済社 『入門原価計算』清水孝、長谷川恵一、奥村雅史、中央経済社 『上級原価計算』清水孝、中央経済社		
	学びの手立て ・毎回、練習問題を解いてもらいますので計算機を持ってくるようにしてください。 ・小テストを2回行う予定ですのでしっかり復習するようにしてください。		
	評価 小テスト40%とテスト60%で評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目 工業簿記、業績管理会計、戦略管理会計
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	原価計算Ⅱ	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	菅森 聡	3年	s. sugamori@okiu. ac. jp	

学びの準備	ねらい 利益は売上から原価を引くことで導出される。そのため、原価計算は企業経営の基本である。本講義では、原価計算の基礎的な知識を理解し、練習問題を解くことで、各種の原価計算の習得を目的とします。	メッセージ 企業会計の中の原価計算に焦点を当てる講義です。企業の経営を想像しながら受講するとよいでしょう。
	到達目標 ・企業会計の基礎となる原価に関する知識の習得する。 ・原価計算技法を習得し、実際に計算をできるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	配布したプリントを読む
	2	総合原価計算における減損費と仕損費の処理Ⅰ	配布したプリントを読み問題を解く
	3	総合原価計算における減損費と仕損費の処理Ⅱ	配布したプリントを読み問題を解く
	4	工程別原価計算と組別総合原価計算Ⅰ	配布したプリントを読み問題を解く
	5	工程別総合原価計算と組別総合原価計算Ⅱ	配布したプリントを読み問題を解く
	6	工程別総合原価計算と組別総合原価計算Ⅲ	配布したプリントを読み問題を解く
	7	等級別総合原価計算と連産品の原価計算Ⅰ	配布したプリントを読み問題を解く
	8	等級別総合原価計算と連産品の原価計算Ⅱ	配布したプリントを読み問題を解く
	9	標準原価計算Ⅰ	配布したプリントを読み問題を解く
	10	標準原価計算Ⅱ	配布したプリントを読み問題を解く
	11	標準原価計算Ⅲ	配布したプリントを読み問題を解く
	12	直接原価計算Ⅰ	配布したプリントを読み問題を解く
	13	直接原価計算Ⅱ	配布したプリントを読み問題を解く
	14	直接原価計算Ⅲ	配布したプリントを読み問題を解く
15	直接原価計算Ⅳ	配布したプリントを読み問題を解く	
16	テスト	指定したテスト範囲を勉強する	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：なし 参考文献：『テキスト原価計算（第二版）』高橋賢、中央経済社 『入門原価計算』清水孝、長谷川恵一、奥村雅史、中央経済社 『上級原価計算』清水孝、中央経済社		
	学びの手立て ・毎回、練習問題を解いてもらいますので計算機を持ってくるようにしてください。 ・小テストを2回行う予定ですのでしっかり復習するようにしてください。		
	評価 小テスト40%とテスト60%で評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目 工業簿記、業績管理会計、戦略管理会計
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	工業簿記 I	前期	水 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	菅森 聡	2年	s. sugamori@oki.u. ac. jp	

学びの準備	ねらい 工業簿記は製造業における帳簿の記入の方法であり、商業簿記と同様に企業会計の基礎です。本講義では日商簿記2級程度の工業簿記の習得を目的とします。	メッセージ 工業簿記はシステムを理解したうえで、具体的な問題を繰り返し解く作業をすることで習得できるものです。工業簿記を習得するには復習をしっかりと行うことが近道となります。
	到達目標 ・工業簿記の基本的な知識と技法を習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	配布したプリントを読む
	2	工業簿記とは何か	配布したプリントを読み問題を解く
	3	工業簿記のしくみ	配布したプリントを読み問題を解く
	4	材料費計算 I	配布したプリントを読み問題を解く
	5	材料費計算 II	配布したプリントを読み問題を解く
	6	労務費計算 I	配布したプリントを読み問題を解く
	7	経費計算 I	配布したプリントを読み問題を解く
	8	経費計算 II	配布したプリントを読み問題を解く
	9	財務諸表 I	配布したプリントを読み問題を解く
	10	財務諸表 II	配布したプリントを読み問題を解く
	11	製造間接費計算 I	配布したプリントを読み問題を解く
	12	製造間接費計算 II	配布したプリントを読み問題を解く
	13	部門費計算 I	配布したプリントを読み問題を解く
	14	部門費計算 II	配布したプリントを読み問題を解く
	15	個別原価計算 I	配布したプリントを読み問題を解く
	16	個別原価計算 II	配布したプリントを読み問題を解く
	テキスト・参考文献・資料など ・『検定簿記講義2級工業簿記』中央経済社		
	学びの手立て ・この講義（水曜日3校時）は前期に I・II を同時に開講する形態です。受講する学生は金曜日の2校時の工業簿記 II も必ず同時に履修してください。 ・毎回、練習問題を解いてもらいますので計算機を持ってくるようにしてください。 ・工業簿記はシステムを理解するだけでなく、具体的な問題を繰り返し解くことで習得するものです。授業でやった内容をしっかりと復習するようにしてください。		
	評価 小テスト40%とテスト60%で評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目 原価計算、業績管理会計、戦略管理会計
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	工業簿記 I	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	菅森 聡	2年	s. sugamori@okiu. ac. jp	

学びの準備	ねらい 工業簿記は製造業における帳簿の記入の方法であり、商業簿記と同様に企業会計の基礎です。本講義では日商簿記2級程度の工業簿記の習得を目的とします。	メッセージ 工業簿記はシステムを理解したうえで、具体的な問題を繰り返し解く作業をすることで習得できるものです。工業簿記を習得するには復習をしっかりと行うことが近道となります。
	到達目標 ・工業簿記の基本的な知識と技法を習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	配布したプリントを読む
	2	工業簿記とは何か	配布したプリントを読み問題を解く
	3	工業簿記のしくみ	配布したプリントを読み問題を解く
	4	材料費計算 I	配布したプリントを読み問題を解く
	5	材料費計算 II	配布したプリントを読み問題を解く
	6	労務費計算	配布したプリントを読み問題を解く
	7	経費計算	配布したプリントを読み問題を解く
	8	財務諸表 I	配布したプリントを読み問題を解く
	9	財務諸表 II	配布したプリントを読み問題を解く
	10	製造間接費計算 I	配布したプリントを読み問題を解く
	11	製造間接費計算 II	配布したプリントを読み問題を解く
	12	部門費計算 I	配布したプリントを読み問題を解く
	13	部門別計算 II	配布したプリントを読み問題を解く
	14	個別原価計算 I	配布したプリントを読み問題を解く
	15	個別原価計算 II	配布したプリントを読み問題を解く
	16	テスト	指定したテスト範囲を勉強する
	テキスト・参考文献・資料など ・『検定簿記講義/2級工業簿記』中央経済社		
	学びの手立て ・毎回、練習問題を解いてもらいますので計算機を持ってくるようにしてください。 ・工業簿記はシステムを理解するだけでなく、具体的な問題を繰り返し解くことで習得するものです。授業でやった内容をしっかり復習するようにしてください。”		
	評価 小テスト40%とテスト60%で評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目 原価計算、業績管理会計、戦略管理会計
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	工業簿記Ⅱ	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	菅森 聡	2年	s. sugamori@oki. ac. jp	

学びの準備	ねらい 工業簿記は製造業における帳簿記入の方法であり、商業簿記と同様に企業会計の基礎です。本講義では日商簿記2級程度の工業簿記の習得を目的とします。	メッセージ 工業簿記はシステムを理解したうえで、具体的な問題を繰り返し解く作業をすることで習得できるものです。工業簿記を習得するには復習をしっかりと行うことが近道となります。
	到達目標 ・工業簿記の基本的な知識と技法を習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	総合原価計算Ⅰ	配布したプリントを読み問題を解く
	2	総合原価計算Ⅱ	配布したプリントを読み問題を解く
	3	総合原価計算Ⅲ	配布したプリントを読み問題を解く
	4	総合原価計算Ⅳ	配布したプリントを読み問題を解く
	5	標準原価計算Ⅰ	配布したプリントを読み問題を解く
	6	標準原価計算Ⅱ	配布したプリントを読み問題を解く
	7	標準原価計算Ⅲ	配布したプリントを読み問題を解く
	8	原価・営業量・利益関係の分析Ⅰ	配布したプリントを読み問題を解く
9	原価・営業量・利益関係の分析Ⅱ	配布したプリントを読み問題を解く	
10	原価・営業量・利益関係の分析Ⅲ	配布したプリントを読み問題を解く	
11	直接原価計算Ⅰ	配布したプリントを読み問題を解く	
12	直接原価計算Ⅱ	配布したプリントを読み問題を解く	
13	直接原価計算Ⅲ	配布したプリントを読み問題を解く	
14	本社・工場会計Ⅰ	配布したプリントを読み問題を解く	
15	本社・工場会計Ⅱ	配布したプリントを読み問題を解く	
16	テスト	指定したテスト範囲を勉強する	
	テキスト・参考文献・資料など ・『検定簿記講義/2級工業簿記』中央経済社		
	学びの手立て ・この講義(金曜2校時)は前期にⅠ・Ⅱを同時に開講する形態です。受講する学生は水曜日3校時の工業簿記Ⅰも必ず同時に履修してください。 ・毎回、練習問題を解いてもらいますので計算機を持ってくるようにしてください。 ・工業簿記はシステムを理解するだけでなく、具体的な問題を繰り返し解くことで習得するものです。授業でやった内容をしっかりと復習するようにしてください。		
	評価 小テスト40%とテスト60%で評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目 原価計算、業績管理会計、戦略管理会計
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	工業簿記Ⅱ	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	菅森 聡	2年	s. sugamori@okiu. ac. jp	

学びの準備	ねらい 工業簿記は製造業における帳簿の記入の方法であり、商業簿記と同様に企業会計の基礎です。本講義では日商簿記2級程度の工業簿記の習得を目的とします。	メッセージ 工業簿記はシステムを理解したうえで、具体的な問題を繰り返し解く作業をすることで習得できるものです。工業簿記を習得するには復習をしっかりと行うことが近道となります。
	到達目標 ・工業簿記の基本的な知識と技法を習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	配布したプリントを読む
	2	総合原価計算Ⅰ	配布したプリントを読み問題を解く
	3	総合原価計算Ⅱ	配布したプリントを読み問題を解く
	4	総合原価計算Ⅲ	配布したプリントを読み問題を解く
	5	総合原価計算Ⅳ	配布したプリントを読み問題を解く
	6	標準原価計算Ⅰ	配布したプリントを読み問題を解く
	7	標準原価計算Ⅱ	配布したプリントを読み問題を解く
	8	標準原価計算Ⅲ	配布したプリントを読み問題を解く
	9	原価・営業量・利益関係の分析Ⅰ	配布したプリントを読み問題を解く
	10	原価・営業量・利益関係の分析Ⅱ	配布したプリントを読み問題を解く
	11	直接原価計算Ⅰ	配布したプリントを読み問題を解く
	12	直接原価計算Ⅱ	配布したプリントを読み問題を解く
	13	直接原価計算Ⅲ	配布したプリントを読み問題を解く
	14	本社・工場会計Ⅰ	配布したプリントを読み問題を解く
	15	本社・工場会計Ⅱ	配布したプリントを読み問題を解く
	16	テスト	指定したテスト範囲を勉強する
	テキスト・参考文献・資料など ・『検定簿記講義/2級工業簿記』中央経済社		
	学びの手立て ・毎回、練習問題を解いてもらいますので計算機を持ってくるようにしてください。 ・工業簿記はシステムを理解するだけでなく、具体的な問題を繰り返し解くことで習得するものです。授業でやった内容をしっかり復習するようにしてください。		
	評価 小テスト40%とテスト60%で評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目 原価計算、業績管理会計、戦略管理会計
-------	---

※ポリシーとの関連性 学ぶ姿勢と学ぶ力を付ける。自分で考えて、自ら動いていく力を付ける。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	広告論	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	3年	miyamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業を通して、広告の成り立ちとその活用方法学び、いかにして企業が自社の商品・サービスの情報を必要とされている消費者の元に届けるかを知る。	メッセージ 専門科目を単なる単位・学ぶべきものとするのではなく、授業を通してその科目の楽しさ、面白さ、社会への影響に気づくことが大切です。
	到達目標 1. 広告の概要を知る。 2. マーケティング・コミュニケーションの基本理論を学ぶ。 3. 広告とマーケティングの関係性を知る。 4. 基本的な広告の企画が作成できるようになる。	

学びの準備	到達目標 1. 広告の概要を知る。 2. マーケティング・コミュニケーションの基本理論を学ぶ。 3. 広告とマーケティングの関係性を知る。 4. 基本的な広告の企画が作成できるようになる。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	広告とは	テキストを読む
	3	マーケティングミックス	テキストを読む
	4	マーケティング・コミュニケーション	テキストを読む
	5	広告のコミュニケーション的役割	テキストを読む
	6	マスコミュニケーション4媒体	テキストを読む
	7	テレビCM	テキストを読む。CMのレポート作成
	8	ラジオ広告	テキストを読む
	9	新聞広告	テキストを読む。新聞レポート作成
	10	雑誌広告	テキストを読む
	11	ウェブ広告	テキストを読む。Webレポート作成
	12	レスポンス広告	テキストを読む
	13	広告企画と戦略	テキストを読む
	14	広告会社と関連組織	テキストを読む
	15	まとめ	期末試験の準備
16	期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：授業にて指定する。また、必要に応じて授業の中でプリントを配布する。参考文献も必要な時に発表する。
-------	---

学びの実践	学びの手立て 履修の心構え： ①出席・授業への積極的参加を強く求める、②自分から動く、③課題提出は期日を守る、④他の学生に迷惑を掛けない。 学びを深めるために： ①マーケティングと広告の関係を知る、②議論に積極的に参加する、③日経MJを読む。
-------	---

学びの実践	評価 評価は次の項目の総合的な観点から行われる。 ①平常点 (10点) ②期末試験 (70点) ③レポート (5点) ④豆テスト (5点) ⑤課題提出 (10点)
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 ビジネス関連科目を多く受講すること。マーケティングに関連した書籍を読むこと。一般教養科目をしっかりと学ぶこと。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際関係論	前期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	3年	講義の質問時間中(16:00~16:10)に、対応する。	

学びの準備	ねらい 本講義では国際関係学の初歩的および基本的な事項を学習する。	メッセージ 「皆さん、国際関係についてしっかり学習してまいりましょう(天野)」
	到達目標 学生が国際社会の仕組みを理解するうえでの、一助と成ることを目標とする。	

学びの準備	到達目標 学生が国際社会の仕組みを理解するうえでの、一助と成ることを目標とする。
-------	---

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>講義展開については次のとおり、予定している。</p> <p>(講義の展開計画)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1講</td><td>講義紹介・講師紹介</td></tr> <tr><td>2講</td><td>国際関係とは</td></tr> <tr><td>3講</td><td>分析のレベル</td></tr> <tr><td>4講</td><td>無政府状態</td></tr> <tr><td>5講</td><td>国際関係の諸理論</td></tr> <tr><td>6講</td><td>国際社会の活動主体</td></tr> <tr><td>7講</td><td>国家</td></tr> <tr><td>8講</td><td>联合国 (国際連合)</td></tr> <tr><td>9講</td><td>欧洲連合</td></tr> <tr><td>10講</td><td>国家の下位組織</td></tr> <tr><td>11講</td><td>防諜戦略</td></tr> <tr><td>12講</td><td>南北問題</td></tr> <tr><td>13講</td><td>軍縮 vs. 軍拡</td></tr> <tr><td>14講</td><td>(教材学習)</td></tr> <tr><td>15講</td><td>(教材学習)</td></tr> <tr><td>16講</td><td>[予備日]</td></tr> </tbody> </table>	回数	内容	1講	講義紹介・講師紹介	2講	国際関係とは	3講	分析のレベル	4講	無政府状態	5講	国際関係の諸理論	6講	国際社会の活動主体	7講	国家	8講	联合国 (国際連合)	9講	欧洲連合	10講	国家の下位組織	11講	防諜戦略	12講	南北問題	13講	軍縮 vs. 軍拡	14講	(教材学習)	15講	(教材学習)	16講	[予備日]
	回数	内容																																	
1講	講義紹介・講師紹介																																		
2講	国際関係とは																																		
3講	分析のレベル																																		
4講	無政府状態																																		
5講	国際関係の諸理論																																		
6講	国際社会の活動主体																																		
7講	国家																																		
8講	联合国 (国際連合)																																		
9講	欧洲連合																																		
10講	国家の下位組織																																		
11講	防諜戦略																																		
12講	南北問題																																		
13講	軍縮 vs. 軍拡																																		
14講	(教材学習)																																		
15講	(教材学習)																																		
16講	[予備日]																																		
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など (テキスト) 未定																																		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など (テキスト) 未定
-------	--------------------------------

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>遅刻・私語は控えてもらいたい。定期試験は今のところ予定していないが、講義中1~3回程度のショートテスト実施を計画している。実施日時などは 開講時に指示するので、準備不足・受験忘れ等 なきよう注意されたい。</p>
-------	---

学びの実践	<p>評価</p> <p>概ね次の通りとする。 平常点(発言・質問・課題提出・ショートテストの達成度)が 85%, その他が15%。</p>
-------	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>国際関連科目 「国際経営論II」や「経営戦略論II」など。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際経営論Ⅱ	後期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	3年	講義の質問時間中(00:00~00:10pm)に、対応する。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	年間テーマを「中国経営」とする。本講義は、通年科目(全年科目)合計4.00単位に相当する。外国研究にあつては、国内研究と同様に、体系的に知識把握することが比較的有効であると思われる。たとえば経営管理を理解したいのであれば、①生産管理、②労働管理、③販売管理、④財務管理、および⑤経営組織といったような諸部分にそつて把握していくのである。	「みなさん、ともに中国ビジネスの学習をすすめてまいりましょう。」
到達目標	中国の工場経営について、よく理解できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント																																																						
	<p>授業計画(テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>上の「ねらい」で記したことは、どこの国 地域の経済・経営・ビジネス・商業を理解するうえでも妥当することといえよう。本講義では、中国本土(中華人民共和国)の工場管理を例にとり、外国経営研究にとりくんでいく。東側国家や、発展途上国に特有の事象についても言及したい。 (なお本講義は抽選科目である。各学期の初回講義(4,9月)では面談のうえ、登録をおこなうので必ず出席されたい。)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>講義の展開計画</th> <th>内容</th> <th>時間外学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>回数</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>16</td><td>経営管理原則</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>17</td><td>内部経営管理組織</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>18</td><td>上級経営管理組織</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>19</td><td>経営管理制度(1)</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>20</td><td>経営管理制度(2)</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>21</td><td>国営工場の生産管理</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>22</td><td>国営工場の労働管理</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>23</td><td>国営工場の販売管理</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>24</td><td>国営工場の財務管理</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>25</td><td>企業形態</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>26</td><td>工場におけるイデオロギ的活動</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>27</td><td>工場における政治活動</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>28</td><td>教材学習(1)</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>29</td><td>教材学習(2)</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>30</td><td>教材学習(3)・ショートテスト</td><td>講義中に指示する</td></tr> <tr><td>31</td><td>[予備日]</td><td></td></tr> </tbody> </table>	講義の展開計画	内容	時間外学習	回数			16	経営管理原則	講義中に指示する	17	内部経営管理組織	講義中に指示する	18	上級経営管理組織	講義中に指示する	19	経営管理制度(1)	講義中に指示する	20	経営管理制度(2)	講義中に指示する	21	国営工場の生産管理	講義中に指示する	22	国営工場の労働管理	講義中に指示する	23	国営工場の販売管理	講義中に指示する	24	国営工場の財務管理	講義中に指示する	25	企業形態	講義中に指示する	26	工場におけるイデオロギ的活動	講義中に指示する	27	工場における政治活動	講義中に指示する	28	教材学習(1)	講義中に指示する	29	教材学習(2)	講義中に指示する	30	教材学習(3)・ショートテスト	講義中に指示する	31	[予備日]	
	講義の展開計画	内容	時間外学習																																																				
	回数																																																						
16	経営管理原則	講義中に指示する																																																					
17	内部経営管理組織	講義中に指示する																																																					
18	上級経営管理組織	講義中に指示する																																																					
19	経営管理制度(1)	講義中に指示する																																																					
20	経営管理制度(2)	講義中に指示する																																																					
21	国営工場の生産管理	講義中に指示する																																																					
22	国営工場の労働管理	講義中に指示する																																																					
23	国営工場の販売管理	講義中に指示する																																																					
24	国営工場の財務管理	講義中に指示する																																																					
25	企業形態	講義中に指示する																																																					
26	工場におけるイデオロギ的活動	講義中に指示する																																																					
27	工場における政治活動	講義中に指示する																																																					
28	教材学習(1)	講義中に指示する																																																					
29	教材学習(2)	講義中に指示する																																																					
30	教材学習(3)・ショートテスト	講義中に指示する																																																					
31	[予備日]																																																						
テキスト・参考文献・資料など	<p>(テキスト) 未定</p> <p>(参考文献)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小川英次ほか(編)『経営学の基礎知識』有斐閣。 ・ 伊丹敬之ほか『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社。 ・ 芝川林也(編)『経営学演習』同文館。 																																																						
学びの手立て	遅刻・私語は控えてもらいたい。定期試験は今のところ予定していないが、講義中1~3回程度のショートテストの実施を計画している。実施日時などは開講時に指示するので、準備不足・受験忘れ等なきよう注意されたい。																																																						
評価	概ね次の通りとする。 平常点(発言・質問・課題・ショートテストの達成度)が85%、その他が15%。																																																						

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>(関連科目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自由選択科目 「マルクス経済学Ⅰ」 <p>(関連科目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門選択科目 「国際関係論」、「経営戦略論Ⅰ」や「経営戦略論Ⅱ」

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際経済学	前期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	俞 炳強	3年	yu@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 世界的に進展している経済活動のグローバル化の現状を把握し、その背後にあるメカニズムを理解するための国際経済学の基礎的理論を学習し習得する。	メッセージ 講義内容について不明な点があったら、積極的に質問し理解に努めてほしい。
	到達目標 ①国際経済学の基礎的理論を習得する。 ②国際貿易と経済発展との関係を理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	国際経済学とは何か	
	2	国際経済の動き	当日内容の復習
	3	国際貿易の基礎理論（自由貿易の利益）	当日内容の復習
	4	国際貿易の基礎理論（リカード・モデル）	当日内容の復習
	5	国際貿易の基礎理論（ヘクシャー＝オーリン・モデル）	当日内容の復習
	6	新しい国際貿易の理論	当日内容の復習
	7	前半内容の課題演習	前半の復習
	8	まとめと中間テスト	中間テスト結果の点検
	9	貿易政策	当日内容の復習
	10	貿易と経済発展	当日内容の復習
	11	生産要素の国際移動	当日内容の復習
	12	国民所得と国際収支	当日内容の復習
	13	為替レート	当日内容の復習
	14	アジアの経済発展と日本	当日内容の復習
	15	後半まとめと課題演習	後半の復習
	16	期末テスト	期末テスト結果の点検
	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しないが、教材や資料はプリントまたはPDFファイルで配布する。 参考図書：澤田康幸『基礎コース国際経済学』新世社、井川一宏ほか『基礎 国際経済学』中央経済社、上野秀夫ほか『国際経済学』ミネルバ書房など。		
	学びの手立て ①大幅な遅刻や無断欠席は減点となる。やむを得ず欠席の場合は欠席届を提出し、欠席した講義の内容は時間外に学習し、不明な点は積極的に質問する。 ②講義中に講義内容と無関係なこと（私語、スマートフォンの操作など）を行った場合は減点となる。		
	評価 平常点：40%、中間テスト点：30%、期末テスト点：30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 アジアビジネス事情など
-------	----------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	コンピュータ会計	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-上原 香代子	2年	講義終了後及びメール	

学びの準備	ねらい 企業会計に欠かせない会計ソフトの演習を通して現代の会計実務の基本の修得する。	メッセージ 企業人としての一般的な知識、特に事務系の職種に、必要な学習です。
	到達目標 1年次で学習した簿記会計の知識を会計ソフトを使って、実務面でも活かせるようにします。各種のコンピュータ会計検定資格も取得可能となります。	

学びの準備	到達目標 1年次で学習した簿記会計の知識を会計ソフトを使って、実務面でも活かせるようにします。各種のコンピュータ会計検定資格も取得可能となります。

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・簿記の基礎確認	商業簿記の基礎復習
	2	企業活動と会計処理	会計ソフト導入処理
	3	会計ソフトの操作と会計処理	
	4	現預金、売上の会計処理	基礎的な仕訳処理
	5	仕入、経費の会計処理	振替伝票起票の応用処理
	6	人件費の会計処理	源泉徴収及び社保のしくみ
	7	日常的処理と試算表の作成	基礎入力への復習
	8	起業に関わる税の会計処理	消費税等の仕訳処理の復習
	9	日常活動の入力処理と試算表の作成①	
	10	日常活動の入力処理と試算表の作成②	日常的な入力復習
	11	決算手続きと会計処理	決算整理事項の復習
	12	月次活動の入力処理と財務諸表の作成①	財務諸表の見方
	13	月次活動の入力処理と財務諸表の作成②	財務諸表の分析等
	14	会計データの新規作成	総合復習 1
	15	実践的データ処理と財務諸表の作成	総合復習 2
16	期末テスト		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：『コンピュータ会計基本テキスト』実教出版 (時間外『コンピュータ会計基本問題』実教出版) 参考文献：『電子会計 実務検定試験 公式ガイドブック』初級・中級 日本商工会議所編集
-------	--

学びの実践	学びの手立て 基本的な簿記の知識(日商簿記3級以上)を前提にしています。 各項目での講義の後、必要に応じて知識の問題と会計ソフト入力問題があります。 講義は、テキストに沿って進めますので、欠席する場合、講義範囲を確認し、理解するようにしてください。 またパソコン操作の習得のため、練習量も確保してください。
-------	---

学びの実践	評価 授業参加度及び課題内容評価 (30%)、入力課題 (30%) 筆記テスト (40%) の総合評価
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 「関連科目」会計学、原価計算、財務会計、管理会計、経営分析、資金会計
-------	---

※ポリシーとの関連性

ビジネスでの実践的な理解と実践力のため企業活動を記録する簿記システムをコンピュータ処理、報告する理論、方法を学習する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	コンピュータ会計	前期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-上原 香代子	2年	講義終了後及びメール等	

学びの準備	ねらい 企業会計に欠かせない会計ソフトの演習を通して、現代の会計実務の基本を習得する。	メッセージ 企業人としての一般的な知識、特に事務系の職種に必要な学習です。
	到達目標 一年次で学習した簿記会計の知識を会計ソフトを使って、実務面でも活かせるようにします。各種のコンピュータ会計資格も取得可能となります。	

学びの準備	到達目標 一年次で学習した簿記会計の知識を会計ソフトを使って、実務面でも活かせるようにします。各種のコンピュータ会計資格も取得可能となります。

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス及び簿記の基礎確認	商業簿記の復習
	2	企業活動と会計処理	会計ソフト導入処理
	3	会計ソフトの操作と会計処理	
	4	現預金、売上の会計処理	基礎的な仕訳処理
	5	仕入、経費の会計処理	振替伝票企業の応用処理
	6	人件費の会計処理	源泉徴収及び社保のしくみ
	7	日常的処理と試算表の作成	基礎入力への復習
	8	企業に関わる税の会計処理	消費税等の仕訳処理の復習
	9	日常活動の入力処理と試算表の作成①	
	10	日常活動の入力処理と試算表の作成②	日常的な入力復習
	11	決算手続きと会計処理	決算整理事項の復習
	12	月次活動の入力処理と財務諸表の作成①	財務諸表の見方
	13	月次活動の入力処理と財務諸表の作成②	財務諸表の分析等
	14	会計データの新規作成	総合復習 1
	15	実践的データ処理と財務諸表の作成	総合復習 2
16	期末テスト		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：『コンピュータ会計基本テキスト』実教出版 (時間外『コンピュータ会計基本問題』実教出版) 参考文献：『電子会計 実務検定試験 公式ガイドブック』初級・中級 日本商工会議所編集

学びの実践	学びの手立て ビジネス社会に有用な知識習得のため、コンピュータ会計ソフトの処理及び確認方法、関連する報告内容などを学習する。

学びの実践	評価 授業参加度及び課題内容評価 (30%)、入力課題 (30%) 筆記テスト (40%) の総合評価

学びの継続	次のステージ・関連科目 「関連科目」 会計学、原価計算、財務会計、管理会計、経営分析、資金会計
-------	--

※ポリシーとの関連性 学ぶ姿勢と学ぶ力を付ける。自分で考えて、自ら動いていく力を付ける。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	サービス・マーケティング	前期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	3年	miyamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業を通して、サービス・マーケティングの成り立ちとその活用方法学び、いかにして企業が自社のサービス商品の付加価値を必要とされている消費者の元に届けるかを知る。	メッセージ 専門科目を単なる単位・学ぶべきものとするのではなく、授業を通してその科目の楽しさ、面白さ、社会への影響に気づくことが大切です。
	到達目標 1. サービスの概要を知る。 2. サービス・マーケティングの基本理論を学ぶ。 3. サービスとマーケティングの関係性を知る。 4. 基本的なサービス・マーケティングのビジネスモデルが説明できるようになる。	

学びの準備	到達目標 1. サービスの概要を知る。 2. サービス・マーケティングの基本理論を学ぶ。 3. サービスとマーケティングの関係性を知る。 4. 基本的なサービス・マーケティングのビジネスモデルが説明できるようになる。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	サービスとは	テキストを読む
	3	経済のサービス化	テキストを読む
	4	消費者の変化	テキストを読む
	5	サービス・マーケティングの概要	テキストを読む
	6	モノとサービスの違い	テキストを読む
	7	製造業とサービスの関係	テキストを読む
	8	サービス品質の考え方	テキストを読む
	9	品質評価の方法1	テキストを読む
	10	品質評価の方法2	テキストを読む
	11	サービス商品のプロモーション	テキストを読む
	12	サービス商品の流通	テキストを読む
	13	サービス商品の価格	テキストを読む
	14	サービスエンカウンターとは	課題発表の準備
	15	課題の発表	課題発表の反省
16	期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：サービス・マーケティング入門。必要に応じて授業の中でプリントを配布する。参考文献も必要な時に発表する。
-------	--

学びの実践	学びの手立て 履修の心構え： ①出席・授業への積極的参加を強く求める、②自分から動く、③課題提出は期日を守る、④他の学生に迷惑を掛けない。 学びを深めるために： ①マーケティングとサービスの関係を知る、②議論に積極的に参加する、③日経MJを読む、④サービス企業のサービスを受けてみて感じた課題の改善策を考えてみる。
-------	---

学びの実践	評価 評価は次の項目の総合的な観点から行われる。 ①平常点 (10点) ②期末試験 (70点) ③レポート (5点) ④豆テスト (5点) ⑤課題提出 (10点)
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 ビジネス関連科目を多く受講すること。マーケティングに関連した書籍を読むこと。一般教養科目をしっかりと学ぶこと。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	財務会計 I	前期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鶴池 幸雄	3年	uike@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 企業活動の把握、報告を行う財務報告会計の中で概論と損益計算書について理解し、解題できる事を目指します	メッセージ 簿記・会計の知識を生かして、企業の利益獲得に関わる行動について理解できるようにしましょう
	到達目標 日本の会計原則の基礎理論の理解 企業の営利活動をあらかず損益計算書の理解	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	会計の体系についての復習
	2	会計主体論	会計主体についての整理
	3	会計公準論	公準の整理
	4	企業会計原則と会社法	会計関連法規の整理
	5	企業会計の一般原則 I	一般原則必要性の整理
	6	企業会計の一般原則 II	一般原則必要性の整理
	7	損益計算書概論	損益計算書の構造の整理
	8	収益・費用の認識と測定 I	収益概念の整理
	9	収益・費用の認識と測定 II	費用概念の整理
	10	収益・費用の認識と測定 III	費用概念の整理
	11	費用と収益の対応	対応概念の整理
	12	営業損益計算	営業活動の把握概念の整理
	13	期間業績計算	期間業績の把握概念の整理
	14	包括利益計算	包括業績の把握概念の整理
15	損益計算総論	企業活動における成果計算の整理	
16	試験		
	テキスト・参考文献・資料など 財務会計講義 櫻井久勝 第19版		
	学びの手立て 講義で学修を進めるとともに、復習を十分に行ってください		
	評価 小レポート（20）試験（80）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 経営分析、資金会計 会計戦略論
-------	--------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	財務会計Ⅱ	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鶴池 幸雄	3年	uike@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 企業活動の把握、報告を行う財務報告会計の中で貸借対照表と連結財務報告について理解し、解題できる事を目指します	メッセージ 簿記・会計の知識を生かして、企業の利益獲得に関わる行動について理解できるようにしましょう
	到達目標 企業の財政状態をあらわす貸借対照表の理解 企業グループの経営状態を示す連結財務諸表の理解	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	財務会計の役割の整理
	2	貸借対照表概論	貸借対照表の役割の整理
	3	貸借対照表の分類基準	分類基準の整理
	4	流動資産の会計処理Ⅰ	流動資産の把握と整理
	5	流動資産の会計処理Ⅱ	流動資産の把握と整理
	6	固定資産の会計処理Ⅰ	固定資産、減価償却の把握と整理
	7	固定資産の会計処理Ⅱ	固定資産、現存損失の把握と整理
	8	繰延資産の会計処理	繰延資産の概念と対応の整理
9	負債の会計処理	負債の把握と会計処理	
10	純資産の部の会計処理	純資産の部の把握と会計処理	
11	連結財務諸表Ⅰ（概論）	連結概念の把握	
12	連結財務諸表論Ⅱ（資本連結）	資本連結の把握と整理	
13	連結財務諸表Ⅲ（損益計算書、貸借対照表の作成）	結合会計の把握と整理	
14	連結財務諸表Ⅳ（連結財務諸表の利用）	慶都合会計の把握と整理	
15	企業活動と財務報告	企業活動報告のまとめ	
16	試験		
	テキスト・参考文献・資料など 財務会計講義 櫻井久勝 第18版		
	学びの手立て 講義で学修を進めるとともに、復習を十分に行ってください		
	評価 小レポート（20）試験（80）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 経営分析、資金会計 会計戦略論
-------	--------------------------------

※ポリシーとの関連性 企業の経営活動をキャッシュ・フローの観点から把握し、理解する力を涵養し、学士力を高める。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	資金会計	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-上江洲 由正	3年	uezu@tm.u-ryukyu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 企業の経営活動を「資金」的な観点から情報化し、貸借対照表や損益計算書とは違った視点から企業の姿を捉える。	メッセージ キャッシュ・フローの視点から経営活動を理解する力を身につけてください。
	到達目標 キャッシュ・フロー計算書を作成し、分析出来るようにする。	

学びの準備	到達目標 キャッシュ・フロー計算書を作成し、分析出来るようにする。
-------	--------------------------------------

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	キャッシュ・フロー計算 (総論)	参考文献①の関連箇所の学習
	3	キャッシュ・フロー計算書構造	参考文献①の関連箇所の学習
	4	キャッシュ・フロー計算書の作成①	参考文献①の関連箇所の学習
	5	キャッシュ・フロー計算書の作成②	参考文献①の関連箇所の学習
	6	キャッシュ・フローの分析①	参考文献②の関連箇所の学習
	7	キャッシュ・フローの分析②	参考文献②の関連箇所の学習
	8	キャッシュ・フローの分析③	参考文献②の関連箇所の学習
	9	キャッシュ・フロー情報と損益情報	参考文献②の関連箇所の学習
	10	外貨建資金取引①	参考文献①の関連箇所の学習
	11	外貨建資金取引②	参考文献①の関連箇所の学習
	12	外貨建資金取引③	参考文献①の関連箇所の学習
	13	資金取引とリース	参考文献①の関連箇所の学習
	14	資金取引とデリバティブ	参考文献①の関連箇所の学習
	15	総まとめ	
16	期末テスト		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：毎回プリントを配布する。 参考文献：①とおるテキスト1級日商簿記 (Ⅲ) (ネットスクール出版) ②キャッシュミラー経営分析 (日本経済新聞出版社)
-------	---

学びの実践	学びの手立て 1、2年次に学習した商業簿記や会計学を復習しながら資金会計を理解してもらいます。
-------	--

学びの実践	評価 テスト80%、受講態度など20%で評価する。
-------	------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：商業簿記、会計学、財務会計、経営分析など
-------	--

※ポリシーとの関連性 学ぶ姿勢と学ぶ力を付ける。自分で考えて、自ら動いていく力を付ける。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	市場調査演習	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	2年	miyamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業を通して、企業が顧客のニーズを探るための基本的な理論と技術を学ぶ。市場調査を通じてマーケティングの応用とそれがいかに自分たちの生活に密着しているかを知る。	メッセージ 専門科目を単なる単位・学ぶべきものとするのではなく、授業を通してその科目の楽しさ、面白さ、社会への影響に気づくことが大切です。
	到達目標 1. 市場調査の概要を知る。 2. 市場調査の各理論を学ぶ。 3. 市場調査とマーケティングの関係性を知る。 4. 高度な市場調査ができるようになる。 5. 統計的手法を学ぶ。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	調査テーマの決定	グループでテーマ模索
	3	調査テーマ決定	グループでテーマ情報収集
	4	調査手法決定	調査手法の情報収集
	5	調査実施 1	学外にて調査実施
	6	調査実施 2	学外にて調査実施
	7	調査実施 3	学外にて調査実施
	8	データの入力	統計手法予習
	9	データの集計 1	統計手法予習
	10	データの集計 2	統計手法予習
	11	データの分析 1	グループにて分析作業
	12	データの分析 2	グループにて分析作業
	13	調査報告書作成 1	報告書作成作業
	14	調査報告書作成 2	報告書作成作業
	15	調査結果のプレゼンテーション 1	プレゼンテーション準備
	16	調査結果のプレゼンテーション 2	プレゼンテーション反省
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：アンケートの作り方・活かし方。また、必要に応じて授業の中でプリントを配布する。参考文献は必要な時に発表。		
	学びの手立て 履修の心構え： ①出席・授業への積極的参加を強く求める、②自分から動く、③課題提出は期日を守る、④グループ学習にて自分の役割を果たす。 学びを深めるために： ①マーケティングと市場調査の関係を知る、②議論に積極的に参加する、③日経MJを読む。		
	評価 評価は次の項目の総合的な観点から行われる。 ①平常点 (10点) ②調査報告書及びそのプレゼンテーション内容 (70点) ③レポート (5点) ④豆テスト (5点) ⑤課題提出 (10点)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ビジネス関連科目を多く受講すること。マーケティングに関連した書籍を読むこと。一般教養科目をしっかりと学ぶこと。
-------	--

※ポリシーとの関連性 学ぶ姿勢と学ぶ力を付ける。自分で考えて、自ら動いていく力を付ける。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	市場調査総論	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	2年	miyamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業を通して、企業が顧客のニーズを探る基本的な理論と技術を学ぶ。市場調査を通じてマーケティングの応用とそれがいかに自分たちの生活に密着しているかを知る。	メッセージ 専門科目を単なる単位・学ぶべきものとするのではなく、授業を通してその科目の楽しさ、面白さ、社会への影響に気づくことが大切です。
	到達目標 1. 市場調査の概要を知る。 2. 市場調査の各理論を学ぶ。 3. 市場調査とマーケティングの関係性を知る。 4. 簡単な市場調査ができるようになる。 5. 統計的手法を学ぶ。	

学びの準備	到達目標 1. 市場調査の概要を知る。 2. 市場調査の各理論を学ぶ。 3. 市場調査とマーケティングの関係性を知る。 4. 簡単な市場調査ができるようになる。 5. 統計的手法を学ぶ。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	市場調査とは	テキスト予習及び調査企画作成
	3	市場調査の種類とその活用 1	テキスト予習及び調査企画作成
	4	市場調査の種類とその活用 2	テキスト予習及び調査企画作成
	5	アンケートの基礎知識 1	テキスト予習及び調査企画作成
	6	アンケートの基礎知識 2	テキスト予習及び調査企画作成
	7	顧客をつかむアンケート 1	テキスト予習及び調査企画作成
	8	顧客をつかむアンケート 2	テキスト予習及び調査企画作成
	9	購入決定時に影響を及ぼす要因の発見 1	テキスト予習及び調査企画作成
	10	購入決定時に影響を及ぼす要因の発見 2	テキスト予習及び調査企画作成
	11	潜在的ニーズを知る調査 1	テキスト予習及び調査企画作成
	12	潜在的ニーズを知る調査 2	テキスト予習及び調査企画作成
	13	調査事例の発表準備	調査発表準備 1
	14	調査企業の事例発表 1	調査発表準備 2
	15	調査企業の事例発表 2	期末試験の準備
16	期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：アンケートの作り方・活かし方。また、必要に応じて授業の中でプリントを配布する。参考文献は必要な時に発表。
-------	---

学びの実践	学びの手立て 履修の心構え： ①出席・授業への積極的参加を強く求める、②自分から動く、③課題提出は期日を守る、④グループ学習にて自分の役割を果たす。 学びを深めるために： ①マーケティングと市場調査の関係を知る、②議論に積極的に参加する、③日経MJを読む。
-------	--

学びの実践	評価 評価は次の項目の総合的な観点から行われる。 ①平常点 (10点) ②期末試験 (70点) ③レポート (5点) ④豆テスト (5点) ⑤課題提出 (10点)
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 ビジネス関連科目を多く受講すること。マーケティングに関連した書籍を読むこと。一般教養科目をしっかりと学ぶこと。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	商業簿記Ⅰ	前期	月2・木1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-名城 佳枝	1年	授業終了後	

学びの準備	ねらい 本授業では、ビジネスに必要な簿記の基本的な知識を学び、実務でいかにせるよう記帳、決算等の理解を深めていくことを目的としています。	メッセージ 本授業で、日商簿記検定試験3級商業簿記の範囲を学習します。テキストで解説を行い、ワークブックで問題を解いてもらいます。簿記は、出来るだけ問題を多く解くことが習得への第一歩です。
	到達目標 商業簿記の基礎的な知識を習得し、日商簿記検定試験3級取得を目指します。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・登録	
	2	簿記の意義と仕組み	関連する練習問題を解くこと
	3	仕訳と転記	関連する練習問題を解くこと
	4	仕訳帳と元帳	関連する練習問題を解くこと
	5	決算の概要	関連する練習問題を解くこと
	6	現金・現金過不足	関連する練習問題を解くこと
	7	当座預金・当座借越	関連する練習問題を解くこと
	8	小口現金	関連する練習問題を解くこと
	9	商品売買・三分法	関連する練習問題を解くこと
	10	商品有高帳	関連する練習問題を解くこと
	11	売掛金・買掛金	関連する練習問題を解くこと
	12	前払金・前受金	関連する練習問題を解くこと
	13	その他の債権と債務	関連する練習問題を解くこと
	14	その他の債権と債務	関連する練習問題を解くこと
	15	まとめ復習	第2回から第14回までの復習
	16	受取手形と支払手形	関連する練習問題を解くこと
	17	有価証券	関連する練習問題を解くこと
	18	〃	関連する練習問題を解くこと
	19	固定資産	関連する練習問題を解くこと
	20	減価償却	関連する練習問題を解くこと
	21	貸倒損失と貸倒引当金	関連する練習問題を解くこと
	22	資本金と引出金	関連する練習問題を解くこと
	23	収益と費用	関連する練習問題を解くこと
	24	〃	関連する練習問題を解くこと
	25	伝票	関連する練習問題を解くこと
	26	試算表の作成	関連する練習問題を解くこと
	27	〃	関連する練習問題を解くこと
	28	決算整理事項	関連する練習問題を解くこと
	29	精算表の作成	関連する練習問題を解くこと
30	財務諸表の作成	関連する練習問題を解くこと	
31	期末テスト		

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など テキスト：『簿記が基礎からわかる本第3版』清村英之著 同文館出版 電卓必携</p>
	<p>学びの手立て 最初の基本的なルールを理解していないと、全く問題を解けなくなってしまいます。授業を休んでしまったり、理解できないところがあるときは、次の授業までに解消すること。わからないところは、積極的に質問して下さい。</p>
	<p>評価 期末テスト70点、平常点（授業中の課題への取り組み、授業内でのミニテスト等）30点</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 簿記演習、商業簿記Ⅱ、工業簿記など</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	商業簿記Ⅰ	前期	月2・木1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	清村 英之	1年	・研究室：5627室（5号館6階） ・メール：hkiyomura(at)okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	会社の活動を記録し、計算・整理する技術を簿記とといいます。簿記を行うことによって、会社は自己の財産を管理することができ、経営成績（いくらもうかったか）と財政状態（財産や借金がいくらあるか）を知ることができます。この講義では、取引の仕訳から元帳への転記、試算表・精算表・財務諸表の作成にいたる簿記一巡の手続を解説します。	簿記は「ビジネスの言語」といわれており、ビジネスの世界で活躍するためには必須のスキルです。将来の活躍を目指し、このクラスでしっかりと基礎を固めてください。また、この講義は日商簿記検定試験3級の範囲に対応しています。早い段階でチャレンジするといいでしょう。
到達目標	① 簿記の基礎概念を理解し、説明できる。 ② 現金取引、商品売買取引、手形取引などの諸取引を仕訳（記録）できる。 ③ 上記②の諸取引を現金出納帳、仕入帳・売上帳、商品有高帳などに記帳できる。 ④ （小規模）株式会社の損益計算書と貸借対照表を作成できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画	テーマ	時間外学習の内容
	回		
	1	ガイダンス(履修上の注意点の確認等) *時間外学習の内容：テ=テキスト，プ=プリント	シラバスの理解（以下，前/後）
	2	簿記の基礎：簿記の意義	テ3-5頁精読/プ問題の再解答
	3	簿記の基礎：資産・負債・純資産と貸借対照表	テ6-9頁精読/プ問題の再解答
	4	簿記の基礎：収益・費用と損益計算書	テ9-12頁精読/プ問題の再解答
	5	簿記の基礎：取引と勘定	テ12-15頁精読/プ問題の再解答
	6	簿記の基礎：仕訳と転記	テ16-20頁精読/プ問題の再解答
	7	簿記の基礎：仕訳帳と元帳	テ20-23頁精読/プ問題の再解答
	8	簿記の基礎：試算表	テ23-26頁精読/プ問題の再解答
	9	簿記の基礎：精算表	テ35-36頁精読/プ問題の再解答
	10	簿記の基礎：財務諸表の作成	テ26-34頁精読/プ問題の再解答
	11	諸取引の処理：現金・預金①ー現金，現金過不足，小口現金	テ39-47頁精読/プ問題の再解答
	12	諸取引の処理：現金・預金②ー当座預金・当座預金出納帳	テ39-47頁精読/プ問題の再解答
	13	諸取引の処理：商品売買①ー商品売買	テ48-54頁精読/プ問題の再解答
	14	諸取引の処理：商品売買②ー仕入帳・売上帳，商品有高帳	テ48-54頁精読/プ問題の再解答
	15	諸取引の処理：売掛金と買掛金①ー売掛金・売掛金元帳，クレジット売掛金	テ55-60頁精読/プ問題の再解答
	16	諸取引の処理：売掛金と買掛金②ー貸倒れ	テ55-60頁精読/プ問題の再解答
	17	諸取引の処理：手形①ー手形・手形記入帳	テ61-65頁精読/プ問題の再解答
	18	諸取引の処理：手形②ー電子記録債権・電子記録債務	テ61-65頁精読/プ問題の再解答
	19	諸取引の処理：その他の債権・債務	テ66-72頁精読/プ問題の再解答
	20	諸取引の処理：固定資産①ー有形固定資産の取得，減価償却	テ73-77頁精読/プ問題の再解答
	21	諸取引の処理：固定資産②ー有形固定資産の売却，固定資産台帳	テ73-77頁精読/プ問題の再解答
	22	諸取引の処理：株式会社の純資産	テ78-80頁精読/プ問題の再解答
	23	諸取引の処理：税金	テ81-83頁精読/プ問題の再解答
	24	決算：決算整理①ー売上原価の算定，費用・収益の前払い・前受け	テ84-90頁精読/プ問題の再解答
	25	決算：決算整理②ー費用・収益の未払い・未収，貯蔵品の処理	テ84-90頁精読/プ問題の再解答
	26	決算：精算表の作成	テ91-96頁精読/プ問題の再解答
	27	決算：精算表の作成	テ91-96頁精読/プ問題の再解答
	28	決算：財務諸表の作成	テ97-98頁精読/プ問題の再解答
	29	決算：財務諸表の作成	テ97-98頁精読/プ問題の再解答
30	期末テスト	講義内容の復習/テストの再解答	
31	期末テストの返却および講評・解説	講義内容の復習/ー	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト：清村英之『簿記が基礎からわかる本（第3版）』同文館出版，平成31年1月，2,300円（必須）。 ・プリント：テキストの解説プリント，練習問題プリントを配布します。 ・問題集：渡部裕亘他『検定簿記ワークブック3級／商業簿記』中央経済社，平成31年2月，750円（任意）。
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ○履修上の注意事項／心構え： <ul style="list-style-type: none"> ・企業システム学科の学生しか履修できません。 ・例年，遅刻や欠席の多い学生は単位を修得できていません。遅刻・欠席をしないように心がけてください。 ○学びを深めるために： <ul style="list-style-type: none"> ・経済やビジネスに関する新聞記事・ニュースに興味を持ちましょう（新聞は図書館に各紙揃っています）。 簿記の知識が付くにつれて，これらの記事・ニュースが理解できるようになります。
	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常点……20点（講義中の取組みを評価します） ・テスト……80点（上記「到達目標」を評価します。期末テストの他に小テストを3回行う予定です）
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連科目：簿記演習Ⅰ（1年次），商業簿記Ⅱ（1年次）など，会計コースの諸科目

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	商業簿記 I	前期	月2・木1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-上江洲 由正	1年	uezu@tm.u-ryukyu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>我々の社会的・経済的生活にとって絶対に必要な企業の経営活動を情報化する技法である複式簿記の基本的仕組みや原理について、個人企業の経営活動に焦点を当てた商業簿記を中心に講義する。具体的には資産、負債、純資産、収益、費用概念、記帳ルールとプロセス、貸借対照表や損益計算書の作成を中心に講義する。簿記技法の習得を通して経営活動に対する理解を深める。</p>	<p>簿記は授業を聞くだけでは理解できないので、毎回、授業の展開プリントの問題一解答解説という流れで授業を行います。理詰めのわかりやすい授業を心がけますが、分からないことがあればどんなことでもいいので授業中あるいは授業の前後にどんどん質問してください。</p>

到達目標	<p>毎回の授業で練習問題を解いてもらうことにより簿記の技法・知識に対する理解が深まり、また時間外で自主学習でワークブックの練習問題を解いてもらうことにより自律性が涵養されるようになる。さらに企業の経営活動を簿記の技法に基づいて情報化するので、情報リテラシーを高めることができる。日本商工会議所主催の簿記検定3級に合格できる簿記の技法・知識を習得することができるので、簿記検定に合格することにより専門的能力の社会的評価を高めることができる。</p>
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：簿記を学ぶ意義等の説明。	
	2	簿記の基礎概念	参考文献の関連問題を解くこと
	3	資産・負債・純資産と貸借対照表	参考文献の関連問題を解くこと
	4	損益計算書と貸借対照表	参考文献の関連問題を解くこと
	5	簿記の記入法則	参考文献の関連問題を解くこと
	6	経営活動と帳簿記入（仕訳）	参考文献の関連問題を解くこと
	7	経営活動と帳簿記入（仕訳・転記）	参考文献の関連問題を解くこと
	8	帳簿組織（仕訳帳と元帳その1）	参考文献の関連問題を解くこと
	9	帳簿組織（仕訳帳と元帳その2）	参考文献の関連問題を解くこと
	10	証票と伝票（その1）	参考文献の関連問題を解くこと
	11	証票と伝票（その2）	参考文献の関連問題を解くこと
	12	現金預金（その1）	参考文献の関連問題を解くこと
	13	現金預金（その2）	参考文献の関連問題を解くこと
	14	現金預金（その3）	参考文献の関連問題を解くこと
	15	中間総まとめ	参考文献の関連問題を解くこと
	16	中間テスト	
	17	商品売買取引（その1）	参考文献の関連問題を解くこと
	18	商品売買取引（その2）	参考文献の関連問題を解くこと
	19	商品売買取引（その3）	参考文献の関連問題を解くこと
	20	掛取引と人名勘定	参考文献の関連問題を解くこと
	21	手形取引	参考文献の関連問題を解くこと
	22	電子記録債権・債務、クレジット売掛金	参考文献の関連問題を解くこと
	23	その他の債権・債務（その1）	参考文献の関連問題を解くこと
	24	その他の債権・債務（その2）	参考文献の関連問題を解くこと
	25	固定資産取引（その1）	参考文献の関連問題を解くこと
	26	固定資産取引（その2）	参考文献の関連問題を解くこと
	27	株式会社会計	参考文献の関連問題を解くこと
	28	税金	参考文献の関連問題を解くこと
	29	決算整理	参考文献の関連問題を解くこと
30	8桁精算表	参考文献の関連問題を解くこと	
31	期末テスト		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：『簿記の技法とシステム』上江洲由正、大城建夫編著、同文館 参考文献：『検定簿記ワークブック商業簿記3級』、中央経済社</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>履修の心構え：簿記は欠席したら次の授業が全く理解できなくなるので出欠の確認を毎回行う。病気等で休む場合はその日の授業内容を授業計画、時間外学習の内容を参考に必ず自学・自習しておくこと。また、簿記は実際にペンを取り内容を書き留めないと理解できないので、授業内容をしっかりノートに取ることが求められる。さらに商業簿記Iの理解度をより深めるために時間外学習でワークブックの問題を自主的により多く解くことが望まれる。</p>
	<p>評価</p> <p>成績の評価は中間テストおよび期末テストで80%、宿題の提出状況や受講態度など20%で行う。受講態度はまじめに受講しているかどうかを中心に評価する。なお、テキストの持参がないと実質的に授業に参加できないので、その場合は欠席扱いとなる。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>商業簿記Iの発展的学習として上位科目である商業簿記IIの履修を推奨する。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	商業簿記Ⅱ	後期	月2・木1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	清村 英之	1年	・研究室：5627室（5号館6階） ・メール：hkiyomura(at)okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この講義では、前期の「商業簿記Ⅰ」で学んだ簿記の基礎・基本を踏まえ、株式会社会計、本支店会計、連結会計など、一歩進んだ簿記の手続を解説します。	メッセージ (株)リクルート・キャリアの調査によれば、企業が応募者に求める資格のトップ1は日商簿記検定試験2級だそうです（ http://www.r-agent.com/guide/ranking/shikaku/ ）。この講義は2級の範囲に対応しているため、講義内容をしっかり理解し、2年次で工業簿記を学べば、2級にチャレンジできます。早い段階での取得を目指しましょう。
	到達目標 ① リース取引や外貨建取引などの高度な諸取引や、株式会社に固有の諸取引を仕訳（記録）できる。 ② （中規模）株式会社の損益計算書と貸借対照表を作成できる。 ③ 本支店会計の意義を理解し、本支店合併財務諸表を作成できる。 ④ 連結会計の必要性を理解し、連結財務諸表を作成できる。	

学びの準備	到達目標 ① リース取引や外貨建取引などの高度な諸取引や、株式会社に固有の諸取引を仕訳（記録）できる。 ② （中規模）株式会社の損益計算書と貸借対照表を作成できる。 ③ 本支店会計の意義を理解し、本支店合併財務諸表を作成できる。 ④ 連結会計の必要性を理解し、連結財務諸表を作成できる。
-------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス(履修上の注意点の確認等) *時間外学習の内容：テ=テキスト，プ=プリント	シラバスの理解（以下，前/後）
	2	諸取引の処理：現金・預金（2）	テ107-110頁精読/プ問題の再解答
	3	諸取引の処理：商品売買（2）①-割戻し・割引，商品の期末評価	テ111-117頁精読/プ問題の再解答
	4	諸取引の処理：商品売買（2）②-売上原価対立法，収益の認識基準	テ111-117頁精読/プ問題の再解答
	5	諸取引の処理：売掛金・買掛金（2）	テ118-119頁精読/プ問題の再解答
	6	諸取引の処理・手形（2）①-手形の不渡り，手形の更改	テ120-126頁精読/プ問題の再解答
	7	諸取引の処理：手形（2）②-手形の譲渡・割引，営業外手形	テ120-126頁精読/プ問題の再解答
	8	諸取引の処理：その他の債権・債務（2）	テ127-128頁精読/プ問題の再解答
	9	諸取引の処理：有価証券①-売買目的有価証券	テ129-138頁精読/プ問題の再解答
	10	諸取引の処理：有価証券②-満期保有目的の債券，子会社・関連会社株式，その他有価証券	テ129-138頁精読/プ問題の再解答
	11	諸取引の処理：固定資産（2）-①有形固定資産	テ139-150頁精読/プ問題の再解答
	12	諸取引の処理：固定資産（2）-②無形固定資産，投資その他の資産	テ139-150頁精読/プ問題の再解答
	13	諸取引の処理：リース取引	テ151-154頁精読/プ問題の再解答
	14	諸取引の処理：引当金	テ155-160頁精読/プ問題の再解答
	15	諸取引の処理：外貨建取引	テ161-163頁精読/プ問題の再解答
	16	諸取引の処理：純資産（2）①-株式会社の設立・増資，剰余金の配当・処分	テ164-175頁精読/プ問題の再解答
	17	諸取引の処理：純資産（2）②-株主資本の係数の変動，合併	テ164-175頁精読/プ問題の再解答
	18	諸取引の処理：税金（2）	テ176-182頁精読/プ問題の再解答
	19	決算：財務諸表の作成	テ183-195頁精読/プ問題の再解答
	20	決算：財務諸表の作成	テ183-195頁精読/プ問題の再解答
	21	本支店会計：本支店間・支店間の取引	テ196-200頁精読/プ問題の再解答
	22	本支店会計：本支店合併財務諸表の作成	テ201-207頁精読/プ問題の再解答
	23	本支店会計：本支店合併財務諸表の作成	テ201-207頁精読/プ問題の再解答
	24	連結会計：連結財務諸表の目的，投資と資本の相殺消去	テ208-212頁精読/プ問題の再解答
	25	連結会計：開始仕訳，のれんの償却，当期純利益の振替，剰余金の配当	テ213-216頁精読/プ問題の再解答
	26	連結会計：連結会社相互間の債権債務・取引高の相殺消去，未実現利益の消去	テ217-223頁精読/プ問題の再解答
	27	連結会計：連結財務諸表の作成	テ224-230頁精読/プ問題の再解答
	28	連結会計：連結財務諸表の作成	テ224-230頁精読/プ問題の再解答
	29	連結会計：連結財務諸表の作成	テ224-230頁精読/プ問題の再解答
30	期末テスト	講義内容の復習/テストの再解答	
31	期末テストの返却および講評・解説	講義内容の予習/-	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト：清村英之『簿記が基礎からわかる本（第3版）』同文館出版，平成31年1月，2,300円（必須）。 ・プリント：テキストの解説プリント，練習問題プリントを配布します。 ・問題集：渡部裕亘他『検定簿記ワークブック 2級／商業簿記』中央経済社，平成31年3月，750円（任意）。
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ○履修上の注意 <ul style="list-style-type: none"> ・「商業簿記Ⅰ」を履修済みの学生しか登録できません。 ・企業システム学科の学生しか登録できません（1年次を優先します）。 ・例年，遅刻や欠席の多い学生は単位を修得できていません。遅刻・欠席をしないように心がけてください。 ○学びを深めるために： <ul style="list-style-type: none"> ・経済やビジネスに関する新聞記事・ニュースに興味を持ちましょう（新聞は図書館に各紙揃っています）。 簿記の知識が付くにつれて，これらの記事・ニュースが理解できるようになります。
	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常点……20点（講義中の取組みを評価します） ・テスト……80点（上記「到達目標」を評価します。期末テストの他に小テストを3回行う予定です）
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連科目：簿記演習Ⅱ（2年次），工業簿記ⅠⅡ（2年次）など，会計コースの諸科目

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	商業簿記Ⅱ	後期	月2・木1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-上江洲 由正	1年	uezu@tm.u-ryukyu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	われわれの社会的・経済的生活にとって絶対に必要な企業の経営活動を情報化する技法である複式簿記の技法や知識について、株式会社の経営活動に焦点を当てた商業簿記を中心に講義する。具体的には有価証券の特殊取引、収益・費用の計上、株式会社の簿記、リース取引の簿記、企業集団の簿記などを講義し、簿記の技法や知識をさらに深める。	簿記は授業を聞くだけでは理解できないので、毎回、授業の展開プリントの問題一解答解説という流れで授業を行います。理詰めのみならず、わかりやすい授業を心がけますが、分からないことがあればどんなことでもいいので授業中あるいは授業の前後にどんどん質問してください。
到達目標	毎回の授業で練習問題を解いてもらうことにより簿記の技法・知識に対する理解が深まり、また時間外で自主学習でワークブックの練習問題を解いてもらうことにより自律性が涵養されるようになる。さらに企業の経営活動を簿記の技法に基づいて情報化するので、情報リテラシーを高めることができる。日本商工会議所主催の簿記検定2級に合格できる簿記の技法・知識を習得することができるので、簿記検定に合格することにより専門的能力の社会的評価を高めることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画	テーマ	時間外学習の内容
	回		
	1	ガイダンスおよび商業簿記Ⅰの復習	
	2	有価証券（その1）	参考文献の関連問題を解くこと
	3	有価証券（その2）	参考文献の関連問題を解くこと
	4	収益・費用の計上（その1）	参考文献の関連問題を解くこと
	5	収益・費用の計上（その2）	参考文献の関連問題を解くこと
	6	収益・費用の計上（その3）	参考文献の関連問題を解くこと
	7	諸手形取引（その1）	参考文献の関連問題を解くこと
	8	諸手形取引（その2）	参考文献の関連問題を解くこと
	9	固定資産取引	参考文献の関連問題を解くこと
	10	リース取引の記帳（その1）	参考文献の関連問題を解くこと
	11	リース取引の記帳（その2）	参考文献の関連問題を解くこと
	12	リース取引の記帳（その3）	参考文献の関連問題を解くこと
	13	株式会社の簿記（その1）	参考文献の関連問題を解くこと
	14	株式会社の簿記（その2）	参考文献の関連問題を解くこと
	15	株式会社の簿記（その3）	参考文献の関連問題を解くこと
	16	中間テスト	
	17	海外との取引の記帳（その1）	参考文献の関連問題を解くこと
	18	海外との取引の記帳（その2）	参考文献の関連問題を解くこと
	19	海外との取引の記帳（その3）	参考文献の関連問題を解くこと
	20	本支店取引の記帳（その1）	参考文献の関連問題を解くこと
	21	本支店取引の記帳（その2）	参考文献の関連問題を解くこと
	22	本支店取引の記帳（その3）	参考文献の関連問題を解くこと
	23	企業集団の簿記（その1）	参考文献の関連問題を解くこと
	24	企業集団の簿記（その2）	参考文献の関連問題を解くこと
	25	企業集団の簿記（その3）	参考文献の関連問題を解くこと
	26	企業集団の簿記（その4）	参考文献の関連問題を解くこと
	27	企業集団の簿記（その5）	参考文献の関連問題を解くこと
	28	税効果の簿記（その1）	参考文献の関連問題を解くこと
	29	税効果の簿記（その2）	参考文献の関連問題を解くこと
30	総まとめ	参考文献の関連問題を解くこと	
31	期末テスト		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：『簿記の技法とシステム』上江洲由正、大城建夫編著、同文館 参考文献：『検定簿記ワークブック商業簿記2級』、中央経済社</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>履修の心構え：簿記は欠席したら次の授業が全く理解できなくなるので出欠の確認を毎回行う。病気等で休む場合はその日の授業内容を授業計画、時間外学習の内容を参考に必ず自学・自習しておくこと。また、簿記は実際にペンを取り内容を書き留めないと理解できないので、授業内容をしっかりノートに取ることが求められる。さらに商業簿記Iの理解度をより深めるために時間外学習でワークブックの問題を自主的により多く解くことが望まれる。</p>
	<p>評価</p> <p>成績の評価は中間テストおよび期末テストで80%、宿題の提出状況や受講態度など20%で行う。受講態度はまじめに受講しているかどうかを中心に評価する。なお、テキストの持参がないと実質的に授業に参加できないので、その場合は欠席扱いとなる。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>商業簿記Ⅱの発展的学習として上位科目である会計学Ⅰおよび会計学Ⅱの履修を推奨する。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	消費者行動演習	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	2年	原田優也研究室 (5号館5633号室) Email: mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義は、①消費者行動に関する基本的概念である消費者ニーズ・消費者のライフスタイルおよび消費者個人へ与える内的外的要因を紹介する。つぎに、②消費者がブランド品・サービスなどを購入の際、どのような意思決定過程を行うのかを理解する。最後に、③消費者行動に影響を与えるマーケティング活動について事例を調べ、グラス内で発表し、理解することを目的とする。</p>	<p>1) 授業を講義形式とディスカッション形式を採用する。 2) 消費者購買行動を解説しながら、ケーススタディを紹介する。 3) 授業計画は学習状況によって変更することがある 4) 本科目は「消費者行動概論」と連続したプログラムを組んでいる。概論で理論の学習→演習で実習プロジェクトを行うので、「消費者行動概論」とセットで登録することが望ましい。</p>
到達目標	<p>○消費者の購買意思決定プロセス（购买前・購買・購買後）を理解する。 ○企業経営に活かすマーケティング戦略を立案する能力を身に付けること。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>第01回 オリエンテーション (講義の概要説明と授業の受け方の確認)</p> <p>第02回 デジタル消費行動と広告活動・販売促進活動 (資料1を読む)</p> <p>第03回 購買行動と価格設定 (資料1を読む)</p> <p>第04回 購買行動と商品デザイン (資料2を読む)</p> <p>第05回 購買行動とブランド戦略 (資料2を読む)</p> <p>第06回 消費者行動の調査方法1 (定性調査) (定性調査の事例を調べる)</p> <p>第07回 消費者行動の調査方法2 (定量調査) (定量調査の事例を調べる)</p> <p>第08回 研究課題設定 (発表課題の設定) (発表課題に関する情報収集・実施調査)</p> <p>第09回 研究課題1 (ホテル業) (ホテルに関する調査内容の整理・発表準備)</p> <p>第10回 研究課題2 (観光業) (観光に関する調査内容の整理・発表準備)</p> <p>第11回 研究課題3 (外食産業) (外食に関する調査内容の整理・発表準備)</p> <p>第12回 研究課題4 (コンビニ) (コンビニに関する調査内容の整理・発表準備)</p> <p>第13回 研究課題5 (娯楽ビジネス) (娯楽ビジネスに関する調査内容の整理・発表準備)</p> <p>第14回 研究課題6 (特産品) (特産品に関する調査内容の整理・発表準備)</p> <p>第15回 レポート提出 (レポートを作成)</p> <p>第16回 期末試験</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：◇杉本徹雄編 (2012) 『新・消費者理解のための心理学』福村出版 ◇平久保仲人著 (2006) 『消費者行動論』ダイヤモンド社</p> <p>参考書・参考資料等 ◇恩蔵直人監修 (1999) 『コトラーのマーケティング入門』ピアソンエデュケーション ◇Michael R. Solomon [著]、大竹光寿 [ほか]訳 (2015) 『ソロモン消費者行動論』丸善出版 ◇宮本聡介・宇井美代子編 (2014) 『質問紙調査と心理測定尺度—計画から実施・解析まで』サイエンス社</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>履修条件： 1) 「消費者行動概論」とセットで履修してください。 2) 第1週目の授業は必ず出席してください。 3) 積極的に多様なメディア（新聞、TV、インターネット、書籍等）、スーパーマーケット、ショッピングセンターなどで情報を収集してください。</p>
	<p>評価</p> <p>期末試験（30%）、レポート（50%）、平常点（20%）</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>アジア消費・流通論、中小企業マーケティング、グローバルマーケティング総論、専門演習I・II、卒業論文演習I・II</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	消費者行動概論	前期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	2年	原田優也研究室 (5号館5633号室) Email: mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義は、①消費者行動に関する基本的概念である消費者ニーズ・消費者のライフスタイルおよび消費者個人へ与える内的外的要因を紹介する。つぎに、②消費者がブランド品・サービスなどを購入の際、どのような意思決定過程を行うのかを理解する。最後に、③消費者行動に影響を与えるマーケティング活動について事例を調べ、ガラス内で発表し、理解することを目的とする。	1)本科目は「消費者行動演習」と連続したプログラムを組んでいる。概論で理論の学習→演習で実習プロジェクトを行うので、「消費者行動演習」とセットで登録することが望ましい。 2)消費者購買行動を解説しながら、ケーススタディを紹介する。 3)授業計画は学習状況によって変更することがある。

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○消費者の購買意思決定プロセス（购买前・購買・購買後）を理解する。 ○企業経営に活かすマーケティング戦略を立案する能力を身に付けること。
------	---

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <table border="0"> <tr><td>第01回</td><td>オリエンテーション</td><td>(講義の概要説明と授業の受け方の確認)</td></tr> <tr><td>第02回</td><td>消費者行動とは</td><td>(資料1を読む)</td></tr> <tr><td>第03回</td><td>消費者購買行動とマーケティング</td><td>(資料1を読む)</td></tr> <tr><td>第04回</td><td>消費者購買行動分析</td><td>(資料2を読む)</td></tr> <tr><td>第05回</td><td>消費者購買行動モデル</td><td>(資料2を読む)</td></tr> <tr><td>第06回</td><td>購買意思決定プロセス</td><td>(資料3を読む)</td></tr> <tr><td>第07回</td><td>内的要因 (学習)</td><td>(資料4を読む)</td></tr> <tr><td>第08回</td><td>内的要因 (動機付け)</td><td>(資料5を読む)</td></tr> <tr><td>第09回</td><td>内的要因 (パーソナリティ)</td><td>(資料6を読む)</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>内的要因 (認識、関与)</td><td>(資料7を読む)</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>外的要因 (文化)</td><td>(資料8を読む)</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>外的要因 (社会階層)</td><td>(資料9を読む)</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>外的要因 (家族、準拠集団など)</td><td>(資料10を読む)</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>消費者満足 of 仕組み</td><td>(資料11を読む)</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>購買後の消費行動</td><td>(レポートを作成)</td></tr> <tr><td>第16回</td><td>期末試験</td><td></td></tr> </table>	第01回	オリエンテーション	(講義の概要説明と授業の受け方の確認)	第02回	消費者行動とは	(資料1を読む)	第03回	消費者購買行動とマーケティング	(資料1を読む)	第04回	消費者購買行動分析	(資料2を読む)	第05回	消費者購買行動モデル	(資料2を読む)	第06回	購買意思決定プロセス	(資料3を読む)	第07回	内的要因 (学習)	(資料4を読む)	第08回	内的要因 (動機付け)	(資料5を読む)	第09回	内的要因 (パーソナリティ)	(資料6を読む)	第10回	内的要因 (認識、関与)	(資料7を読む)	第11回	外的要因 (文化)	(資料8を読む)	第12回	外的要因 (社会階層)	(資料9を読む)	第13回	外的要因 (家族、準拠集団など)	(資料10を読む)	第14回	消費者満足 of 仕組み	(資料11を読む)	第15回	購買後の消費行動	(レポートを作成)	第16回	期末試験	
	第01回	オリエンテーション	(講義の概要説明と授業の受け方の確認)																																														
第02回	消費者行動とは	(資料1を読む)																																															
第03回	消費者購買行動とマーケティング	(資料1を読む)																																															
第04回	消費者購買行動分析	(資料2を読む)																																															
第05回	消費者購買行動モデル	(資料2を読む)																																															
第06回	購買意思決定プロセス	(資料3を読む)																																															
第07回	内的要因 (学習)	(資料4を読む)																																															
第08回	内的要因 (動機付け)	(資料5を読む)																																															
第09回	内的要因 (パーソナリティ)	(資料6を読む)																																															
第10回	内的要因 (認識、関与)	(資料7を読む)																																															
第11回	外的要因 (文化)	(資料8を読む)																																															
第12回	外的要因 (社会階層)	(資料9を読む)																																															
第13回	外的要因 (家族、準拠集団など)	(資料10を読む)																																															
第14回	消費者満足 of 仕組み	(資料11を読む)																																															
第15回	購買後の消費行動	(レポートを作成)																																															
第16回	期末試験																																																
<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：◇杉本徹雄編 (2012) 『新・消費者理解のための心理学』福村出版 ◇平久保仲人著 (2006) 『消費者行動論』ダイヤモンド社</p> <p>参考書・参考資料等 ◇恩蔵直人監修 (1999) 『コトラーのマーケティング入門』ピアソンエデュケーション ◇Michael R. Solomon [著]、大竹光寿 [ほか]訳 (2015) 『ソロモン消費者行動論』丸善出版 ◇宮本聡介・宇井美代子編 (2014) 『質問紙調査と心理測定尺度—計画から実施・解析まで』サイエンス</p>																																																	

学びの手立て	<p>1) 第1回目の授業に必ず出席すること。</p> <p>2) 積極的に多様なメディア（新聞、TV、インターネット、書籍等）、スーパーマーケット、ショッピングセンターなどで情報を収集してください</p>
--------	---

評価	<p>期末試験 (30%)、レポート (50%)、平常点 (20%)</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>アジア消費・流通論、中小企業マーケティング、グローバルマーケティング総論、グローバルマーケティング演習、専門演習I・II、卒業論文演習I・II</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	商法	前期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	清水 太郎	3年		

学びの準備	ねらい 商法を2単位で賄うのは困難である。そこで、私たちの身近な保険の分野に限定して講義を行う。	メッセージ 通学に自動車を用いている学生もいるが、その保険はどうなっているのか等、具体的な事例をもって、保険法を解説する。
	到達目標 保険法の基本概念を理解して、各自が保険についての理解を深める。	

学びの準備	到達目標 保険法の基本概念を理解して、各自が保険についての理解を深める。
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	保険法総論	テキストP1～P17を読む。
	2	保険契約総論	テキストP18～P41を読む。
	3	被保険利益	テキストP42～57を読む。
	4	告知義務	テキストP58～P78を読む。
	5	損害保険契約総論	テキストP79～P108を読む。
	6	保険代位	テキストP109～P118を読む。
	7	損害保険の免責事由	テキストP119～P137を読む。
	8	責任保険	テキストP138～P152を読む。
9	自動車保険(1)－自賠責保険	テキストP153～P174を読む。	
10	自動車保険(2)－任意自動車保険	テキストP175～P195を読む。	
11	生命保険契約	テキストP196～P222を読む。	
12	保険金受取人	テキストP223～P246を読む。	
13	生命保険の免責事由	テキストP247～P259を読む。	
14	傷害疾病保険	テキストP260～P276を読む。	
15	保険監督法	テキストP277～P302を読む。	
16	試験		
実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト 甘利公人＝福田弥夫＝遠山聡『ポイントレクチャー保険法〔第2版〕』（2017年・有斐閣） 適宜、資料を配布する。		
	学びの手立て 講義に出席して、予習・復習を欠かさないこと。		
	評価 試験100%（予定）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 法学部の保険・海商法でもう少し深掘りした講義を行う予定である。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報概論	前期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	1年	matayosi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	現代における情報化社会において、多種多様な情報が存在する。そして、これらの情報は効率よく利用されなければ、情報本来の意味を持たない。ここで、計算機（コンピュータ）の存在は必要不可欠なものとなるが、多くの情報は計算機によって生産、加工、蓄積されている。本講義では、計算機の歴史、仕組み、論理演算、発展を通して、情報とその利用法との関わりについて学ぶ。	コンピュータは、今や生活の上でなくてはならないものです。スマホは、小さいけど強力なコンピュータです。これらを支える基本的な技術やそれらが育まれた歴史などを学ぶことは、重要です。また、昨今のAIや量子コンピュータなどについてもその概要を講義します。 30分以上の遅刻は、欠席扱いとします。
到達目標	デジタル化によるコンピュータを用いた情報処理について、概要をしっかりと把握する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	授業共有ファイル
	2	計算機の歴史	授業共有ファイル
	3	計算機の構造	授業共有ファイル
	4	符号化	授業共有ファイル
	5	論理演算	授業共有ファイル
	6	論理演算の回路	授業共有ファイル
	7	トランジスタの基本的な仕組み	授業共有ファイル
	8	CPUの仕組みと構造	授業共有ファイル
	9	コンピュータの種類と用途 その1	授業共有ファイル
	10	コンピュータの種類と用途 その2	授業共有ファイル
	11	プログラムの仕組み その1	授業共有ファイル
	12	プログラムの仕組み その2	授業共有ファイル
	13	ソフトウェアとハードウェア その1	授業共有ファイル
14	ソフトウェアとハードウェア その2	授業共有ファイル	
15	コンピュータの最先端と未来	授業共有ファイル	
16	期末試験	授業共有ファイル	
テキスト・参考文献・資料など	テキスト：毎回講義で使用するパワーポイントをテキストとします（ポータルにアップロードします）。 参考文献：「コンピュータの動く仕組み」、日東書院、音葉哲・大槻有一郎、情報科学入門（日本理工出版会、佐々木良一、他 著）、その他。		
学びの手立て	授業共有ファイルにアップロードされている、パワーポイントやPDFファイルの電子テキストを勉強して下さい。		
評価	期末試験：100%。 授業態度：他の学生への迷惑、並びに授業を妨げるような言動がある場合、不可とし、以降の授業の参加を認めない。（例：おしゃべり等）。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 プログラミングB
-------	-------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報リテラシー演習	後期	水 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	仲地 健	1年	研究室：5636 E-mail：knakachi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 情報化社会においては、単にコンピュータが使えるのではなく、目的に応じて柔軟に対応できることが必要となる。本講義では、ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフトウェアの技能を身につけた者を対象として、ウェブサイト作成（HTML）を学ぶ。	メッセージ HTML及びCSSに関する基本的な知識を本演習を通してしっかり身につけて欲しい。
	到達目標 演習を通してウェブサイト作成に必要な技術を習得し活用できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	HTMLの基礎	当該講義の演習／次回講義の予習
	3	文字のデザイン・カラーコード	当該講義の演習／次回講義の予習
	4	リンク	当該講義の演習／次回講義の予習
	5	スタイルシート	当該講義の演習／次回講義の予習
	6	画像の加工方法	当該講義の演習／次回講義の予習
	7	テーブル	当該講義の演習／次回講義の予習
	8	フォーム	当該講義の演習／次回講義の予習
	9	フレーム	当該講義の演習／次回講義の予習
	10	ギャラリーページ	当該講義の演習／次回講義の予習
	11	タグ以外のテクニック①	当該講義の演習／次回講義の予習
	12	タグ以外のテクニック②	当該講義の演習／次回講義の予習
	13	タグ以外のテクニック③	当該講義の演習／次回講義の予習
	14	課題の実習①	当該講義の演習／次回講義の予習
15	課題の実習②	当該講義の演習／次回講義の予習	
16	プレゼンテーション	当該講義の演習／次回講義の予習	
	テキスト・参考文献・資料など 開講時に指定する。		
	学びの手立て 他の受講生の妨げになるような行為は厳禁。 場合によっては、退室を求めます。		
	評価 課題点80%、授業への参加態度20%により評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 プログラミング演習B
-------	---------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人的資源管理論Ⅰ	前期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩橋 建治・井川 浩輔	2年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>企業は様々な活動を行うために、ヒトを採用して、育成して、評価して、報酬を与えている。そこで本講義では、企業における人的資源管理のあり方について、採用・育成・評価・報酬等の切り口から理論的・実践的に議論する。</p>	<p>担当教員が人的資源管理に関する理論や概念を説明し、受講生が人事コンサルタントとして個人やチームでその理論や概念を用いて映像における行動を分析しながら実践的なアイデアを考える。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人的資源管理の基礎知識が理解できているか 2. 自分自身の考えを述べているか 3. 他の受講生と建設的な議論ができているか 4. 映像中の組織現象を分析して説明できているか 	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
		回	テーマ
		1	人的資源管理（人事管理・労務管理）とは 岩橋
		2	職務と組織の設計（1）職務設計 岩橋
		3	職務と組織の設計（2）組織設計 岩橋
		4	人事コンサルタントとは？ 井川
		5	人事コンサルタントとして実施する行動分析 井川
		6	仕事をデザインする方法 井川
		7	仕事のデザインに関する行動分析 井川
		8	採用をマネジメントする方法 井川
		9	採用のマネジメントに関する行動分析 井川
		10	ヒトを育成する方法 井川
		11	ヒトの育成に関する行動分析 井川
		12	人材を評価する方法 井川
		13	人材の評価に関する行動分析 井川
		14	報酬をマネジメントする方法 井川
		15	報酬のマネジメントに関する行動分析 井川
		16	期末試験 井川
	時間外学習の内容	<p>講義内容の復習</p> <p>職務設計に関する学習</p> <p>組織設計に関する学習</p> <p>人事コンサルタントに関する学習</p> <p>人事コンサルタントに関する学習</p> <p>仕事のデザインに関する学習</p> <p>仕事のデザインに関する学習</p> <p>採用のマネジメントに関する学習</p> <p>採用のマネジメントに関する学習</p> <p>ヒトの育成に関する学習</p> <p>ヒトの育成に関する学習</p> <p>人材の評価に関する学習</p> <p>人材の評価に関する学習</p> <p>報酬のマネジメントに関する学習</p> <p>報酬のマネジメントに関する学習</p> <p>講義内容の復習</p>	
	テキスト・参考文献・資料など	適宜資料を配付する。	
	学びの手立て	<p>人的資源管理に関連する具体的な経験や問題意識をもっていること。ここでの経験や問題意識とは、例えば、「アルバイト先で離職者が多く業務に支障をきたしている」というような経験である。授業を欠席したり遅刻したりしないこと。欠席や遅刻、途中退出が多い受講生に単位を与えることはできない。</p>	
	評価	学習課題5点×10回+期末試験50点=100点	

学びの継続	次のステージ・関連科目
	人的資源管理論Ⅱ，中小企業経営論，および経営コースの各科目

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人的資源管理論Ⅱ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩橋 建治	2年	kiwahashiアットまーくoku.ac.jp	

学びの準備	ねらい 組織のなかの人間行動への理解を深める。人的資源管理（人事管理・労務管理）の諸制度とその動向を検討したうえで、職場における「ひと」の働きに関する諸理論を学ぶ。	メッセージ 人間関係はなぜ重要なのか、どうすれば働く気になるのか、効果的なリーダーシップとはどのようなものか、人々を統合する企業理念とはいかなるものか、個人と組織との一体化にはどのような長所と短所があるのか、そして組織への愛着と誇りはいかにして生まれるのか、などのような問いについて考えていく。
	到達目標 ①働く場で生じる諸問題を理解する。②問題を解決しようとする際に生じるジレンマを知る。③業種・職種・その他状況に即した問題解決を提案できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	制度 (1) 賃金①	賃金制度の学習
	2	制度 (2) 賃金②	賃金制度の学習
	3	制度 (3) 昇進管理①	昇進管理制度の学習
	4	制度 (4) 昇進管理②	昇進管理制度の学習
	5	制度 (5) キャリアと人材育成①	人材育成制度の学習
	6	制度 (6) キャリアと人材育成②	キャリア発達の学習
	7	組織 (1) 働く動機づけ (モチベーション) ①	モチベーションの学習
	8	組織 (2) 働く動機づけ (モチベーション) ②	モチベーションの学習
	9	組織 (3) リーダーシップ	リーダーシップ論の学習
	10	組織 (4) 組織文化・企業理念①	組織文化論の学習
	11	組織 (5) 組織文化・企業理念②	組織文化論の学習
	12	組織 (6) 組織学習	組織学習論の学習
	13	組織 (7) チームワーク	チームワーク論の学習
	14	グループディスカッション	学習内容をまとめる
15	期末試験	学習成果をまとめる	
16	後期のまとめ	学習成果をまとめる	
	テキスト・参考文献・資料など 適宜プリントを配布する。		
	学びの手立て 現実を多様な角度からとらえることが大切である。「ひと」を扱う研究の性質上、心理学・社会学の理論も多用される。		
	評価 期末試験 (80%)、中間レポート (20%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 人的資源管理論Ⅰ、企業者史、および経営コースの各科目。
-------	--

※ポリシーとの関連性 フィールドワークを通じて、ビジネス課題への取り組みを通して、理解力・表現力・問題解決能力を身につける。

[/ 演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	木 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	3年	原田優也研究室 (5633) mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	マーケティングのビジネス環境、広告活動、地域消費者、地域物流などに触れ、観察や聞き取り調査などを行うことによって、ビジネス仕組み、マーケティングの仕組みを学ぶことが重要な技法の一つとされている。フィールドワークを通じて、マーケティングの楽しさを体験してもらうことが本科目の目的である。	演習、実習の形式を併用して授業を行う。 マーケティングコースの礎演習I・IIの単位取得者が望ましい。

到達目標	1) ビジネス課題を発見し、調査目的・調査方法・調査活動・分析方法などを企画できる基礎能力を育成する。 2) ビジネス課題に対して、自分で考える力を身につける。 3) 調査報告書・レポートおよび卒業論文計画書の作成能力を身につける。
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・ゼミ運営の紹介	卒論テーマの選定1
	2	卒業論文テーマの計画案(観光マーケティング、消費行動分析、商品開発、広告戦略など)	卒論テーマの選定2
	3	フィールドワークのビジネス課題①	ビジネス課題に関する情報収集
	4	フィールドワークのビジネス課題②	卒論テーマの選定3
	5	現地調査の準備① 文献調査1	文献・関連資料の収集 1
	6	現地調査の準備② 文献調査2	文献・関連資料の収集 2
	7	現地調査の準備③ 研究テーマの問題提起や仮説の設定1	仮説設定の復習1
	8	現地調査の準備④ 研究テーマの問題提起や仮説の設定2	仮説設定の復習2
	9	現地調査の準備⑤ 調査方法の設定(アンケート調査、視察調査、インタビュー調査)	研究方法の計画1
	10	現地調査の準備⑥ 調査実施計画の検討と関係機関への事前連絡	研究方法の計画2
	11	フィールドワークの実施①	現地視察の計画1
	12	フィールドワークの実施②	現地視察の計画2
	13	フィールドワークの実施③	現地視察の計画3
	14	現地調査のプレゼンテーション①	発表の準備1
15	現地調査のプレゼンテーション②	発表の準備2	
16	まとめ・中間報告書の提出	調査報告書の作成	

テキスト・参考文献・資料など	◇フィリップ・コトラー、ヘルマワ・カルタジャヤ・ホイ・デンファン(2007)『ASEANマーケティング』McGrawHill ◇恩蔵直人監修(1999)『コトラーのマーケティング入門』ピアソンエデュケーション ◇田中洋(2008)『消費者行動論体系』中央経済社、◇その他使用テキストについては講義中に紹介します
----------------	---

学びの手立て	【履修の心構え】 1) 第1回目の授業は必ず出席すること。 2) フィールドワークに必ず参加すること。 3) 授業に参加し、積極的に学ぶ姿勢(報告に対する質疑応答、パティシペーションなど)が必要である。
--------	--

評価	フィールドワークへの取り組み方(30%)、グループレポートの内容(30%)、プレゼンテーションの内容と討論(40%)で総合的に評価する。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージ: マーケティングコースの専門演習II、卒業論文演習I・II
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	月 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	佐久本 朝一	3年	当該演習科目の前後に直接問い合わせること。	

学びの準備	ねらい ベンチャービジネスとして独立開業を目指すのに重要な経営計画書の作成や商品開発能力の育成に関する実習も行う予定である。	メッセージ 国際ビジネスを学ぶ
	到達目標 比較経営および日本企業におけるコミュニケーション能力や情報化の基礎的な理論を学んでいく。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	毎回各自に割り当てられた経営学に関するテーマを発表する。	関連図書の下調べ
	2	海外にての実地調査の計画	希望する海外地域の理解
	3	海外調査の内容を各自で発表し、期日までに報告書を提出する。	報告書の書き方
	4	各自で選んだテーマにつき全員でディスカッションする	プレゼンテーションの方法
	5	マイケルポーターの競争戦略について	3つの競争戦略
	6	コストリーダーシップ戦略	少種大量生産
	7	差別化戦略	多品種少量生産
	8	集中戦略	NO1 戦術
9	5つの競争要因について	業界の競争要因	
10	新規参入の脅威	企業の適切な戦略について	
11	供給業者の敵対関係	サプライチェーン	
12	買い手の交渉力	アマゾンの企業戦略について	
13	代替品の脅威	商品のライフサイクルについて	
14	売り手の交渉力	企業の特許戦略について	
15	日本の競争戦略	日本的経営の特質について	
16	日本的経営	三種の神器について調べる	
	テキスト・参考文献・資料など 佐久本 朝一著『国際経営の基礎知識』国際経営研究所		
	学びの手立て 各自のテーマに応じて、図書館にて関連図書を一読することが重要である。		
	評価 各自の演習時の議論の内容（50点）や海外調査の報告書（25点）および論文の提出（25点）によって評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 外書講読、比較経営論 I、II
-------	--------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	火 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	清村 英之	3年	・研究室：5627室（5号館6階） ・メール：hkiyomura(at)okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この演習では、「使える会計知識」「役に立つ会計技法」を身に付けることを目指して、会計が現代の経済社会の中でどのような役割を果たしているのか、会計の知識を得ることで何ができるのかを学びます。ただし、会計データの使い方を学ぶためには、その作り方を知らなければならないので、この一年間は会計データの作り方に重点を置きます。	3年生になると、そろそろ就活が気になります。清村ゼミ・オリジナルの自己分析シートへの記入や、4年生・OBOG（卒業生）との交流などを通じて、就職への意識を高めていきます。
到達目標	① 財務諸表の社会的役割や会計理論・制度を理解し、説明できる。 ② PCを利用した情報収集・分析能力を身に付ける。 ③ 経営分析を行うために必要なスキルを身に付ける。 ④ 適切で分かり易いレジュメを作成し、効果的に発表できる。 ⑤ 他者の発表を聞き、討論するためのコミュニケーション能力を身に付ける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） ○授業計画 ・3～4人のグループを作り、グループで分析する業界と個人で分析する企業を選択します。2017年度のゼミ生が選んだ業界・企業は、以下のとおりです。 Aグループ：化粧品（資生堂、コーセー、ファンケル、ポーラ） Bグループ：自動車（日産、スバル、スズキ、三菱） Cグループ：外食（ゼンショー、サイデリア、ジョイフル、ロイヤル） Dグループ：製菓（グリコ、不二家、ブルボン、森永製菓） Eグループ：テレビ（フジ、TBS、日テレ、テレ朝） ・インターネット等を利用して企業情報（特に会計情報）を収集し、様々な手法を用いてこれを分析し、その結果を発表します（この一年間は貸借対照表と損益計算書の趨勢分析を行います）。 ・資産会計、負債会計、純資産会計、収益会計、費用会計などのテーマを各グループに割り振り、その発表と討論を通じ、会計学の理解を深めます（「授業のねらい」にも書いたように、この一年間は会計データの作り方の学習に重点を置きます）。 ・「専門演習 I」では、資産会計、負債・純資産会計、収益・費用会計をA～Cグループに割り振り、発表・討論を行います。 ・授業は「発表→発表に対するディスカッション（テーマによってはディベート）」の形式で進めます。 ○時間外学習の内容 ・グループワークに多くの時間が割かれます。 ・各時間ごとに、発表者（グループ）は発表のための準備に多くの時間外学習が求められます。 ・各時間ごとに、発表者（グループ）以外の学生は発表を聞いて討論するための準備に多くの時間外学習が求められます。 ・割り振られたテーマを分かり易く発表しなければならないので、各自、プレゼンテーション能力を高める必要があります。
	テキスト・参考文献・資料など ・テキスト：使用しません ・参考文献：講義中に紹介します。
	学びの手立て 次のような学生を希望します。 ・遅刻や欠席をしない人。 ・ゼミの時間に積極的に発言できる人。 ・ゼミの行事を優先し、ゼミ会、ゼミ合宿、学祭などに参加できる人。2017年度のゼミ生が行ったゼミ会は、以下のとおりです。 4月：ゼミ歓迎会、5月：体育祭、6月：3・4年生合同飲み会、7月：前期打上げ、 8月：3・4年生合同BBQ、10月：OBOG会、11月：学祭、12月：クリスマス、 1月：セミナーハウスでの合宿、2月：運動会
	評価 ・平常点……50点（上記「到達目標④⑤」を評価します） ・課題……50点（上記「到達目標①②③」を評価します）

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：経営分析・同演習（3年次）、財務会計 I II（3年次）など、会計コースの諸科目
-------	--

※ポリシーとの関連性 実務で活かせる理論と応用を学ぶ。自分で考えて、自ら動いていく力を付ける。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	3年	miyamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業を通して、大学で学んだ理論を実際のビジネス活動に応用する力をつける。また、積極的に授業やプロジェクトに参加して、協業して目標を成し遂げる経験を積む。	メッセージ ゼミの仲間は一生の友達となります。一緒に苦労した仲間として卒業後もつながっていきましょう。このゼミはプロジェクトおよび就職活動でかなり忙しいゼミとなります。これを乗り切って社会で通用する実力を付けましょう。
	到達目標 1. マーケティングの理論を幅広く、深く知る。 2. 学んだ理論を実務の諸現象に応用できる。 3. 実務において社会人とマーケティング用語を駆使して議論できる。 4. 自分で考え、自分で動けるようになる。 5. ゼミの仲間たちと力を合わせてプロジェクトを完遂させることを経験する。	

学びの準備	到達目標 1. マーケティングの理論を幅広く、深く知る。 2. 学んだ理論を実務の諸現象に応用できる。 3. 実務において社会人とマーケティング用語を駆使して議論できる。 4. 自分で考え、自分で動けるようになる。 5. ゼミの仲間たちと力を合わせてプロジェクトを完遂させることを経験する。
-------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	プロジェクトのテーマ設定 1	テーマの探索
	3	プロジェクトのテーマ設定 2	テーマの探索
	4	企業側と打ち合わせ 1	打ち合わせ準備
	5	企業側と打ち合わせ 2	打ち合わせ準備
	6	企業を取り巻く環境の調査 1	図書館訪問
	7	企業を取り巻く環境の調査 2	県庁情報公開室訪問
	8	企業を取り巻く環境の調査 3	企業訪問
	9	中間発表 1	発表準備
	10	中間発表 2	発表準備
	11	顧客の意識調査	学外調査
	12	競合調査	学外調査
	13	流通ルートの調査	学外調査
	14	報告書作成 1	作成準備
15	報告書作成 2	プレゼン準備	
16	プレゼンテーション	プレゼン反省	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特になし。参考文献は授業の中で適時指定していく。資料は必要な時に配布予定。
-------	--

学びの実践	学びの手立て 履修の心構え： ①出席・授業への積極的参加を強く求める、②自分から動く、③課題提出は期日を守る、④ゼミ仲間を助ける。 学びを深めるために： ①マーケティング科目を多く履修する、②マーケティング関連文献を読む、③日経MJを読む。
-------	--

学びの実践	評価 評価は次の項目の総合的な観点から行われる。 ①平常点 (10点) ②報告書とそのプレゼンテーション内容 (70点) ③レポート (5点) ④豆テスト (5点) ⑤課題提出 (10点)
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 マーケティング関連科目を多く受講すること。自らマーケティングに関連した書籍を読むこと。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	3年	第5-603番教室(研究室)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>年間テーマを、「経営管理論」とする。本演習は3年次前期科目2.0単位、3年次後期科目2.0単位、合計4.0単位からなっている。経営学の基本的概念を正確に理解するために、毎回テーマを決めて討論する。このほかに、各自がそれぞれ好きなテーマ（経営学の諸分野の中から）と好きな地域を決めて、その地域の経営の実状についてくわしく調べる。</p>	<p>なお演習のイベント（ゼミ合宿・学園祭・コンパ）への学生諸君の積極的な参加を期待する。</p>
到達目標	演習の単位論文が、執筆できるようになる。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>本演習の展開は、つぎのように予定している。</p> <p>（演習の展開計画）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> <th>時間外学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>演習のすすめ方、評価のしかた</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>2</td><td>研究対象</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>3</td><td>研究対象</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>4</td><td>アメリカ経営学</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>5</td><td>（ゼミ合宿・必修）</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>6</td><td>ドイツ経営学</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>7</td><td>ドイツ経営学</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>8</td><td>企業論</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>9</td><td>企業論</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>10</td><td>経営管理</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>11</td><td>経営管理</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>12</td><td>意思決定</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>13</td><td>意思決定</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>14</td><td>経営戦略</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>15</td><td>（レポート提出・必修）</td><td>演習中に指示する</td></tr> </tbody> </table>	回数	内容	時間外学習	1	演習のすすめ方、評価のしかた	演習中に指示する	2	研究対象	演習中に指示する	3	研究対象	演習中に指示する	4	アメリカ経営学	演習中に指示する	5	（ゼミ合宿・必修）	演習中に指示する	6	ドイツ経営学	演習中に指示する	7	ドイツ経営学	演習中に指示する	8	企業論	演習中に指示する	9	企業論	演習中に指示する	10	経営管理	演習中に指示する	11	経営管理	演習中に指示する	12	意思決定	演習中に指示する	13	意思決定	演習中に指示する	14	経営戦略	演習中に指示する	15	（レポート提出・必修）	演習中に指示する
	回数	内容	時間外学習																																														
	1	演習のすすめ方、評価のしかた	演習中に指示する																																														
	2	研究対象	演習中に指示する																																														
3	研究対象	演習中に指示する																																															
4	アメリカ経営学	演習中に指示する																																															
5	（ゼミ合宿・必修）	演習中に指示する																																															
6	ドイツ経営学	演習中に指示する																																															
7	ドイツ経営学	演習中に指示する																																															
8	企業論	演習中に指示する																																															
9	企業論	演習中に指示する																																															
10	経営管理	演習中に指示する																																															
11	経営管理	演習中に指示する																																															
12	意思決定	演習中に指示する																																															
13	意思決定	演習中に指示する																																															
14	経営戦略	演習中に指示する																																															
15	（レポート提出・必修）	演習中に指示する																																															
<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>（テキスト）未定</p> <p>（参考文献）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 古在由重（編）『哲学小辞典』岩波書店。 ・ 小川英次ほか（編）『経営学の基礎知識』有斐閣。 ・ 日録刊行会（編）『経営図書総目録2019』東販。 																																																	
<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 演習科目なので、休まず出席してください。 ・ 積極的に多様なメディア（書籍、雑誌、新聞、TV等）で、情報を収集してください。 																																																	
<p>評価</p> <p>演習への参加態度(45%)、課題提出(10%)、レポート提出等(45%)によって、総合評価する。</p>																																																	

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>専門演習II</p>
-------	----------------------------------

※ポリシーとの関連性

課題への取り組みを通して、深い専門性に加え、「理解力」「表現力」「問題解決能力」を身につける。

[/ 演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	3年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①卒論執筆に必要とされる技能の習得。 ②グループワーク、フィールドワークの実践。 ③卒論執筆にむけて各自の研究に対する問題意識の明確化。</p>	<p>本演習では基礎文献の購読を通じて、日本型流通の近現代史を学ぶと同時に、レジュメ作成や報告方法を訓練し、卒業論文作成に必要な技能を習得する。 また、沖縄県内の商店街におけるフィールドワークを行い、中心市街地活性化について学生の視点から問題解決のための提言をまとめることを目的とする。</p>
到達目標	<p>①商業と都市・市場の発展に関わる問題への興味関心を喚起する。 ②これまでに習得したマーケティング・流通に関する知識の活用と応用。 ③レポート・論文執筆および口頭報告のための基礎・応用能力の習得。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス, 自己紹介	テキストの準備
	2	レジュメ作成ならびに報告スライド作成について	簡易レポートの作成
	3	資料・文献収集の方法について	図書館の利用方法の習得
	4	課題発見のための商店街散策	商店街の課題について調査
	5	テキスト報告①/フィールドワーク①: 商店街の課題整理	商店街の課題についてまとめる
	6	テキスト報告②/フィールドワーク②: 地域経済の歴史と現状	地域経済の歴史をまとめる
	7	テキスト報告③/フィールドワーク③: 地域小売業の現状	地域小売業の現状をまとめる
	8	テキスト報告④/フィールドワーク④: プロジェクトテーマの設定	プロジェクトテーマの決定
	9	テキスト報告⑤/フィールドワーク⑤: 関係各所との調査内容打ち合わせ	調査内容の打ち合わせ
	10	フィールドワーク⑥: 商店街の実地調査①	グループによる共同調査作業
	11	フィールドワーク⑦: 商店街の実地調査②	グループによる共同調査作業
	12	フィールドワーク⑧: 商店街の実地調査③	グループによる共同調査作業
	13	フィールドワーク⑨: 経過報告①	経過報告レジュメ・スライド作成
14	フィールドワーク⑩: 経過報告②	経過報告レジュメ・スライド作成	
15	調査報告書作成にむけて	夏季休暇中の作業確認	
16	卒業論文作成にむけて	卒業論文の研究テーマ設定	
テキスト・参考文献・資料など	<p>【使用テキスト】: 講義中に使用するテキストのため、毎回持参すること。 ・満蘭勇 (2015) 『商店街はいま必要なのか「日本型流通」の近現代史』講談社現代新書 (講談社) ・久繁哲之介 (2013) 『商店街再生の畏一売りたいモノから、顧客がしたいコトへ』ちくま新書 (筑摩書房)</p>		
学びの手立て	<p>【履修の心構え】 ①無断欠席や遅刻は厳禁とする。 ②やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前に担当教員に連絡をすること。 ③フィールドワーク実施のためのスケジュール管理は怠らないこと。 ④担当教員に対して経過報告を逐一行うこと。 ⑤ゼミ生相互の交流や情報交換は密に行うこと。</p>		
評価	<p>【成績評価の内訳】 (100%) 課題テキスト報告 (20%) : 期限までに必ず報告を行うこと。 FW・テーマ設定 (20%) : 期限までに必ず報告を行うこと。 FW・先行研究整理 (40%) : 期限までに必ず報告を行うこと。 FW・経過報告 (20%) : 期限までに必ず報告を行うこと。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>より専門性を有するテーマについて、自らで調査・分析・考察を行うことができる技能を養う。4年次の卒業論文演習 I に向けて、履修学生が興味関心を持つ研究テーマ・問題意識を引き出す。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性 専攻する分野の専門的な知識・理論・技術を習得する。

[/ 演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	月 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩橋 建治・天野 敦央	3年	演習中の質問時間(14:20~14:30)に、応じる。	

学びの準備	ねらい 人的資源管理を中心とした、経営学に関するテキストの輪読、報告および討論を行うことで、卒業論文執筆に向けて専門的な知識・理論を習得する。	メッセージ 好きになれるテーマや事例を見つけることが最重要。納得のいくまで悩んでほしい。何を書いたらいいか分からないときは、とにかくいろいろ読んでみる。
	到達目標 前期ゼミ終了までに個々の卒業論文の仮構成・仮タイトルを決定する。参考として、18年度受講生が扱ったテーマは以下のとおり。モチベーション、リーダーシップ、チームワーク、人材育成、働き方改革、イノベーション、ベンチャー、観光業界、音楽業界、動画コンテンツ業界、人工知能、地域活性化、など。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	はじめに： 専門演習・卒業論文演習での学びについて	前期課題を各自考える
	2	報告資料の準備について： 作成から印刷・配付まで	報告の段取りを確実に
	3	前期課題文献の割り振りとプレゼンテーションの方法について	プレゼンの方法を知る
	4	文章構造の理解と要約	読解力を高める
	5	前期課題文献のプレゼンテーションと討論	報告後のレポート作成
	6	前期課題文献のプレゼンテーションと討論	報告後のレポート作成
	7	前期課題文献のプレゼンテーションと討論	報告後のレポート作成
	8	前期課題文献のプレゼンテーションと討論	報告後のレポート作成
9	前期課題文献のプレゼンテーションと討論	報告後のレポート作成	
10	前期課題文献のプレゼンテーションと討論	報告後のレポート作成	
11	前期課題文献のプレゼンテーションと討論	報告後のレポート作成	
12	前期課題文献のプレゼンテーションと討論	報告後のレポート作成	
13	前期課題文献のプレゼンテーションと討論	報告後のレポート作成	
14	前期課題文献のプレゼンテーションと討論	報告後のレポート作成	
15	卒業論文の仮構成・仮タイトルの決定	参考文献を確認する	
16	前期のまとめ ~ 夏休みに卒業論文の第2章を作成(4000字以上)	卒業論文を書き始める	
実践	テキスト・参考文献・資料など 受講生の意向を聞きながら決定する。18年度は、馬場杉夫ほか(2015)『マネジメントの航海図』中央経済社、若林満監修(2008)『経営組織心理学』ナカニシヤ出版、大滝精一ほか(2016)『経営戦略【第3版】論理性・創造性・社会性の追及』有斐閣アルマ、などを使用。		
	学びの手立て ・報告者の遅刻・欠席は認めない。 ・討論では積極的な発言(質問・意見等)を求める。		
	評価 演習への貢献度(討論での積極的な発言やゼミでの意欲的な取り組みなど)50%、課題とレポートの完成度50%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習 II
-------	------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	火 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 相典	3年	i. sanjon@okiu. ac. jpまたは授業終了後	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	観光産業または観光ビジネスを巡る多様な課題を受講生の視覚から取り上げ、それに必要な改善案を体系的に検討し、その結果を自らの力でまとめることができるようにする。	専門演習 I・II を通じて、観光マーケティングにおける多様な課題についての調査とその分析が行われます。観光現状に関する調査活動はグループ課題の形で、観光全般に関する問題意識や新たな提案に対しては個別研究(卒論)の形で行います。受講生間の協力と個人的な努力を強く願っています。
到達目標	マーケティング・コース科目の履修において、専門演習 I と II は受講生自分が課題を探し、その改善案を自分の考えに基づいて提案するプロセスを学習する時間である。マーケティングの分野で活躍するためには、多様な課題に向き合ったときに、どのようなソリューションが適切なのかを判断できるような力が必要である。本講義は観光産業や観光ビジネスにおいて、受講生自分が持っている課題や問題意識について、そのソリューションが提案できるようなスキルを身に付けることを目標とする。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	調査研究テーマの選定およびグループ分け	Brain Storming
	3	グループ別の基礎調査実施 I	基礎調査の中間報告
	4	グループ別の基礎調査実施 II	基礎調査の中間報告
	5	グループ別の基礎調査結果発表 I	1次グループ発表
	6	グループ別の基礎調査結果発表 II	1次グループ発表
	7	フィールドワーク計画樹立 I	調査実行計画の樹立
	8	フィールドワーク計画樹立 II	調査実行計画の樹立
	9	フィールドワーク計画報告	調査実行計画の樹立
	10	フィールドワーク実施 I	グループ別調査(中間報告)
	11	フィールドワーク実施 II	グループ別調査(中間報告)
	12	フィールドワーク実施 III	グループ別調査(中間報告)
	13	グループ課題の最終発表 I	2次グループ発表
	14	グループ課題の最終発表 II	2次グループ発表
15	グループ課題の総合ディスカッション	総合ディスカッション	
16	専門演習 I のまとめ。	総合ディスカッション	

実践	テキスト・参考文献・資料など
	1. テキスト：使用しません。適宜資料を配布したり、参考文献を提示します。

学びの手立て	<ol style="list-style-type: none"> 遅刻や無断欠席は成績評価に積極的に反映しますので、ご注意ください。(やむを得ず遅刻・欠席の場合、事前にメールで連絡してください) 積極的にグループ課題に参加しながら、協力してください。 グループ活動の準備課程と最終の発表(報告書)で評価します。
--------	--

評価	<ol style="list-style-type: none"> 出席・受講態度を積極的に反映します *5回以上の遅刻や無断欠席の場合は履修できません。 *授業中またはディスカッションへの積極的な参加には加点があります。 グループ課題の準備課程【報告内容の水準と、グループ活動の過程、参与・熱情など】を総合的に評価します。
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：マーケティング・リサーチと関連した科目は役に立てると思います。 次のステージ：観光マーケティングと関連した様々な書籍や論文を3本以上読んでみてください。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性 ビジネス課題への取り組みを通して、
理解力・表現力・問題解決能力を身につける。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	3年	研究室：5633 mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい ビジネス課題に対して自分で考える力を身につける。	メッセージ ビジネス実例を体験するマーケティング専門科目であり、フィールド(現場)を通じてビジネス実態を知ること。 演習、実習の形式を併用して授業を行う。
	到達目標 1) ビジネス課題を発見し、調査目的・調査方法・調査活動・分析方法などを企画できる基礎能力を育成する。 2) ビジネス課題に対して、自分で考える力を身につける。 3) 調査報告書・レポートおよび卒業論文の作成能力を習得する。	

学びの準備	到達目標 1) ビジネス課題を発見し、調査目的・調査方法・調査活動・分析方法などを企画できる基礎能力を育成する。 2) ビジネス課題に対して、自分で考える力を身につける。 3) 調査報告書・レポートおよび卒業論文の作成能力を習得する。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	ビジネスに関する情報収集
	2	研究計画書・レジュメの作成方法・発表方法・参考文献・引用方法の再確認	ビジネスに関する資料収集
	3	卒業論文テーマに関する文献・関連資料の収集 1	情報整理、分析方法などの検討
	4	卒業論文テーマに関する文献・関連資料の収集 2	関連資料の収集と整理 1
	5	卒業論文テーマに関する文献・関連資料の収集 3	関連資料の収集と整理 2
	6	卒業論文テーマおよびビジネス課題選択 1	卒業論文の関係資料をまとめ
	7	卒業論文テーマおよびビジネス課題選択 2	聞き取り調査・質問票調査の実施
	8	フィールドワーク・調査活動	現地調査先と調整
	9	フィールドワーク・調査活動の比較分析	収集データの分析
	10	プレゼンテーション と 討論 ①	スライド作成・資料整理 1
	11	プレゼンテーション と 討論 ②	スライド作成・資料整理 2
	12	プレゼンテーション と 討論 ③	スライド作成・資料整理 3
	13	卒業論文の中間発表会 1	発表内容の整理
	14	卒業論文の中間発表会 2	発表内容のまとめ
	15	卒業論文の中間発表会 3	発表内容の点検
16	卒業論文の中間発表レポートの提出		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など ◇Michael R. Solomon [著]；大竹光寿 [ほか] 訳 (2015) 『ソロモン消費者行動論』丸善出版 ◇ケビン・レーン・ケラー (著)、恩蔵 直人 (監訳) (2010) 『戦略的ブランド・マネジメント』東急エージェンシー ◇山根 節 (2015) 『MBAエグゼクティブズ』中央経済社、◇その他使用テキストについては講義中に紹介します
-------	---

学びの実践	学びの手立て 履修生は卒業論文、卒業プロジェクト、課題研究のいずれかを一つ選択し、取り組みます。【1】卒業論文：興味があるテーマについて文献調査し、テーマを絞り込んでから対象とする問題点などについて客観的に分析し、卒業論文を執筆する。【2】卒業プロジェクト：「実用可能性の高い新商品開発」についてアイデアを出し、マーケティング・プランを作成する。新商品の開発段階・背景・生産工程、競合他社のリサーチ、新商品に対する消費者の購買行動について調査・分析を行う作業を通して、メーカーに必要な知識や技能を習得します。【3】課題研究：特定の研究課題を取り上げ、分析する。直面している問題・課題を明確にし、原因を究明し、改善策などを立案する。【履修の心構え】授業に参加し、積極的に学ぶ姿勢(報告に対する質疑応答、パティシペーションなど)が必要である。
-------	--

学びの実践	評価 ◇平常点(フィールドワークへの取り組み方、ゼミに対する意欲など) (50%) ◇卒業論文の発表と内容 (50%)
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージ： マーケティングコースの卒業論文演習I、卒業論文演習II
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	佐久本 朝一	3年	当該演習の前後が望ましい。	

学びの準備	ねらい 国際社会で活躍するための人前でのプレゼンテーション能力の育成を目指す	メッセージ 演習活動を通してお互いのコミュニケーションの能力の向上を図る
	到達目標 各自が自己のプレゼンテーションや議論をうまく行えるようになること。	

学びの準備	到達目標 各自が自己のプレゼンテーションや議論をうまく行えるようになること。
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ベンチャービジネスについて	マイケルポーターの競争戦略論
	2	商品開発の方法について	特許開発の方法
	3	日本の企業特質について	年功序列制度
	4	終身雇用の行方について	日本的な能力評価基準
	5	日本企業の企業別組合について	日本的集団主義
	6	日本型企业社会について	会社中心主義の生活
	7	ワークライフバランスについて	生き甲斐、やりがいについて
	8	能力主義について	年功主義
	9	日本型能力主義について	長期的雇用システム
	10	プレゼンテーションの方法について	自己の考えを整理する方法
	11	報告書の書き方	5W2Hの伝達
	12	比較経営の研究手法について	関連図書のリスト作成
	13	自己の将来像について	就職状況の調査
	14	自己の意見を述べる方法	自己の確立
	15	自己の目標を達成する手段とは	目標を設定し、その方法を考える
16	論文の書き方について	最初に レジューメをまとめる	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 教科書 技術革新下の労働と日本型企业社会 INNOVATION AND THE JAPANESE STYLE OF BUSINESS SOCIETY 著者 佐久本朝一 発行所 国際経営研究所
-------	--

学びの実践	学びの手立て 演習時間外での将来に向けた計画をたて、準備することが重要である。
-------	--

学びの実践	評価 各自が選んだ経営に関するテーマの発表（50点）論文を作成し提出する（50点）。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 外書講読、比較経営論Ⅰ、Ⅱ
-------	------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	清村 英之	3年	・研究室：5627室（5号館6階） ・メール：hkiyomura(at)okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この演習では、「使える会計知識」「役に立つ会計技法」を身に付けることを目指して、会計が現代の経済社会の中でどのような役割を果たしているのか、会計の知識を得ることのできるのかを学びます。ただし、会計データの使い方を学ぶためには、その作り方を知らなければならないので、この一年間は会計データの作り方に重点を置きます。	3年生になると、そろそろ就活が気になります。清村ゼミ・オリジナルの自己分析シートへの記入や、4年生・OBOG（卒業生）との交流などを通じて、就職への意識を高めていきます。

学びの準備	到達目標
	① 財務諸表の社会的役割や会計理論・制度を理解し、説明できる。 ② PCを利用した情報収集・分析能力を身に付ける。 ③ 経営分析を行うために必要なスキルを身に付ける。 ④ 適切で分かり易いレジュメを作成し、効果的に発表できる。 ⑤ 他者の発表を聞き、討論するためのコミュニケーション能力を身に付ける。

学びの実践	学びのヒント
	授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） ○授業計画 ・3～4人のグループを作り、グループで分析する業界と個人で分析する企業を選択します。2017年度のゼミ生が選んだ業界・企業は、以下のとおりです。 Aグループ：化粧品（資生堂、コーセー、ファンケル、ポーラ） Bグループ：自動車（日産、スバル、スズキ、三菱） Cグループ：外食（ゼンショー、サイデリア、ジョイフル、ロイヤル） Dグループ：製菓（グリコ、不二家、ブルボン、森永製菓） Eグループ：テレビ（フジ、TBS、日テレ、テレ朝） ・インターネット等を利用して企業情報（特に会計情報）を収集し、様々な手法を用いてこれを分析し、その結果を発表します（この一年間は貸借対照表と損益計算書の趨勢分析を行います）。 ・資産会計、負債会計、純資産会計、収益会計、費用会計などのテーマを各グループに割り振り、その発表と討論を通じ、会計学の理解を深めます（「授業のねらい」にも書いたように、この一年間は会計データの作り方の学習に重点を置きます）。 ・「専門演習Ⅱ」では、夏休みに各自が作成した連結貸借対照表と連結損益計算書の発表・質疑応答を行い、また、経営分析の方法をDグループに割り振り、発表・討論を行います。 ・授業は「発表→発表に対するディスカッション（テーマによってはディベート）」の形式で進めます。 ○時間外学習の内容 ・グループワークに多くの時間が割かれます。 ・各時間ごとに、発表者（グループ）は発表のための準備に多くの時間外学習が求められます。 ・各時間ごとに、発表者（グループ）以外の学生は発表を聞いて討論するための準備に多くの時間外学習が求められます。 ・割り振られたテーマを分かり易く発表しなければならないので、各自、プレゼンテーション能力を高める必要があります。

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	・テキスト：使用しません。 ・参考文献：講義中に紹介します。

学びの実践	学びの手立て
	・「専門演習Ⅰ」を履修済みの学生しか登録できません。 ・前期同様、遅刻・欠席は厳禁です。

学びの実践	評価
	・平常点……50点（上記「到達目標④⑤」を評価します） ・課題……50点（上記「到達目標①②③」を評価します）

学びの継続	次のステージ・関連科目
	関連科目：経営分析・同演習（3年次）、財務会計ⅠⅡ（3年次）など、会計コースの諸科目

※ポリシーとの関連性 実務で活かせる理論と応用を学ぶ。自分で考えて、自ら動いていく力を付ける。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	3年	miyamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業を通して、大学で学んだ理論を実際のビジネス活動に応用する力を付ける。また、積極的に授業やプロジェクトに参加して、協業して目標を成し遂げる経験を積む。	メッセージ ゼミの仲間は一生の友達となります。一緒に苦労した仲間として卒業後もつながっていきましょう。このゼミはプロジェクトおよび就職活動でかなり忙しいゼミとなります。これを乗り切って社会で通用する実力を付けましょう。
	到達目標 1. マーケティングの理論を幅広く、深く知る。 2. 学んだ理論を実務の諸現象に応用できる。 3. 実務において社会人とマーケティング用語を駆使して議論できる。 4. 自分で考え、自分で動けるようになる。 5. ゼミの仲間たちと力を合わせてプロジェクトを完遂させることを経験する。	

学びの準備	到達目標 1. マーケティングの理論を幅広く、深く知る。 2. 学んだ理論を実務の諸現象に応用できる。 3. 実務において社会人とマーケティング用語を駆使して議論できる。 4. 自分で考え、自分で動けるようになる。 5. ゼミの仲間たちと力を合わせてプロジェクトを完遂させることを経験する。
-------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	ゼミ論文のテーマ設定 1	テーマ情報収集
	3	ゼミ論文のテーマ設定 2	テーマ情報収集
	4	ゼミ論文の目次作成 1	目次作成
	5	ゼミ論文の目次作成 2	目次作成
	6	ゼミ論文作成1	論文作成
	7	ゼミ論文作成 2	論文作成
	8	ゼミ論文作成 3	論文作成
	9	ゼミ論文作成 4	論文作成
	10	中間発表	発表準備
	11	ゼミ論文校正 1	論文校正
	12	ゼミ論文校正 2	論文校正
	13	ゼミ論文最終確認	論文校正
	14	ゼミ論文プレゼンテーション 1	プレゼン準備
15	ゼミ論文プレゼンテーション 2	プレゼン準備	
16	ゼミ論文プレゼンテーション 3	プレゼン反省	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特になし。参考文献は授業の中で適時指定していく。資料は必要な時に配布予定。
-------	--

学びの実践	学びの手立て 履修の心構え： ①出席・授業への積極的参加を強く求める、②自分から動く、③課題提出は期日を守る、④ゼミ仲間を助ける。 学びを深めるために： ①マーケティング科目を多く履修する、②マーケティング関連文献を読む、③日経MJを読む。
-------	--

学びの実践	評価 評価は次の項目の総合的な観点から行われる。 ①平常点 (10点) ②ゼミ論文と発表 (70点) ③レポート (5点) ④豆テスト (5点) ⑤課題提出 (10点)
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 マーケティング関連科目を多く受講すること。マーケティングに関連した書籍を読むこと。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	3年	演習の質問時間中(00:00~00:10pm)に、対応する。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>年間テーマを、「経営管理論」とする。本演習は3年次前期科目2.0単位、3年次後期科目2.0単位、合計4.0単位からなっている。経営学の基本的概念を正確に理解するために、毎回テーマを決めて討論する。このほかに、各自がそれぞれ好きなテーマ(経営学の諸分野の中から)と好きな地域を決めて、その地域の経営の実状についてくわしく調べる。</p>	<p>なお演習のイベント(ゼミ合宿・学園祭・コンパ)への学生諸君の積極的な参与を期待する。</p>
到達目標	卒業論文の第1章が、執筆・完了できるようになる。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画(テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>本演習の展開は、つぎのように予定している。</p> <p>(演習の展開計画)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> <th>時間外学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>16</td> <td>(キャリア課・進路ガイダンス)</td> <td>演習中に指示する</td> </tr> <tr> <td>17</td> <td>経営組織</td> <td>演習中に指示する</td> </tr> <tr> <td>18</td> <td>労務管理</td> <td>演習中に指示する</td> </tr> <tr> <td>19</td> <td>(卒業年次ゼミテーマ登録カード提出)</td> <td>演習中に指示する</td> </tr> <tr> <td>20</td> <td>財務管理</td> <td>演習中に指示する</td> </tr> <tr> <td>21</td> <td>財務管理</td> <td>演習中に指示する</td> </tr> <tr> <td>22</td> <td>販売管理</td> <td>演習中に指示する</td> </tr> <tr> <td>23</td> <td>販売管理</td> <td>演習中に指示する</td> </tr> <tr> <td>24</td> <td>計画と統制</td> <td>演習中に指示する</td> </tr> <tr> <td>25</td> <td>(キャリア課・進路面接)</td> <td>演習中に指示する</td> </tr> <tr> <td>26</td> <td>いわゆる「日本的経営」</td> <td>演習中に指示する</td> </tr> <tr> <td>27</td> <td>後期末:ゼミ年報記事の提出締切り</td> <td>演習中に指示する</td> </tr> <tr> <td>28</td> <td>(合説[企業合同説明会]参加)</td> <td>演習中に指示する</td> </tr> <tr> <td>29</td> <td>企業の社会的責任</td> <td>演習中に指示する</td> </tr> <tr> <td>30</td> <td>(新ゼミ生 募集計画)</td> <td>演習中に指示する</td> </tr> <tr> <td>31</td> <td>[予備日]</td> <td>演習中に指示する</td> </tr> </tbody> </table>	回数	内容	時間外学習	16	(キャリア課・進路ガイダンス)	演習中に指示する	17	経営組織	演習中に指示する	18	労務管理	演習中に指示する	19	(卒業年次ゼミテーマ登録カード提出)	演習中に指示する	20	財務管理	演習中に指示する	21	財務管理	演習中に指示する	22	販売管理	演習中に指示する	23	販売管理	演習中に指示する	24	計画と統制	演習中に指示する	25	(キャリア課・進路面接)	演習中に指示する	26	いわゆる「日本的経営」	演習中に指示する	27	後期末:ゼミ年報記事の提出締切り	演習中に指示する	28	(合説[企業合同説明会]参加)	演習中に指示する	29	企業の社会的責任	演習中に指示する	30	(新ゼミ生 募集計画)	演習中に指示する	31	[予備日]	演習中に指示する
	回数	内容	時間外学習																																																	
	16	(キャリア課・進路ガイダンス)	演習中に指示する																																																	
	17	経営組織	演習中に指示する																																																	
18	労務管理	演習中に指示する																																																		
19	(卒業年次ゼミテーマ登録カード提出)	演習中に指示する																																																		
20	財務管理	演習中に指示する																																																		
21	財務管理	演習中に指示する																																																		
22	販売管理	演習中に指示する																																																		
23	販売管理	演習中に指示する																																																		
24	計画と統制	演習中に指示する																																																		
25	(キャリア課・進路面接)	演習中に指示する																																																		
26	いわゆる「日本的経営」	演習中に指示する																																																		
27	後期末:ゼミ年報記事の提出締切り	演習中に指示する																																																		
28	(合説[企業合同説明会]参加)	演習中に指示する																																																		
29	企業の社会的責任	演習中に指示する																																																		
30	(新ゼミ生 募集計画)	演習中に指示する																																																		
31	[予備日]	演習中に指示する																																																		
テキスト・参考文献・資料など	<p>(テキスト) 未定</p> <p>(参考文献)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 古在由重(編)『哲学小辞典』岩波書店。 ・ 小川英次ほか(編)『経営学の基礎知識』有斐閣。 ・ 日録刊行会(編)『経営図書総目録2019』東販。 																																																			
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・ 演習科目なので、休まず出席してください。 ・ 積極的に多様なメディア(書籍、雑誌、新聞、TV等)で、情報を収集してください。 																																																			
評価	演習への参加態度(45%)、課題提出(10%)、レポート提出等(45%)によって総合評価する。																																																			

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>卒業論文演習Ⅰ(産 企業)</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

課題への取り組みを通して、深い専門性に加え、「理解力」「表現力」「問題解決能力」を身につける。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	3年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①卒業執筆に必要とされる技能の習得。 ②グループワーク、フィールドワークの実践。 ③卒業執筆にむけて各自の研究に対する問題意識の明確化。</p>	<p>沖縄県内の商店街におけるフィールドワークを行い、中心市街地活性化について学生の視点から問題解決のための提言をまとめることを目的とする。 最後に、調査を行った商店街に対して調査報告書の提出ならびに実地で詳細な調査報告を行う。</p>
到達目標	<p>①商業と都市・市場の発展に関わる問題への興味関心を喚起する。 ②これまでに習得したマーケティング・流通に関する知識の活用と応用。 ③レポート・論文執筆および口頭報告のための基礎・応用能力の習得。</p>	

学びの実践	学びのヒント			
	授業計画			
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	ガイダンス：専門演習Ⅰをふりかえって	商店街調査のための準備作業	
	2	フィールドワーク①：商店街の実地調査①	関係機関への連絡と日程調整	
	3	フィールドワーク②：商店街の実地調査② プロジェクトの実施準備	プロジェクト実施の準備	
	4	フィールドワーク③：商店街の実地調査③ プロジェクトの実施準備	プロジェクト実施の準備	
	5	フィールドワーク④：商店街の実地調査④ プロジェクトの実施	プロジェクト実施	
	6	フィールドワーク⑤：経過報告①	内容について議論・調整を行う	
	7	フィールドワーク⑥：経過報告②	内容について議論・調整を行う	
	8	フィールドワーク⑦：商店街の実地調査⑤ まとめ作業	収集データの整理・分析	
	9	フィールドワーク⑧：商店街の実地調査⑥ まとめ作業	収集データの整理・分析	
	10	フィールドワーク⑨：商店街の実地調査⑦ まとめ作業	収集データの整理・分析	
	11	フィールドワーク⑩：商店街の実地調査⑧ まとめ作業	報告スライドの作成	
	12	フィールドワーク⑪：商店街の実地調査⑨ まとめ作業	報告書の作成	
	13	フィールドワーク⑫：商店街の実地調査⑩ まとめ作業	報告書の作成	
14	フィールドワーク⑬：プロジェクト成果報告会	報告スライド・報告書の提出		
15	卒業論文執筆にむけて	卒業論文のテーマ設定		
16	卒業論文執筆にむけて	卒業論文のテーマ設定		
テキスト・参考文献・資料など	<p>【使用テキスト】：講義中に使用するテキストのため、毎回持参すること。 ・満蘭勇 (2015) 『商店街はいま必要なのか「日本型流通」の近現代史』講談社現代新書 (講談社) ・久繁哲之介 (2013) 『商店街再生の畏一売りたいモノから、顧客がしたいコトへ』ちくま新書 (筑摩書房)</p>			
学びの手立て	<p>【履修の心構え】 ①無断欠席や遅刻は厳禁とする。 ②やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前に担当教員に連絡をすること。 ③報告および報告書作成のためのスケジュール管理は怠らないこと。 ④報告書作成のために、担当教員との話し合いは密に行うこと。 ⑤ゼミ生相互の交流や情報交換は密に行うこと。</p>			
評価	<p>【成績評価の内訳】 (100%) FW・報告書提出 (50%)：期限までに必ず報告書を提出すること。 FW・報告会で発表 (30%)：定められた日時に必ず報告を行うこと。 FW・経過報告 (20%)：定められた日時に必ず報告を行うこと。</p>			

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>より専門性を有するテーマについて、自らで調査・分析・考察を行うことができる技能を養う。4年次の卒業論文演習Ⅰに向けて、履修学生が興味関心を持つ研究テーマ・問題意識を引き出す。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 相典	3年	i. sanjon@okiu. ac. jpまたは授業終了後	

学びの準備	ねらい 観光産業または観光ビジネスを巡る多様な課題を受講生の視覚から取り上げ、それに必要な改善案を体系的に検討し、その結果を自らの力でまとめることができるようにする。	メッセージ 専門演習Ⅰ・Ⅱを通じて、観光マーケティングにおける多様な課題についての調査とその分析が行われます。観光現状に関する調査活動はグループ課題の形で、観光全般に関する問題意識や新たな提案に対しては個別研究(卒論)の形で行います。受講生間の協力と個人的な努力を強く願っています。
	到達目標 マーケティング・コース科目の履修において、専門演習ⅠとⅡは受講生自分が課題を探し、その改善案を自分の考えに基づいて提案するプロセスを学習する時間である。マーケティングの分野で活躍するためには、多様な課題に向き合ったときに、どのようなソリューションが適切なのかを判断できるような力が必要である。本講義は観光産業や観光ビジネスにおいて、受講生自分が持っている課題や問題意識について、そのソリューションが提案できるようなスキルを身に付けることを目標とする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	個別研究テーマの調査方法	沖縄観光の特徴
	3	個別研究テーマの選定①	個別発表
	4	個別研究テーマの選定②	個別発表
	5	個別研究テーマの最終選定	個別発表
	6	個別研究テーマの調査設計①	リサーチ・アンケート開発
	7	個別研究テーマの調査設計②	リサーチ・アンケート開発
	8	個別研究テーマの調査設計最終報告	リサーチ・アンケート完成
	9	個別研究テーマの調査実行計画の報告	調査対象・方法・期間・実施計画
	10	個別研究テーマの調査実施①	個別調査実施
	11	個別研究テーマの調査実施②	個別調査実施
	12	データ分析の演習①	データ・コーディング完了
	13	データ分析の演習②	分析演習
	14	データ分析の演習③	分析演習
15	データ分析の結果のドラフト作成	分析結果まとめ	
16	専門演習Ⅱのまとめ	総合ディスカッション	
実践	テキスト・参考文献・資料など 1. テキスト：使用しません。適宜資料を配布したり、参考文献を提示します。		
	学びの手立て 1. 遅刻や無断欠席は成績評価に積極的に反映しますので、ご注意ください。 (やむを得ず遅刻・欠席の場合、事前にメールで連絡してください) 2. 積極的に自分の研究以外他人の研究課題にも興味を持ちながら、参加してください。 3. 個人研究の準備課程全般と最終の発表(報告書)で評価します。		
	評価 1. 出席・受講態度を積極的に反映します *5回以上の遅刻や無断欠席の場合は履修できません。 *授業中またはディスカッションへの積極的な参加には加点があります。 2. 個別研究【準備課程。報告書(ドラフト)】に関する報告内容の水準と、研究活動の過程を総合的に評価します]		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：マーケティング・リサーチと関連した科目は役に立てると思います。 次のステージ：観光マーケティングと関連した卒論準備のために、関連書籍や論文を10本以上読んでみてください。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩橋 建治	3年	kiwahashiアットまーくoku.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	人的資源管理を中心とした、経営学に関する個々の卒業論文について、中間報告を行う。報告と討論をもとに、今後の課題（イシュー、文献、事例など）を提示し、具体的な方向性を決めていく。	研究を通じて、自分自身が何を望んでいるのか（自己分析）、その研究を深めることで誰にどのような貢献ができるのか（社会における役割）を、納得のいくまで考えて欲しい。

到達目標	個々の卒業論文において、適用する理論を整理する。または、研究対象となる業界の概要を理解する。参考として、18年度受講生が扱ったテーマは以下のとおり。モチベーション、リーダーシップ、チームワーク、人材育成、働き方改革、イノベーション、ベンチャー、観光業界、音楽業界、動画コンテンツ業界、人工知能、地域活性化、など。
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	はじめに： 専門演習・卒業論文演習での学びについて	卒業論文の書き方を学ぶ
	2	卒業論文サンプルの講読	卒業論文の書き方を学ぶ
	3	卒業論文サンプルの講読	卒業論文の書き方を学ぶ
	4	卒業論文の3年次中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	5	卒業論文の3年次中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	6	卒業論文の3年次中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	7	卒業論文の3年次中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	8	卒業論文の3年次中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	9	卒業論文の3年次中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	10	卒業論文の3年次中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	11	卒業論文の3年次中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	12	卒業論文の3年次中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	13	卒業論文の3年次中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	14	就職活動について：先輩たちとの懇談会	学びとキャリアを結ぶ
15	グループ・ディスカッション	学びとキャリアを結ぶ	
16	後期のまとめ	卒業論文の加筆修正	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	個々の卒業論文の仮構成に沿って、適宜紹介する。18年度は、馬場杉夫ほか（2015）『マネジメントの航海図』中央経済社、若林満 監修（2008）『経営組織心理学』ナカニシヤ出版、大滝精一ほか（2016）『経営戦略【第3版】 論理性・創造性・社会性の追求』有斐閣アルマ、などを使用。

学びの実践	学びの手立て
	<ul style="list-style-type: none"> ・やむを得ず遅刻・欠席する場合は、事前にメールにて連絡すること。 ・討論では積極的な発言を求める。

学びの実践	評価
	演習への貢献度（討論での積極的な発言やゼミでの意欲的な取り組みなど）50%、中間報告での卒業論文の完成度50%

学びの継続	次のステージ・関連科目
	卒業論文演習Ⅰ

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	戦略管理会計	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	菅森 聡	3年	s. sugamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 会計情報は経営管理のために不可欠です。管理会計は能率的、効率的に経営管理を実施するためのシステムです。本講義では管理会計の理論を理解し、練習問題を解くことで、各種の管理会計技法の習得を目的とします。	メッセージ 管理会計は経営管理のための会計です。経営管理を行う経営者や管理者、あるいは管理される労働者の立場を想像しながら受講するとよいでしょう。
	到達目標 ・マネジメントの会計である管理会計に関する知識を習得する。 ・管理会計技法を習得し、実際に計算できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画			
		回	テーマ	時間外学習の内容
		1	ガイダンス	配布したプリントを読む
		2	設備投資の経済計算Ⅰ	配布したプリントを読み問題を解く
		3	設備投資の経済計算Ⅱ	配布したプリントを読み問題を解く
		4	設備投資の経済計算Ⅲ	配布したプリントを読み問題を解く
		5	ライフサイクルコストⅠ	配布したプリントを読み問題を解く
		6	ライフサイクルコストⅡ	配布したプリントを読み問題を解く
		7	ABC/ABMⅠ	配布したプリントを読み問題を解く
		8	ABC/ABMⅡ	配布したプリントを読み問題を解く
	9	品質原価計算Ⅰ	配布したプリントを読み問題を解く	
	10	品質原価計算Ⅱ	配布したプリントを読み問題を解く	
	11	原価企画Ⅰ	配布したプリントを読み問題を解く	
	12	原価企画Ⅱ	配布したプリントを読み問題を解く	
	13	環境管理会計	配布したプリントを読み問題を解く	
	14	バランス・スコアカードⅠ	配布したプリントを読み問題を解く	
	15	バランス・スコアカードⅡ	配布したプリントを読み問題を解く	
	16	テスト	指定したテスト範囲を勉強する	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：なし 参考文献：『エッセンシャル管理会計』谷武幸中央経済社 『管理会計入門ゼミナール〔改訂版〕』高栢真一編著、創成社			
	学びの手立て ・毎回、練習問題を解いてもらいますので計算機を持ってくるようにしてください。 ・小テストを2回行う予定ですのでしっかり復習するようにしてください。			
	評価 小テスト40%とテスト60%で評価します。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目 工業簿記、原価計算
-------	----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	セールス・プロモーション	前期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	3年	miyamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この授業を通して、マーケティング・コミュニケーションの成り立ちとその活用方法学び、いかにして商品・サービスが必要とされている消費者の元に届けられるかを知る。	専門科目を単なる単位・学ぶべきものとするのではなく、授業を通してその科目の楽しさ、面白さ、社会への影響に気づくことが大切です。

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. セールス・プロモーションの概要を知る。 2. マーケティング・コミュニケーションの基本理論を学ぶ。 3. セールス・プロモーションとマーケティングの関係性を知る。 4. 基本的なセールス・プロモーションの企画が作成できるようになる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	セールス・プロモーションとは	マーケティング入門の復習をする
	3	マーケティングとセールス・プロモーションの関係性	テキストを読む
	4	広告とプロモーションの違い	テキストを読む
	5	顧客の行動を変える	テキストを読む
	6	効果的なプロモーションとは	テキストを読む
	7	チラシ広告の現状	テキストを読む。チラシの分析
	8	買う・買わないを決める要因	テキストを読む
	9	インスタ・プロモーション	テキストを読む
	10	セールス・プロモーションの3つのタイプ	テキストを読む
	11	消費者プロモーション	テキストを読む。消費者調査実施
	12	トレード・プロモーション	テキストを読む
	13	リテール・プロモーション	テキストを読む
	14	プロモーションの計画と実施	テキストを読む
15	プロモーションの評価	テキストを読む	
16	期末試験		

テキスト・参考文献・資料など
<p>テキスト：セールス・プロモーションの実際。また、必要に応じて授業の中でプリントを配布する。参考文献は必要な時に発表する。</p>

学びの手立て
<p>履修の心構え： ①出席・授業への積極的参加を強く求める、②自分から動く、③課題提出は期日を守る、④他の学生に迷惑を掛けない。</p> <p>学びを深めるために： ①マーケティングとセールス・プロモーションの関係性を知る、②議論に積極的に参加する、③日経MJを読む。</p>

評価
<p>評価は次の項目の総合的な観点から行われる。 ①平常点 (10点) ②期末試験 (70点) ③レポート (5点) ④豆テスト (5点) ⑤課題提出 (10点)</p>

学びの継続
<p>次のステージ・関連科目</p> <p>ビジネス関連科目を多く受講すること。マーケティングに関連した書籍を読むこと。一般教養科目をしっかりと学ぶこと。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	税法	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-上原 香代子	3年	授業終了後に教室で受け付けます。その他E-mailでも可能です。	

学びの準備	ねらい 税法の基礎的内容の修得が目標です。最初の講義は、主に税法条文の読み方を学習し、その後各税法（所得税法、相続税法、消費税法等）の基本的な内容と判例等の具体的事例を解説します。法人税法は概要を学習し、計算や判例は後期の税務会計に引き継ぎます。	メッセージ 税金は私たちの生活に深くかかわっており、その基本的な知識を学習することはとても有意義なことです。
	到達目標 企業や会計事務所等で役立つための基礎的な知識の修得を目標とします。また税理士資格試験の税法科目を受験する際に、必要最低限の知識として役立てます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス（学習内容及び評価方法）、日本の税制について	質問の準備
	2	憲法と税法 - 租税の意義、租税法主義等	参考テキストと配布資料のまとめ
	3	各税法の概念と課税体系 I（条文の読み方を含む）	参考テキストと配布資料のまとめ
	4	各税法の概念と課税体系 II（条文の読み方を含む）	税法条文の読み方復習
	5	所得税法 -1	参考テキストと配布資料のまとめ
	6	所得税法 -2	参考テキストと配布資料のまとめ
	7	所得税法 -3	参考テキストと配布資料のまとめ
	8	所得税法 -4	所得税法のまとめ
9	相続税法 -1	参考テキストと配布資料のまとめ	
10	相続税法 -2	参考テキストと配布資料のまとめ	
11	相続税法 -3	1税法2税目のまとめ	
12	消費税法 -1	参考テキストと配布資料のまとめ	
13	消費税法 -2	消費税法のまとめ	
14	法人税法その他 -1	参考テキストと配布資料のまとめ	
15	法人税法その他 -2	総合復習	
16	期末テスト		
	テキスト・参考文献・資料など 基本テキスト：講義開始時に指定。 参考テキスト：税務大専校『税法入門』など（国税庁ホームページ） 参考文献：井上徹二『租税法と税制』創成社		
	学びの手立て 参考テキストとして税務大専校（国税庁のホームページでダウンロード可能）の『税法入門』等も使用しますが、各回の配布資料を参考に重要ポイントをまとめてもらいます。		
	評価 授業参加度及び課題内容評価（30%）、期末テスト（70%）の総合評価		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：税務会計、非営利会計、会社法など。
-------	---------------------------------------

※ポリシーとの関連性 ビジネス社会や地域に貢献する人材の育成と、実学志向の教育を提供します。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	税務会計	後期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-上原 香代子	3年	授業終了後に教室で受け付けます。その他E-mailでも可能です。	

学びの準備	ねらい 本講義では、税務会計の基礎及び応用知識の修得を目標としています。企業会計は、経営方針の判断等に役立つ会計であるのに対し、税務会計の基本は、法律で定められた課税要件の下で行う会計で、政策的な要素も含まれます。その違いも確認できるようにします。	メッセージ 法人税は、会計上の利益を基に課税所得の計算を行いますので、会計学及び商業簿記の知識も必要です。上級（1、2級）の簿記検定を目指すことをお勧めします。
	到達目標 企業や会計事務所等で役立つための基礎的な知識の修得を目標とします。また税理士資格試験の税法科目を受験する際に、基礎的な知識として役立てます。	

学びのヒント	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス 法人税の基礎概念 -1	質問等の準備
	2	法人税の基礎概念 -2	テキストと配布資料で復習
	3	益金の概念と計算 -1	テキストと配布資料で復習
	4	益金の概念と計算 -2	テキストと配布資料で復習
	5	益金の概念と計算 -3	益金の総まとめ
	6	損金の概念と計算 -1	テキストと配布資料で復習
	7	損金の概念と計算 -2	テキストと配布資料で復習
	8	損金の概念と計算 -3	テキストと配布資料で復習
学びの実践	9	損金の概念と計算 -4	テキストと配布資料で復習
	10	損金の概念と計算 -5	損金の総まとめ
	11	税額の計算 -1	テキストと配布資料で復習
	12	税額の計算 -2	税額計算の総まとめ
	13	法人税法における用語の意義（判例等）-1	配布資料を再読し問題点を抽出
	14	法人税法における用語の意義（判例等）-2	配布資料を再読し問題点を抽出
	15	法人税法における用語の意義（判例等）-3	個別判例についてのレポート
	16	期末テスト	
テキスト・参考文献・資料など 基本テキスト：講義開始時に指定。 参考文献：大城建夫『税務会計の理論的展開』同文館出版、成道秀雄編著『税務会計論』中央経済社 中村和洋編著『税務判例入門』経済産業調査会			
学びの手立て 受講にあたって必要となる前提科目：商業簿記、会計学、財務会計等 欠席時の講義範囲は、今回の講義までにテキストを熟読し、疑問点があれば、質問できるようにしてください。			
評価 授業参加度及び課題内容評価（30%）、レポート（30%）期末テスト（40%）の総合評価			

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：原価会計、管理会計、非営利会計、会計監査、経営分析、会社法など。
-------	--

※ポリシーとの関連性

課題への取り組みを通して、深い専門性に加え、「理解力」「表現力」「問題解決能力」を身につける。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	水 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	4年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習では、卒業論文の作成を通して、社会が抱える課題を多角的に捉える視野、論理的思考力、そして物事を端的に説明できる文章力を、それぞれ高いレベルにおいて獲得することを目的とする。	学生生活における研究活動の集大成として卒業論文をつくりあげることが、とても大変なことである。しかし、その苦勞の大きさはやりがいの大きさでもある。悔いを残さないよう最後までしっかりとやり遂げてほしい。
到達目標	①研究対象とするテーマについて、資料収集ならびに先行研究の整理を正確に行うことができる。 ②上記①を達成したうえで、オリジナリティに富んだ問題提起を行うことができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：卒論のテーマ設定①	卒論のテーマ設定
	2	卒論指導①：卒論のテーマ設定②	卒論のテーマ設定
	3	卒論指導②：テーマに対応した個別指導	テーマに対応した資料収集と分析
	4	卒論指導③：テーマに対応した個別指導	テーマに対応した資料収集と分析
	5	卒論指導④：テーマに対応した個別指導	テーマに対応した資料収集と分析
	6	卒論指導⑤：テーマに対応した個別指導	先行研究の整理
	7	卒論指導⑥：テーマに対応した個別指導	先行研究の整理
8	卒論指導⑦：テーマに対応した個別指導	先行研究の整理	
9	卒論指導⑧：テーマに対応した個別指導	先行研究の整理	
10	卒論指導⑨：テーマに対応した個別指導	先行研究の整理	
11	卒論指導⑩：テーマに対応した個別指導	先行研究の整理	
12	卒論指導⑪：テーマに対応した個別指導	問題提起の作成	
13	卒論指導⑫：テーマに対応した個別指導	問題提起の作成	
14	卒論指導⑬：経過報告①	経過報告レジュメ・スライド作成	
15	卒論指導⑭：経過報告②	経過報告レジュメ・スライド作成	
16	卒論指導⑮：経過報告③	経過報告レジュメ・スライド作成	
テキスト・参考文献・資料など	※個別の研究テーマに対して、ゼミ内で補助教材を適宜配布する。 【参考テキスト】：時間外学習に使用するテキスト。復習に利用すること。 ・現代マーケティング研究会編（2019）『マーケティング論の基礎』同文館出版 ・住谷宏編著（2019）『流通論の基礎（第3版）』中央経済社		
学びの手立て	【履修の心構え】 ①無断欠席や遅刻は厳禁とする。 ②やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前に担当教員に連絡をすること。 ③卒論作成のためのスケジュール管理は怠らないこと。 ④卒論作成のために、担当教員との話し合いは密に行うこと。 ⑤ゼミ生相互の交流や情報交換は密に行うこと。		
評価	【成績評価の内訳】（100%） 卒論・テーマ設定（20%）：期限までに必ず報告を行うこと。 卒論・先行研究整理（50%）：期限までに必ず報告を行うこと。 卒論・問題提起（30%）：期限までに必ず報告を行うこと。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	設定したテーマに対応した文献や資料を収集し、先行研究の整理ならびに問題提起に対する調査方法の選定を終えた状態で後期の卒業論文演習Ⅱに移行する。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	佐久本 朝一	4年	当該演習時間の前後が望ましい。	

学びの準備	ねらい 経営に関する専門の論文の作成を指導したあとで期限までに提出する。	メッセージ 講義は学生の自主的な発表を中心に進めていくことから、積極的に参加意識を持つことが前提となる。
	到達目標 国際社会で活動するための人前で自己の表現ができる能力の育成	

学びの準備	到達目標 国際社会で活動するための人前で自己の表現ができる能力の育成
-------	---------------------------------------

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	毎回割り当てられた時間に経営に関するテーマの論文発表する。	関連図書のリスト作成 I
	2	海外調査に関する報告書の書き方	関連図書のリスト作成 II
	3	海外調査地の選定作業	関連図書のリスト作成 III
	4	海外調査計画の作成	海外調査地案の作成 I
	5	海外調査のスケジュール案 I	海外調査地案の作成 II
	6	海外調査のスケジュール案 II	海外調査地案の作成 III
	7	海外調査のスケジュール案 III	海外調査の方法 I
	8	海外調査のスケジュール案 IV	海外調査の方法 II
	9	海外調査のスケジュール案 V	海外調査の方法 III
	10	海外調査のスケジュール案 VI	海外調査のスケジュール作成 I
	11	海外調査の報告書提出 I	海外調査の報告書 I
	12	海外調査の報告書提出 II	海外調査の報告書 II
	13	海外調査の報告書提出 IV	海外調査の報告書 III
	14	海外調査の報告書提出 V	海外調査の報告書 IV
	15	卒業論文の書き方 I	卒業論文の構想 I
16	卒業論文レジュメの提出	卒業論文の構想 II	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 佐久本 朝一著『日本的経営と過労シンドローム』中央経済社
-------	--

学びの実践	学びの手立て 演習時間では積極的に発言し、教員との議論に参加することで自己の表現能力が育成できる。
-------	--

学びの実践	評価 各自のテーマによる論文の作成 (50点) と海外市場調査の報告書の提出 (50点) による。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 大学院進学への進路相談などを加えて可能な限り個別の指導を行うことにしたい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩橋 建治・佐久本 朝一	4年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 卒業論文執筆のための指導を行う。	メッセージ 講義は学生の自主的な発表を中心に進めていくことから、積極的に参加意識を持つことが前提となる。
	到達目標 個々の卒業論文において、適用する理論を整理する。または、研究対象となる業界の概要を理解する。	

学びの準備	到達目標 個々の卒業論文において、適用する理論を整理する。または、研究対象となる業界の概要を理解する。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	はじめに： 卒業論文演習での学びについて	論文の書き方を学ぶ
	2	就職活動について： 学びとキャリア	学びとキャリアを結ぶ
	3	グループ・ディスカッション	学びとキャリアを結ぶ
	4	卒業論文の4年次前期中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	5	卒業論文の4年次前期中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	6	卒業論文の4年次前期中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	7	卒業論文の4年次前期中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	8	卒業論文の4年次前期中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	9	卒業論文の4年次前期中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	10	卒業論文の4年次前期中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	11	卒業論文の4年次前期中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	12	卒業論文の4年次前期中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	13	卒業論文の4年次前期中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	14	卒業論文の書き方	論文の書き方を学ぶ
15	卒業論文の書き方	論文の書き方を学ぶ	
16	前期のまとめ	卒業論文の加筆修正	
実践	テキスト・参考文献・資料など 個々の卒業論文の仮構成に沿って、適宜紹介する。		
	学びの手立て 卒業論文の分量は16,000字～20,000字程度を目安とする。		
	評価 演習への参加態度(50%)、課題提出とその完成度(50%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文演習 II
-------	--------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	4年	講義集終了後、教室で受け付ける。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>これまで大学で学んだ本格的な成果の集大成を論文で表す。また、産業情報学部・企業システム学科の学生としての応用的な学習能力、コミュニケーション能力、表現力を高める。</p>	<p>卒論演習は、4年間の学びの集大成である。学んだすべてを出して卒業論文を作成してください。</p>

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. 目的・課題に対して適切に情報を収集することができる。 2. プレゼンテーション能力を身につける。 3. ビジネスに興味・関心を持ち、問題解決のためにディスカッションをすることができる。 4. 大学生として高度な論文が書ける。

学びの実践	学びのヒント																																																			
	授業計画																																																			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>オリエンテーション</td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td>卒業論文のテーマ設定 1</td><td>テーマ情報収集</td></tr> <tr><td>3</td><td>卒業論文のテーマ設定 2</td><td>テーマ情報収集</td></tr> <tr><td>4</td><td>卒業論文の目次作成 1</td><td>目次の確認</td></tr> <tr><td>5</td><td>卒業論文の目次作成 2</td><td>目次の確認</td></tr> <tr><td>6</td><td>卒業論文の作成 1</td><td>論文作成と情報収集</td></tr> <tr><td>7</td><td>卒業論文の作成 2</td><td>論文作成と情報収集</td></tr> <tr><td>8</td><td>卒業論文の作成 3</td><td>論文作成と情報収集</td></tr> <tr><td>9</td><td>卒業論文の作成 4</td><td>論文作成と情報収集</td></tr> <tr><td>10</td><td>卒業論文の作成 5</td><td>論文作成と情報収集</td></tr> <tr><td>11</td><td>卒業論文の作成 6</td><td>論文作成と情報収集</td></tr> <tr><td>12</td><td>卒業論文の作成 7</td><td>発表準備</td></tr> <tr><td>13</td><td>中間発表 1</td><td>発表準備</td></tr> <tr><td>14</td><td>中間発表 2</td><td>発表反省</td></tr> <tr><td>15</td><td>卒業論文の作成 8</td><td>論文作成と情報収集</td></tr> <tr><td>16</td><td>卒業論文の作成 9</td><td>論文作成と情報収集</td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	オリエンテーション		2	卒業論文のテーマ設定 1	テーマ情報収集	3	卒業論文のテーマ設定 2	テーマ情報収集	4	卒業論文の目次作成 1	目次の確認	5	卒業論文の目次作成 2	目次の確認	6	卒業論文の作成 1	論文作成と情報収集	7	卒業論文の作成 2	論文作成と情報収集	8	卒業論文の作成 3	論文作成と情報収集	9	卒業論文の作成 4	論文作成と情報収集	10	卒業論文の作成 5	論文作成と情報収集	11	卒業論文の作成 6	論文作成と情報収集	12	卒業論文の作成 7	発表準備	13	中間発表 1	発表準備	14	中間発表 2	発表反省	15	卒業論文の作成 8	論文作成と情報収集	16	卒業論文の作成 9	論文作成と情報収集
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																	
	1	オリエンテーション																																																		
	2	卒業論文のテーマ設定 1	テーマ情報収集																																																	
	3	卒業論文のテーマ設定 2	テーマ情報収集																																																	
	4	卒業論文の目次作成 1	目次の確認																																																	
	5	卒業論文の目次作成 2	目次の確認																																																	
	6	卒業論文の作成 1	論文作成と情報収集																																																	
	7	卒業論文の作成 2	論文作成と情報収集																																																	
	8	卒業論文の作成 3	論文作成と情報収集																																																	
	9	卒業論文の作成 4	論文作成と情報収集																																																	
	10	卒業論文の作成 5	論文作成と情報収集																																																	
	11	卒業論文の作成 6	論文作成と情報収集																																																	
	12	卒業論文の作成 7	発表準備																																																	
13	中間発表 1	発表準備																																																		
14	中間発表 2	発表反省																																																		
15	卒業論文の作成 8	論文作成と情報収集																																																		
16	卒業論文の作成 9	論文作成と情報収集																																																		
テキスト・参考文献・資料など																																																				
<p>また随時、プリント資料等を配布する。 参考文献については、必要に応じて講義中に紹介する。</p>																																																				
学びの手立て																																																				
<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に多様なメディア（新聞、TV、インターネット、書籍等）で情報を収集してください。 ・先輩や教員の論文を読み、自分の論文作成の参考にすること。 																																																				
評価																																																				
<p>評価は次の項目の総合的な観点から行われる。 ①平常点（10点）②卒業論文と発表内容（70点）③レポート（5点）④豆テスト（5点）⑤課題提出（10点）</p>																																																				

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>大学を卒業してからもマーケティング・ビジネスに関することを学び続ける。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	木 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鶴池 幸雄	4年	uike@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 企業会計に係わりこれまで学習してきた内容を深めるとともに、一つのテーマについてこれをまとめる。	メッセージ 企業に関わる様々な会計問題を見た上で自分の取り組む課題を見つけ、積極的に分析検討を行っていきましょう
	到達目標 企業に関わる会計問題の中から、卒業論文の対象として取りあげるモノを選択し分析することによって、対象の問題点を見つけ出し、解決すべき点を明らかにします。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1. 卒業論文の作成 テーマの決定 文献調査 論文構成の決定 執筆 を、講義内で指導していく 2. 会計のトピックについて 研究・発表を行う。
	テキスト・参考文献・資料など 講義内で指示します
	学びの手立て 対象とするテーマを選択するために多くの文献や資料を検索、確認しましょう。 課題テーマを選択した後は、関連する文献や資料を数多く調査、検討し問題点を見つけ出します。
	評価 卒業論文に関わる中間報告 80 講義での課題提出 20、

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文演習 II で 本講義で明らかにした会計上の課題についてまとめます。
-------	---

※ポリシーとの関連性

自身で課題を選択し、その課題への取り組みを通して、会計における専門性に加え、理解力・表現力・問題解決能力を身につける。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	菅森 聡	4年	s. sugamori@okiu. ac. jp	

学びの準備	ねらい 卒業論文を書くことで、企業や業界についてより専門的なレベルでの理解を深める。	メッセージ 4年間の集大成として、会計学をベースにして興味のある企業や業界についての分析、研究をしてもらいます。
	到達目標 卒業論文の執筆	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	各自、卒業論文を書く
	2	担当者による卒業論文の経過報告①	各自、卒業論文を書く
	3	担当者による卒業論文の経過報告②	各自、卒業論文を書く
	4	担当者による卒業論文の経過報告③	各自、卒業論文を書く
	5	担当者による卒業論文の経過報告④	各自、卒業論文を書く
	6	担当者による卒業論文の経過報告⑤	各自、卒業論文を書く
	7	担当者による卒業論文の経過報告⑥	各自、卒業論文を書く
	8	担当者による卒業論文の経過報告⑦	各自、卒業論文を書く
9	担当者による卒業論文の経過報告⑧	各自、卒業論文を書く	
10	担当者による卒業論文の経過報告⑨	各自、卒業論文を書く	
11	担当者による卒業論文の経過報告⑩	各自、卒業論文を書く	
12	担当者による卒業論文の経過報告⑪	各自、卒業論文を書く	
13	担当者による卒業論文の経過報告⑫	各自、卒業論文を書く	
14	担当者による卒業論文の経過報告⑬	各自、卒業論文を書く	
15	担当者による卒業論文の経過報告⑭	各自、卒業論文を書く	
16	担当者による卒業論文の経過報告⑮	各自、卒業論文を書く	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：なし 参考資料：各自必要な本や資料を図書館などで探す		
	学びの手立て 卒業論文に関してわからないことは、私に相談するようにしてください。		
	評価 卒業論文の経過報告80%と授業態度20%で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目 原価計算、業績管理会計、戦略管理会計、経営分析、財務会計
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	4年	第5-603番教室(天野研)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>年間テーマを、「経営管理論」とする。本演習は4年次前期科目2.0単位、4年次後期科目2.0単位、合計4.0単位からなっている。経営学の基本的概念を正確に理解するために、ひきつづきテーマを決めて討論する。このほかに、各自がそれぞれ好きなテーマ（経営学の諸分野の中から）と好きな地域を決めて、その地域の経営の実状についてくわしく調べる。</p>	<p>「皆さん、卒業論文に しっかり取りくんでまいりましょう。(天野)」</p>
到達目標	卒業論文の第2章までの執筆が、ほぼ完了する。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>なお本演習のイベント（ゼミ合宿・学園祭・コンパ）への学生諸君の積極的な参与を期待する。</p> <p>演習の展開計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>(レポート提出・必須)</td></tr> <tr><td>2</td><td>演習のすすめ方、評価のしかた</td></tr> <tr><td>3</td><td>研究対象</td></tr> <tr><td>4</td><td>アメリカ経営学</td></tr> <tr><td>5</td><td>(ゼミ合宿・必須)</td></tr> <tr><td>6</td><td>ドイツ経営学</td></tr> <tr><td>7</td><td>ドイツ経営学</td></tr> <tr><td>8</td><td>企業論</td></tr> <tr><td>9</td><td>企業論</td></tr> <tr><td>10</td><td>経営管理</td></tr> <tr><td>11</td><td>経営管理</td></tr> <tr><td>12</td><td>意思決定</td></tr> <tr><td>13</td><td>意思決定</td></tr> <tr><td>14</td><td>経営戦略</td></tr> <tr><td>15</td><td>(レポート提出・必須)</td></tr> </tbody> </table>	回数	内容	1	(レポート提出・必須)	2	演習のすすめ方、評価のしかた	3	研究対象	4	アメリカ経営学	5	(ゼミ合宿・必須)	6	ドイツ経営学	7	ドイツ経営学	8	企業論	9	企業論	10	経営管理	11	経営管理	12	意思決定	13	意思決定	14	経営戦略	15	(レポート提出・必須)
	回数	内容																															
	1	(レポート提出・必須)																															
	2	演習のすすめ方、評価のしかた																															
3	研究対象																																
4	アメリカ経営学																																
5	(ゼミ合宿・必須)																																
6	ドイツ経営学																																
7	ドイツ経営学																																
8	企業論																																
9	企業論																																
10	経営管理																																
11	経営管理																																
12	意思決定																																
13	意思決定																																
14	経営戦略																																
15	(レポート提出・必須)																																
テキスト・参考文献・資料など	<p>(テキスト) 未定</p> <p>(参考文献)</p> <p>古在由重(編)『哲学小辞典』岩波書店。</p> <p>小川英次ほか(編)『経営学の基礎知識』有斐閣。</p> <p>日録刊行会(編)『経営図書総目録2018』。</p>																																
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・演習科目なので、休まず出席してください。 ・積極的に多様なメディア（書籍、雑誌、新聞、TV等）で、情報を収集してください。 																																
評価	演習への参加態度、課題提出、レポート提出等によって総合評価する。																																

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>卒業論文演習II</p>
-------	------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	火 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 相典	4年	i. sanjon@okiu. ac. jpまたは授業終了後	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	卒業論文演習 I・II のねらいは、観光マーケティングまたは観光ビジネスを巡る多様な課題に関する問題意識や課題を取り上げ、受講生自分の視覚や解決方法など様々なソリューションを提案することで、今後の有能な社会人になるために必要な資質を育てることである。	卒業論文演習 I を通じて、卒業論文のタイトルをはじめ、具体的な研究計画(論文作成計画)を準備します。なお、卒業論文作成における基本形式や作成方法を演習します。特に、参考資料や参考文献のまとめ方、グラフや図の書き方など卒業論文作成において必要な多様なスキルを繰り返し演習します。
到達目標	①卒業論文の具体的な課題や研究方法を決定する。 ②卒業論文作成に必要な基本知識やスキルを身につける。 ③卒業論文作成における自分の意見伝達方法(ロジック)について演習する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	卒業論文作成のガイダンス(研究計画・参考文献・引用方法など)	個別演習
	3	卒業論文タイトルの調整①	個別論文タイトルを決定
	4	卒業論文タイトルの調整②	個別論文タイトルを決定
	5	ベース論文及び参考文献の探し方法	個別調査
	6	ベース論文発表①	個別発表及びディスカッション
	7	ベース論文発表②	個別発表及びディスカッション
	8	調査データの修正・補完	個別データの修正・補完活動
	9	調査データのまとめ方	個別データの修正・補完活動
	10	データ分析・結果まとめ演習①	個別データの修正・補完活動
	11	データ分析・結果まとめ演習②	個別データの修正・補完活動
	12	データ分析・結果まとめ演習③	個別データの修正・補完活動
	13	卒業論文中間報告①	個別論文作成
14	卒業論文中間報告②	個別論文作成	
15	卒業論文中間報告③	個別論文作成	
16	卒業論文演習 I のまとめ	卒業論文のドラフト提出	
テキスト・参考文献・資料など	1. テキスト：使用しません。適宜資料を配布したり、参考文献を提示します。個別受講生の卒論テーマに応じて適切な参考文献を案内します。		
学びの手立て	1. 遅刻や無断欠席は成績評価に積極的に反映しますので、ご注意ください。(やむを得ず遅刻・欠席の場合、事前にメールで連絡してください) 2. 就活による欠席については事前・事後に必ず欠席届を提出してください。 3. 資料探しや分析方法などに悩みがあるときには、積極的に相談に来てください。		
評価	1. 出席・受講態度を積極的に反映します *5回以上の遅刻や無断欠席の場合は履修できません。 *授業中またはディスカッションへの積極的な参加には加点があります。 2. ベース論文発表と卒業論文中間報告など卒論準備過程を総合的に評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：マーケティング・リサーチと関連した科目は役に立てると思います。 次のステージ：卒業論文演習 II に進める前に、自分の論文内容と関連した専門論文(ジャーナル)3本以上読むこと。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	4年	原田研究室 (5 6 3 3) mongkhol@oki.u.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	①卒業論文・卒業プロジェクトレポートの作成に向けて、書き方・情報収集・仮説設定の考え方・論文の構成などを学習すること。 ②マーケティング的な考え方を実践的に養い、沖縄から全国、世界のビジネス界で活躍できる人材を育てます。	演習、実習の形式を併用して授業を行う。
到達目標	ビジネス課題に対して、自分で考える力を身につける。	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>履修生は「卒業論文、卒業プロジェクト、課題研究」のいずれかを一つ選択し、取り組みます。</p> <p>【1】卒業論文：興味があるテーマについて文献調査し、テーマを絞り込んでから対象とする問題点などについて客観的に分析し、卒業論文を執筆する。</p> <p>【2】卒業プロジェクト：「実用可能性の高い新商品開発」についてアイデアを出し、マーケティング・プランを作成する。新商品の開発段階・背景・生産工程、競合他社のリサーチ、新商品に対する消費者の購買行動について調査・分析を行う作業を通して、マーケターに必要な知識や技能を習得します。</p> <p>【3】課題研究：特定の研究課題を取り上げ、分析する。直面している問題・課題を明確にし、原因を究明し、改善策などを立案する。</p> <p>*****</p> <p>(1) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究とは何か / ゼミ運営の方針説明 (卒論選択の準備)</p> <p>(2) 研究計画書・レジュメの作成方法・著作権・発表方法・参考文献・引用方法の確認 (資料1を読む)</p> <p>(3) 論文テーマの選定 (先行研究、分析方法、仮説設定など) (資料1を読む)</p> <p>(4) 卒論テーマ・プロジェクトテーマ・課題研究テーマの確定/年間計画書の提出 (資料1を読む)</p> <p>(5) 企業戦略、ブランド戦略、観光ビジネスなどに関する先行研究 (1) (先行研究①の情報収集)</p> <p>(6) 企業戦略、ブランド戦略、観光ビジネスなどに関する先行研究 (2) (先行研究②の情報収集)</p> <p>(7) 企業戦略、ブランド戦略、観光ビジネスなどに関する先行研究 (3) (先行研究③の情報収集)</p> <p>(8) 仮説設定と分析方法 (1) (仮説設定の練習①と情報収集)</p> <p>(9) 仮説設定と分析方法 (2) (仮説設定の練習②と情報収集)</p> <p>(10) 卒業論文など個別指導① (卒論の作成①)</p> <p>(11) 卒業論文など個別指導② (卒論の作成①)</p> <p>(12) 卒業論文など個別指導③ (卒論の作成①)</p> <p>(13) 卒論発表及び討論 (1) (討論1の準備)</p> <p>(14) 卒論発表及び討論 (2) (討論2の準備)</p> <p>(15) 卒論発表及び討論 (3) (討論3の準備)</p> <p>(16) 中間レポートの提出</p> <p>*****</p>

実践	テキスト・参考文献・資料など
	講義の中で、適切なテキストを指示する。

学びの手立て	<p>①個人とグループ発表の時、自分の意見とディスカッションを行うことが大前提です。</p> <p>②授業に参加し、積極的に学ぶ姿勢 (パティシペーションなど) が必要である。</p>
--------	--

評価	<p>◇卒業論文の内容 (50%)</p> <p>◇卒業論文の発表 (50%)</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>大学院進学、中小企業診断士、マーケティング関連会社など</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

課題への取り組みを通して、深い専門性に加え、「理解力」「表現力」「問題解決能力」を身につける。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	4年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習では、卒業論文の作成を通して、社会が抱える課題を多角的に捉える視野、論理的思考力、そして物事を端的に説明できる文章力を、それぞれ高いレベルにおいて獲得することを目的とする。	学生生活における研究活動の集大成として卒業論文をつくりあげることが、とても大変なことである。しかし、その苦勞の大きさはやりがいの大きさでもある。悔いを残さないよう最後までしっかりとやり遂げてほしい。

到達目標	①研究対象とするテーマについて、資料の取捨選択、データの分析を正確に行うことができる。 ②上記①を達成したうえで、オリジナリティに富んだ考察ならびに今後の展望を行うことができる。
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	夏季休暇中の卒論進捗報告	論文内容について教員と再調整
	2	卒論指導①：テーマに対応した個別指導	アンケート・聞取調査等の実施
	3	卒論指導②：テーマに対応した個別指導	アンケート・聞取調査等の実施
	4	卒論指導③：テーマに対応した個別指導	収集データの整理・分析
	5	卒論指導④：テーマに対応した個別指導	収集データの整理・分析
	6	卒論指導⑤：テーマに対応した個別指導	考察部分の作成
	7	卒論指導⑥：テーマに対応した個別指導	考察部分の作成
	8	卒論指導⑦：テーマに対応した個別指導	結論部分の作成
	9	卒論指導⑧：テーマに対応した個別指導	結論部分の作成
	10	卒論指導⑨：卒業論文仮原稿提出	担当教員と卒論の修正作業
	11	卒論指導⑩：卒業論文の修正作業	担当教員と卒論の修正作業
	12	卒論指導⑪：卒業論文の修正作業	担当教員と卒論の修正作業
	13	卒論指導⑫：卒業論文の修正作業	担当教員と卒論の修正作業
	14	卒論指導⑬：卒業論文の修正作業	担当教員と卒論の修正作業
15	卒論指導⑭：卒業論文完成稿提出	卒業論文完成稿の最終見直し	
16	卒論指導⑮：卒業論文報告会	卒論報告スライドの作成	

テキスト・参考文献・資料など	※個別の研究テーマに対して、ゼミ内で補助教材を適宜配布する。 【参考テキスト】：時間外学習に使用するテキスト。復習に利用すること。 ・現代マーケティング研究会編（2019）『マーケティング論の基礎』同文館出版 ・住谷宏編著（2019）『流通論の基礎（第3版）』中央経済社
----------------	--

学びの手立て	【履修の心構え】 ①無断欠席や遅刻は厳禁とする。 ②やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前に担当教員に連絡をすること。 ③卒論作成のためのスケジュール管理は怠らないこと。 ④卒論作成のために、担当教員との話し合いは密に行うこと。 ⑤ゼミ生相互の交流や情報交換は密に行うこと。
--------	---

評価	【成績評価の内訳】（100%） 卒業論文完成稿（70%）：期限までに卒論を提出すること。 卒業論文最終報告（30%）：卒論報告会にて発表を行うこと。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業後は、複眼的思考を持ち、問題解決に際して柔軟に回答を提示できる人材になってもらいたい。
-------	--

※ポリシーとの関連性

自身で課題を選択し、その課題への取り組みを通して、会計における専門性に加え、理解力・表現力・問題解決能力を身につける。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	菅森 聡	4年	s. sugamori@okiu. ac. jp	

学びの準備	ねらい 卒業論文を書くことで、企業や業界についてより専門的なレベルでの理解を深める。	メッセージ 4年間の集大成として、会計学をベースにして興味のある企業や業界についての分析、研究をしてもらいます。
	到達目標 卒業論文を書き終える。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	各自、卒業論文を書く
	2	担当者による卒業論文の経過報告①	各自、卒業論文を書く
	3	担当者による卒業論文の経過報告②	各自、卒業論文を書く
	4	担当者による卒業論文の経過報告③	各自、卒業論文を書く
	5	担当者による卒業論文の経過報告④	各自、卒業論文を書く
	6	担当者による卒業論文の経過報告⑤	各自、卒業論文を書く
	7	担当者による卒業論文の経過報告⑥	各自、卒業論文を書く
	8	担当者による卒業論文の経過報告⑦	各自、卒業論文を書く
9	担当者による卒業論文の経過報告⑧	各自、卒業論文を書く	
10	担当者による卒業論文の経過報告⑨	各自、卒業論文を書く	
11	担当者による卒業論文の経過報告⑩	各自、卒業論文を書く	
12	担当者による卒業論文の経過報告⑪	各自、卒業論文を書く	
13	担当者による卒業論文の経過報告⑫	各自、卒業論文を書く	
14	担当者による卒業論文の経過報告⑬	各自、卒業論文を書く	
15	担当者による卒業論文の経過報告⑭	各自、卒業論文を書く	
16	卒業論文提出	各自、卒業論文を書く	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：なし 参考資料：各自必要な本や資料を図書館などで探す		
	学びの手立て 卒業論文に関してわからないことは、私に相談するようにしてください。		
	評価 卒業論文の提出80%と報告の内容20%で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目 原価計算、業績管理会計、戦略管理会計、経営分析、財務会計
-------	---

※ポリシーとの関連性

現代の国際企業は、今日では社会に多大な影響を及ぼしている。そうした国際企業の営み（経営活動）について学ぶ時間である。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	佐久本 朝一	4年	演習時間の前後に直接問い合わせることが望ましい。	

学びの準備	ねらい 国際経営に関する専門の論文を作成することと海外演習による市場調査を通して、国際経営に関する基礎知識を習得する。	メッセージ 国際社会で活躍しうる人材育成を目指す。
	到達目標 人前での自己表現の向上を図る。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	経営学について	関連図書のリスト作成Ⅰ
	2	イギリスにおける企業の発展Ⅰ	関連図書のリスト作成Ⅱ
	3	イギリスにおける企業の発展Ⅱ	関連図書のリスト作成Ⅲ
4	アメリカにおける企業の発展Ⅰ	プレゼンテーションの方法Ⅰ	
5	アメリカにおける企業の発展Ⅱ	プレゼンテーションの方法Ⅱ	
6	日本における企業の発展Ⅰ	プレゼンテーションの方法Ⅲ	
7	日本における企業の発展Ⅱ	論文レジュメの書き方Ⅰ	
8	科学的管理法Ⅰ	論文レジュメの書き方Ⅱ	
9	科学的管理法Ⅱ	論文レジュメの書き方Ⅲ	
10	人間関係論Ⅰ	報告書の書き方Ⅰ	
11	人間関係論Ⅱ	報告書の書き方Ⅱ	
12	動機づけ理論Ⅰ	報告書の書き方Ⅲ	
13	動機づけ理論Ⅱ	卒業論文の作成Ⅰ	
14	経営組織の基本形態Ⅰ	卒業論文の作成Ⅱ	
15	経営組織の基本形態Ⅱ	卒業論文の作成Ⅲ	
16	卒業論文の提出	卒業論文の修正と点検	
	テキスト・参考文献・資料など 佐久本 朝一著『能力主義管理の国際比較』東京図書出版会		
	学びの手立て 演習時間外での資料収集や自己の論文に関する関連図書を読むことが望ましい。		
	評価 各自が選んだ経営に関するテーマの論文を発表し（50点）作成し提出する（50点）ことで評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 外書講読、比較経営論Ⅰ、Ⅱ
-------	------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	4年	講義終了後に教室で受け付ける。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>これまで大学で学んだ本格的な成果の集大成を論文で表す。また、産学情報学部・企業システム学科の学生としての応用的な学習能力、コミュニケーション能力、表現力を高める。</p>	<p>卒論演習は、4年間の学びの集大成である。学んだすべてを出して卒業論文を作成してください。</p>

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. 目的・課題に対して適切に情報を収集することができる。 2. プレゼンテーション能力を身につける。 3. ビジネスに興味・関心を持ち、問題解決のためにディスカッションをすることができる。 4. 大学生として高度な論文が書ける。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	卒業論文作成 1	情報収集と論文作成
	3	卒業論文作成 2	情報収集と論文作成
	4	卒業論文作成 3	情報収集と論文作成
	5	卒業論文作成 4	情報収集と論文作成
	6	卒業論文作成 5	情報収集と論文作成
	7	中間発表 1	中間発表準備
	8	中間発表 2	中間発表準備
	9	卒業論文作成 6	情報収集と論文作成
	10	卒業論文作成 7	情報収集と論文作成
	11	卒業論文作成 8	情報収集と論文作成
	12	卒業論文作成 9	情報収集と論文作成
	13	卒業論文作成 10	卒論報告会準備
14	卒業論文報告会 1	卒論報告会準備	
15	卒業論文報告会 2	卒論報告会準備	
16	卒業論文昨秋確認	学生の相互確認	
	テキスト・参考文献・資料など		
	<p>随時、プリント資料等を配布する。 参考文献については、必要に応じて講義中に紹介する。</p>		
	学びの手立て		
	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に多様なメディア（新聞、TV、インターネット、書籍等）で情報を収集すること。 ・先輩や教員の論文を読み、自分の論文作成の参考にすること。 		
	評価		
	<p>評価は次の項目の総合的な観点から行われる。 ①平常点（10点）②卒業論文とそのプレゼンテーション内容（70点）③レポート（5点）④豆テスト（5点）⑤課題提出（10点）</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>大学を卒業してからもマーケティング・ビジネスに関することを学び続ける。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鶴池 幸雄	4年	uike@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 企業会計に係わり、これまで学習してきた内容を深めるとともに、一つのテーマについてこれをまとめる	メッセージ 企業に関わる様々な会計問題を見た上で自分の取り組む課題を見つけ、積極手に分析・検討を行っていきましょう
	到達目標 企業に関わる会計問題の中から卒業論文の対象として取りあげた課題について、論文を作成し、パワーポイントにて報告することにより、問題発見、解決、評価のプロセスに関わる能力を高める	

学びの準備	到達目標 企業に関わる会計問題の中から卒業論文の対象として取りあげた課題について、論文を作成し、パワーポイントにて報告することにより、問題発見、解決、評価のプロセスに関わる能力を高める

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p><u>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 卒業論文の作成 文献調査 論文構成の決定 執筆 後半の講義内で、卒論の報告を行う 会計のトピックについて 最新の会計基準動向などについて 研究・報告を行う
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>講義内で指示します。</p>

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>講義内で指示します。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>対象となるテーマについて論考を行いそれに対する考えを明確に表すため、論考の進め方、論文の書き方、報告の要点などを文献、資料を十分参考にして取り組んでください。</p>

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>対象となるテーマについて論考を行いそれに対する考えを明確に表すため、論考の進め方、論文の書き方、報告の要点などを文献、資料を十分参考にして取り組んでください。</p>
	<p>評価</p> <p>卒業論文の報告、提出 100</p>

学びの実践	<p>評価</p> <p>卒業論文の報告、提出 100</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>卒業後の社会活動において、企業活動の把握、問題点の抽出、解決法の探求、提示 という実践的な問題についての取り組み方を身につけ、実践する。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性 各自のテーマに基づき学修成果をまとめる。今後の課題（イシュー、文献、事例など）を提示し、具体的な方向性を決めていく。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩橋 建治	4年	kiwahashiアットまーく okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 卒業論文執筆のための指導を行う。	メッセージ 研究を通じて、自分自身が何を望んでいるのか（自己分析）、その研究を深めることで誰にどのような貢献ができるのか（社会における役割）を、納得のいくまで考えて欲しい。
	到達目標 個々の学修成果として、卒業論文を完成させる。	

学びの準備	到達目標 個々の学修成果として、卒業論文を完成させる。
-------	--------------------------------

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	はじめに： 卒業論文演習での学びについて	論文の書き方を学ぶ
	2	卒業論文の4年次後期中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	3	卒業論文の4年次後期中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	4	卒業論文の4年次後期中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	5	卒業論文の4年次後期中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	6	卒業論文の4年次後期中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	7	卒業論文の4年次後期中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	8	卒業論文の4年次後期中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	9	卒業論文の4年次後期中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	10	卒業論文の4年次後期中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	11	卒業論文の4年次後期中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	12	卒業論文の添削と修正	卒業論文の加筆修正
	13	卒業論文の添削と修正	卒業論文の加筆修正
	14	卒業論文の添削と修正	卒業論文の加筆修正
	15	卒業論文の編集と印刷	製本印刷に向けた編集
16	後期のまとめ	学修成果の振り返り	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 個々の卒業論文の構成に沿って、適宜紹介する。
-------	--

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やむを得ず遅刻・欠席する場合は、事前にメールにて連絡すること。 ・討論では積極的な発言を求める。 ・卒業論文の分量は16,000字～20,000字程度を目安とする。
-------	---

学びの実践	<p>評価</p> <p>演習への貢献度（討論での積極的な発言やゼミでの意欲的な取り組みなど）50%、卒業論文の完成度50%</p>
-------	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>これまで関心をもったすべての科目が関連しうる。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	4年	第5-603番教室(天野研)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	年間テーマを、「経営管理論」とする。本演習は4年次前期科目2.0単位、4年次後期科目2.0単位、合計4.0単位からなっている。経営学の基本的概念を正確に理解するために、ひきつづきテーマを決めて討論する。このほかに、各自がそれぞれ好きなテーマ（経営学の諸分野の中から）と好きな地域を決めて、その地域の経営の実状についてくわしく調べる。	「皆さん、ひきつづき卒業論文に取りこんでまいりましょう。(天野)」

到達目標	各自の卒業論文を完成させる。
------	----------------

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>（授業の展開計画）</p> <p>本演習の展開は、つぎのとおり予定している。</p> <p>（回数 内容）</p> <p>16 経営組織</p> <p>17 経営組織</p> <p>18 労務管理</p> <p>19 (卒業年次ゼミテーマ登録カード提出)</p> <p>20 財務管理</p> <p>21 財務管理</p> <p>22 販売管理</p> <p>23 販売管理</p> <p>24 計画と統制</p> <p>25 計画と統制</p> <p>26 いわゆる「日本的経営」</p> <p>27 後期末：卒業論文の提出締切り</p> <p>28 企業の社会的責任</p> <p>29 (卒業式・謝恩会パーティの実施計画)</p> <p>30 企業の社会的責任</p> <p>31 [予備日]</p>
-------	--

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>(テキスト) 未定</p> <p>(参考文献)</p> <p>古在由重(編)『哲学小辞典』岩波書店。</p> <p>小川英次ほか(編)『経営学の基礎知識』有斐閣。</p> <p>日録刊行会(編)『経営図書総目録2019』。</p>
-------	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・演習科目なので、休まず出席してください。 ・積極的に多様なメディア（書籍、雑誌、新聞、TV等）で、情報を収集してください。
--------	---

評価	演習への参加態度、課題提出、レポート提出等によって総合評価する。
----	----------------------------------

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>ビジネス界で活躍できる責任感ある社会人へ</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 相典	4年	i. sanjon@okiu. ac. jpまたは授業終了後	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	卒業論文演習Ⅰ・Ⅱのねらいは、観光マーケティングまたは観光ビジネスを巡る多様な課題に関する問題意識や課題を取り上げ、受講生自分の視覚や解決方法など様々なソリューションを提案することで、今後の有能な社会人になるために必要な資質を育てることである。	卒業論文演習Ⅱを通じて完成した卒業論文は、受講生自分が大学4年間学んだ知識やスキルを最終的にまとめた成果物の中で一つです。また、指導教員としてはこの卒業論文演習の過程を通じて、今後社会でマーケティング実務者として活躍する時に、いろんな意味で役に立てる時間になってほしいです。お互いに後悔の残らないよう最後まで頑張ってください。
到達目標	①卒業論文完成とその内容のレベルを高める。 ②卒業論文のオリジナリティやソリューションを自分のアイデアに基づいて提案する。 ③卒業論文作成過程で身につけた知識やスキルを今後の社会人としての実務で効果的に活用する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	卒業論文作成の最終ガイダンス(修正・補完のやり方)	個別論文作成
	3	卒業論文1次指導：個別指導①	コメントによる個別修正・補完
	4	卒業論文1次指導：個別指導②	コメントによる個別修正・補完
	5	卒業論文1次指導：個別指導③	コメントによる個別修正・補完
	6	卒業論文1次指導：個別指導④	コメントによる個別修正・補完
	7	卒業論文1次指導：個別指導⑤	コメントによる個別修正・補完
	8	卒業論文1次報告会	全体報告会
	9	卒業論文2次指導：個別指導⑥	コメントによる個別修正・補完
	10	卒業論文2次指導：個別指導⑦	コメントによる個別修正・補完
	11	卒業論文2次指導：個別指導⑧	コメントによる個別修正・補完
	12	卒業論文2次指導：個別指導⑨	コメントによる個別修正・補完
	13	卒業論文2次指導：個別指導⑩	コメントによる個別修正・補完
14	卒業論文2次報告会	全体報告会	
15	卒業論文最終修正・補完	個別論文作成	
16	卒業論文最終報告会	全体報告会	
テキスト・参考文献・資料など	テキスト・参考文献・資料など 1. テキスト：使用しません。適宜資料を配布したり、参考文献を提示します。個別受講生の卒論テーマに応じて適切な参考文献を案内します。		
学びの手立て	1. 遅刻や無断欠席は成績評価に積極的に反映しますので、ご注意ください。(やむを得ず遅刻・欠席の場合は事前にメールで連絡してください) 2. 就活による欠席については事前・事後に必ず欠席届を提出してください。 3. 論文作成に関して悩みがあるときには、積極的に相談に来てください。		
評価	1. 出席・受講態度を積極的に反映します *5回以上の遅刻や無断欠席の場合は履修できません。 *授業中またはディスカッションへの積極的な参加には加点があります。 2. 卒業論文1次報告と卒業論文2次報告など卒論準備過程を総合的に評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージ：多様な企業への進出。マーケティング関連仕事で活躍。今後転職・大学院進学などの自我発展を通じて一層素晴らしい社会人になる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	4年	mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	①卒業論文・卒業プロジェクトレポートの作成に向けて、書き方・情報収集・仮説設定の考え方・論文の構成などを学習すること。 ②マーケティング的な考え方を実践的に養い、沖縄から全国、世界のビジネス界で活躍できる人材を育てます。	演習、実習の形式を併用して授業を行う。

到達目標	卒業論文の作成能力を習得する。
------	-----------------

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） ***** (1) 後期日程のガイダンス (卒論に関する情報収集1) (2) 課題研究の研究手法 (卒論の研究手法に関する情報収集) (3) 課題研究の先行研究 (卒論の先行研究に関する情報収集) (4) 仮説設定などの再検討 (仮説の準備・検討) (5) 課題研究執筆：個別指導① (卒業論文の作成1) (6) 課題研究執筆：個別指導② (卒業論文の作成2) (7) 課題研究執筆：個別指導③ (卒業論文の作成3) (8) 課題研究執筆：個別指導④ (卒業論文の作成4) (9) 課題研究執筆：個別指導⑤ (卒業論文の作成5) (10) 課題研究執筆：個別指導⑥ (卒業論文の作成6) (11) 課題研究執筆：個別指導⑦ (卒業論文の作成7) (12) 課題研究執筆：個別指導⑧ (卒業論文の作成8) (13) 課題研究の原稿の校正 (卒業論文内容の校正) (14) 課題研究の原稿の点検 (卒業論文内容の点検) (15) 課題研究の原稿の印刷 (卒業論文の印刷) (16) 課題研究の提出 *****
	テキスト・参考文献・資料など 講義の中で、適切なテキストを指示する。
	学びの手立て ①個人とグループ発表の時、自分の意見とディスカッションを行うことが大前提です。 ②授業に参加し、積極的に学ぶ姿勢（パティシペーションなど）が必要である。
	評価 ◇卒業論文の内容（50%） ◇卒業論文の発表（50%）

学びの継続	次のステージ・関連科目 大学院進学、中小企業診断士、マーケティング関連会社など
-------	--

※ポリシーとの関連性 学ぶ姿勢と学ぶ力を付ける。自分で考えて、自ら動いていく力を付ける。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャル・マーケティング	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	3年	miyamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業を通して、ソーシャル・マーケティングの成り立ちとその活用方法学び、いかにして企業が自社の商品に社会的加価値を必要とされているを知る。	メッセージ 専門科目を単なる単位・学ぶべきものとするのではなく、授業を通してその科目の楽しさ、面白さ、社会への影響に気づくことが大切です。
	到達目標 1. ソーシャル・マーケティングの概要を知る。 2. ソーシャル・マーケティングの基本理論を学ぶ。 3. 社会貢献とマーケティングの関係性を知る。 4. 基本的なソーシャル・マーケティングのビジネスモデルが説明できるようになる。	

学びの準備	到達目標 1. ソーシャル・マーケティングの概要を知る。 2. ソーシャル・マーケティングの基本理論を学ぶ。 3. 社会貢献とマーケティングの関係性を知る。 4. 基本的なソーシャル・マーケティングのビジネスモデルが説明できるようになる。
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	ソーシャル・マーケティングとは	マーケティング入門の復習をする
	3	社会貢献と企業1	テキストを読む
	4	社会貢献と企業2	テキストを読む
	5	社会文化的変化の創出1	テキストを読む
	6	社会文化的変化の創出2	テキストを読む
	7	消費者に対するコミットメント活動1	テキストを読む
	8	消費者に対するコミットメント活動2	テキストを読む
	9	新興市場における起業家の創造	テキストを読む
	10	環境の持続可能性に対する取り組み1	テキストを読む
	11	環境の持続可能性に対する取り組み2	テキストを読む
	12	消費者に対するミッションのマーケティング1	テキストを読む
	13	消費者に対するミッションのマーケティング2	テキストを読む
	14	課題の発表準備	課題発表資料作成1
	15	課題の発表	課題発表資料作成2
16	期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：授業で指定する。また、必要に応じて授業の中でプリントを配布する。参考文献も必要な時に発表する。
-------	--

学びの実践	学びの手立て 履修の心構え： ①出席・授業への積極的参加を強く求める、②自分から動く、③課題提出は期日を守る、④他の学生に迷惑を掛けない。 学びを深めるために： ①マーケティングと社会貢献の関係を知る、②議論に積極的に参加する、③日経MJを読む、④ソーシャル・マーケティングを実践している企業の経営者や従業員の経営哲学を学ぶ。
-------	---

学びの実践	評価 評価は次の項目の総合的な観点から行われる。 ①平常点 (10点) ②期末試験 (70点) ③レポート (5点) ④豆テスト (5点) ⑤課題提出 (10点)
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 ビジネス関連科目を多く受講すること。マーケティングに関連した書籍を読むこと。一般教養科目をしっかりと学ぶこと。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	中小企業経営論	後期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩橋 建治	3年	kiwahashiアットまーくokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 中小企業経営について理解を深める。	メッセージ この授業では、グローバル化と地域のはざまで、中小企業がいかにして経営環境に適応していくのかを学ぶ。
	到達目標 中小企業のあり方とそれを取りまく国内外の動向を明確にイメージできること。	

学びの準備	到達目標 中小企業のあり方とそれを取りまく国内外の動向を明確にイメージできること。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	中小企業経営とは	講義内容の復習
	2	日本経済と中小企業 (1) 戦前から現在まで	時代区分でまとめる
	3	日本経済と中小企業 (2) 大企業と中小企業	大企業との関係を学習
	4	日本経済と中小企業 (3) 地域経済と中小企業	地域経済の学習
	5	環境変化と中小企業 (1) 下請けシステムとものづくり中小企業	下請けシステムの学習
	6	環境変化と中小企業 (2) 国際化と中小企業	国際化の学習
	7	環境変化と中小企業 (3) 事業継承と中小企業	事業継承の学習
	8	環境変化と中小企業 (4) 集積・ネットワークを活かす中小企業	産業集積の学習
	9	環境変化と中小企業 (5) 地域と共に生きる中小企業	地域のつながりを学ぶ
	10	政策とイノベーション (1) 国による中小企業政策	中小企業政策の学習
	11	政策とイノベーション (2) 自治体による中小企業政策	中小企業政策の学習
	12	政策とイノベーション (3) イノベーションを展開する中小企業	イノベーションを学ぶ
	13	沖縄の中小企業の事例	沖縄の中小企業を知る
	14	グループディスカッション	学習内容をまとめる
	15	期末試験	学習成果をまとめる
16	まとめ	学習成果をまとめる	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 植田浩史ほか (2014) 『中小企業・ベンチャー企業論 [新版]: グローバルと地域のはざままで』有斐閣。
-------	--

学びの実践	学びの手立て 県内外の中小企業に対する関心を深めて欲しい。
-------	----------------------------------

学びの実践	評価 期末試験 (80%)、中間レポート (20%)
-------	-------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 中小企業診断Ⅰ、中小企業診断Ⅱ、および経営コースの各科目。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	中小企業診断 I	前期	水 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-高嶺 直	3年	ptt109@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 中小企業や小規模事業者の経営課題は、年々、複雑化・多様化しており、持続的経営に向けた経営診断は高度な専門知識や技術を使って課題解決を進める必要がある。本講義では、診断先の中小企業及び小規模事業者の現状を理解するとともに経営診断の基本について学んでいく。	メッセージ ・論理的思考で物事を捉えるよう心掛けて欲しい。 ・大学で学ぶ知識を横断的に活用できるよう心掛けて欲しい。
	到達目標 ・中小企業・小規模事業者の現状について説明ができる。 ・経営診断のプロセスを体系的に理解し説明できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	講義の全体像を確認する。
	2	中小企業とは	中小企業白書にて調べる。
	3	中小企業の現状	中小企業白書にて調べる。
	4	中小企業の産業別構造	中小企業白書にて調べる。
	5	中小企業を取り巻く環境変化と生産性	中小企業白書にて調べる。
	6	中小企業の経営課題	中小企業白書にて調べる。
	7	中小企業政策①	中小企業庁HPにて調べる。
	8	中小企業政策②	中小企業庁HPにて調べる。
	9	中小企業基本法	中小企業庁HPにて調べる。
	10	中小企業診断制度	中小企業庁HPにて調べる。
	11	コンサルティングスタイル	経営学等の参考文献にて学習
	12	コンサルティングプロセス①	経営学等の参考文献にて学習
	13	コンサルティングプロセス②	経営学等の参考文献にて学習
	14	中小企業の経営戦略策定プロセス	経営学等の参考文献にて学習
15	中小企業の経営戦略実行プロセス	経営学等の参考文献にて学習	
16	期末試験	学習成果をまとめる。	
	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。ワークシート（講義ノート）を用いて講義を進める。 『中小企業白書』中小企業庁 青山和正『中小企業論』同友館 伊丹敬之、加護野忠雄『経営学入門』日本経済新聞社		
	学びの手立て 毎回出席をとる。その時点で教室にいない場合は欠席となる。やむを得ず欠席する場合は、必ず欠席届を提出すること。 講義はワークシート（講義ノート）を毎回使用するの、忘れずに必ず持参すること。		
	評価 期末試験60%、レポート提出30%、授業態度10% 出席状況については、無断欠席が5回以上になると「不可」となる。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 中小企業診断士の一次試験に関連する科目（経営学、財務・会計学、マーケティング、経済学、経営情報、経営法務、中小企業論）を履修し、資格取得を目指してもらいたい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	中小企業診断Ⅱ	後期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-安谷屋 盛広	3年	info@adaniya-consulting.com	

学びの準備	ねらい 中小企業の経営診断を行うにあたり必要な基礎知識の習得を行い、企業の分析事例をもとに具体的な診断を体系的に学習する。	メッセージ 大学にて学んだ経営理論を仕事の現場で活かせるような、ものごころを身に付けます。さまざまな仕事についても、ビジネスパーソンとして必要な知識とそれを具体的に活用する方法を学べます。
	到達目標 ・企業経営の事象を論理的に分析し、問題点、課題、解決策を導くことができる。 ・中小企業診断士試験の問題を理解し、回答できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、履修登録	講義内容の復習
	2	企業診断の進め方	企業診断のフレームワークの理解
	3	中小企業の経営戦略	経営理論のおさらい
	4	〃 の財務診断の概略	財務管理のおさらい
	5	〃 の販売診断の概略	フレームワークのおさらい
	6	〃 の生産診断の概略	原価管理のおさらい
	7	〃 の企業診断の概略	企業診断のおさらい
	8	中間テスト	学習成果をまとめる
	9	中間テストの解説	学習成果をまとめる
	10	小売商業の診断演習 1	国内の小売商業の動向について調査
	11	〃 2	同上
	12	サービス業の診断演習 1	国内のサービス業について調査
	13	〃 2	同上
	14	製造業の診断演習	国内の製造業について調査
15	期末テスト	学習成果をまとめる	
16	期末テスト解説、考査	学習成果をまとめる	
テキスト・参考文献・資料など 市販のテキスト等は使用しません。オリジナルの資料を適宜配布します。			
学びの手立て ・出欠確認を毎回行い、評価点とします。 ・講義に参加して議論に積極的に参加することを重視します。 ・社会情勢、経済環境に興味・関心を持ち普段のニュース等から企業経営に関する影響などをウォッチしてください。			
評価 平常点（60％）：講義への受講態度と積極的な発言に対して加点します。 中間テスト（20％）：経営戦略、マネジメント、マーケティングの基本知識のおさらいをします。 期末テスト（20％）：中小企業診断に必要な知識のおさらいをします。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 中小企業診断士試験の資格取得を目指していただきたい。 就職後の仕事においてもものごころや物事の進め方を実践的に活かしていただきたい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	中小企業マーケティング	前期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	3年	研究室: 5633 mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この授業は中小企業のマーケティング活動を中心に概説し、中小企業マーケティングの必要性・基礎的な概念、中小企業の持続型経営モデル・発展型経営モデル、中小企業マーケティング構造、中小企業マーケティングの特質などを学習する。また、中小企業の事業形態別のマーケティング活動の事例を紹介しながら、中小企業のグローバル・マーケティングや地域ブランド形成などを説明する。	授業計画は学習状況によって変更することがある
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 中小企業の現状と課題を理解する 2) 中小企業の運営能力を身につけることを目標とする 3) 中小企業の定義、歴史、競争、経営とマーケティング役割などについて理解する 	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>第1回: シラバス説明と中小企業の定義 (資料1を読む)</p> <p>第2回: 中小企業マーケティングとは (資料1を読む)</p> <p>第3回: 中小企業の経営モデルと企業成長 (資料2を読む)</p> <p>第4回: 中小企業の新商品開発と差別化 (資料2を読む)</p> <p>第5回: 中小企業の流通戦略 (資料3を読む)</p> <p>第6回: 中小企業のプロモーション戦 (資料3を読む)</p> <p>第7回: 中小企業の価格戦略 (資料4を読む)</p> <p>第8回: 中間理解度テスト (資料1～資料4の復習)</p> <p>第9回: 中小小売業のマーケティング活動 (グループ活動の情報収集・準備)</p> <p>第10回: 中小製造業・卸売業のマーケティング活動 (グループ活動の情報収集・準備)</p> <p>第11回: 中小サービス業のマーケティング活動 (グループ活動の情報収集・準備)</p> <p>第12回: 欧米の中小企業 (欧米マーケティングの情報収集)</p> <p>第13回: 東南アジア・東アジアの中小企業 (東南アジアマーケティングの情報収集)</p> <p>第14回: 中小企業とブランドマーケティング (中小企業ブランド戦略を調べる)</p> <p>第15回: 中小企業と地域ブランド形成 (地域ブランドを調べる)</p> <p>第16回: 期末試験およびレポート提出</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト: 田中 道雄 (2014) 「中小企業マーケティング」中央経済社</p> <p>参考書・参考資料等: ●田中 道雄 (著・編集), 白石 善章 (著・編集), & その他 (2016) 「中小企業マーケティングの構図」同文館出版 ●『中小企業白書』2015年版</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>【履修の心構え】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 第1回目の授業は必ず出席すること。 2) 授業に参加し、積極的に学ぶ姿勢 (報告に対する質疑応答、パティシペーションなど) が必要である
評価	中間理解度テスト (30%)、期末試験 (40%) とレポート (30%) を総合的に評価

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>マーケティングコースの卒業論文演習、中小企業診断士など</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	データベース	期別	曜日・時限	単位
	担当者	-大城 絢子	前期	木2	2
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			2年	ptt1071@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい データベースの概要から基本操作、簡単なデータベース構築技術の修得までを目的とする。データベースソフトの一つである「Access」を使用し講義を進める。	メッセージ コンピュータを用いた実習を中心に学びます
	到達目標 1. データベースの概念の理解 2. Accessの一通りの操作能力を習得	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション -データベースとは-	次週までに課題をメールにて提出
	2	Accessの概要・基本操作	次週までに課題をメールにて提出
	3	Accessの概要・基本操作	次週までに課題をメールにて提出
	4	データベースのデータ編集	次週までに課題をメールにて提出
	5	データベースのデータ編集	次週までに課題をメールにて提出
	6	テーブルの操作	次週までに課題をメールにて提出
	7	テーブルの操作	次週までに課題をメールにて提出
	8	データベースの設計	次週までに課題をメールにて提出
	9	データベースの設計	次週までに課題をメールにて提出
	10	データベースの設計	次週までに課題をメールにて提出
	11	レポートの印刷	次週までに課題をメールにて提出
	12	総合演習	次週までに課題をメールにて提出
	13	マクロの利用	次週までに課題をメールにて提出
	14	マクロの利用	次週までに課題をメールにて提出
15	総合演習/簡単なデータベースの構築	次週までに課題をメールにて提出	
16	試験		
	テキスト・参考文献・資料など 参考文献:30時間で マスター Access 2013 著者:実教出版編修部 発行:実教出版株式会社 1,188円		
	学びの手立て 講義では演習や実習を中心とし、毎週の課題に取り組むことで理解を深めます。次回の講義日までに、メールにて課題を提出してもらいます。		
	評価 レポートの提出状況(65%)+最終試験の点数(35%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ウェブプログラミング プログラミング概論 プログラミング I 情報処理システム論など
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本流通論	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	2年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①流通に関する基礎的な理論を学び、今日の流通実態を理解する。 ②流通業発展の歴史を学ぶことで、流通業の役割を理解する。 ③日本型流通の特徴について理解する。</p>	<p>流通は、生産と消費をつなぐことで商業活動を円滑に行う手助けをするという役割を持っている。流通チャンネルが多様であるがゆえに、私たちは便利で豊かな消費生活を送ることができる。 本講義の目的は、生活に密接に結び付いた流通の仕組みや役割を基礎から学ぶことで、日本型流通の特徴や問題点を理解することである。</p>
到達目標	<p>①流通に関する基礎的な理論を習得し、今日の流通実態について理解する。 ②小売業の業態についての理解を深めると同時に、日本型流通の特徴を理解する。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：流通とマーケティングの関係	テキストの準備
2	流通とは何か	流通の機能について学ぶ	
3	商圈とエリアマーケティング	商圈と購買圏について学ぶ	
4	卸売業について	日本の卸売業の特徴を学ぶ	
5	小売業の役割と機能	小売業の機能について学ぶ	
6	物流とは何か	物流の定義について学ぶ	
7	中間試験	第1回から第6回講義までの復習	
8	小売業のかたち①：無店舗小売業	無店舗小売業について学ぶ	
9	業種と業態	業種と業態について学ぶ	
10	小売業のかたち②：百貨店①	百貨店成立史について学ぶ	
11	小売業のかたち③：百貨店②	百貨店の特徴について学ぶ	
12	小売業のかたち④：GMS	日本型GMSの特徴について学ぶ	
13	小売業のかたち⑤：スーパーマーケット	スーパーの特徴について学ぶ	
14	小売業のかたち⑥：コンビニエンス・ストア	コンビニの特徴について学ぶ	
15	小売業のかたち⑦：零細小売業と商店街	商店街の特徴について学ぶ	
16	期末試験	第8回から第15回講義までの復習	
テキスト・参考文献・資料など	<p>【使用テキスト】：講義中に使用するテキストのため、購入して毎回必ず持参すること。 ・住谷宏編著（2019）『流通論の基礎（第3版）』中央経済社</p>		
学びの手立て	<p>【履修の心構え】 ①無断欠席や遅刻は厳禁とする。 ②やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前に担当教員に連絡をすること。 ③スーパーマーケット、コンビニなどを観察し、流通チャンネルの重要性を身近から学ぶこと。 ④新聞などに目を通し、卸売業・小売業の動向についてチェックすること。</p>		
評価	<p>【成績評価の内訳】（100%） 中間試験（40%） 期末試験（40%） レポート課題提出（20%）：レポート課題を期限までに提出すること。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>地域社会における流通業の役割を理解して、わが国の卸売業・小売業が抱える課題を発見する。マーケティング入門Ⅰ・Ⅱを事前に履修していることが望ましい。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	販売管理論	後期	火 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	2年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	販売業務の基礎（接客・販売技術・店舗経営等）を学ぶことで、関連する流通・マーケティング・経営科目の習得につなげる。 明確な達成目標として、リテールマーケティング（販売士）検定3級の取得を目指すことで、実務をより身近に感じてもらう。	ショッピングをする際に、商品の質や価格のほかに、店内の雰囲気、従業員の接客、商品の品揃えや陳列方法に興味を持ったことはないだろうか。販売実務の現場では、顧客のニーズを的確に捉えようと日々様々な工夫を凝らしている。 本講義では、リテールマーケティング（販売士）検定3級取得を目指しながら、流通・マーケティングをより身近に学ぶ。
到達目標	①流通における小売業の役割を理論・実務双方の点から理解する。 ②リテールマーケティング（販売士）検定3級取得に必要な知識を習得する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	小売業の類型①	流通における小売業を学習
	2	小売業の類型②	組織形態別小売業を学習
	3	小売業の類型③	店舗形態別小売業を学習
	4	小売業の類型④	商業集積について学習
	5	マーチャンダイジング①	マーチャンダイジングを学習
	6	マーチャンダイジング②	価格設定について学習
	7	マーチャンダイジング③	POSシステムについて学習
	8	中間試験	第1回から第7回講義までの復習
	9	ストアオペレーション①	ストアオペレーションを学習
	10	ストアオペレーション②	ディスプレイについて学習
	11	ストアオペレーション③	作業割当について学習
	12	マーケティング①	商圏の設定について学習
	13	マーケティング②	顧客志向の売場づくりを学習
14	販売・経営管理①	販売員の役割について学習	
15	販売・経営管理②	店舗管理について学習	
16	期末試験	第9回から第15回講義までの復習	
テキスト・参考文献・資料など	【使用テキスト】：講義中に使用するテキストのため、購入して毎回必ず持参すること。 ・坪井晋也・河田賢一編著（2018）『販売管理論入門』学文社		
学びの手立て	【履修の心構え】 ①無断欠席や遅刻は厳禁とする。 ②やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前に担当教員に連絡をすること。 ③スーパーマーケット、コンビニなどを観察し、販売のための工夫を身近から学ぶこと。 ④新聞などに目を通し、小売業・サービス業の動向についてチェックすること。		
評価	【成績評価の内訳】（100%） 中間試験（40%） 期末試験（40%） レポート課題提出（20%）：レポート課題を期限までに提出すること。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 販売実務への興味を喚起し、流通やマーケティングが身近なものであることを理解することが目標である。 履修学生には、リテールマーケティング（販売士）検定3級もしくは2級への挑戦を促したい。 関連科目として日本流通論がある。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	販売管理論	前期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	2年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	販売業務の基礎（接客・販売技術・店舗経営等）を学ぶことで、関連する流通・マーケティング・経営科目の習得につなげる。 明確な達成目標として、リテールマーケティング（販売士）検定3級の取得を目指すことで、実務をより身近に感じてもらう。	ショッピングをする際に、商品の質や価格のほかに、店内の雰囲気、従業員の接客、商品の品揃えや陳列方法に興味を持ったことはないだろうか。販売実務の現場では、顧客のニーズを的確に捉えようと日々様々な工夫を凝らしている。 本講義では、リテールマーケティング（販売士）検定3級取得を目指しながら、流通・マーケティングをより身近に学ぶ。
到達目標	①流通における小売業の役割を理論・実務双方の点から理解する。 ②リテールマーケティング（販売士）検定3級取得に必要な知識を習得する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	小売業の類型①	流通における小売業を学習
	2	小売業の類型②	組織形態別小売業を学習
	3	小売業の類型③	店舗形態別小売業を学習
	4	小売業の類型④	商業集積について学習
	5	マーチャンダイジング①	マーチャンダイジングを学習
	6	マーチャンダイジング②	価格設定について学習
	7	マーチャンダイジング③	POSシステムについて学習
	8	中間試験	第1回から第7回講義までの復習
	9	ストアオペレーション①	ストアオペレーションを学習
	10	ストアオペレーション②	ディスプレイについて学習
	11	ストアオペレーション③	作業割当について学習
	12	マーケティング①	商圏の設定について学習
	13	マーケティング②	顧客志向の売場づくりを学習
14	販売・経営管理①	販売員の役割について学習	
15	販売・経営管理②	店舗管理について学習	
16	期末試験	第9回から第15回講義までの復習	
テキスト・参考文献・資料など	【使用テキスト】：講義中に使用するテキストのため、購入して毎回必ず持参すること。 ・坪井晋也・河田賢一編著（2018）『販売管理論入門』学文社		
学びの手立て	【履修の心構え】 ①無断欠席や遅刻は厳禁とする。 ②やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前に担当教員に連絡をすること。 ③スーパーマーケット、コンビニなどを観察し、販売のための工夫を身近から学ぶこと。 ④新聞などに目を通し、小売業・サービス業の動向についてチェックすること。		
評価	【成績評価の内訳】（100%） 中間試験（40%） 期末試験（40%） レポート課題提出（20%）：レポート課題を期限までに提出すること。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 販売実務への興味を喚起し、流通やマーケティングが身近なものであることを理解することが目標である。 履修学生には、リテールマーケティング（販売士）検定3級もしくは2級への挑戦を促したい。 関連科目として日本流通論がある。
-------	--

※ポリシーとの関連性

営利企業会計及び非営利会計の目的、各基準の相違点などを学び、幅広い会計知識を習得。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	非営利会計	後期	金2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-上原 香代子	3年	E-mail: ptt451@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>非営利会計の対象は、国・地方公共団体、公益法人、学校法人、社会福祉法人、宗教法人等であり、それぞれに会計基準が存在します。</p> <p>近年の非営利会計制度の改正は、アカウンタビリティ（説明責任）を重視する企業会計制度と多くの共通部分を有するようになりました。</p> <p>到達目標</p> <p>非営利組織ごとの会計基準（測定方法、表示および開示方法）の違いにより、一般的な会計知識では、その情報を理解し利用することが困難であることを学習するとともに、近年における各会計基準の改訂の動向を確認し、その方向性を考察できるようになること。</p>	<p>非営利法人会計の改正傾向は、企業会計の表示基準などに近似しています。簿記会計の基礎を習得した学生にとって、将来の選択肢が広がる科目と思います。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイドランスー我が国の非営利組織会計	提供レジュメの確認
	2	公益法人会計の「貸借対照表」－「資産の部」	テキストと配布資料で復習
	3	公益法人会計の「貸借対照表」－「負債の部」「正味財産の部」	テキストと配布資料で復習
	4	公益法人会計の「正味財産増減計算書」	テキストと配布資料で復習
	5	公益法人会計の「キャッシュ・フロー計算書」	テキストと配布資料で復習
	6	公益法人会計の法人税等1 概要	テキストと配布資料で復習
	7	公益法人会計の法人税等2 収益事業の意義と範囲等	テキストと配布資料で復習
8	公益法人会計の法人税等3 みなし寄付金制度、消費税等	公益法人会計レジュメのまとめ	
9	その他の非営利法人会計1 社会福祉法人会計	テキストと配布資料で復習	
10	その他の非営利法人会計2 NPO法人会計、病院会計	テキストと配布資料で復習	
11	その他の非営利法人会計3 学校法人会計、宗教法人会計	各項目のレジュメまとめ	
12	地方政府の会計－わが国地方政府の会計	テキストと配布資料で復習	
13	地方政府の会計－政府会計の「基本目的」「貸借対照表」「資産の部」の評価	テキストと配布資料で復習	
14	地方政府の会計－政府会計の「行政コスト計算書」	テキストと配布資料で復習	
15	地方政府の会計－政府会計の「純資産変動計算書」「資金収支計算書」	地方政府会計の動向まとめ	
16	期末テスト		
実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：講義開始時に指定。</p> <p>参考文献：財団法人大蔵税務協会『非営利法人の税務と会計』中田ちざ子編著</p>		
	<p>学びの手立て</p> <p>非営利組織の会計も「仕訳」の知識が必要です。</p> <p>企業会計の知識を前提に、各非営利組織の特殊性とその会計基準等を学習します。</p>		
	<p>評価</p> <p>授業参加度及び課題内容評価（30%）、レポート（40%）期末テスト（30%）の総合評価</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「関連科目」 税法、税務会計等</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	比較経営論Ⅰ	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	佐久本 朝一	3年	当該講義時間の前後に直接問い合わせることが望ましい。	

学びの準備	ねらい 国際比較の経営的な視点より辺境における経済発展の理論について説明する。	メッセージ 国際社会で活躍しよう。
	到達目標 経営組織を構成する人・文化・経済という視点から、イギリス・アメリカ・日本の経済発展のプロセスを辿っていくことになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	国際的な企業における経営組織Ⅰ	関連図書のリスト作成Ⅰ
	2	国際的な企業における経営組織Ⅱ	関連図書のリスト作成Ⅱ
	3	国際的な企業における経営組織Ⅲ	関連図書のリスト作成Ⅲ
	4	イギリスにおける企業経営の組織Ⅰ	マーケティングⅠ
	5	イギリスにおける企業経営の組織Ⅱ	マーケティングⅡ
	6	アメリカにおける企業経営の組織Ⅰ	大量生産方式Ⅰ
	7	アメリカにおける企業経営の組織Ⅱ	大量生産方式Ⅱ
	8	日本における企業経営の組織Ⅰ	経営戦略Ⅰ
	9	日本における企業経営の組織Ⅱ	経営戦略Ⅱ
	10	日本における企業経営の組織Ⅲ	経営戦略Ⅲ
	11	経営理念Ⅰ	日本的経営の文化構造Ⅰ
	12	経営理念Ⅱ	日本的経営の文化構造Ⅱ
	13	組織化された企業者活動Ⅰ	日本的経営の文化構造Ⅲ
	14	組織化された企業者活動Ⅱ	日本の技術者Ⅰ
15	日本の経営者Ⅰ	日本の技術者Ⅱ	
16	日本の経営者Ⅱ	日本経済の二重構造	
	テキスト・参考文献・資料など 佐久本 朝一『技術革新下の労働と日本型企業社会』国際経営研究所、1995年。		
	学びの手立て 講義にて展開される理論に関する関連図書を収集し、理解することが望ましい。		
	評価 2回実施される理解度テストの結果（50点）と授業中に行われる教員との議論の内容（50点）による。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 外書講読、比較経営論Ⅰ、Ⅱ
-------	------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	比較経営論Ⅱ	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	佐久本 朝一	3年	講義時間の前後に直接問い合わせること。	

学びの準備	ねらい 国際経営に関する専門知識を把握する。	メッセージ 国際ビジネスを学ぶ
	到達目標 将来貿易が行える企業活動に関する知識の習得を目指す。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	アメリカンマネジメントの特質Ⅰ	関連図書のリスト作成Ⅰ
	2	アメリカンマネジメントの特質Ⅱ	関連図書のリスト作成Ⅱ
	3	日米比較経営Ⅰ	関連図書のリスト作成Ⅲ
	4	日米比較経営Ⅱ	日本的経営Ⅰ
	5	経営構想力Ⅰ	日本的経営Ⅱ
	6	経営構想力Ⅱ	企業競争の意識Ⅰ
	7	経営構想力Ⅲ	企業競争の意識Ⅱ
	8	企業経営者の経営行動Ⅰ	企業競争の意識Ⅲ
	9	企業経営者の経営行動Ⅱ	経営戦略Ⅰ
	10	企業経営者の経営行動Ⅲ	経営戦略Ⅱ
	11	日本企業と過労シンドロームⅠ	経営戦略Ⅲ
	12	日本企業と過労シンドロームⅡ	日本の経営者Ⅰ
	13	日本型企业社会Ⅰ	日本の経営者Ⅱ
	14	日本型企业社会Ⅱ	日本の経営者Ⅲ
15	日本型企业社会Ⅲ	日本的経営と文化構造Ⅰ	
16	日本的経営と国際化	日本的経営と文化構造Ⅱ	
テキスト・参考文献・資料など 1 佐久本朝一「技術革新下の日本型企业社会」ユージン伝株式会社 2 佐久本朝一「日本企業と過労シンドローム」中央経済社 3 佐久本 朝一『技術革新下の労働に日本型企业社会』国際経営研究所			
学びの手立て 理解度を増すためには講義中に展開される理論に関する関連図書を収集する必要がある。			
評価 2回のテストによる理解度の評価（50点）と講義中での質疑応答（50点）を加味して判断する。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 外書講読、経営学演習、経営学総論など経営に関する科目。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ビジネスプレゼンテーション	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-佐渡山 美智子	3年	free-net@ezweb.ne.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「伝えたいこと」を誤解なく、効果的に表現するためには、コミュニケーションの基本を知ることが必要です。傾聴、理解、共感、確認、伝達など、「相手を知ること」で、伝える内容や表現を選ぶことができます。あわせて、相手への敬意を表すためには、姿勢を整え挨拶を交わし、より伝わる話し方を身につけ、言葉に責任を持った表現ができることを目指します。</p>	<p>社会人として求められるスキルのトップにあげられるのは、コミュニケーション力です。ビジネスの基本である報告・連絡・相談も、相手の身になって考え、行動することから始まります。姿勢を正して挨拶ができ、その言葉は聞き取りやすく、しっかりと責任をもって伝えることができるようにスキルアップを図ります。プレゼンテーション、ディスカッション、ディベートを通して実践します。</p>
到達目標	<p>●傾聴（話の内容と意図を理解）し、要点をメモにとることができる。●姿勢を整え、しっかりと挨拶をすることができる。●言葉が聞きとりやすく、はっきりと話すことができる。●情報の収集・整理・選択ができる。●グループワークで意見を調整し、プレゼンテーションができる。●聞き手にあわせて、効果的に話することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	自己紹介・受講目的について準備
	2	姿勢・挨拶・発声トレーニング・自己紹介・インタビュー・他己紹介	発声練習・自己PR文の作成
	3	自己PRスピーチトレーニング・音読トレーニング	新聞記事の準備
	4	継承<クリエイティブリスニング>、新聞記事の音読・内容紹介	ディスカッションテーマの提案
	5	ディスカッションテーマの提案<グループテーマの選択>	テーマについての情報収集
	6	情報の収集・整理・選択<情報の提供と目的の明確化・表現の方法>	コメントの作成・言葉の選択
	7	ディスカッション<傾聴・理解・伝達・表現>	振り返りレポート
	8	ディベートについて<多角的なもの見方・多様な価値観の理解>	ディベートテーマの提案準備
	9	ディベートテーマの提案・決定<社会的な課題からの選択>	裏付けデータ等、情報の収集・選択
	10	ディベートマップの作成<多角的視点・ストーリーの作成>	ファイルの整理・発言リハーサル
	11	ディベートマッチ<実践>＝物事の本質を観る論理的な話し方	振り返りレポート・就活の現状を整理
	12	ディスカッション<就職活動を有利に展開するために>	現状の把握・情報収集・整理・所見
	13	グループワーク<情報共有・整理・選択・要点・表現方法等>	パワーポイントの作成
	14	チームプレゼンテーション<実践1>	PDCAマネジメントサイクルで検証
15	チームプレゼンテーション<実践2>	総括レポートのまとめ	
16	総括<コミュニケーション力とプレゼンテーション>		

テキスト・参考文献・資料など
 テキストは使用しません。必要な資料は、プリントで配布致します。

学びの手立て
 履修の心構えとして ●出欠確認を厳格に行います。連絡なしの欠席・遅刻は大きな減点となります。やむを得ない状況の場合は、必ず連絡することを基本とします。欠席届は必ず翌週までに提出してください。●この講義を受講する目的を明確にして臨むことが有意義な活動へと繋がります。●プリントは最小限に準備する予定です。講義内の話をきちんと聞く姿勢から、傾聴と学び取るチカラをつけてもらいます。あわせて、その要点をメモにして記録を残し、振り返り・確認ができること評価します。社会でもとめられているスキルのひとつです。●人と人を繋ぐ意識を持ち、グループワークでよりよいコミュニケーションのために行動してください。●質問するチカラで講義の内容をより有意義なものにしてください。

評価	<input type="checkbox"/> 出席率 <input type="checkbox"/> 宿題・課題など事前準備の状況	<input type="checkbox"/> 提出物（レポートやノートなど） <input type="checkbox"/> 活動内容と実績
----	---	--

次のステージ・関連科目
 ●この講義で要点となっていることを意識的に実践していくことが、スキルアップに繋がります。3年生は、就職活動の中で、また、社会人としても常にコミュニケーションと表現。自分の言葉に責任をもつことをこころがけることが大切です。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマン・セミナー	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	島袋 桂	1年	kshimabukuro@okiu.ac.jp 研究室：13号館210研究室	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>大学での学習の始まりとして、また、産業情報学部・企業システム学科の学生としての基礎的な学習能力、コミュニケーション能力、表現力を高めることを目的とします。</p>	<p>フレッシュマン・セミナーは、4年間の大学生活が豊かで実りあるものになるための基礎的な学習能力を身につける授業です。また、4年間共に勉学に励む仲間との交流の場でもあるので、積極的に授業に参加してください。</p>
到達目標	<p>1. 目的・課題に対して適切に情報を収集することができる。 2. プレゼンテーション能力を身につける。 3. ビジネスに興味・関心を持ち、問題解決のためにディスカッションをすることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	履修ガイドやシラバス等を熟読する
	2	新聞記事（経済記事）の読み方、捉え方	新聞記事を読む
	3	レポート・小論文の書き方Ⅰ	レポート・小論文を書く
	4	レポート・小論文の書き方Ⅱ	レポート・小論文を書く
	5	図書館によるガイダンス	図書館を活用する
	6	キャリア支援課による就職ガイダンス	就職情報を調べる
	7	学生相談室によるガイダンス	学生生活について考える
	8	プレゼンテーションの方法と実践Ⅰ	プレゼンソフトを使用する
	9	プレゼンテーションの方法と実践Ⅱ	プレゼンソフトを使用する
	10	ディスカッションの方法と実践Ⅰ	ディスカッションテーマを調べる
	11	ディスカッションの方法と実践Ⅱ	ディスカッションテーマを調べる
	12	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅰ	沖縄県内産業の実態を調べる
	13	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅱ	沖縄県内産業の実態を調べる
14	ビジネス分野（経営・マーケティング・会計）の基礎知識Ⅰ	ビジネスに関する情報収集	
15	ビジネス分野（経営・マーケティング・会計）の基礎知識Ⅱ	ビジネスに関する情報収集	
16	期末試験・レポートの提出		
テキスト・参考文献・資料など	<p>随時、プリント資料等を配布する。 参考文献については、必要に応じて講義中に紹介する。</p>		
学びの手立て	<p>・専門必修科目なので、休まず出席してください。 ・積極的に多様なメディア（新聞、TV、インターネット、書籍等）で情報を収集してください。</p>		
評価	<p>授業への参加態度（50%）、課題提出（30%）、期末試験等（20%）によって総合評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>1年の終了次には「マーケティング」「経営」「会計」のいずれかのコースを選択しますので、1年次のうちに将来の職業や自身の興味・関心のあるテーマを決めるようにしてください。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマン・セミナー	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 相典	1年	i. sanjon@okiu. ac. jp 098-893-7449	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>大学での学習の始まりとして、また、産業情報学部・企業システム学科の学生としての基礎的な学習能力、コミュニケーション能力、表現力を高めることを目的とします。</p>	<p>フレッシュマン・セミナーは、4年間の大学生活が豊かで実りあるものになるための基礎的な学習能力を身につける授業です。また、4年間共に勉学に励む仲間との交流の場でもあるので、積極的に授業に参加してください。</p>

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. 目的・課題に対して適切に情報を収集することができる。 2. プレゼンテーション能力を身につける。 3. ビジネスに興味・関心を持ち、問題解決のためにディスカッションをすることができる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	履修ガイドやシラバス等を熟読する
	2	新聞記事（経済記事）の読み方、捉え方	新聞記事を読む
	3	レポート・小論文の書き方Ⅰ	レポート・小論文を書く
	4	レポート・小論文の書き方Ⅱ	レポート・小論文を書く
	5	図書館によるガイダンス	図書館を活用する
	6	キャリア支援課による就職ガイダンス	就職情報を調べる
	7	学生相談室によるガイダンス	学生生活について考える
	8	プレゼンテーションの方法と実践Ⅰ	プレゼンソフトを使用する
	9	プレゼンテーションの方法と実践Ⅱ	プレゼンソフトを使用する
	10	ディスカッションの方法と実践Ⅰ	ディスカッションテーマを調べる
	11	ディスカッションの方法と実践Ⅱ	ディスカッションテーマを調べる
	12	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅰ	沖縄県内産業の実態を調べる
	13	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅱ	沖縄県内産業の実態を調べる
	14	ビジネス分野（経営・マーケティング・会計）の基礎知識Ⅰ	ビジネスに関する情報収集
15	ビジネス分野（経営・マーケティング・会計）の基礎知識Ⅱ	ビジネスに関する情報収集	
16	期末試験・レポートの提出		

テキスト・参考文献・資料など
<p>随時、プリント資料等を配布する。 参考文献については、必要に応じて講義中に紹介する。</p>

学びの手立て
<ul style="list-style-type: none"> ・専門必修科目なので、休まず出席してください。 ・積極的に多様なメディア（新聞、TV、インターネット、書籍等）で情報を収集してください。

評価
<p>授業への参加態度（50%）、課題提出（30%）、期末試験等（20%）によって総合評価する。</p>

学びの継続
<p>次のステージ・関連科目</p> <p>1年の終了次には「マーケティング」「経営」「会計」のいずれかのコースを選択しますので、1年次のうちに将来の職業や自身の興味・関心のあるテーマを決めるようにしてください。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマン・セミナー	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	菅森 聡	1年	s. sugamori@okiu. ac. jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>大学での学習の始まりとして、また、産業情報学部・企業システム学科の学生としての基礎的な学習能力、コミュニケーション能力、表現力を高めることを目的とします。</p>	<p>フレッシュマン・セミナーは、4年間の大学生活が豊かで実りあるものになるための基礎的な学習能力を身につける授業です。また、4年間共に勉学に励む仲間との交流の場でもあるので、積極的に授業に参加してください。</p>

到達目標
<p>1. 目的・課題に対して適切に情報を収集することができる。</p> <p>2. プレゼンテーション能力を身につける。</p> <p>3. ビジネスに興味・関心を持ち、問題解決のためにディスカッションをすることができる。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	履修ガイドやシラバス等を熟読する
	2	新聞記事（経済記事）の読み方、捉え方	新聞記事を読む
	3	レポート・小論文の書き方Ⅰ	レポート・小論文を書く
	4	レポート・小論文の書き方Ⅱ	レポート・小論文を書く
	5	図書館によるガイダンス	図書館を活用する
	6	キャリア支援課による就職ガイダンス	就職情報を調べる
	7	学生相談室によるガイダンス	学生生活について考える
	8	プレゼンテーションの方法と実践Ⅰ	プレゼンソフトを使用する
	9	プレゼンテーションの方法と実践Ⅱ	プレゼンソフトを使用する
	10	ディスカッションの方法と実践Ⅰ	ディスカッションテーマを調べる
	11	ディスカッションの方法と実践Ⅱ	ディスカッションテーマを調べる
	12	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅰ	沖縄県内産業の実態を調べる
	13	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅱ	沖縄県内産業の実態を調べる

テキスト・参考文献・資料など
<p>随時、プリント資料等を配布する。</p> <p>参考文献については、必要に応じて講義中に紹介する。</p>

学びの手立て
<ul style="list-style-type: none"> ・専門必修科目なので、休まず出席してください。 ・積極的に多様なメディア（新聞、TV、インターネット、書籍等）で情報を収集してください。

評価
<p>授業への参加態度（50%）、課題提出（30%）、期末試験等（20%）によって総合評価する。</p>

学びの継続
<p>次のステージ・関連科目</p> <p>1年の終了次には「マーケティング」「経営」「会計」のいずれかのコースを選択しますので、1年次のうちに将来の職業や自身の興味・関心のあるテーマを決めるようにしてください。</p>

※ポリシーとの関連性 多面的かつ総合的な視点を持った人間を育成する専門科目の提供。
また、自主的に活動できる学生に育てる。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマン・セミナー	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	1年	miyamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 大学での学習の始まりとして、また、産業情報学部・企業システム学科の学生としての基礎的な学習能力、コミュニケーション能力、表現力を高めることを目的とする。	メッセージ フレッシュマンセミナーは、4年間の大学生活が豊かで実りあるものになるための基礎的な学習能力を身に付ける授業です。また、4年間共に勉学に励む仲間たちとの交流も場でもあるので、積極的に授業に参加してください。
	到達目標 到達目標 1. 目的・課題に対して適切に情報収集をすることができる。 2. プレゼンテーションの能力を身に付ける。 3. ビジネスに興味・関心を持ち、問題解決のためのディスカッションをすることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	履修ガイドやシラバスを熟読する
	2	新聞記事の読み方・捉え方	新聞記事を読む
	3	レポート・小論文の書き方1	レポートを書く
	4	レポート・小論文の書き方2	レポートを書く
	5	図書館によるガイダンス	図書館を活用する
	6	キャリア支援課による就職ガイダンス	就職情報を調べる
	7	学生相談室によるガイダンス	学生生活について調べる
	8	プレゼンテーションの方法と実践1	プレゼンソフトを使用する
9	プレゼンテーションの方法と実践2	プレゼンソフトを使用する	
10	ディスカッションの方法と実践1	ディスカッションテーマを決める	
11	ディスカッションの方法と実践2	ディスカッションテーマを調べる	
12	沖縄県内産業の実態とその動向1	県内産業の動向を調べる	
13	沖縄県内産業の実態とその動向2	県内産業の動向を調べる	
14	ビジネス分野（経営・マーケティング・会計）の基礎知識1	ビジネスに関する情報収集	
15	ビジネス分野【経営・マーケティング・会計】の基礎知識2	ビジネスに関する情報収集	
16	期末試験・レポートの提出		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト・参考文献・資料など 随時、プリント資料を配布する。 参考文献については、必要に応じて講義中に紹介する。		
	学びの手立て ・専門的な科目なので、休まずに出席すること。 ・積極的に多様なメディア（新聞・TV・インターネット・書籍など）で情報を収集すること。		
	評価 授業への参加態度（50%）、課題提出（30%）、期末試験等（20%）によって総合評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 1年の終了時には「マーケティング」「経営」「会計」のいずれかのコースを選択します。1年時のうちに将来の職業や自身の興味・関心のある分野を考えておくこと。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマン・セミナー	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	1年	原田優也 (5号館5633号室) Email: mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 大学での学習の始まりとして、基礎的な学習能力、コミュニケーション能力、表現力を高めることを目的とします。	メッセージ フレッシュマン・セミナーは、4年間の大学生活が豊かで実りあるものになるための基礎的な学習能力を身につける授業です。また、4年間共に勉学に励む仲間との交流の場でもあるので、積極的に授業に参加してください。
	到達目標 1. 目的・課題に対して適切に情報を収集することができる。 2. プレゼンテーション能力を身につける。 3. ビジネスに興味・関心を持ち、問題解決のためにディスカッションをすることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	履修ガイドやシラバス等を熟読する
	2	新聞記事(ビジネス記事)の読み方、捉え方	新聞記事を読む
	3	レポート・小論文の書き方Ⅰ	レポート・小論文を書く
	4	レポート・小論文の書き方Ⅱ	レポート・小論文を書く
	5	図書館によるガイダンス	図書館を活用する
	6	キャリア支援課による就職ガイダンス	就職情報を調べる
	7	学生相談室によるガイダンス	学生生活について考える
	8	プレゼンテーションの方法と実践Ⅰ	プレゼンソフトを使用する
	9	プレゼンテーションの方法と実践Ⅱ	プレゼンソフトを使用する
	10	ディスカッションの方法と実践Ⅰ	ディスカッションテーマを調べる
	11	ディスカッションの方法と実践Ⅱ	ディスカッションテーマを調べる
	12	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅰ	沖縄県内産業の実態を調べる
	13	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅱ	沖縄県内産業の実態を調べる
	14	ビジネス分野(経営・マーケティング・会計)の基礎知識Ⅰ	ビジネスに関する情報収集
15	ビジネス分野(経営・マーケティング・会計)の基礎知識Ⅱ	ビジネスに関する情報収集	
16	期末試験・レポートの提出		
テキスト・参考文献・資料など 参考文献については、必要に応じて講義中に紹介する。			
学びの手立て ・専門必修科目なので、休まず出席してください。 ・積極的に多様なメディア(新聞、TV、インターネット、書籍等)で情報を収集してください。			
評価 平常点(50%)、課題提出(30%)、理解度テスト(20%)			

学びの継続	次のステージ・関連科目 1年の終了次には「マーケティング」「経営」「会計」のいずれかのコースを選択しますので、1年次のうちに将来の職業や自身の興味・関心のあるテーマを決めるようにしてください。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマン・セミナー	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	慶田花 英太	1年	e.kedahana@okiu.ac.jp 研究室：9号館503号室	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>大学での学習の始まりとして、また、産業情報学部・企業システム学科の学生としての基礎的な学習能力、コミュニケーション能力、表現力を高めることを目的とします。</p>	<p>フレッシュマン・セミナーは、4年間の大学生活が豊かで実りあるものになるための基礎的な学習能力を身につける授業です。また、4年間共に勉学に励む仲間との交流の場でもあるので、積極的に授業に参加してください。</p>

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. 目的・課題に対して適切に情報を収集することができる。 2. プレゼンテーション能力を身につける。 3. ビジネスに興味・関心を持ち、問題解決のためにディスカッションをすることができる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	履修ガイドやシラバス等を熟読する
	2	新聞記事（経済記事）の読み方、捉え方	新聞記事を読む
	3	レポート・小論文の書き方Ⅰ	レポート・小論文を書く
	4	レポート・小論文の書き方Ⅱ	レポート・小論文を書く
	5	図書館によるガイダンス	図書館を活用する
	6	キャリア支援課による就職ガイダンス	就職情報を調べる
	7	学生相談室によるガイダンス	学生生活について考える
	8	プレゼンテーションの方法と実践Ⅰ	プレゼンソフトを使用する
	9	プレゼンテーションの方法と実践Ⅱ	プレゼンソフトを使用する
	10	ディスカッションの方法と実践Ⅰ	ディスカッションテーマを調べる
	11	ディスカッションの方法と実践Ⅱ	ディスカッションテーマを調べる
	12	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅰ	沖縄県内産業の実態を調べる
	13	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅱ	沖縄県内産業の実態を調べる
	14	ビジネス分野（経営・マーケティング・会計）の基礎知識Ⅰ	ビジネスに関する情報収集
15	ビジネス分野（経営・マーケティング・会計）の基礎知識Ⅱ	ビジネスに関する情報収集	
16	期末試験・レポートの提出		

テキスト・参考文献・資料など
<p>随時、プリント資料等を配布する。 参考文献については、必要に応じて講義中に紹介する。</p>

学びの手立て
<ul style="list-style-type: none"> ・専門必修科目なので、休まず出席してください。 ・積極的に多様なメディア（新聞、TV、インターネット、書籍等）で情報を収集してください。

評価
<p>授業への参加態度（50%）、課題提出（30%）、期末試験等（20%）によって総合評価する。</p>

学びの継続
<p>次のステージ・関連科目</p> <p>1年の終了次には「マーケティング」「経営」「会計」のいずれかのコースを選択しますので、1年次のうちに将来の職業や自身の興味・関心のあるテーマを決めるようにしてください。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマン・セミナー	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	1年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 大学での学習の始まりとして、また、産業情報学部・企業システム学科の学生としての基礎的な学習能力、コミュニケーション能力、表現力を高めることを目的とします。	メッセージ フレッシュマン・セミナーは、4年間の大学生活が豊かで実りあるものになるための基礎的な学習能力を身につける授業です。また、4年間共に勉学に励む仲間との交流の場でもあるので、積極的に授業に参加してください。
	到達目標 1. 目的・課題に対して適切に情報を収集することができる。 2. プレゼンテーション能力を身につける。 3. ビジネスに興味・関心を持ち、問題解決のためにディスカッションをすることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		時間外学習の内容
	回	テーマ	
	1	オリエンテーション	履修ガイドやシラバス等を熟読する
	2	新聞記事（経済記事）の読み方、捉え方	新聞記事を読む
	3	レポート・小論文の書き方Ⅰ	レポート・小論文を書く
	4	レポート・小論文の書き方Ⅱ	レポート・小論文を書く
	5	図書館によるガイダンス	図書館を活用する
	6	キャリア支援課による就職ガイダンス	就職情報を調べる
	7	学生相談室によるガイダンス	学生生活について考える
	8	プレゼンテーションの方法と実践Ⅰ	プレゼンソフトを使用する
9	プレゼンテーションの方法と実践Ⅱ	プレゼンソフトを使用する	
10	ディスカッションの方法と実践Ⅰ	ディスカッションテーマを調べる	
11	ディスカッションの方法と実践Ⅱ	ディスカッションテーマを調べる	
12	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅰ	沖縄県内産業の実態を調べる	
13	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅱ	沖縄県内産業の実態を調べる	
14	ビジネス分野（経営・マーケティング・会計）の基礎知識Ⅰ	ビジネスに関する情報収集	
15	ビジネス分野（経営・マーケティング・会計）の基礎知識Ⅱ	ビジネスに関する情報収集	
16	期末試験・レポートの提出		
	テキスト・参考文献・資料など 随時、プリント資料等を配布する。 参考文献については、必要に応じて講義中に紹介する。		
	学びの手立て ・専門必修科目なので、休まず出席してください。 ・積極的に多様なメディア（新聞、TV、インターネット、書籍等）で情報を収集してください。		
	評価 授業への参加態度（50%）、課題提出（30%）、期末試験等（20%）によって総合評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 1年の終了次には「マーケティング」「経営」「会計」のいずれかのコースを選択しますので、1年次のうちに将来の職業や自身の興味・関心のあるテーマを決めるようにしてください。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	プログラミング演習A	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	2年	matayosi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 表計算ソフトを用い、実践的なデータ処理やデータ作成を行うための技術を習得する。	メッセージ 表計算ソフトの利用は、ビジネスの実践において必須です。利用できる技術を身につけましょう。 30分以上の遅刻は、欠席扱いとします。
	到達目標 基本的な表計算処理をマスターする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	表の作成	教科書 基礎 第1～2章
	2	表の編集	教科書 基礎 第3章
	3	四則演算と関数	教科書 基礎 第4章
	4	グラフ	教科書 基礎 第5章
	5	データベース	教科書 基礎 第6章
	6	印刷&売り上げ実績表	教科書 基礎 第7章&総合
	7	印刷&売り上げ報告書	教科書 基礎 第7章&総合
	8	申し込み一覧の作成	教科書 基礎 第7章&総合
	9	入力作業をサポートする機能	教科書 応用 第1章
	10	関数を使用した入力サポート	教科書 応用 第2章
	11	データ配布について&データのビジュアル化	教科書 応用 第3～4章
	12	データ分析の準備とデータベース機能	教科書 応用 第5章
	13	ピボットテーブルとピボットグラフ	教科書 応用 第6章
	14	四半期売り上げ実績の制作	教科書 応用 総合
15	四半期売り上げ分析	教科書 応用 総合	
16	課題提出	教科書 全体	
テキスト・参考文献・資料など Microsoft Excel2010 セミナーテキスト問題集 (日経BP社)			
学びの手立て コンピュータルームや自宅のPCで、テキストに沿って、課題をしっかりとやること。 また、コンピュータルームによっては、テキストのバージョンとエクセルのバージョンが異なります。社会に出たときも、同じような状況に遭遇すると思います。バージョンの違いに幅広く適応できるようになりましょう。			
評価 提出物(10～12回程度)：100% 授業態度：他の学生への迷惑、並びに授業を妨げるような言動がある場合不可とし、以降の授業の参加を認めない。(例：おしゃべり等)。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 プログラミングB。簿記会計。
-------	-------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	プログラミング演習B	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	2年	matayosi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本授業では、Android携帯端末のソフト開発を通してプログラミングについて学んでいくことを狙いとしています。授業では、MIT App Inventorを使ったアプリ制作を行います。プログラミングの基本である順次（逐次）、反復（繰り返し）、分岐（条件判断）などをブロックプログラミングで学びます。デザイナー画面によるインターフェイスの設計からアプリ開発まで学びます。	Android端末を持っていると授業で制作したアプリケーションを各自の端末で利用することができます。 30分以上の遅刻は、欠席扱いとします。
到達目標	課題のすべてのアプリケーションを作成する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Android開発環境について	授業共有ファイル その1
	2	APP Inventor開発環境について	授業共有ファイル その1&その2
	3	ボタンの配置	授業共有ファイル その3
	4	レイアウト方法とGoogleマップの表示方法	授業共有ファイル その4
	5	リスト作成、リストからGoogleマップへのジャンプなどのActivityの設定方法	授業共有ファイル その5
	6	しゃべるAndroidアプリの作成I	授業共有ファイル その6
	7	しゃべるAndroidアプリの作成II	授業共有ファイル その7
	8	お絵かきAndroidアプリの製作	授業共有ファイル その8
	9	SNSへの写真&描画メッセージを送信するAndroidアプリの制作	授業共有ファイル その9
	10	タイマー処理を使ったAndroidアプリの作成I	授業共有ファイル その10
	11	タイマー処理を使ったAndroidアプリの作成II（ゲームの作成I）	授業共有ファイル その11
	12	タイマー処理を使ったAndroidアプリの作成III（ゲーム感覚のアラーム時計の作成）	授業共有ファイル その12
	13	シューティングゲームAndroidアプリの作成I（スプライトの利用）	授業共有ファイル その13
14	シューティングゲームAndroidアプリの作成II（タイマー処理の組み込み）	授業共有ファイル その14	
15	まとめ	授業共有ファイル その1～14	
16	課題提出	授業共有ファイル その1～14	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	APP InventorによるAndroidアプリケーション開発環境のバージョン・アップデートが激しいため、教科書を用いずにプリント(各自、授業共有ファイルよりダウンロード)で行います。また、それに伴い、講義内容に変更のある場合があります。 Android関連書籍。関連Webページ。		
	学びの手立て		
	授業共有ファイルに毎時間の授業内容をアップロードします。それを参照しながら、実際にAndroidのアプリケーションを作成していきます。各自、PCがあれば、Java SDKとai starterをインストールして、自分のPCで開発することも可能です。		
	評価		
	提出物（10～12回程度）：100% 授業態度：他の学生への迷惑、並びに授業を妨げるような言動がある場合不可とし、以降の授業の参加を認めない。（例：おしゃべり等）。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	マルチメディア論。卒業研究。卒業論文。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ベンチャー経営論Ⅱ	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-高嶺 直	3年	ptt109@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	ベンチャー企業は普通の企業とは何が異なるのだろうか。違いがあるなら当然、マネジメント活動なども異なるはずだ。そこで本講義はベンチャー企業特有のマネジメントを理解するとともに、新規事業に果敢に立ち向かうアントレプレナーについて、さらにはビジネスプラン作成に関する基礎知識を学んでいく。	経済の持続的発展に必要とされる創業や新規事業創出に関心を持ち、理解を深めてもらいたい。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ベンチャーマネジメントについて理解を深める。 ビジネスプラン作成に必要な知識を習得する。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	講義の全体像を確認
	2	ベンチャー企業の定義と位置づけ	ベンチャー企業に関する学習
	3	ベンチャー企業の役割	ベンチャー企業に関する学習
	4	イノベーション	イノベーションに関する学習
	5	アントレプレナーとアントレプレナーシップ	アントレプレナーに関する学習
	6	ベンチャー企業政策の変遷	ベンチャー企業政策に関する学習
	7	創業・開業の公的支援	創業・開業に関する学習
	8	ベンチャーマネジメントの特性①	ベンチャーマネジメントの学習
	9	ベンチャーマネジメントの特性②	ベンチャーマネジメントの学習
	10	株式公開とベンチャー企業	株式公開に関する学習
	11	事業機会の発見と評価	事業機会に関する学習
	12	ビジネスモデルの構築	ビジネスモデルに関する学習
	13	ビジネスプランの重要性	ビジネスプランに関する学習
14	ビジネスプランの基本型①	ビジネスプランに関する学習	
15	ビジネスプランの基本型②	ビジネスプランに関する学習	
16	期末試験	学習成果をまとめる	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。ワークシート（講義ノート）を用いて講義を進める。 【参考文献】 早稲田大学アントレプレナーズール研究会『ベンチャー企業の経営と支援』日本経済新聞社 P, F, ドラッカー『イノベーションと起業家精神』ダイヤモンド社 シュンペーター『経済発展の理論』岩波文庫		
学びの手立て	毎回出席をとる。その時点で教室にいない場合は欠席とする。やむを得ず欠席する場合は、必ず欠席届を提出すること。 講義はワークシート（講義ノート）を毎回使用するの、忘れずに必ず持参すること。		
評価	期末試験60%、レポート提出30%、授業態度10%。 出席状況については、無断欠席が5回以上になると「不可」となる。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ベンチャー経営論Ⅰ、企業者史、および経営コースの各科目。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	貿易ビジネス論	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	3年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①貿易実務の基礎を学び、貿易取引の基本を理解する。 ②国際物流の実態を学び、日本と世界各国の関係を理解する。 ③国際電子商取引について学び、グローバルSCMの構築を知る。</p>	<p>グローバルロジスティクスの進化とともに、貿易取引も複数の国家が絡む複雑なカタチへと変貌している。地域自由貿易協定のみならず、2国間の自由貿易協定や経済連携協定の締結など、世界各国で貿易に関する動きが活発化している。 本講義は、グローバルビジネスを理解する入り口として、貿易実務の基礎と世界貿易の動向を理解することを目的とする。</p>
到達目標	<p>①貿易取引の全体像を把握できる。 ②貿易の基本実務を理解できる。 ③海運・航空ネットワークの進化と国際物流の発展を知る。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：貿易取引の概念	貿易取引の概念について学習
	2	貿易取引と国内取引	貿易取引の基本について学習
	3	商社機能の変遷／海外事業投資と海外調達	総合商社について学習
	4	貿易商談の進め方	貿易実務の過程について学習
	5	価格交渉の進め方・契約の締結	貿易実務の過程について学習
	6	受け渡し条件の決定	受け渡し条件について学習
	7	代金決済条件の取り決め	代金決済について学習
	8	中間試験	第1回から第7回講義までの復習
	9	輸出の実務①：海運、航空貨物輸送	海運・航空貨物輸送について学習
	10	輸出の実務②：海上保険、貿易保険	海上保険について学習
	11	輸入の実務①：貨物の受け取り	貨物の受け取りについて学習
	12	輸入の実務②：関税、保税地域	輸入通関の流れについて学習
	13	国際物流：港湾・空港の現状と課題	港湾・空港の現状について学習
	14	世界貿易体制の変遷	FTA, EPA, TPPについて学習
15	国際電子商取引	電子商取引の実務について学習	
16	期末試験	第9回から第15回講義までの復習	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>【使用テキスト】：講義中に使用するテキストのため、購入して毎回必ず持参すること。 ・布施克彦（2017）『図解入門ビジネス 貿易実務の基本と仕組みがよ〜くわかる本（第4版）』秀和システム 【参考テキスト】：時間外学習に使用するテキスト。復習に利用すること。 ・荒畑治雄（2014）『現代国際商取引論—貿易実務と国際電子商取引—（第4版）』慶應義塾大学出版会 ・小林潔司・古市正彦編著（2017）『グローバルロジスティクスと貿易』ウェイツ</p>

学びの実践	学びの手立て
	<p>【履修の心構え】 ①無断欠席や遅刻は厳禁とする。 ②やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前に担当教員に連絡をすること。 ③身近な小売業などを観察し、貿易と国際物流の仕組みを学ぶこと。 ④新聞などに目を通し、世界の経済情勢についてチェックすること。</p>

学びの実践	評価
	<p>【成績評価の内訳】（100%） 中間試験（40%） 期末試験（40%） レポート課題提出（20%）：レポート課題を期限までに提出すること。</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>世界における流通業の役割および日本市場の変容について学び、今後の卸売業・小売業のありかたを考える。 マーケティング入門Ⅰ・Ⅱ、日本流通論、グローバル流通論を事前に履修していることが望ましい。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	簿記演習 I	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	菅森 聡	1年	s. sugamori@oki.u.ac.jp	

学びの準備	ねらい この講義では、前期の「商業簿記 I」で学んだ内容を復習し、日商簿記検定試験 3 級取得を目指します。	メッセージ 日商簿記検定試験は11月と2月に行われます。11月試験の合格を目指し、頑張ってください。
	到達目標 ① 現金取引、商品売買取引、手形取引などの諸取引を仕訳（記録）できる。 ② 上記①の諸取引を現金出納帳、仕入帳・売上帳、商品有高帳などに記帳できる。 ③ 損益計算書と貸借対照表を作成できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	各自、検定試験の勉強をする
	2	11月検定試験合格に向けて：精算表の作成 I	各自、検定試験の勉強をする
	3	11月検定試験合格に向けて：精算表の作成 II	各自、検定試験の勉強をする
	4	11月検定試験合格に向けて：精算表の作成 III	各自、検定試験の勉強をする
	5	11月検定試験合格に向けて：精算表の作成 IV	各自、検定試験の勉強をする
	6	11月検定試験合格に向けて：試算表の作成 I	各自、検定試験の勉強をする
	7	11月検定試験合格に向けて：試算表の作成 II	各自、検定試験の勉強をする
	8	2月検定試験合格に向けて：補助簿、伝票式会計、決算仕訳、勘定記入 I	各自、検定試験の勉強をする
	9	2月検定試験合格に向けて：補助簿、伝票式会計、決算仕訳、勘定記入 II	各自、検定試験の勉強をする
	10	2月検定試験合格に向けて：補助簿、伝票式会計、決算仕訳、勘定記入 III	各自、検定試験の勉強をする
	11	2月検定試験合格に向けて：仕訳 I	各自、検定試験の勉強をする
	12	2月検定試験合格に向けて：仕訳 II	各自、検定試験の勉強をする
	13	2月検定試験合格に向けて：総合問題 I	各自、検定試験の勉強をする
	14	2月検定試験合格に向けて：総合問題 II	各自、検定試験の勉強をする
15	2月検定試験合格に向けて：総合問題 III	各自、検定試験の勉強をする	
16	テスト	各自、検定試験の勉強をする	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：『合格するための過去問題集』 日商簿記3級 TAC出版 参考文献：必要だと思う教科書や問題集を適宜購入する		
	学びの手立て ・「商業簿記 I」を履修済みの学生しか登録できません。 ・資格取得を目指す講義なので、多くの時間外学習が必要です。		
	評価 テスト100%で判定します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・関連科目：商業簿記、工業簿記など、会計コースの諸科目
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	簿記演習Ⅱ	後期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-名城 佳枝	2年	授業終了後	

学びの準備	ねらい 本授業では、日商簿記検定試験2級の範囲を学習し、検定試験の問題を概ね解答できるようになることを目的としています。	メッセージ 日商簿記検定試験2級の模擬試験問題を解いてもらい、解説を行っています。
	到達目標 日商簿記検定試験2級取得を目指します。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・登録	
	2	商業簿記振り返り	練習問題を解く
	3	工業簿記振り返り	練習問題を解く
	4	模擬試験問題	模擬試験問題を解く
	5	模擬試験問題	模擬試験問題を解く
	6	模擬試験問題	模擬試験問題を解く
	7	模擬試験問題	模擬試験問題を解く
	8	模擬試験問題	模擬試験問題を解く
	9	模擬試験問題	模擬試験問題を解く
	10	模擬試験問題	模擬試験問題を解く
	11	模擬試験問題	模擬試験問題を解く
	12	模擬試験問題	模擬試験問題を解く
	13	模擬試験問題	模擬試験問題を解く
	14	模擬試験問題	模擬試験問題を解く
15	模擬試験問題	模擬試験問題を解く	
16	模擬試験問題	模擬試験問題を解く	
	テキスト・参考文献・資料など 授業内でお知らせします。*電卓（12桁以上）を持参すること。		
	学びの手立て 商業簿記・工業簿記2級の範囲をある程度理解していること。 本授業は問題を解く時間を設けますが、『合格』するためにはかなりの自主学習が必要です。		
	評価 中間試験50点、期末試験50点		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「商業簿記Ⅰ・Ⅱ」「工業簿記Ⅰ・Ⅱ」「原価計算」
-------	---

※ポリシーとの関連性 「国際的ビジネス感覚を有する企業人の育成」をするため、それに伴う英語力とグローバルな視点を待つことを目指す。

[/演習]

科目基本情報	科目名 マーケティング英語	期別 後期	曜日・時限 火 1	単位 2
	担当者 上原 千登勢	対象年次 3年	授業に関する問い合わせ c.uehara@okiu.ac.jp 9号館502号室	

学びの準備	ねらい 様々なビジネスやマーケティング関連のトピックを通して英語の4つのスキル(Listening, Reading, Writing, Speaking)、語彙力、そして文法をバランスよく学習する。マーケティング関連のアクティビティやグループワークを行い、実践的な英語力を身につけていく。また、ビジネスマナー、外国人対応、異文化についての知識と理解を深める。	メッセージ 【実務経験】外資・グローバル企業での英語講師経験を活かし、マーケティングに関連した実践的な英語を学び、使うことを目指します。様々なアクティビティやディスカッションを通して英語力を上げ、異文化についても触れたいと思います。外国人観光客を対象とした企画や商品開発を英語を使ってやってみましょう！
	到達目標 *ビジネスやマーケティングに必要な英単語や表現を身につけ、使うことができる。 *英語を用いて、アンケートや資料を作成し、マーケティング調査を行うことができる。 *英語を用いて調査結果を報告することができる。 *異文化への知識・理解を深める。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	Orientation & Guidance & Unit 1: Meeting people
	2	Unit 2: Telephoning
	3	Unit 3: Schedules and appointments
	4	Unit 4: Company performance
	5	Unit 5: Products and services
	6	Unit 6: Talking about decisions
	7	Review 1-6
	8	Unit 7: Complaints and problems
	9	Unit 8: Checking progress
	10	Unit 9: Future prospects
	11	Unit 10: Regulations and advice
	12	Unit 11: Meetings and discussions
	13	Unit 12: Speaking in public
	14	Review 7-12, TOEIC
	15	TOEIC & Presentation練習
16	Final Presentation	
	時間外学習の内容	
	Unit 1復習	
	Unit 2復習、Unit 3予習	
	Unit 3復習、Unit 4予習	
	Unit 4復習、Unit 5予習	
	Unit 5復習、Unit 6予習	
	Unit 1-6復習、テスト準備	
	Unit 7予習、課題	
	Unit 7復習、Unit 8予習	
	Unit 8復習、Unit 9予習	
	Unit 9復習、Unit 10予習	
	Unit 10復習、Unit 11予習	
	Unit 11復習、Unit 12予習	
	Unit 7-12復習、TOEIC予習	
	TOEIC 復習、Presentation準備	
	TOEIC 復習、Presentation練習	

実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト・教科書: Business Venture Student Book (with practice for the TOEIC® test) 青い本です。(朝野書房・アマゾンなどで購入可) 課題図書: 「マーケティング英語の教科書— 完璧でなくても、仕事で自信を持てる英語— (宣伝会議養成講座シリーズ)」(アマゾンなどで購入可) その他参考書などは、必要に応じて授業で紹介する。
----	---

学びの手立て	【重要】受講希望者は必ず初日(オリエンテーション)に出席すること。出席できない場合は教員に事前に連絡すること。 ・授業に出席することは基本である。全体の1/3以上欠席した時点で単位は認められない。30分以上の遅刻を欠席、また2回の遅刻は1回の欠席とみなす。 ・小テストやクイズなどで学習経過をチェックするので予習、復習は自主的、かつ積極的に行うこと。 ・スタディグループを作り、授業以外でも定期的に学習する環境作りをすること。欠席した際、クラスメートより授業内容を教えてもらい、配布物を預かってもらうようにすること。
--------	---

評価	①授業態度、授業への参加・積極性、Self-Reflection(25%) ②課題(25%) ④クイズ・小テスト(25%) ⑤Final Presentation(25%)を総合的に判断して評価する。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 ネットなどを活用し、積極的に海外のビジネスやマーケティングに関する情報収集をすること。観光地などでは他言語のパンフレットや資料があるのでそういったものを教材とし、活用すること。また、英語VやVI(英検)、英語VII(TOEIC)などの英語資格試験対策の授業にも是非チャレンジしてほしい。異文化に興味を持った学生は国際理解課題研修I, IIを受講すればよりグローバルな知識や考え方が身につくだろう。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング演習	後期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 相典	2年	sangjeon1120@gmail.com または授業終了後	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<ol style="list-style-type: none"> 多様なマーケティング事例を通じて、受講生の「マーケティングの重要性」についての理解力を向上させる。 グループワークの活動を通じて、チームワークの重要性を理解する。 	<p>マーケティングの成功事例は大企業から小企業まで多様です。マーケティングによる成果は必ずしも高い利益を獲得することだけではありません。小さい町にある『定食店』にお客さんが並んでいることも、マーケティング視点から見ると、意味のあることです。本講義では、マーケティングの意味について、考え直せるきっかけになるような内容で学習します。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> マーケティング理論の多様性・拡張性について理解する。 戦略的なマーケティング思考について理解する。 これからのマーケティングの変遷について議論する。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	基本プレゼンテーションの方法(レジュメの作成方法)、グループ分け	グループ内の情報交換
	3	1次グループ・プレゼンテーション(指定課題)の選択と報告リハーサル	グループ内の役割の決定
	4	指定課題のプレゼンテーション①	グループ間ディスカッション
	5	指定課題のプレゼンテーション②	グループ間ディスカッション
	6	指定課題のプレゼンテーション③	グループ間ディスカッション
	7	指定課題のプレゼンテーション④	グループ間ディスカッション
	8	指定課題のプレゼンテーション⑤	グループ間ディスカッション
	9	2次グループ・プレゼンテーション(自由テーマ)の準備方法	グループ別自由テーマ討議
	10	2次グループ・プレゼンテーションのテーマを決定	グループ内の役割の決定
	11	自由テーマのプレゼンテーション①	グループ間ディスカッション
	12	自由テーマのプレゼンテーション②	グループ間ディスカッション
	13	自由テーマのプレゼンテーション③	グループ間ディスカッション
14	自由テーマのプレゼンテーション④	グループ間ディスカッション	
15	自由テーマのプレゼンテーション⑤	グループ間ディスカッション	
16	授業のまとめ		
実践	テキスト・参考文献・資料など	<ol style="list-style-type: none"> テキスト：栗木契・岩田弘三・矢崎和彦編著『ビジョナリー・マーケティング』碩学舎、2013年。 	
	学びの手立て	<ol style="list-style-type: none"> 遅刻や無断欠席は成績評価に積極的に反映しますので、ご注意ください。(やむを得ず遅刻・欠席の場合、事前にメールで連絡してください) 	
	評価	<ol style="list-style-type: none"> 出席・受講態度を積極的に反映します *5回以上の遅刻や無断欠席の場合は履修できません。 *授業中またはディスカッションへの積極的な参加には加点があります。 1・2次プレゼンテーションの評価を総合して評価します。 	

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>関連科目：『グローバル観光ビジネス』のような、特別なマーケティングの視角を得られる科目を履修または聴講してください。</p> <p>次のステージ：『セールス・プロモーション』や『中小企業マーケティング』のような科目を履修すると、さらにマーケティングの面白さを感じられると思います。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング演習	後期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-野原 寿加子	2年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 戦略的なマーケティング思考について理解する	メッセージ 今日のマーケティングでは、顧客価値の創造、そして収益性の高い顧客リレーションシップを構築することが重要視される。そのためには、まず顧客のニーズを理解することが重要である。
	到達目標 戦略的なマーケティング思考について理解する	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	指定テキストを事前によく読む
	2	マーケティングとは、プレゼンテーションの方法、グループ分け	同上
	3	男女の違い、五つのポイント	同上
	4	女性の買い物を変える五つの世界的トレンド	同上
	5	女性の心をつかむ商品をどう生み出すか	同上
	6	女性にアピールするマーケティングとは	同上
	7	プレゼンテーション	同上
	8	プレゼンテーション	同上
	9	プレゼンテーション	同上
	10	プレゼンテーション	同上
	11	プレゼンテーション	同上
	12	プレゼンテーション	同上
	13	プレゼンテーション	同上
	14	プレゼンテーション	同上
15	プレゼンテーション	同上	
16	授業のまとめ	同上	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは使用せず、必要時にプリントを配布します。		
	学びの手立て ・出欠確認を毎回行います。やむおえず欠席する場合は必ず欠席届とそれを証明できるものをセットにして提出してください。 ・受動的に学ぶのではなく、能動的に学ぶ姿勢を期待しています。どのために自分で考える！ということが大切になってきます。質問や意見がある場合はその都度、それを、どんどん述べてください。		
	評価 (1) プレゼンテーション70点 (2) 課題提出20点 (3) 授業態度・積極性		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・本講義でマーケティングの理論を理解することにより、後期の「マーケティング演習」で、より実践的にマーケティングと社会の動きの関連を理解できる
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング情報処理 I	後期	水 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	2年	原田研究室 (5号館5633号室) Email: mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	情報の時代が到来し、マーケティング領域においてもデータを読み判断する能力が問われている。この授業は、膨大なデータから価値ある情報を読み取り、論理的思考に基づいて意思決定を行う能力を修得することを最終目標とし、データ分析の理論的基礎と分析技法について分析ソフトを操作しながら実践的に学ぶ。	1) 【マーケティング情報処理I】は【マーケティング情報処理II】と連続したプログラムを組んでいるので、【マーケティング情報処理II】とセットで登録すること。 2) データの扱い方から基礎的分析までのマーケティング・リサーチの実際を、ビジュアル教材を用いてわかりやすく解説する。高度な数学知識がなくともよい。
到達目標	1) 調査データの種類と分析準備、 2) データの要約と探索的分析、 3) マーケティング課題のリサーチ化と基礎的分析などの項目が理解でき、実際に一人で分析が行えるようになること。	

学びの実践	学びのヒント																																																
	<p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <table border="0"> <tr> <td>1回</td> <td>オリエンテーション</td> <td>(概要と授業の受け方)</td> </tr> <tr> <td>2回</td> <td>地域マーケティングとは</td> <td>(第1章を読む)</td> </tr> <tr> <td>3回</td> <td>マーケティング・リサーチとは</td> <td>(第1章を読む)</td> </tr> <tr> <td>4回</td> <td>マーケティングレポート作成と情報処理 1</td> <td>(第2章を読む)</td> </tr> <tr> <td>5回</td> <td>マーケティングレポート作成と情報処理 2</td> <td>(第2章を読む)</td> </tr> <tr> <td>6回</td> <td>RESASとは: 地域マーケティングへの活用 1</td> <td>(第3章を読む)</td> </tr> <tr> <td>7回</td> <td>RESASとは: 地域マーケティングへの活用 2</td> <td>(第3章を読む)</td> </tr> <tr> <td>8回</td> <td>マーケット分析課題 1 市場規模分析</td> <td>(第4章を読む)</td> </tr> <tr> <td>9回</td> <td>マーケット分析課題 1 実習</td> <td>(第4章を読む)</td> </tr> <tr> <td>10回</td> <td>マーケット分析課題 2 観光客の行動分析</td> <td>(第5章を読む)</td> </tr> <tr> <td>11回</td> <td>マーケット分析課題 2 実習</td> <td>(第5章を読む)</td> </tr> <tr> <td>12回</td> <td>マーケット分析課題 3 商圈分析</td> <td>(第6章を読む)</td> </tr> <tr> <td>13回</td> <td>マーケット分析課題 3 実習</td> <td>(第6章を読む)</td> </tr> <tr> <td>14回</td> <td>マーケティング分析手法のまとめ</td> <td>(復習資料を読む)</td> </tr> <tr> <td>15回</td> <td>課題発表</td> <td>(発表課題の準備)</td> </tr> <tr> <td>16回</td> <td>期末レポート</td> <td></td> </tr> </table>	1回	オリエンテーション	(概要と授業の受け方)	2回	地域マーケティングとは	(第1章を読む)	3回	マーケティング・リサーチとは	(第1章を読む)	4回	マーケティングレポート作成と情報処理 1	(第2章を読む)	5回	マーケティングレポート作成と情報処理 2	(第2章を読む)	6回	RESASとは: 地域マーケティングへの活用 1	(第3章を読む)	7回	RESASとは: 地域マーケティングへの活用 2	(第3章を読む)	8回	マーケット分析課題 1 市場規模分析	(第4章を読む)	9回	マーケット分析課題 1 実習	(第4章を読む)	10回	マーケット分析課題 2 観光客の行動分析	(第5章を読む)	11回	マーケット分析課題 2 実習	(第5章を読む)	12回	マーケット分析課題 3 商圈分析	(第6章を読む)	13回	マーケット分析課題 3 実習	(第6章を読む)	14回	マーケティング分析手法のまとめ	(復習資料を読む)	15回	課題発表	(発表課題の準備)	16回	期末レポート	
	1回	オリエンテーション	(概要と授業の受け方)																																														
	2回	地域マーケティングとは	(第1章を読む)																																														
3回	マーケティング・リサーチとは	(第1章を読む)																																															
4回	マーケティングレポート作成と情報処理 1	(第2章を読む)																																															
5回	マーケティングレポート作成と情報処理 2	(第2章を読む)																																															
6回	RESASとは: 地域マーケティングへの活用 1	(第3章を読む)																																															
7回	RESASとは: 地域マーケティングへの活用 2	(第3章を読む)																																															
8回	マーケット分析課題 1 市場規模分析	(第4章を読む)																																															
9回	マーケット分析課題 1 実習	(第4章を読む)																																															
10回	マーケット分析課題 2 観光客の行動分析	(第5章を読む)																																															
11回	マーケット分析課題 2 実習	(第5章を読む)																																															
12回	マーケット分析課題 3 商圈分析	(第6章を読む)																																															
13回	マーケット分析課題 3 実習	(第6章を読む)																																															
14回	マーケティング分析手法のまとめ	(復習資料を読む)																																															
15回	課題発表	(発表課題の準備)																																															
16回	期末レポート																																																
テキスト・参考文献・資料など	<p>○日経ビッグデータ (2016) 『RESASの教科書』 日経BP社</p> <p>○分析の実習用に、RESASオンライン講座</p>																																																
学びの手立て	<p>履修条件:</p> <p>1) 「マーケティング情報処理II」とセットで履修すること。</p> <p>2) 第1週目の授業は必ず出席してください。</p>																																																
評価	発表・レポート (30%) とデータ分析課題の提出 (70%) を勘案し、総合的に評価する。																																																

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>○関連科目: マーケティング情報処理II、市場調査論、消費者行動論、専門演習</p> <p>○次のステージ: マーケティング情報処理IIで、マーケティング課題の分析手法をより実践的に解説します。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング情報処理II	後期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	2年	mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>情報の時代が到来し、マーケティング領域においてもデータを読み判断する能力が問われている。この授業は、膨大なデータから価値ある情報を読み取り、論理的思考に基づいて意思決定を行う能力を修得することを最終目標とし、データ分析の理論的基礎と分析技法について分析ソフトを操作しながら実践的に学ぶ。</p>	<p>●【マーケティング情報処理II】は【マーケティング情報処理I】と連続したプログラムを組んでいる。 ●【マーケティング情報処理I】とセットで登録することが望ましい。授業計画は学習状況によって変更することがある。</p>
到達目標	<p>データの計量的分析から解釈、報告書の作成までのプロセスを集中的に学ぶ。 1) マーケティング情報処理Iおよびマーケティング情報処理IIで学んだ統計的知識や分析テクニックを、実践的なマーケティング課題にあわせて、活用できるようになること。 2) より高度な分析手法について考え方や注意点を理解できるようになること。 3) 分析計画と適切な分析手法の選択、結果のまとめができるようになること。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>1回 オリエンテーション 2回 課題説明および情報収集方法 (資料1を読む) 3回 データの特徴をつかむには (資料1を読む) 4回 マーケティング課題1 (課題1の情報収集) 5回 マーケティング課題1 (課題1の内容をまとめ) 6回 マーケティング課題2 (課題2の情報収集) 7回 マーケティング課題2 (課題2の内容をまとめ) 8回 マーケティング課題3 (課題3の情報収集) 9回 マーケティング課題3 (課題3の内容をまとめ) 10回 マーケティング課題4 (課題4の情報収集) 11回 マーケティング課題4 (課題4の内容をまとめ) 12回 マーケティング課題5 (課題5の情報収集) 13回 マーケティング課題5 (課題5の内容をまとめ) 14回 マーケティング課題6 (課題6の情報収集) 15回 マーケティング課題6 (課題6の内容をまとめ) 16回 まとめ</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>○恩蔵 直人ほか『1からのマーケティング分析』碩学舎 ○分析の実習用に、アンケート・データを配布する。 ○分析の実習用に、RESASオンライン講座を活用する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>履修条件： 1) 「マーケティング情報処理I」とセットで履修してください。 2) 第1週目の授業は必ず出席してください。</p>
	<p>評価</p> <p>平常点 (20%)、レポートの発表とデータ分析課題の提出 (80%) を勘案し、総合的に評価する。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>○必須科目： マーケティング情報処理I ○関連科目： マーケティング総論、市場調査論、消費者行動概論、専門演習、卒業論文演習など</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性 多様なマーケティング視角について学習することで、マーケティング分野で活躍できる人材を育成する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング総論	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 相典	2年	sangjeon1120@gmail.com または授業終了後	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>1. マーケティング分野で活用されている「マーケティングの多様性」について学習する。</p> <p>2. 伝統的な「マーケティング理論」から拡張している「マーケティング視角」について学習する。</p>	<p>マーケティングはこれまでの製造業や、サービス産業、観光産業だけではなく、最近では都市のようなスペース(空間)創造などの公共政策分野にまで、拡張されてきました。本講義では、多様なマーケティング理論または新しく注目されているマーケティング視角について学習します。</p>
到達目標	<p>1. マーケティング理論の多様性・拡張性について理解する。</p> <p>2. 戦略的なマーケティング思考について理解する。</p> <p>3. これからのマーケティングの変遷について議論する。</p>	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	マーケティングと戦略的思考Ⅰ	配布資料をよく読むこと
	3	マーケティングと戦略的思考Ⅱ	配布資料をよく読むこと
	4	マーケティングと戦略的思考Ⅲ	配布資料をよく読むこと
	5	戦略的ブランド・マーケティング&マネジメントⅠ	配布資料をよく読むこと
	6	戦略的ブランド・マーケティング&マネジメントⅡ	配布資料をよく読むこと
	7	戦略的ブランド・マーケティング&マネジメントⅢ	配布資料をよく読むこと
	8	中間テスト	個別学習
9	体験マーケティングⅠ	配布資料をよく読むこと	
10	体験マーケティングⅡ	配布資料をよく読むこと	
11	ストーリーテリング・マーケティングⅠ	配布資料をよく読むこと	
12	ストーリーテリング・マーケティングⅡ	配布資料をよく読むこと	
13	スペース・マーケティングⅠ	配布資料をよく読むこと	
14	スペース・マーケティングⅡ	配布資料をよく読むこと	
15	マーケティング総論のまとめ	配布資料をよく読むこと	
16	期末テスト		
実践	テキスト・参考文献・資料など	<p>1. テキスト：使用しません。配布資料で対応します。</p>	
学びの手立て	<p>1. 遅刻や無断欠席は成績評価に積極的に反映しますので、ご注意ください。 (やむを得ず遅刻・欠席の場合、事前にメールで連絡してください)</p>		
評価	<p>1. 出席・受講態度を積極的に反映します *5回以上の遅刻や無断欠席の場合は履修できません。 *授業中またはディスカッションへの積極的な参加には加点があります。</p> <p>2. 中間テストと期末テストの評価を総合して評価します。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：『グローバル・マーケティング総論』や『グローバル観光ビジネス』など、より多様なマーケティングの視角を得られる科目を履修または聴講してください。</p> <p>次のステージ：『アジアの企業と文化』や『ソーシャル・マーケティング』のような科目を履修すると、マーケティングの面白さを感じられると思います。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング総論	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-野原 寿加子	2年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 戦略的なマーケティング思考について理解する	メッセージ 今日のマーケティングでは、顧客価値の創造、そして収益性の高い顧客リレーションシップを構築することが重要視される。そのためには、まず顧客のニーズを理解することが重要である。
	到達目標 戦略的なマーケティング思考について理解する	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	マーケティングの本質	指定テキストを事前によく読む
	2	企業とマーケティング戦略	同上
	3	競争優位の創造	同上
	4	マーケティングの基本的枠組み	同上
	5	マーケティング情報とカスタマー・インサイト	同上
	6	消費者の購買行動	同上
	7	製品、サービス、ブランド	同上
	8	新製品開発と製品ライフサイクル戦略	同上
	9	マーケティング・チャネルによる顧客価値の提供	同上
	10	価格設定	同上
	11	コミュニケーションによる顧客価値の説得	同上
	12	広告とパブリック・リレーションズ	同上
	13	人的販売と販売促進	同上
	14	ダイレクト・マーケティングとオンライン・マーケティング	同上
15	マーケティングと社会的責任	同上	
16	期末試験	同上	
	テキスト・参考文献・資料など テキストは使用せず、必要時にプリントを配布します。		
	学びの手立て ・ 出欠確認を毎回行います。やむおえず欠席する場合は必ず欠席届とそれを証明できるものをセットにして提出してください。 ・ 受動的に学ぶのではなく、能動的に学ぶ姿勢を期待しています。どのために自分で考える！ということが大切になってきます。質問や意見がある場合はその都度、それを、どんどん述べてください。		
	評価 (1) 期末試験 70点 (2) 課題提出 20点 (3) 授業態度・積極性		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・ 本講義でマーケティングの理論を理解することにより、後期の「マーケティング演習」で、より実践的にマーケティングと社会の動きの関連を理解できる
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング入門Ⅰ	前期	金1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	1年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①マーケティングの全体像をおおまかにつかむことができる。</p> <p>②現実の企業活動に関心を持つことができる。</p> <p>③実際の経済現象について普段から考える契機を与える。</p>	<p>マーケティングとは、顧客がほしいものを生産して、顧客に届ける企業活動のことである。すなわち、メーカー等が「製品・サービスが売れる仕組みをつくる」ことがマーケティングといえる。</p> <p>本講義は、マーケティングの全体像と特徴をおおまかにつかむことで、履修学生が「優れたマーケティングとは何か」を理解することを目的とする。</p>
到達目標	<p>①マーケティングの全体像をおおまかに把握できる。</p> <p>②国内外企業のマーケティング戦略に対する関心の喚起。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：なぜマーケティングが必要か	テキストの準備
	2	マーケティング発想の重要性	マーケティングの定義を学習
	3	マーケティング概念の変遷	マーケティング概念の変遷を学習
	4	マーケティング・マネジメントの枠組み	STP戦略について学習
	5	消費者行動論の基礎／消費行動の変化とマーケティング環境	購買意思決定プロセスを学習
	6	マーケティング・リサーチの基礎	定性・定量調査について学習
	7	中間試験	第1回から第6回講義までの復習
	8	製品戦略の基礎	PLC, ブランド戦略について学習
	9	価格戦略の基礎	価格の決定方法について学習
	10	プロモーション戦略の基礎	販売促進戦略について学習
	11	チャネル戦略の基礎	チャネル・デザインについて学習
	12	ダイレクト・マーケティングの基礎	ダイレクトMについて学習
	13	デジタル・マーケティングの基礎	デジタルMについて学習
14	サービス・マーケティングの基礎	サービスMについて学習	
15	グローバル・マーケティングの基礎	グローバルMについて学習	
16	期末試験	第8回から第15回講義までの復習	
テキスト・参考文献・資料など	<p>【使用テキスト】：講義中に使用するテキストのため、購入して毎回必ず持参すること。</p> <p>・現代マーケティング研究会編（2019）『マーケティング論の基礎』同文館出版</p>		
学びの手立て	<p>【履修の心構え】</p> <p>①無断欠席や遅刻は厳禁とする。</p> <p>②やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前に担当教員に連絡をすること。</p> <p>③スーパーマーケット、コンビニなどを観察し、マーケティングの重要性を身近から学ぶこと。</p> <p>④新聞などに目を通し、メーカー・小売業・サービス業の動向についてチェックすること。</p>		
評価	<p>【成績評価の内訳】（100%）</p> <p>中間試験（40%）</p> <p>期末試験（40%）</p> <p>レポート課題提出（20%）：レポート課題を期限までに提出すること。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>2年次以降の専門科目履修に必要なマーケティングの基礎知識を習得する。</p> <p>関連科目としてマーケティング総論およびマーケティング演習がある。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング入門 I	前期	金1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	1年	原田優也研究室 (5633) mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 社会的におけるマーケティングの役割について理解できる。	メッセージ 演習、実習の形式を併用して授業を行う。 授業計画は学習状況によって変更することがある。
	到達目標 企業の商品戦略、価格戦略、広告戦略、流通チャネルが理解できる。 ビジネス課題に対して、自分で考える力を身につける。	

学びの準備	到達目標 企業の商品戦略、価格戦略、広告戦略、流通チャネルが理解できる。 ビジネス課題に対して、自分で考える力を身につける。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) 第01回 オリエンテーション 第02回 マーケティングとは (資料1を読む) 第03回 マーケティングプロセスとは (資料1を読む) 第04回 戦略計画マーケティングとは (資料1を読む) 第05回 BCGの手法、成長戦略 (資料2を読む) 第06回 【理解度テスト】 第07回 マーケティングミクロ環境 (ミクロ環境要因を調べる) 第08回 マーケティングマクロ環境 (マクロ環境要因を調べる) 第09回 SWOT分析の事例 (企業のSWOT分析を復習する) 第10回 マーケティング・リサーチ (資料2を読む) 第11回 マーケティング・リサーチのプロセス (資料2を読む) 第12回 【理解度テスト】 第13回 消費者の購買行動 (資料3を読む) 第14回 消費者購買意思決定要因 (資料4を読む) 第15回 まとめ、レポート提出 第16回 期末試験
	テキスト・参考文献・資料など 恩蔵直人監修 (1999) 『コトラーのマーケティング入門』ピアソンエデュケーション 適宜プリントを配布する。

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 恩蔵直人監修 (1999) 『コトラーのマーケティング入門』ピアソンエデュケーション 適宜プリントを配布する。
-------	--

学びの実践	学びの手立て ・専門必修科目なので、休まず出席してください。 ・積極的に多様なメディア (新聞、TV、インターネット、書籍等) で情報を収集してください。
-------	---

学びの実践	評価 理解度テスト (20%)、期末試験 (30%)、レポート (30%)、平常点 (20%)
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 マーケティング総論、マーケティング演習、グローバルマーケティング総論、グローバル・マーケティング演習、消費者行動概論、消費者行動演習
-------	---

※ポリシーとの関連性 学ぶ姿勢と学ぶ力を付ける。自分で考えて、自ら動いていく力を付ける。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング入門 I	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	1年	miyamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この授業を通して、マーケティングとは何かを学ぶ、マーケティングの基本と社会における役割を知る。マーケティングという活動がいかに自分たちの生活に密着しているかを知る。	専門科目を単なる単位・学ぶべきものとするのではなく、授業を通してその科目の楽しさ、面白さ、社会への影響に気づくことが大切です。

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. マーケティングの理論を幅広く知る。 2. マーケティングの応用を考える。 3. マーケティング理論と社会での現象の関係を知る。 4. より高度なマーケティング理論を学ぶために基本をしっかりと身に付ける。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	マーケティングとは	配布プリントの予習
	3	企業におけるマーケティングの役割	配布プリントの予習
	4	企業におけるマーケティングの位置づけ	配布プリントの予習
	5	マーケティングの概念とその拡張	配布プリントの予習
	6	マーケティング理念とその再検討	配布プリントの予習
	7	戦略思考と戦略体系 1	配布プリントの予習
	8	戦略思考と戦略体系 2	配布プリントの予習
	9	経営資源の配分とPPM	配布プリントの予習
	10	マーケティング戦略の策定 1	配布プリントの予習
	11	マーケティング戦略の策定 2	配布プリントの予習
	12	マーケティング戦略の方向付け	配布プリントの予習。経営者調査
	13	製品ライフサイクル	配布プリントの予習。経営者調査
	14	戦略的マーケティング	配布プリントの予習。報告書作成
15	これまでの復習。調査報告書のプレゼンテーション	期末試験の準備	
16	期末試験		

テキスト・参考文献・資料など	テキストは特になし。授業の中でプリントを配布する。参考文献は必要な時に発表。
----------------	--

学びの手立て	履修の心構え： ①出席・授業への積極的参加を強く求める、②自分から動く、③課題提出は期日を守る。 学びを深めるために： ①議論に積極的に参加する、②日経MJを読む。
--------	---

評価	評価は次の項目の総合的な観点から行われる。 ①平常点 (10点) ②期末試験 (70点) ③レポート (5点) ④豆テスト (5点) ⑤課題提出 (10点)
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 ビジネス関連科目を多く受講すること。マーケティングに関連した書籍を読むこと。一般教養科目をしっかりと学ぶこと。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング入門Ⅱ	後期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	1年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①マーケティングの全体像をおおまかにつかむことができる。</p> <p>②現実の企業活動に関心を持つことができる。</p> <p>③実際の経済現象について普段から考える契機を与える。</p>	<p>マーケティングとは、顧客がほしいものを生産して、顧客に届ける企業活動のことである。すなわち、メーカー等が「製品・サービスが売れる仕組みをつくる」ことがマーケティングといえる。</p> <p>本講義は、マーケティングの全体像と特徴をおおまかにつかむことで、履修学生が「優れたマーケティングとは何か」を理解することを目的とする。</p>
到達目標	<p>①マーケティングの全体像をおおまかに把握できる。</p> <p>②国内外企業のマーケティング戦略に対する関心の喚起。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	マーケティング入門Ⅰをふりかえって／グループ報告の準備作業	マーケティング入門Ⅰの復習
	2	マーケティング・ミックス①：製品戦略【前編】／グループ報告の準備作業	製品戦略についての学習
	3	マーケティング・ミックス②：製品戦略【後編】／グループ報告の準備作業	製品戦略についての学習
	4	マーケティング・ミックス③：価格戦略【前編】／グループ報告の準備作業	価格戦略についての学習
	5	マーケティング・ミックス④：価格戦略【後編】／グループ報告の準備作業	価格戦略についての学習
	6	マーケティング・ミックス⑤：チャネル戦略【前編】／グループ報告の準備作業	チャネル戦略についての学習
	7	マーケティング・ミックス⑥：チャネル戦略【後編】／グループ報告の準備作業	チャネル戦略についての学習
	8	マーケティング・ミックス⑦：プロモーション戦略【前編】／グループ報告の準備作業	プロモーション戦略について学習
	9	マーケティング・ミックス⑧：プロモーション戦略【後編】／グループ報告の準備作業	プロモーション戦略について学習
	10	マーケティング・ミックス⑨：4Pと4C／グループ報告の準備作業	マーケティングの4Cについて学習
	11	マーケティング事例研究①：グループ報告	各グループの報告について議論
	12	マーケティング事例研究②：グループ報告	各グループの報告について議論
	13	マーケティング事例研究③：グループ報告	各グループの報告について議論
14	マーケティング事例研究④：報告書完成稿の提出	報告書の最終調整と提出	
15	期末試験	第1回から第14回までの復習	
16	おわりに：【再考】なぜマーケティングが必要か	マーケティングの価値を学習	
テキスト・参考文献・資料など	<p>【使用テキスト】：講義中に使用するテキストのため、購入して毎回必ず持参すること。</p> <p>・現代マーケティング研究会編（2019）『マーケティング論の基礎』同文館出版</p>		
学びの手立て	<p>【履修の心構え】</p> <p>①無断欠席や遅刻は厳禁とする。</p> <p>②やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前に担当教員に連絡をすること。</p> <p>③スーパーマーケット、コンビニなどを観察し、マーケティングの重要性を身近から学ぶこと。</p> <p>④新聞などに目を通し、メーカー・小売業・サービス業の動向についてチェックすること。</p> <p>⑤グループワークでは、メンバーが協力して作業を行うこと。</p>		
評価	<p>【成績評価の内訳】（100%）</p> <p>期末試験（40%）</p> <p>Gワーク・プレゼン（30%）：定められた日時で報告を行うこと。</p> <p>Gワーク・報告書（30%）：期限までに報告書を提出すること。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>2年次以降の専門科目履修に必要なマーケティングの基礎知識を習得する。</p> <p>関連科目としてマーケティング総論およびマーケティング演習がある。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング入門Ⅱ	後期	金1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	1年	研究室 (5633) mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 社会的におけるマーケティングの役割について理解できる。	メッセージ 演習、実習の形式を併用して授業を行う。 授業計画は学習状況によって変更することがある。
	到達目標 マーケティング活動および役割について理解できる。 ビジネス課題に対して、自分で考える力を身につける。	

学びの準備	到達目標 マーケティング活動および役割について理解できる。 ビジネス課題に対して、自分で考える力を身につける。

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>第01回 オリエンテーション (資料1を読む)</p> <p>第02回 マーケティング課題の選定 (資料1を読む)</p> <p>第03回 STPとは (資料1を読む)</p> <p>第04回 商品戦略 (資料2を読む)</p> <p>第05回 商品ライフサイクル (資料2を読む)</p> <p>第06回 価格戦略 (資料2を読む)</p> <p>第07回 流通チャネル戦略 (資料3を読む)</p> <p>第08回 広告戦略、販売促進 (資料3を読む)</p> <p>第09回 PR活動、人的販売、販売管理 (資料3を読む)</p> <p>第10回 【理解度テスト】</p> <p>第11回 マーケティング課題報告1 (発表課題1を読む)</p> <p>第12回 マーケティング課題報告2 (発表課題2を読む)</p> <p>第13回 マーケティング課題報告3 (発表課題3を読む)</p> <p>第14回 マーケティング課題報告4 (発表課題4を読む)</p> <p>第15回 レポート提出</p> <p>第16回 期末試験</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>恩蔵直人監修 (1999) 『コトラーのマーケティング入門』ピアソンエデュケーション</p>

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>恩蔵直人監修 (1999) 『コトラーのマーケティング入門』ピアソンエデュケーション</p>
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門必修科目なので、休まず出席してください。 ・積極的に多様なメディア (新聞、TV、インターネット、書籍等) で情報を収集してください。

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門必修科目なので、休まず出席してください。 ・積極的に多様なメディア (新聞、TV、インターネット、書籍等) で情報を収集してください。
	<p>評価</p> <p>理解度テスト (20%)、レポート (30%)、期末試験 (30%)、平常点 (20%)</p>

学びの実践	<p>評価</p> <p>理解度テスト (20%)、レポート (30%)、期末試験 (30%)、平常点 (20%)</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>マーケティング総論、マーケティング演習、グローバルマーケティング総論、グローバル・マーケティング演習、消費者行動概論、消費者行動演習など</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性 学ぶ姿勢と学ぶ力を付ける。自分で考えて、自ら動いていく力を付ける。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング入門Ⅱ	後期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	1年	miyamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業を通して、マーケティングとは何かを学ぶ、マーケティングの基本と社会における役割を知る。マーケティングという活動がいかに自分たちの生活に密着しているかを知る。	メッセージ 専門科目を単なる単位・学ぶべきものとするのではなく、授業を通してその科目の楽しさ、面白さ、社会への影響に気づくことが大切です。
	到達目標 1. マーケティングの理論を幅広く知る。 2. マーケティングの応用を考える。 3. マーケティング理論と社会での現象の関係を知る。 4. より高度なマーケティング理論を学ぶために基本をしっかりと身に付ける。	

学びの準備	到達目標 1. マーケティングの理論を幅広く知る。 2. マーケティングの応用を考える。 3. マーケティング理論と社会での現象の関係を知る。 4. より高度なマーケティング理論を学ぶために基本をしっかりと身に付ける。
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	マーケティングとは	配布プリントの予習
	3	マーケティング環境 1	配布プリントの予習
	4	マーケティング環境 2	配布プリントの予習
	5	マーケティングタスク(市場需要)	配布プリントの予習
	6	マーケティングタスク(競争)	配布プリントの予習
	7	マーケティングタスク(流通)	配布プリントの予習
	8	消費者行動のシンプルモデル 1	配布プリントの予習
	9	消費者行動のシンプルモデル 2	配布プリントの予習
	10	マーケティング 4P(製品政策)	配布プリントの予習
	11	マーケティング 4P(流通政策)	配布プリントの予習
	12	マーケティング 4P(価格政策)	配布プリントの予習。企業調査
	13	マーケティング 4P(販売促進政策)	配布プリントの予習。企業調査
	14	マーケティングミクスによる統合	配布プリントの予習。企業調査
	15	これまでの復習。企業調査の報告	期末試験の準備
16	期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特になし。授業の中でプリントを配布する。参考文献は必要な時に発表。
-------	--

学びの実践	学びの手立て 履修の心構え： ①出席・授業への積極的参加を強く求める、②自分から動く、③課題提出は期日を守る。 学びを深めるために： ①議論に積極的に参加する。②日経MJを読む。
-------	---

学びの実践	評価 評価は次の項目の総合的な観点から行われる。 ①平常点 (10点) ②期末試験 (70点) ③レポート (5点) ④豆テスト (5点) ⑤課題提出 (10点)
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 ビジネス関連科目を多く受講すること。マーケティングに関連した書籍を読むこと。一般教養科目をしっかりと学ぶこと。
-------	--

※ポリシーとの関連性

契約などの学習をとおして、市民生活に直結した法律知識を習得すると同時に、課題発見力・解決力を身に付ける。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	民法	前期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-福里 芝人	3年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 私たちの日常生活で起こる紛争を解決する手段としての民法について学ぶことにより、契約社会で生き抜く力(課題発見力・解決力)を養う。	メッセージ これまで民法について学んだことのない初学者にも、例えを交えながらわかりやすく教えます。この講義をきっかけに「法律って難しい」⇒「あれ？法律って結構たのしいぞ！」という考えになってくれたら嬉しいです。他学科の学生の受講も歓迎します。
	到達目標 契約や結婚・離婚などについての基礎的仕組みや法律用語の意味を理解でき、さらに、六法の仕組みや条文を理解することができます。そのことによって、家庭や地域社会において必要とされる法的センスを身に付け、これからの日常生活を賢く生き抜く力を磨くことができます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス (民法とは、民法の基本ルールである「契約」について)	シラバス、テキスト第1章Ⅰ、Ⅱ
	2	総則(1)権利の主体、未成年者の契約他	テキスト第2章Ⅱ
	3	総則(2)法律行為と代理制度	テキスト第2章Ⅲ
	4	総則(3)時効	テキスト第2章Ⅴ及び配布資料
	5	物権(1)物権のしくみ、物権の客体及び種類	テキスト第2章Ⅳ
	6	物権(2)物権変動と対抗要件	テキスト第2章Ⅳ
	7	債権(1)債権のしくみ、債権の発生①契約	テキスト第2章Ⅲ
	8	債権(2)債権の発生②不法行為、不当利得、事務管理	テキスト第1章Ⅱ
9	債権(3)債務不履行と危険負担	テキスト第2章Ⅵ	
10	債権(4)債権の履行確保の手段(強制履行)	テキスト第2章Ⅶ	
11	債権(5)債権の履行確保の手段(人的担保)	テキスト第2章Ⅶ	
12	債権(6)債権の履行確保の手段(物的担保)	テキスト第2章Ⅶ	
13	親族(1)結婚・離婚	テキスト第3章Ⅰ	
14	親族(2)親子	テキスト第3章Ⅰ	
15	相続～財産の承継(遺言・法定相続)～	テキスト第3章Ⅱ	
16	テスト	合計60点未満の人は再試	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：伊藤真著『伊藤真の民法入門第6版』(2017年・日本評論社)1,700円＋税。 参考文献・資料：必要に応じて参考文献を紹介し、また資料を配付します。		
	学びの手立て 【履修の心構え】初学者にもわかりやすいように工夫して教えるようにしますが、民法は分量が多いので、1回の授業で進む範囲も多くなります。欠席や遅刻をすると授業についていけなくなる恐れもありますので、遅刻・欠席をなくし、早めに教科書を購入して予習・復習をしっかりとすること。また、授業中は私語・居眠りをしないで、真面目な態度で受講すること。		
	評価 期末試験70%、レポート20%、平常点10%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 この授業では、初学者を対象に民法の概要について学ぶので、民法の全ての領域をカバーすることができません。授業終了後は、各自で公務員試験対策や各種試験対策などの民法の授業を受講して、さらに知識を増やすことをおすすめします。また、「関連科目」としては、民法で培った法律の考え方を土台として、「商法」や「会社法」を学ぶことによって、ビジネス現場で必要とされる法的センスを身につけることができます。
-------	---